



日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

日本学術会議活動報告 (令和2年10月～令和3年9月)

Annual Report 2021

年次報告 第2編活動報告

令和3年 10 月 1 日

日 本 学 術 会 議

日本学術会議活動報告（令和2年10月～令和3年9月）

第2編 活動報告 目次

1. 日本学術会議の概要（組織の概要と改革）	…	1 頁
2. 組織ごとの活動報告		
（1）総会	…	2 頁
（2）幹事会	…	3 頁
（3）部	…	8 頁
（4）機能別委員会	…	13 頁
（5）課題別委員会	…	27 頁
（6）分野別委員会	…	34 頁
（7）部が直接統括する分科会	…	204 頁
（8）地区会議	…	210 頁
（9）若手アカデミー	…	214 頁

1. 日本学術会議の概要（組織の概要と改革）

(1) 経緯

日本学術会議は、我が国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させることを目的として、昭和24年1月、内閣総理大臣の所轄の下、「特別の機関」として設立されました。

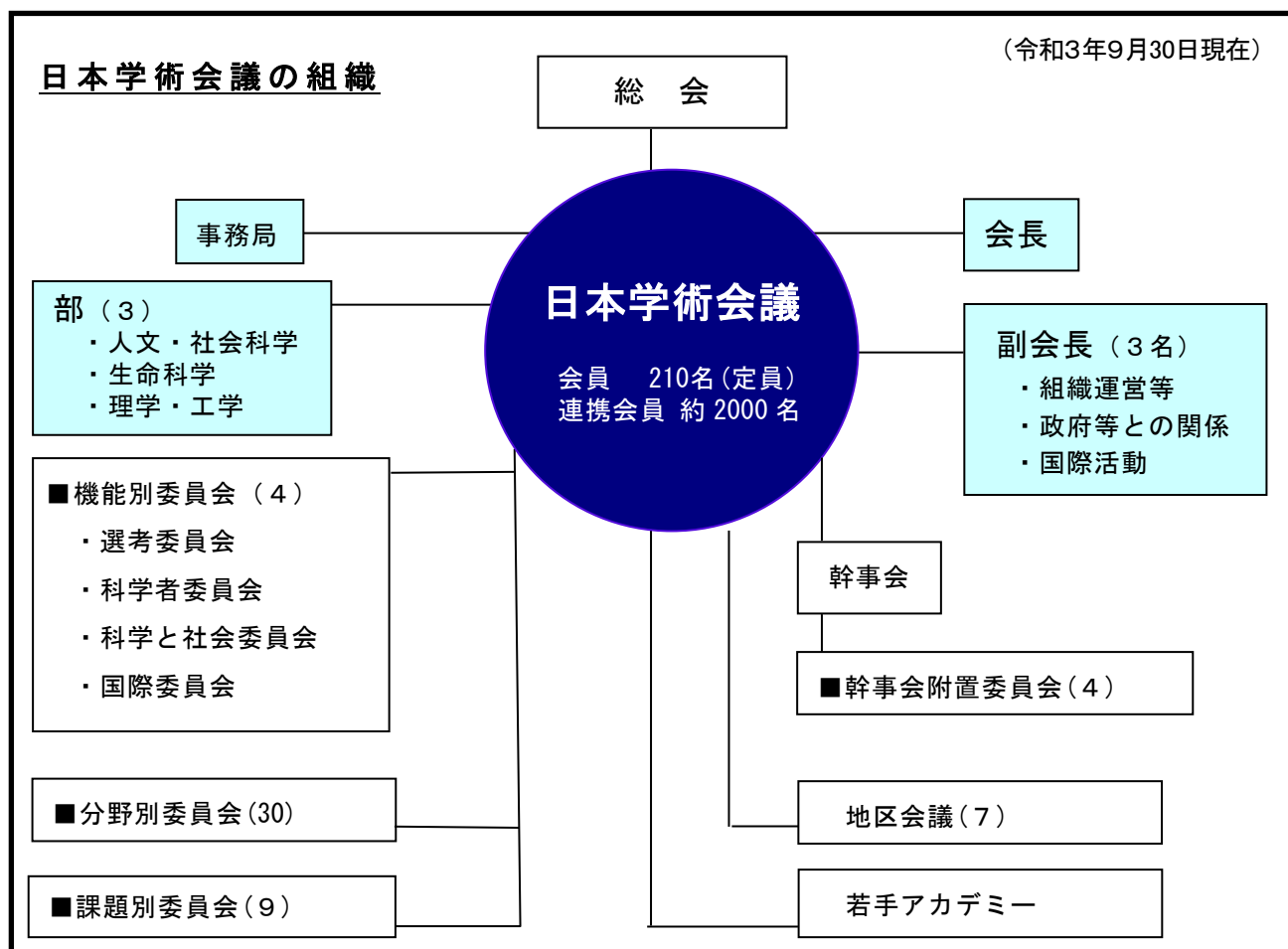
その後、平成13年の中央省庁改革に伴い、総務省に移管されましたが、平成16年に「日本学術会議法の一部を改正する法律」が成立したことを受け、平成17年4月に内閣府に移管されました。同年10月には同法が完全施行され、会員選考方法の変更、定年制の導入、7部制から3部制への移行、連携会員の新設等を内容とする改革が実施され、現行の体制が発足しました。

(2) 組織

日本学術会議は、内閣総理大臣から任命された210名（定員）の会員と日本学術会議会長から任命された約2,000名の連携会員で構成されています。

会員・連携会員の任期は6年で、3年ごとにその半数が改選されることとされています。

日本学術会議には、法の委任の下に意思決定を行う幹事会、3つの部（第一部に人文・社会科学、第二部に生命科学、第三部に理学・工学）、4つの機能別委員会及び30の分野別委員会、課題別委員会等が設置されています。また、地域の科学者と意思疎通を図るとともに学術の振興に寄与することを目的に7つの地区会議が、若手科学者の連携を図り、その活動を通じて学術の振興に寄与することを目的に45歳未満の会員又は連携会員で構成される「若手アカデミー」が、それぞれ設置されています。



2. 組織ごとの活動報告

(1) 総会

総会

名称 総会
－第181回総会（令和2年10月1日～3日）－ （10月1日） ・ 会長の互選が行われた結果、梶田隆章会員が新会長に選任され、就任挨拶。 ・ 前会長である山極壽一連携会員より、第24期の活動報告。また、科学と社会委員会年次報告検討分科会の前委員長である渡辺美代子連携会員より、年次報告書について報告。 ・ 第25期会員の所属部を決定。 （10月2日） ・ 梶田会長から、新副会長について、科学者委員会担当に望月眞弓会員、科学と社会委員会担当に菱田公一会員、国際委員会担当に高村ゆかり会員の指名があり、承認。 ・ 部会が開催され、各部において部役員の選出、各委員会委員の推薦、連携会員説明会の日程についての検討等を審議。 ・ 地区会議が開催され、代表幹事、運営協議会の委員を選出。 ・ 幹事会が開催され、各委員会等の委員の承認等を審議。 （10月3日） ・ 幹事会及び各種委員会等を開催。 －第182回総会（令和3年4月21日～23日）－ （4月21日） ・ 井上信治内閣府特命担当大臣（科学技術政策）より御挨拶をいただく。 ・ 第182回総会及び部会におけるオンライン参加の併用の承認を議決。 ・ 声明案「日本学術会議会員任命問題の解決を求めます」について審議。 ・ 会長、各副会長、各部部長、若手アカデミー代表より、活動報告（資料配布）。 ・ 外部評価有識者から外部評価書、会長から外部評価書に対する見解を報告。 ・ 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」について審議。 ・ 自由討論。 ・ 幹事会及び各部会を開催。 （4月22日） ・ 声明案「日本学術会議会員任命問題の解決を求めます」についての承認を議決。 ・ 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」についての承認を議決。 ・ 幹事会及び各部会を開催。 （4月23日） ・ 各種委員会等を開催。

(2) 幹事会

① 幹事会

幹事会

名称 幹事会	
幹事会構成員	
四 役	梶田 隆章 会長、望月 眞弓 副会長、菱田 公一 副会長、高村 ゆかり 副会長
第一部	橋本 伸也 部長、溝端 佐登史 副部長、小林 傳司 幹事、日比谷 潤子 幹事
第二部	武田 洋幸 部長、丹下 健 副部長、尾崎 紀夫 幹事、神田 玲子 幹事
第三部	吉村 忍 部長、米田 雅子 副部長、沖 大 幹 幹事、北川 尚美 幹事
審議 経過	主要な決定事項は以下のとおり。 ・各委員会等委員（特任連携会員を含む）の決定。 ・各委員会等の運営要綱の決定及び改正。新規設置は、4幹事会附置委員会、2同分科会、57機能別委員会分科会、3同小分科会、小委員会、243分野別委員会分科会、93同小委員会、8課題別委員会、3課題別委員会分科会、3同小委員会、7部が直接統括する分野別委員会分科会。 ・意思の表出について、提言1件を承認。 ・日本学術会議分野別委員会及び分科会について等規則関係の決定及び改正。 ・令和3年度及び令和4年度共同主催国際会議等の取り扱いの決定。 ・令和3年度代表派遣実施計画、その他の国際会議や海外アカデミーとの意見交換等に係る派遣についての承認。 ・日本学術会議協力学術研究団体の指定。 ・各地区会議の運営協議会委員の追加の決定。 ・日本学術会議主催学術フォーラム、委員会等主催シンポジウム等の開催の承認（72件）。 ・国内会議・国際会議の後援の承認（国内会議22件、国際会議1件）。 ・「日本学術会議のよりよい役割発揮に向けて」（中間報告）を幹事会として決定。 ・日本学術会議幹事会声明を幹事会として決定。 ・「日本学術会議総会におけるオンライン併用についての考え方」を幹事会として決定。 ・外部機関からの依頼に対する委員候補者の承認。 ・賞候補者の推薦。 ・連携会員の辞職の承認に同意。
開催 状況	令和2年10月2日、10月3日、10月29日、11月17日（メール審議）、11月26日、12月16日、12月24日、令和3年1月28日、2月25日、3月25日、4月8日、4月21日、5月27日、6月24日、7月29日、8月26日、9月30日

②幹事会附置委員会



外部評価対応委員会					
委員長	梶田 隆章	副委員長	菱田 公一	幹事	日比谷 潤子 丹下 健
主な活動	審議内容				
	- 外部評価対応委員会委員から外部評価有識者に対し、令和2年度年次報告書等に基づき、令和元年10月～令和2年9月の日本学術会議の活動状況について説明 - 外部評価有識者からの意見聴取及び意見交換 - 令和3年4月総会において、田中優子外部評価有識者座長より外部評価書について説明				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回（令和3年3月8日）				
今後の課題等	第25期外部評価有識者の選考 令和2年10月～令和3年9月の日本学術会議の活動状況に関する外部評価のための準備				

広報委員会					
委員長	菱田 公一	副委員長	松下 佳代	幹事	狩野 光伸、 所 千晴
主な活動	審議内容				
	学術会議全体としての広報に関する事項				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和2年11月13日、令和3年1月29日、4月23日（「学術の動向」編集分科会、国内外情報発信強化分科会との合同開催）、9月9日				
今後の課題等	日本学術会議の広報発信力の強化のために、対象となるステークホルダー（国民、研究者、政府・行政関係者、報道関係者など）に応じた広報と情報発信の方策について検討を行うとともに、学術会議の広報部署の強化についての検討を行う。				

広報委員会（「学術の動向」編集分科会）					
委員長	所 千晴	副委員長	高山 弘太郎	幹事	
主な活動	審議内容				
	日本学術協力財団との連携のもとに『学術の動向』の編集委員会を開催し、同誌の内容および編集方針について協議を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	『学術の動向』の発行そのものが、学術会議全体の意思の表出と深くかかわっており、本委員会として別個の意思の表出は考えていない。				
	開催シンポジウム等				
	本委員会としてのシンポジウム等の開催は当面考えていない。				
開催状況	3ヶ月に一回程度の編集分科会の開催、および編集の細部について、随時メール審議を行なっている。				
今後の課題等	諸科学分野の相互理解の深化のために、社会に向けて日本学術会議および日本の学術の役割と先端的成果をわかりやすく伝え、購読者の拡大、若手の参画拡大に				

	つなげるための工夫を常に意識して審議している。
--	-------------------------

広報委員会（国内外情報発信強化分科会）					
委員長	狩野 光伸	副委員長	岸村 顕広	幹事	
主な活動	審議内容				
	日本学術会議の広報のあり方に関し、ウェブサイトの充実、インパクトを出すための発出情報絞り込み、発信のみでなく聴きとる機能の充実、国際学術団体との窓口の強化、外部のみならず日本学術会議内部に対する情報共有機能の強化が必要であることなどを意見交換し、実現化の方策を検討開始した。まずは HP 上の情報の精緻な分析を行い、効果的なホームページの再構築に着手した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	（広報機能の整備による表出）				
	開催シンポジウム等				
	（現在予定なし）				
開催状況	令和3年1月27日、令和3年4月23日（広報委員会合同開催）				
今後の課題等	日本学術会議として実現したい広報のあり方は様々ある中、予算と人員の許容範囲と釣り合わせながら、優先順を検討しつつ引き続き実現していきたい。				

地方学術会議委員会					
委員長	望月 眞弓	副委員長	石塚 真由美	幹事	岸村 顕広
主な活動	審議内容				
	今期の地方学術会議開催計画を審議し、九州・沖縄地区における地方学術会議の開催を同地区における地区会議主催行事との重複も考慮し、2022年（令和4年）1月～3月頃に開催することとした。また、地方学術会議の今後の進め方について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年2月15日				
今後の課題等	地方学術会議の今後の進め方について				

財務委員会					
委員長	望月 眞弓	副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				
	学術会議に係る予算執行のうち重要な事項（審議に係る予算執行）について審議を行うため設置。主に各年度の予算配分及び予算執行管理を行う。 今期は委員会を1回開催して、日本学術会議の予算、令和2年度決算、令和3年度の予算執行について取りまとめを行い、全会員・連携会員に周知した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年6月10日※オンライン				
今後の課題等	会員と事務局間で緊密な連携を図り、予算執行状況を適宜情報共有して予算逼迫を防ぐ。				

第 一 部			
部長	橋本 伸也	副部長	溝端 佐登史
幹事	小林 傳司・日比谷 潤子		
主要な活動	審議内容		
	任命された6名の会員候補者の任命を達成することを第一義としつつ、①科学技術・イノベーション基本法改正による人文・社会科学振興のための諸施策についての検討を進めるとともに、②「より良いあり方発揮」に向けた部内の議論を進めた。		
	意思の表出（※見込み含む）		
	初年度であり、意思の表出はまだなされていない。この1年間は意思の表出の適正なあり方について合意形成を図ってきた。		
	開催シンポジウム等		
開催状況	第一部主催のシンポジウム等はない。 第一部の分野別委員会・分科会が22件のシンポジウムを開催した。 学術会議主催の学術フォーラムの企画に部役員や関連会員・連携会員が参画した。		
	第一部会：令和2年10月2日、令和3年4月21・22日、令和3年8月10日 拡大役員会：令和2年12月25日、令和3年3月6日、令和3年6月15日		
今後の課題等	第一部に所属するはずの6名の会員候補の任命が見送られて1年が経過した。理由説明のないまま任命されないという異例の事態を解決するため、日本学術会議として総会決議など任命を求める活動を続けてきたが、とりわけ第一部にとってはその解決が喫緊の課題であり、そのための粘り強い取り組みを継続する。 あわせて、やはり日本学術会議が総力を上げて取り組んでいる「より良い役割発揮」のための組織改革の議論を主導し、第一部における意思の表出のあり方、各分野別委員会における分科会設置の基本的考え方、会員選考のあり方などについて会員・連携会員の合意形成をはかり、次期以降の新たな体制のもとでの積極的な活動のための土台づくりを図っていかなければならない。 さらに、科学技術・イノベーション基本法改正により人文・社会科学の法律上、政策上の位置付けが抜本的に変更になり、新たな動向が急速に進められていることから、それらが人文・社会科学の健全な発展に資するものとなるように、学術の現場からの意見の表明を行なっていくこと		

	が急務である。
--	---------

第 二 部			
部長	武田 洋幸	副部長	丹下 健
幹事	尾崎 紀夫、 神田 玲子		
主要な活動	審議内容		
	第二部が関与する学術領域である生命科学は生命を理解する知を体系化し、その基盤を構築すると共に、人類の福祉・社会の進歩に貢献することを目的とする学問である。25 期では、24 期で活動した分科会の多くが速やかに設置され、生物学、医学、農学に関連した広い分野に関する問題の審議がスタートした。第二部附置の分科会として、生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、大規模感染症予防・制圧体制検討分科会も 24 期につづいて設置された。特に、社会的緊急課題である新型コロナウイルス感染症については、大規模感染症予防・制圧体制検討分科会、役員会で精力的に審議している。その審議内容は幹事会、幹事会の下に設置されているコロナ対応ワーキンググループと共有している。また、各分科会で審議する新型コロナウイルス感染症に関する事項についてアンケート調査を実施し、審議の連携を図っている。		
	意思の表出（※見込み含む）		
	各分科会の審議の進捗により、分科会または部としての提言・報告等を予定。		
	開催シンポジウム等		
開催状況	25 期がスタートした 10 月以来、学術講演会等は予定も含め 25 件開催された。新型コロナウイルス感染症に関するテーマが多くなっており、コロナ禍に関連する課題を中心に科学者コミュニティおよび国民との対話を進めている。		
	部会:2020 年 10 月 2 日、2021 年 4 月 22 日、同年 8 月 19 日（夏季部会） 拡大役員会:2021 年 1 月 22 日、同 7 月 2 日		
今後の課題等	第二部が対象とする生命科学は、医療、看護、食料など人類の健康と福祉に直結し、さらにヒトを含めた生物の深い理解を通して、人類を包含する生態系、地球環境の維持へも重要な知見を提供する。生命科学の学術としての健全な発展のために、それぞれの専門分野にとらわれない横断的審議を行なって、俯瞰的視野と実効性を備えた提言、報告の作成を行いたい。 特に社会的緊急課題である新型コロナウイルス感染症については、第一部と第三部や関連する学協会と連携し、公開講演会を通したタイムリーな学術情報の発信を行うと共に、大規模感染症に関する学術研究や国の対応を専門家の立場から分野横断的にしっかりと点検し、with/post コロナ社会のあり方を提言する。これらの活動が次のパンデミックに備		

	える意味でも重要となる。 また、新型コロナウイルス感染症以外の社会的課題、例えばカーボンニュートラル、地球温暖化などの審議へも二部として積極的に関与していく。
--	---

第 三 部			
部長	吉村 忍	副部長	米田 雅子
幹事	沖 大幹、北川 尚美		
主要な活動	審議内容		
	日本学術会議のあり方に関する全体の議論と平行して、第三部の今期の活動に関しても、様々な見直しの議論を行った。特に科学的助言機能の強化に向けて、学術会議ならではの審議テーマをどのように発掘し、それらを適宜第一部、第二部とも連携しながら、中長期的、分野横断的、総合的俯瞰的な観点からどのように審議を進めていくか、について議論を行った。		
	意思の表出（※見込み含む）		
	三部内の各分野別委員会や分科会においての約 40 を超えるテーマの検討が行われているが、大きくカテゴリー分けすると、①新型コロナ対応関係、②カーボンニュートラル関係、③超巨大災害関係、④研究基盤関係、⑤教育関係、⑥学術分野振興関係、⑦産業競争力関係、⑧医療・生命関係、⑨データ・情報活用関係、⑩緊急時の科学的情報発信関係、となる。今後、全体活動との連携、複数分科会での連携を検討していく。		
	開催シンポジウム等		
	令和 3 年 8 月 18 日に、第三部、広島大学、中国・四国地区会議等と主催で公開シンポジウム「ジェンダード・イノベーション ― 一人ひとりが主役の研究開発が新しい未来を拓く ―」を WEB 開催した。470 名の参加申し込みがあり、約 100 名の高校生、大学生、大学院生らも参加した。		
開催状況	令和 2 年 10 月 2 日、令和 3 年 4 月 21 日～22 日、令和 3 年 8 月 18 日～19 日の 3 回開催した。新型コロナウイルス感染症対策のため、はじめの 2 回は現地参加と WEB 参加のハイブリッド形式で、また 8 月の夏季部会 は WEB 開催により行った。		
今後の課題等	「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」を受けて、第三部の分野別委員会や分科会におけるボトムアップのテーマ出しや審議と、学術会議全体の審議等の活動を、有機的に連携させながら、中長期的、分野横断的、総合的俯瞰的審議活動等を効果的に行っていく。		

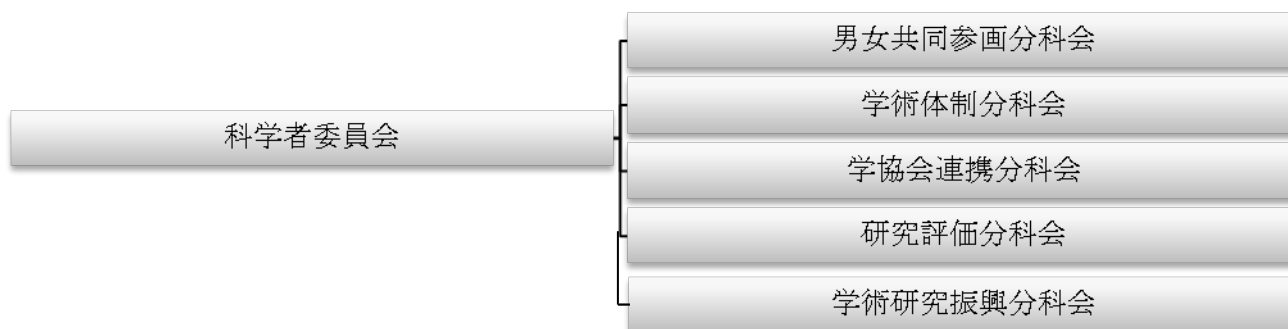
(4) 機能別委員会

①選考委員会

選考委員会

選考委員会					
委員長	梶田 隆章	副委員長	望月 眞弓	幹事	橋本 伸也、吉村 忍
主な活動	審議内容				
	・選考委員会は、会員及び連携会員の選考に関することを審議している。 ・令和3年9月に定年により退任する会員を直ちに連携会員に就任させるため、当委員会において審議した上、連携会員候補者名簿を作成し、8月26日の幹事会に提出した（9月14日付けで任命）。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年6月24日、8月26日				
今後の課題等	・「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて（令和3年4月22日）」を踏まえ、次期改選に向けた選考方針等の検討を行う。				

②科学者委員会



科学者委員会					
委員長	望月 眞弓	副委員長	吉村 忍	幹事	溝端 佐登史、武田 洋幸
主な活動	審議内容				
	科学者の連携に関して、日本学術会議協力学術研究団体の指定、地区会議との連携などの審議を行うとともに、委員会に設置されている5分科会をとりまとめている。令和2年10月～令和3年8月までに協力学術研究団体は22団体を新たに指定した。また地区会議からは2回の学術講演会の開催があった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
	・中部地区会議主催学術講演会「高齢社会を生きぬくための取り組み」令和3年7月30日（金） ・近畿地区会議主催 学術講演会「カーボンニュートラル：2050年までに何をすべきか」令和3年9月20日（月・祝）				
開催状況	令和2年11月19日、12月10日※メール、令和3年1月22日※メール、2月19日※メール、3月11日※メール、4月7日※メール、5月10日、6月15日※メール、7月12日※メール、8月16日※メール				
今後の課題等	今期科学者委員会に設置した分科会は男女共同参画分科会、学術体制分科会、学協会連携分科会、研究評価分科会、学術研究振興分科会の5つである。主な今後の課題として、学術体制分科会の第6期科学技術基本計画に関するフォローアップと研究インテグリティの論点整理、学協会連携分科会の日本学術会議と学協会の新たな連携体制について、研究評価分科会の提言「学術の振興に寄与する研究評価を目指して」の取りまとめなどがある。				

科学者委員会（男女共同参画分科会）					
委員長	望月 眞弓	副委員長	高橋 裕子	幹事	熊谷 日登美、野尻 美保子
主な活動	審議内容				

	第5次男女共同参画基本計画、第6期科学技術基本計画について議論し、パブリックコメントへの対応を図った。3つの小分科会のうちアンケート小分科会は24期に実施した大学に対するアンケート調査結果をもとに「提言：大学・研究機関における男女共同参画の実態と今後の課題～2019年アンケート調査から～」を検討中である。性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会では、医学、科学技術、AI、教育、心理学分野の性差研究動向とジェンダーをめぐる歴史的背景を共有しながら課題を把握し、提言等の作成の議論を開始した。ジェンダー研究国際連携小分科会では、学術会議発出の男女共同参画・ジェンダー関係の提言等と、副会長や委員長等の役職も含めた学術会議会員・連携会員の男女比率変化との関連性を時系列で探る作業を行う予定である。
	意思の表出（※見込み含む）
	開催シンポジウム等
	・法学委員会ジェンダー法分科会主催公開シンポジウム「同姓/別姓を選ぶ権利～市民と学術の対話から～」を共催した（2021年4月17日）。 ・公開シンポジウム「ジェンダード・イノベーション～一人ひとりが主役の研究開発が新しい未来を拓く～」を第三部および広島大学と共同主催した（2021年8月18日）。
開催状況	2020年11月30日、2021年2月10日、2021年2月23日（メール審議）
今後の課題等	3つの小分科会および第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会と連携し日本学術会議として分野横断的、総合的な観点から、男女共同参画に限定することなく多様性を重視する検討を行う。

科学者委員会（学術体制分科会）					
委員長	吉村 忍	副委員長	橋本 伸也	幹事	北川 尚美、佐々木 裕之
主な活動	審議内容				
	学術体制分科会は、学術の制度・振興等に関する諸問題を審議することを目的としており、25期は、第6期科学技術基本計画に関するフォローアップ、研究インテグリティに関する、国内外の現状調査、課題の整理、今後の対応方策、学術を学際的・文理融合的に推進するための在り方、等を検討する。現在は、研究インテグリティに関して、有識者の講演などによる国内外の現状調査、課題の整理を行い、論点のとりまとめを行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	研究インテグリティに関して、論点整理を行った結果を、今秋に公表予定である。				
	開催シンポジウム等				
	検討中				
開催状況	令和3年2月4日（第1回）、令和3年4月28日（第2回）、令和3年6月7日（第3回）、令和3年7月1日（第4回）				

今後の課題等	研究インテグリティに関して、論点整理公表し、外部との意見交換を行った上で、 我国の研究コミュニティにおける研究インテグリティへの対応についてまとめ、 意思の表出を行う予定である。また、他の課題についても今後検討を進めていく。
--------	--

科学者委員会（学協会連携分科会）					
委員長	米田 雅子	副委員長	望月 眞弓	幹事	溝端 佐登史、丹下 健
主な活動	審議内容				
	「学協会・学会連合と日本学術会議の連携」「学協会、学会連合を取り巻く環境 変化と課題」について議論している。分科会委員による各分野の学協会連携の現 状報告から、25期は日本学術会議と学協会の連携が強化され始めていることを確 認した。分科会として、この流れを大切に連携強化に向けて取り組む。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「日本学術会議に関する学協会・大学等の声明等一覧」を調査・作成し公表した。 今後、日本学術会議と学協会との連携活動の実態調査を行い、結果を公表する。				
	開催シンポジウム等				
	検討中				
開催状況	令和2年12月2日、令和3年2月5日、令和3年7月29日				
今後の課題等	今後は、学術会議と学協会との連携活動の実態調査を行う。分野の特性を踏まえて学術会議と学協会の双方向コミュニケーション向上に努める。学協会連合・連絡会等との意見交換を行い、要望等を収集する。学協会の課題、学術会議に期待される役割を積極的に議論して、今後の方策を検討する。				

科学者委員会（研究評価分科会）					
委員長	武田 洋幸	副委員長	三成 美保	幹事	藤井 良一、林 隆之
主な活動	審議内容				
	24期に続いて設置された研究評価分科会では、24期に実施した学術フォーラムと 審議を踏まえて、分野別研究評価のあり方（各分野の概要）や若手支援につながる 研究評価のあり方を整理して、提言を作成する。さらに、分野によっては評価指標 の設定が難しいなどの問題を掘り下げて、個別の分野の特徴に合った研究評価の あり方もさらに審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	分科会で、24期の審議を元に作成した提言案「学術の振興に寄与する研究評価 を目指して」は幹事会で審議され、現在幹事会からの意見に従って提言案を修正 中である。				
	開催シンポジウム等				

	検討中
開催状況	2021 年 1 月 19 日、2021 年 3 月 27 日（メール審議）
今後の課題等	現在、24 期の審議結果を反映した提言作成の最終段階である。提言が発出されたのちに、この提言をベースに、学術の振興に寄与すべき研究評価の在り方について、政府や関係する資金機関、教育機関と共通理解を目指して議論に努める。並行して、個別分野の特徴に合った研究評価のあり方についてもさらに審議を行う。

科学者委員会（学術研究振興分科会）					
委員長	光石 衛	副委員長	丹下 健	幹事	日比谷 潤子、山崎 典子
主な活動	審議内容				
	重要な学術研究の推進に関し、長期的で俯瞰的な視点から、日本における企画、推進方策の検討を開始した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	形態は未定であるが、行う予定。				
	開催シンポジウム等				
	これまでの実績はなし。				
開催状況	第 1 回 2021 年 8 月 12 日				
今後の課題等	以下の審議を行う。 1. 重要な学術研究の計画に関する検討 2. 研究資金に関する諸問題の検討				

③科学と社会委員会



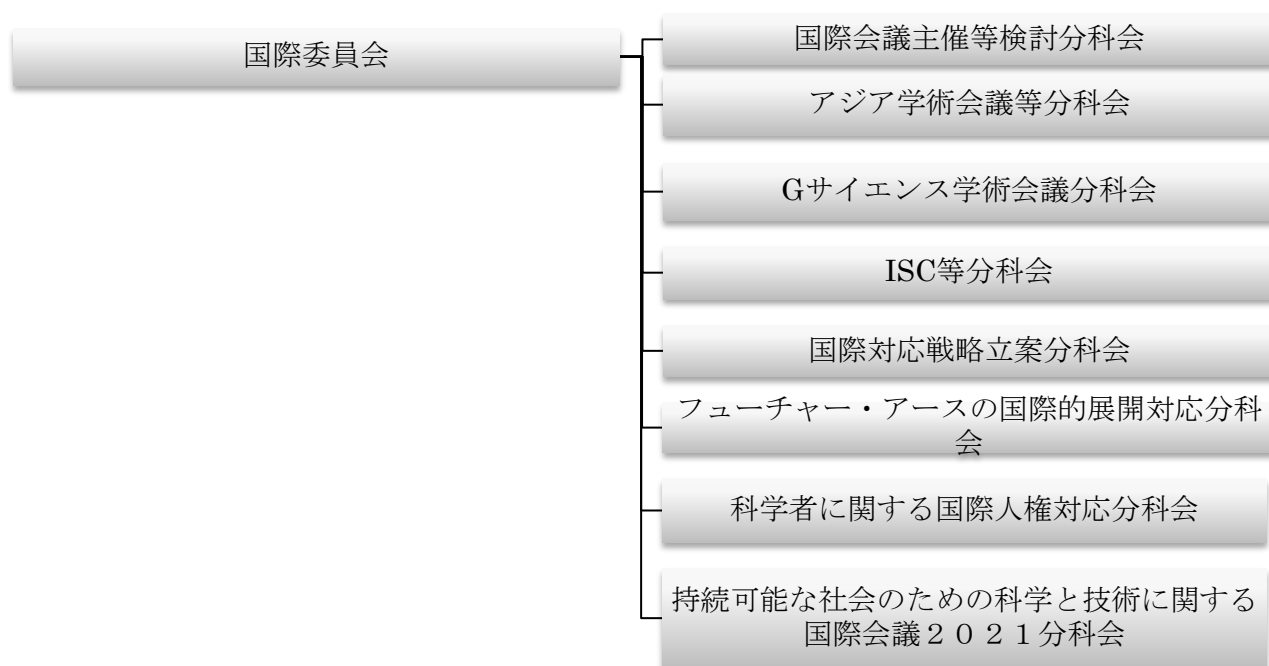
科学と社会委員会					
委員長	菱田 公一	副委員長	小林 傳司	幹事	北島 薫 伊藤 公平
主な活動	審議内容				
	勧告、要望及び声明の内容等の検討（幹事会決定事項）、総合科学技術・イノベーション会議との連携に資するための審議課題の検討、国民の科学に対する理解の増進、その他学術会議と政府、社会及び国民等との関係に関すること				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和2年11月20日、令和3年2月8日				
今後の課題等	「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」に示された改革の方針を実現するため、特に政府、産業界、国民といったステークホルダーとの対話を推進し、そのニーズの把握に努めるとともに、日本学術会議の提言等の政策等への反映に向けた取組みを行っていく。				

科学と社会委員会（政府・産業界・市民との連携強化分科会）					
委員長	菱田 公一	副委員長	岸本 康夫	幹事	大塚 直 神田 玲子
主な活動	審議内容				
	1. 文部科学省等の省庁及び日本経済団体連合会等の産業界との懇談の企画及び実行に関すること 2. サイエンスカフェ、サイエンスアゴラ及びその他市民との対話に向けた企画の検討に関すること				

	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和3年5月31日、この他に2回のサイエンスカフェを開催した。
今後の課題等	政府、産業界、国民といったステークホルダーとの対話を推進するための実施部隊として、意見交換のためのテーマや場の設定をはじめ、審議にとどまらず具体的な行動を進めていきたい。

科学と社会委員会（年次報告検討分科会）					
委員長	菱田 公一	副委員長	日比谷 潤子	幹事	神田 玲子
主な活動	審議内容				
	令和2年10月から令和3年9月までの年次報告書の作成方針及び執筆者についての検討、また上記作成方針等に基づき各執筆者において作成された原稿のとりまとめ、年次報告書作成とその確認作業				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和2年7月21日、8月26日				
今後の課題等					

④国際委員会



国際委員会					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	小池 俊雄	幹事	日比谷 潤子 後藤 由季子
主な活動	審議内容				
	・本委員会は、日本学術会議における国際活動の調整及びその他学術会議の国際的対応に関することについて審議している。 ・具体的には、国外で開催される学術に関する国際会議への代表派遣、国内における国際会議の共同主催、アジア学術会議、持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議、Gサイエンス学術会議等についての検討を行うとともに、国際学術交流事業の実施に関する内規、各国アカデミーとの交流の活性化、今後の国際活動のあり方など、日本学術会議の国際活動を一層活発にするための戦略について審議を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和2年11月12日、12月21日※メール、令和3年1月25日、2月22日、3月18日、4月19日、5月19日、6月23日※メール、7月28日※メール、8月25日※メール、9月22日（予定）				
今後の課題等	・国際活動の強化や各分科会の今後の課題等を踏まえた検討				

国際委員会（国際会議主催等検討分科会）					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	杉山 久仁子	幹事	西原 寛 町村 敬志
主な活動	審議内容				
	・ 令和4年度共同主催国際会議候補を決定した。 ・ 令和3年度実施予定であった共同主催国際会議について、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、7件の会議中、1件を中止し、次年度内に延期して開催することを決定した。 ・ 令和5年度以降の審議・選定方針について検討するほか、新型コロナウイルス感染症の影響で候補としてすでに決定したが開催が延期されている会議への対応等についての検討を行った。 ・ 国際会議の後援についての審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	・ 期間中3件の共同主催国際会議を開催した。				
開催状況	令和3年1月12日、2月10日、2月24日、3月9日※メール、7月13日※メール、8月5日※メール				
今後の課題等	・ 10月から申請の始まる令和5年度共同主催国際会議についての審議 ・ 随時申請の来る後援申請についての対応				

国際委員会（アジア学術会議等分科会）					
委員長	澁澤 栄	副委員長	小池 俊雄	幹事	
主な活動	審議内容				
	・ アジア学術会議（SCA）の在り方等の検討及び活動の推進に関する事 ・ アジア科学アカデミー・科学協会連合（AASSA）への対応に関する事				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和3年5月13～15日、中国の広州にて現地開催及びオンラインにて、第20回アジア学術会議（SCA）が開催された。“The Age of New Materials: Innovation				

	for Sustainable Society”（ニューマテリアルの時代：持続可能な社会のためのイノベーション）をテーマに開催され、21 カ国・地域から約 500 名の参加があった。アジア諸国・地域における研究者間の交流や連携の拡大に寄与する機会となった。 http://www.scj.go.jp/ja/int/sca/index.html
開催状況	令和 3 年 2 月 22 日、4 月 16 日※メール、6 月 17 日
今後の課題等	・アジア学術会議（SCA）は、加盟アカデミーの分担金負担が無い、ユニークな会議体として、アジア域内での学術交流と協力を促進するための基盤を提供するとともに、SCA の展望と構想を議論し、その実現を図ることを目的としているが、今後も引き続き、加盟団体のみならず未加盟団体・機関にも、より積極的に有用な情報を提供し、アジアの科学者のネットワーク形成に貢献する。 ・第 21 回アジア学術会議インド会合が令和 4 年 3 月に開催される予定。準備や調整等を進めていく。 ・平成 28 年に作成された SCA Future Strategic Plan の改訂に向けて、SCA 役員との協議等を開始しており、第 25 期中に改訂し発出できるよう取り組んでいく。 ・アジア科学アカデミー・科学協会連合（AASSA）については、吉野委員が平成 30 年より理事を務めている。AASSA 特別委員会へは、澁澤委員長を含む日本学術会議会員・連携会員を複数名派遣しており、特別研究プロジェクトやウェビナーにも参画している。直近では上田佳代連携会員が参画し取りまとめに貢献した気候変動と健康（Climate change and Health）特別研究プロジェクトのレポートが公表された。今後も交流を継続する。

国際委員会（G サイエンス学術会議分科会）					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	田辺 新一	幹事	
主な活動	審議内容				
	・本分科会は、G7 サミット参加各国の学術会議（科学アカデミー）が、サミットに参加する政府首脳に向けて科学的見地から政策提言を行うことを目的とした G サイエンス学術会議の活動について審議している。 ・具体的には、令和 3 年に英国王立協会が主催した G サイエンス学術会議が取りまとめた G サイエンス学術会議共同声明案の内容等について審議した。各テーマ（後述【1】～【3】）について、それぞれ亀山康子連携会員、橋本禅連携会員、西山慶彦会員、宇南山卓連携会員が参画し、オンライン会議及びメールにより共同声明の審議が進められた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	G サイエンス学術会議にて、以下の共同声明を取りまとめた。共同声明は従来、日本学術会議会長より内閣総理大臣へ手交していたが、令和 2 年・3 年は新型コロナウイルス感染症拡大等を踏まえ、手交は見送ったものの、内閣総理大臣をはじめ関係省庁に送達した。				

	【1】ネットゼロと気候変動影響に備えた未来—科学・技術と変化のための解決策 (A net zero climate-resilient future - science, technology and the solutions for change) 【2】生物多様性の損失を食い止めるために一早急な対策の必要性 (Reversing biodiversity loss - the case for urgent action) 【3】世界的な公衆衛生上の緊急事態のためのデータ：ガバナンス、オペレーション、スキル (Data for international health emergencies: governance, operations and skills) http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/division-13.html
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和3年1月18日
今後の課題等	令和4年のGサイエンス学術会議の共同声明案の審議等

国際委員会（ISC 等分科会）					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	春山 成子	幹事	河野 俊行 中村 桂子
主な活動	審議内容 ・本分科会は、国際学術会議（International Science Council：ISC）並びに InterAcademy Partnership（IAP）等への対応について審議している。 ・日本学術会議としてISCの活動に一層参画をするために、日本学術会議の現状の取り組み内容を分析し、課題の把握と共有をした。加えて、2021年10月ISC総会に向けて、役員選挙に関する情報収集及び意見交換を行った。 ・IAPは、Policy, Science, Healthの旧3団体が緩やかに統合して活動を行っているが、完全な統合に向けてStatutesの改定プロセスが進められてきた。2022年年には、IAP総会も予定されており、新たなIAPへの対応などについて議論を行っている。また、IAP共同声明作成にあたっては、声明作成のワーキンググループに日本学術会議より委員を派遣しているほか、分科会委員に声明案への意見照会を随時行い、日本学術会議の意見を反映させるための取組を行っている。 ・ISC並びにIAPにおいて発足される新プロジェクトや共同声明等に関するワーキンググループに対して日本人科学者を推薦し、日本人科学者が国際舞台において活躍する一助とした。 意思の表出（※見込み含む） なし 開催シンポジウム等				

	なし
開催状況	令和3年1月21日、3月4日
今後の課題等	次回のISC 役員選挙への対応、IAPの統合及び役員選挙に向けた対応審議

国際委員会（国際対応戦略立案分科会）					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	武田 洋幸	幹事	鈴木 基史 中村 尚
主な活動	審議内容				
	・本分科会は、日本学術会議が加入している国際学術団体の見直しと、日本学術会議の国際対応戦略に関することについて審議している。具体的には、「国際学術交流事業の実施に関する内規」に基づき、加入国際学術団体の見直しのための調査を実施している。 ・今後、第25期においても、44団体の加盟国際学術会議の活動調査票を確認し、外部有識者にもご協力いただき、それぞれの加盟継続の要否について議論を行う予定。 ・また、日本学術会議が加入し活動する意義や成果について、国民にわかりやすい発信のありよう、その工夫についても、国際委員会、広報委員会等とも連携を図りながら活発な議論を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和2年12月11日、令和3年3月9日、6月15日				
今後の課題等	各加入国際学術団体の活動調査票及びヒアリングによる審査、活動成果の発信に向けた検討				

国際委員会（フューチャー・アースの国際的展開対応分科会）					
委員長	福士 謙介	副委員長	谷口 真人	幹事	江守 正多 蟹江 憲史
主な活動	審議内容				
	・本分科会は、日本学術会議が推進しているフューチャー・アースプログラムに関し、その国際的な展開と対応に関することについて審議している。 ・具体的にはフューチャー・アースの国際本部事務局の運営、フューチャー・アース主催の国際会議への日本学術会議代表者の派遣及び同会議への海外からの研究者の招へいについて審議をした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和2年12月16日、令和3年3月4日				
今後の課題等	フューチャー・アース代表派遣及び招へい方針に則ったフューチャー・アースの国際的展開への対応				

国際委員会（科学者に関する国際人権対応分科会）					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	和田 肇	幹事	有信 睦弘
主な活動	審議内容				
	・本分科会は、科学者に関する国際的な人権状況及び問題を調査審議し、併せてアカデミー及び学術団体の国際人権ネットワーク（The International Human Rights Network of Academies and Scholarly Societies）への対応に関する事項を審議している。 ・第24期には「国際人権ネットワークから通知されるアクション・アラート審査基準」を見直し、「科学者等に関する国際的な人権問題の審査基準」を新たに分科会において決定した。 ・現在、第25期における各アクション・アラートについて、新たな審査基準に基づき、分科会委員による審査を行っている。引き続き、各アラートに関する調査を行い、今後の分科会において対応を審議、決定する予定。加えて、次回分科会では、新審査基準の運用上の課題の有無も審議する予定。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				

	なし
開催状況	令和3年5月25日
今後の課題等	改訂された審査基準の運用

国際委員会（持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2021 分科会）					
委員長	亀山 康子	副委員長	橋本 禅	幹事	
主な活動	審議内容				
	・本分科会は、持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2021を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関することについて審議している。 ・本年は、「(仮) ネットゼロ・エミッションー達成に向けた学術の役割」をテーマに、令和4年1月31日、2月1日での開催を予定している。また、日本国内におけるコロナウイルスの感染拡大防止の観点から、またより多くの方に参加いただくために、対面開催ではなく、オンラインでの開催とする判断を行った。 ・今後、本分科会において企画案の更なる審議を行い、引き続き会議実施に向けた準備を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	あり				
開催状況	令和3年6月23日				
今後の課題等	企画案の審議、会議の実施準備				

(5) 課題別委員会

防災減災学術連携委員会

人口縮小社会における問題解決のための
検討委員会

フューチャー・アースの推進と連携に
関する委員会

持続可能な発展のための教育と人材育成の
推進分科会

フューチャー・アース国内連携分科会

自動運転の社会実装と次世代モビリティによ
る社会デザイン検討委員会

自動運転企画分科会

オープンサイエンスを推進するデータ基盤と
その利活用に関する検討委員会

学術情報のデジタルトランスフォーメーション
を推進する学術情報の基盤形成に関する検討
委員会

大学教育の分野別質保証委員会

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討
委員会

ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研
究・臨床応用に関する委員会

防災減災学術連携委員会					
委員長	米田 雅子	副委員長		幹事	田村 和夫
主な活動	審議内容				
	地震津波・火山・暴風豪雨などによる自然災害への防災減災の推進及びより良い災害復興を目的に、日本学術会議と防災学術連携体（60 学協会）は連携して取り組んでいる。両組織は政府の防災推進国民会議の学術分野を代表するメンバーである。学会や分野を超えた横断的な研究の奨励、災害時の学会の情報発進・情報共有と被災地・行政との連携を支援している。また、災害対応として、防災学術連携体の令和 3 年 8 月 6 日「熱海市の土砂災害に関する緊急連絡会」に協力した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
	令和 2 年 10 月 3 日に日本学術会議公開シンポジウム「複合災害への備えーwith コロナ時代を生きる」（第 5 回防災推進国民大会出展）、令和 3 年 1 月 14 日に学術フォーラム「東日本大震災からの十年とこれから」を開催した。いずれも防災学術連携体と共催し、学術フォーラムでは記念冊子を発行した。令和 3 年 8 月 3 日に「第三回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会ー激化する気象災害への備え」を開催した。				
開催状況	令和 2 年 12 月 3 日、令和 3 年 2 月 9 日、令和 3 年 4 月 30 日、令和 3 年 8 月 3 日				
今後の課題等	防災減災の研究活動には広い分野の強い繋がりが必要であり、第一部、第二部、第三部から委員を集めた防災減災学術連携委員会と防災学術連携体（60 学会）の連携を積極的に進めてきた。平時の情報共有に加えて、災害時の緊急集会や情報発信、府省庁との連携等多くの成果を上げてきた。今後も継続的に続けていきたい。				

人口縮小社会における問題解決のための検討委員会					
委員長	遠藤 薫	副委員長	金子 隆一	幹事	武石 恵美子、石原 理
主な活動	審議内容				
	コロナ感染症パンデミックが背景にある人口縮小社会について、「社会資本、医療、テクノロジー、地域」と「子ども、産み育てる、高齢者、ジェンダー、障害」の視点から多様性を前提に今期活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	期内に公開シンポジウムを開催し、最終的に「提言」を提出する				
	開催シンポジウム等				
	令和 2 年 11 月 25 日に「日本学術会議主催学術フォーラム 人口縮小と「いのちの再生産」——コロナ禍を超えて持続可能な幸福社会へ」をオンライン開催した。				
開催状況	第 1 回（令和 3 年 3 月 9 日）16 時~18 時 15 分 オンライン開催 第 2 回（令和 3 年 7 月 22 日）14 時~16 時 オンライン開催				

今後の課題等	前期末より世界で COVID-19 パンデミックが大きな被害を出している。COVID-19 問題は、本委員会のテーマである人口縮小社会にも密接な関係を持っており、この新たな状況も踏まえて、社会的孤立問題も含め、問題解決に取り組む。
--------	---

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会					
委員長	沖 大幹	副委員長	春山 成子	幹事	大手 信人、三枝 信子
主な活動	審議内容				
	研究、イノベーション、そして社会との協働による、地球環境課題の解決と持続可能な社会への転換をミッションとする国際的な研究ネットワークであるフューチャーアース(FE)の推進と連携に関し、多様な観点から以下を中心に審議している：				
	① 日本の科学者がいかに先導的にかかわれるのか				
	② FE の理念に共感して社会と協働した研究に取り組む科学者をどう増やしていけるのか				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和 5 年春に FE 的研究の推進に関する意思の表出を予定。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	令和 4 年秋に意思の表出の素案を問うシンポジウム等を開催の目論見。				
開催状況	令和 2 年 11 月 25 日に第 1 回、令和 3 年 1 月 29 日、3 月 22 日に第 2 回と第 3 回、5 月 24 日にメール審議で第 4 回、7 月 20 日に第 5 回を開催。				
今後の課題等	国内外の FE 関連組織の動向報告や状況分析に加えて、今期はオンライン開催を活かしたブレイクアウトセッションでの議論を中心に据え、FE に関わる研究を推進するための方策の提言に向けた議論に時間を割いている。				

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会）					
委員長	氷見山 幸夫	副委員長	小金澤 孝昭	幹事	鈴木 康弘、丹羽 淑博
主な活動	審議内容				
	・ Future Earth、SDGs 、ESD への貢献。 ・ 公開シンポジウム・ワークショップ、学術フォーラムの開催。 ・ Future Earth, ESD, SDGs と教育・人材育成に関する学術の動向特集に向けた検討。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	前期に引き続き、学術の動向で特集を組む予定である。				
	開催シンポジウム等				
	・ 「ESD/SDGs カリキュラム小委員会」と「海の学びカリキュラム小委員会」を立ち上げた。 ・ 小委員会主導でオンラインセミナーを定期的に行い、その活動のまとめとして年 1 回のペースでシンポジウムを開催する。				

	・分科会が主導して令和 4 年 6 月～7 月頃に学術フォーラムを開催する予定。学校教員、児童生徒の参加を考え、土・日か夏季休暇期間に開催。 ・令和 3 年度は 9 月と 12 月に分科会を開催する。 ・9 月の分科会は 9 月 12 日（日）15 時～17 時にオンラインで開催予定。非公開形式でフューチャー・アースについて勉強会を行う。 ・12 月の分科会は公開形式にして小委員会の成果発表を行う予定。日時は未定。
開催状況	令和 3 年 4 月 13 日（オンライン）、令和 3 年 6 月 15 日（オンライン）、令和 3 年 9 月 12 日（予定、オンライン）
今後の課題等	・ISC(国際学術会議)の発足を好機と捉え、研究－教育－社会の連携を更に強化すること。

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（国内連携分科会）					
委員長	沖 大幹	副委員長	春山 成子	幹事	大手 信人、三枝 信子
主な活動	審議内容				
	1. 国際科学会議(ICSU)等が主導するフューチャー・アース(FE)計画が提起している社会のステークホルダーとの連携推進と、関連する諸課題の整理と検討				
	2. ステークホルダーとの連携を軸とする FE 日本委員会の運営について				
	3. 関連研究者やステークホルダー、研究プログラム及び教育研究組織との連携				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	公式には開催していないが、2021 年 5 月 7 日、7 月 6 日に準備会合を開催し、FE の推進と連携に関する委員会での審議の企画立案を行った。				
今後の課題等	FE 日本委員会の活動ならびに国際的な FE 計画のアジア・太平洋域における事務局機能の日本拠点で学術面からの支援する役割に加えて、FE の推進と連携に関する委員会での審議の充実化を図る企画分科会的な役割を果たす予定である。				

自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会					
委員長	永井 正夫	副委員長	大倉 典子	幹事	鎌田 実、中野 公彦
主な活動	審議内容				
	前期の課題別委員会を引き継ぎ、モビリティの進化が社会に及ぼすインパクトを検討し、社会のデザインまで踏み込んだ議論を行い、新たなエコシステムの構築を目指している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期末には提言を発出予定。 安全工学シンポジウムで企画した OS の内容を「学術の動向」で特集を組む予定。				

	開催シンポジウム等
	2021年7月1日に安全工学シンポジウムでOSを開催。 2021年12月に学術フォーラムを開催予定
開催状況	委員会：2021年3月31日、6月18日、7月メール審議、9月28日（予定） 企画分科会：2021年4月25日、7月9日 小委員会：2021年6月4日（準備会）、7月27日
今後の課題等	委員会での議論に加え、小委員会（中野公彦委員長）で若手や地方の視点からでの議論を深めている。会議だけでなく slack を用いた意見交換も進めている。

自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会（自動運転企画分科会）					
委員長	永井 正夫	副委員長	大倉 典子	幹事	鎌田 実、中野 公彦
主な活動	審議内容				
	課題別委員会の企画運営のために設けた企画分科会で、傘下に若手や地方の視点での議論を深める小委員会を設置し、自動運転の社会実装に向けての小委員会の議論の成果と課題別委員会をつなぐ役割を担う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	課題別委員会で今期末には提言を発出予定で、その素案を作成する。 「学術の動向」2022年2月号で特集を組む予定で、その内容企画。				
	開催シンポジウム等				
	2021年7月1日に安全工学シンポジウムでOSを開催。 2021年12月13日に学術フォーラムを開催予定				
開催状況	企画分科会：2021年4月25日、7月9日、8月28日（予定） 小委員会：2021年6月4日（準備会）、7月27日、9月16日（予定）				
今後の課題等	課題別委員会で議論が深まるよう事前準備を行う。会議だけでなくメールや slack を用いた意見交換も進めている。				

オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会					
委員長	喜連川 優	副委員長	引原 隆士	幹事	三枝 信子、林 和弘
主な活動	審議内容				
	本検討委員会において、データを含む学術の成果をできる限りオープン化し広く共有することにより研究の進展を加速化すること、および学術的知見の導出の拠り所となる研究データをオープン化により研究成果の再現性を高めること等を目的とし、国際的な情勢を踏まえてデータ基盤の構築並びにその利活用を検討した。学術の新しいあり方を見定めつつ、データの運用を支えるプラットフォームとルール作りを分野横断的に展開し、データ基盤を実装するための具体的な進め方を深めるための議論を継続している。				

	意思の表出（※見込み含む）
	学術フォーラムを 2022 年 3 月末までに開催予定、その結果やその後の議論をとりまとめて、提言等を提出する予定
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	① 2020 年 12 月 28 日、②2021 年 3 月 1 日（計 2 回）それぞれ開催した。
今後の課題等	学術フォーラムの開催と提言等の取りまとめに向け審議を継続する。

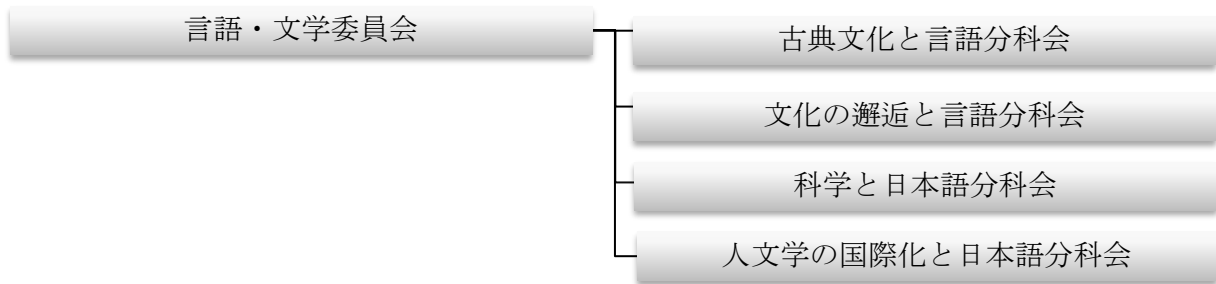
学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会					
委員長	山口 周	副委員長	安達 淳	幹事	吉見 俊哉、丹下 健
主な活動	審議内容				
	本委員会では、DX 時代という情報流通の大変革時代に相応しい学術情報環境のあり方について検討し、具体的な施策について提案することを目的としている。第 1 回委員会では本委員会の活動方針について審議し、24 期の提言「学術情報流通の大変革時代に向けた学術情報環境の再構築と国際競争力強化」を元にして、全ての学術分野に関わる豊かな学術情報環境の実現に向けた具体案について検討することとした。また第 2 回委員会では、文部科学省における科学技術・学術審議会情報委員会ジャーナル問題検討部会における審議まとめについて、部会長の引原先生の情報提供をもとに審議した。24 期提言の具体化に向けた関係機関からの情報収集と他の部と少し状況が異なる第一部の課題等について検討を進める。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	本委員会の審議内容を取りまとめて提言を発出する予定であり、来年中の提言発出を目指して準備を進める。				
	開催シンポジウム等				
	審議がまとまったところでシンポジウム開催を検討する。				
開催状況	第 1 回：令和 3 年 2 月 26 日（金）1、第 2 回：令和 3 年 3 月 30 日（火）、第 3 回：令和 3 年 9 月下旬（予定）、その後数回を予定				
今後の課題等	当初は、学術領域によって学術出版やこれを支える国内学協会等の状況が大きく異なるのではないかと懸念もあったが、「国際化」と「評価」というキーワードでは共通の議論が可能になると思われ、これらに留意しながら進める予定である。				

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会					
委員長	山口 周	副委員長	西山 慶彦	幹事	佐々木 裕之、林 隆之
主な活動	審議内容				

	この委員会では、最新の科学的方法により過去の学術政策の影響を解析し、これらを取りまとめて意思の表出を行う。なお、本委員会は、期を超えて活動して継続的に解析と検討を進める。本委員会の立ち上げにあたっては、会員・連携会員に対するアンケート調査を効率的に利用して、多様な意見やアイデアを集合するとともに、関連著作等で意見を表出している専門家が一堂に会する学術フォーラムを開催して様々な意見を集約する予定であり、その具体について検討した。また第1回委員会では、参考人の伊神正貫氏（NISTEP）より、研究力（学術の競争力）の後退と因果分析に関する最近の調査研究の情報を収集した。
	意思の表出（※見込み含む）
	委員会での審議や調査研究の進展に併せて、提言を始めとする様々な形式で意思の表出を行う予定である。
	開催シンポジウム等
	「我が国の学術政策と研究力に関する学術フォーラム ―なぜ我が国の研究力は後退したのか？―（仮題）」を令和3年10月に開催予定
開催状況	第1回：令和3年7月23日、第2回：令和3年9月8日（予定）
今後の課題等	今期は立ち上げの期間であり、学術フォーラムとアンケート調査を実施して、会員の協力を得るとともに、会員の様々な意見の収集を行う。

（６）分野別委員会

①言語・文学委員会



言語・文学委員会					
委員長	吉田 和彦	副委員長	渡部 泰明	幹事	原田 範行、日比谷 潤子、 平田 オリザ
主な活動	審議内容				
	・第25期の役員の選出を行った。 ・連携会員説明会の実施にあたって、実施方法、連携会員の分科会所属希望調査などについて審議を行った。 ・今期の分科会の活動方針・活動状況および分科会開催のための予算、今後の意思の表出の予定などについて、委員会として情報共有を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・意思の表出は分科会が主体となって行っているため、委員会としては行っていない。				
	開催シンポジウム等				
	・今期はまだ実施していない。				
開催状況	令和2年10月3日、令和3年4月21日				
今後の課題等	・各分科会は社会的、科学的に重要な課題について活動を進めており、単独の学協会では実行不可能な、分野横断的な審議が行われている。いっそうの総合的俯瞰的視点に立つには、他の分野別委員会等との連携を強化する必要があるだろう。 ・提言内容が広く社会と共有されるとともに、外部からのフォローアップを取り込むことが可能となるような工夫が今後必要となるであろう。				

言語・文学委員会（古典文化と言語分科会）					
委員長	倉員 正江	副委員長	有元 伸子	幹事	安藤 宏、糸川 麻里生
主な活動	審議内容				

	・令和2年6月30日に発出した提言「高校国語教育の改善に向けて」のインパクト・レポートを作成するため、審議を行った。(第1回・第2回) ・各国の大学入試における古典の扱いを検討するため、委員の専門に照らしてドイツの現状について報告し、審議を行った。(第2回)
	意思の表出(※見込み含む)
	・令和2年5月20日に提言「高校国語教育の改善に向けて」のインパクト・レポートを幹事会に提出した。
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	第1回：令和3年1月15日※Zoom 第2回：令和3年5月15日※Zoom
今後の課題等	第25期の活動方針は、大学入学試験における古典の適切な出題のありかたを審議することとなった。大学入試は一般の興味関心の高い問題であり、国語科以外の科目に関わる他の分科会の活動を視野に入れつつ、お互いに連携していくことが今後の課題となろう。

言語・文学委員会(文化の邂逅と言語分科会)					
委員長	原田 範行	副委員長	阿部 公彦	幹事	伊藤 たかね、木津 祐子
主な活動	審議内容				
	3回実施した分科会において、前期(24期)において発出した提言「大学入試における英語試験のあり方についての提言」にかかわるその後の動向を検証しつつ、今後の英語教育、英語大学入試のあり方について審議すること、および、こうした外国語教育を含めたわが国の言語教育や言語文化全般にかかわる人文学的研究のあり方に関する基礎的かつ国際的な検討の2点を、今期の活動方針の主軸とすることを決定し、目的達成のための具体的方法論や調査内容について協議した。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	英語大学入試のあり方および言語文化領域における人文学的研究促進のための意思表出をおこなう予定。				
	開催シンポジウム等				
	今期においてはシンポジウム等の開催はまだない。				
開催状況	令和3年1月11日、令和3年3月30日、令和3年7月11日				
今後の課題等	今期は、上記の「主な活動」に示した2点を中心に、意思の表出を念頭に活動をおこなう。英語教育や英語大学入試については、新学習指導要領に学習状況とその成果を注視しつつ、改めて望ましい英語教育と学力評価のあり方を多角的に協議する。また、わが国における人文学と言語文化研究のあり方については、本分科会が有する国際性や国際的コミュニケーション力を生かし、積極的に海外の学術				

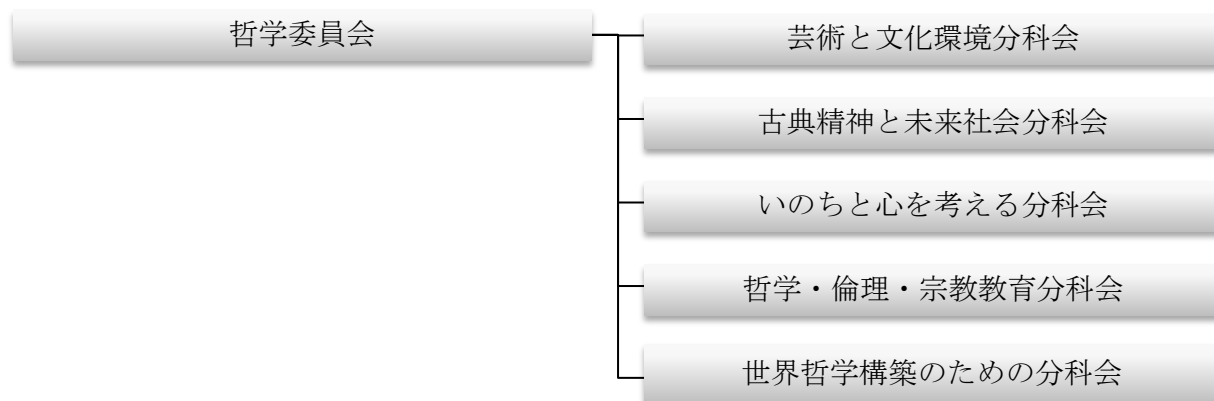
	組織と意見交換（主にシンポジウム）をしつつ、わが国における今後のこの分野の研究・教育のあり方に関する意思表出をおこなう予定である。
--	---

言語・文学委員会（科学と日本語分科会）					
委員長	木部 暢子	副委員長	定延 利之	幹事	小泉 政利、小西 いずみ
主な活動	審議内容				
	・第1回分科会では、第25期の活動方針を確認し、設置目的の「日本語」という文言について、日本で話されている言語・方言全体を緩やかに指すという解釈で今後の分科会の議論を進めることとした。 ・第2回分科会では、設置目的の「日常語としての各地の言語・方言（手話を含む）」に関する理解を深めるために、菊澤律子氏（国立民族学博物館）を参考人として招致し、「手話研究と手話言語データ分析の現状と課題」についてご講演頂き、質疑応答を行なった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	無し。				
	開催シンポジウム等				
	無し。				
開催状況	令和3年2月7日 第1回分科会（オンライン開催） 令和3年7月4日 第2回分科会（オンライン開催）				
今後の課題等	多様な日本語の継承ならびにそのための記録・保存（アーカイビング）について議論を進め、今期中にシンポジウムを開催し、それを提言の作成につなげる計画である。				

言語・文学委員会（人文学の国際化と日本語分科会）					
委員長	竹本 幹夫	副委員長	窪 蘭 晴夫	幹事	桑原 聡・松森 晶子
主な活動	審議内容				
	昨年度はコロナ禍による諸事の停滞や、さらなる情報収集の必要上、年度内の提言案提出が困難となった。そこで本年度中には提出すべく、「人文知の共有のために」というテーマの下、「人文学学術情報の国際的発信・受容」と「人文学の国際化に対応可能な教育システムの構築」とを2本の柱として審議を重ね、文案作成と推敲を進めた。とくに情報発信については、日進月歩の状況にあるため、現状について情報学分野の専門家に意見聴取を行うべく、第2回分科会で参考人を招致し、それを踏まえてさらなる資料の収集に努めた。令和3年8月中には第1稿が素案として完成する見通しであり、今後の提言のあり方についての幹事会の新方針を見据えつつ、社会的要請に応え得る提言案の完成に向けて、作業を継続する。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	本年度中に提言案を完成の予定である。そのためにすでに 5 回の分科会とそれを上回るワーキンググループ会議を開催済みである。
	開催シンポジウム等
	『学術の動向』令和 3 年 4 月号の大特集として「[特集] シンポジウム報告 人文学の国際化と日本語一言語・文学研究の立場から」を掲載した。
開催状況	分科会は ZOOM により、全 7 回開催（予定）（①令和 2 年 11 月 29 日、②令和 3 年 2 月 13 日、③4 月 18 日、⑤6 月 20 日、⑥7 月 31 日、⑥8 月 20 日。⑦9 月中に予定。②は 3 名の参考人を招致）。別に 3 班に分かれ、各分科会前後にそれぞれで複数回の ZOOM 会議を開催。
今後の課題等	学術会議に対する社会的要請への具体的な回答の一つとして、今期中に提言案を提出する。また提言後はその実現に向けての具体的な方策を探るべく、活動する。

②哲学委員会



哲学委員会					
委員長	吉岡 洋	副委員長	吉水 千鶴子	幹事	奥田 太郎
主な活動	審議内容				
	第 25 期における委員会の構成に関わる事項に加え、特任連携会員の推薦に関して協議を行なった。また 2021 年における公開シンポジウムの日程、テーマ、登壇者について協議し 12 月 5 日、「コロナ禍における人間の尊厳——危機に向き合って」というテーマのもとにオンラインで開催することを決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	具体的な予定はないが、今後の意思表示のあり方に関しては議論を深めてゆく。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	2020 年 12 月 5 日、公開シンポジウム「身体・社会・感染症—哲学・倫理学・宗教研究はパンデミックをどう考えるか—」をオンラインによって開催した。				
	2021 年 8 月現在、2020 年 10 月 2 日、12 月 5 日、2021 年 2 月 15 日、4 月 22 日の合計 4 回、委員会を開催した。				
今後の課題等	日本学術会議のあり方が大きく問われている状況を踏まえ、他の委員会・分科会とも連携をとりつつ、哲学的な視点に基づく学術への寄与について検討してゆく。				

哲学委員会（芸術と文化環境分科会）					
委員長	佐野 みどり	副委員長	澁谷 政子	幹事	
主な活動	審議内容				
	文化の多様性と持続可能な文化資源の保存・活用を柱とし、1) 芸術の枠組み、2) 異なる言語圏への文化発信の課題、4) 翻訳としての文化継承、5) 文化財修復の課題、6) 文化資源のアーカイブについて審議している。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	なし
	開催シンポジウム等
	令和3年2月27日 分科会（オンライン） 令和3年7月9日 分科会（オンライン） 令和3年7月18日 シンポジウム「文化の互換可能性—翻訳・継承・再生」
開催状況	分科会、シンポジウムともオンラインで行った。シンポジウムは、基調講演、5つの講演、パネルディスカッションの三部構成で開催し、参加者は180名であった。なお、シンポジウム記録は後日、公開する予定である。
今後の課題等	芸術・文化の多様性と翻訳としての文化継承など、芸術・文化の公共性と社会性に向き合い、いかに持続可能な文化環境を構築し支えていくか、分科会での討議やその延長上に設定するシンポジウムの開催などを通して、具体的な議論を広く周知していくことを課題とする。

哲学委員会（古典精神と未来社会分科会）					
委員長	中島 隆博	副委員長	納富 信留	幹事	梶原 三恵子
主な活動	審議内容				
	人類にとって共通の遺産と言える古典を、現代的な観点から読解し直すことで、新たな社会的構想力に資する審議を行なっている。古典の範囲は、狭い意味での哲学だけでなく人文学全般に及ぶ分野横断的なもので、近現代のテキストも古典に含まれている。それぞれのメンバーが学協会に関与しており、そちらでの議論との連携も念頭に置いているが、より分野横断的な活動を考えている。アウトプットとして岩波ジュニア新書での出版を再び行う予定である。その出版の過程と出版後に、社会に開かれたシンポジウム等を予定している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	現在までは無し				
開催状況	第一回令和2年12月5日（土）、第二回令和3年3月25日（木）				
今後の課題等	今期開始に際しての所感としては、このコロナ禍において広い意味での哲学の役割がなおのこと問われていると考えている。健康が義務とまでなった現代社会において、人間の心と身体のあり方が問い直されていることは言うまでもないが、人と人との繋がりが分断されたなかで、人が他者とともにあるとはいかなることかもあらためて問われている。この分科会は、古典のアクチュアルな読解を通じ				

	てこうした社会から課せられている問いに応えようとするものである。3年間の活動方針として、古典を導きの糸にしなが、若い世代とともに今日的な課題と一緒に考えるプラットフォームを作ること考えている。具体的には書籍の出版と、高校教員・高校生と協同したワークショップそしてシンポジウムを開催しようと考えている。
--	--

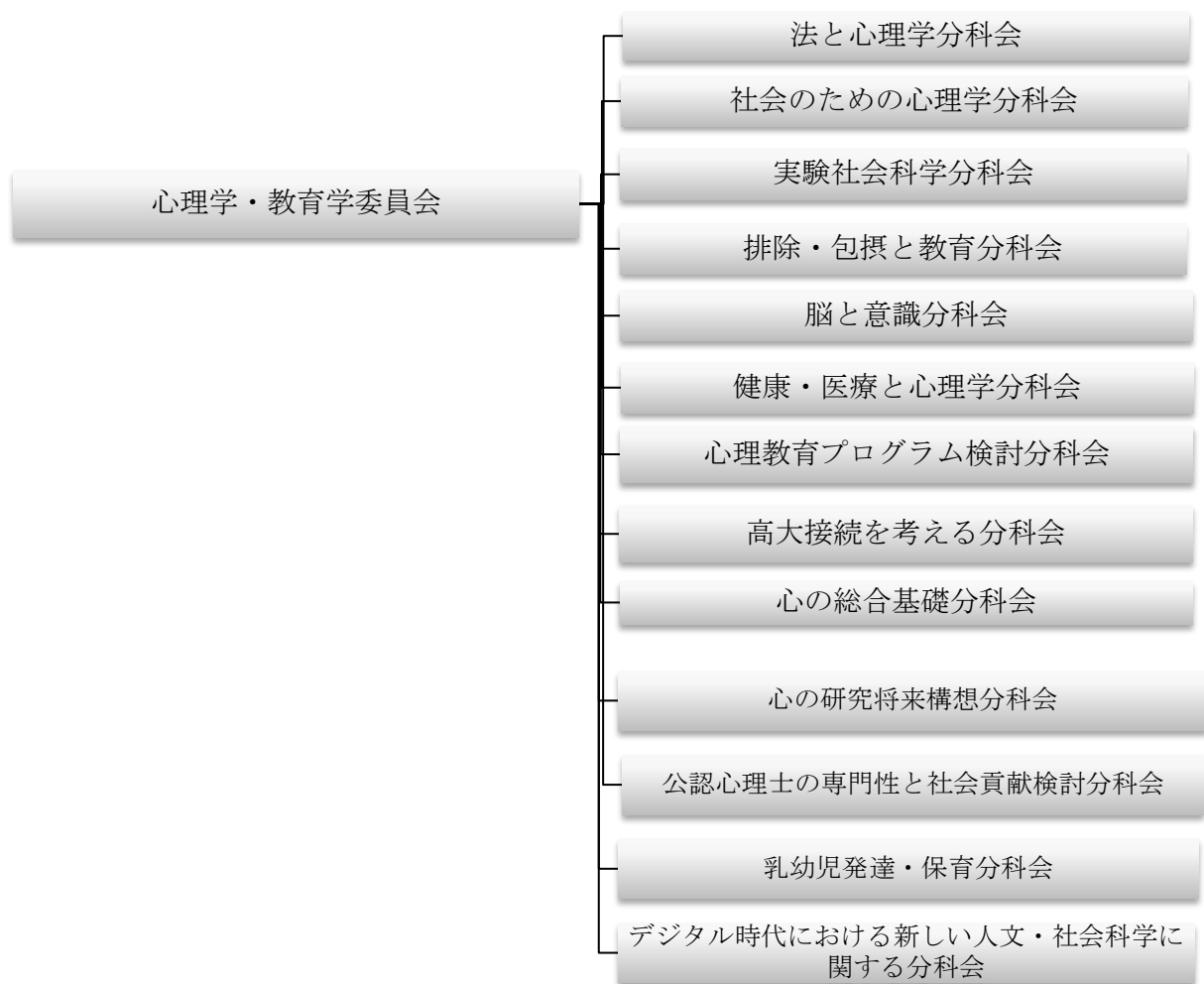
哲学委員会（いのちと心を考える分科会）					
委員長	土井 健司	副委員長	田坂 さつき	幹事	加藤 泰史
主な活動	審議内容				
	第二回分科会までで今期の審議テーマについて協議し、前期に提言を発出した「ゲノム編集」についてその後の状況、経緯を見据えていくとともに、新しいテーマとしてコロナ禍におけるトリアージの問題を審議することとなった。第三回分科会では一ノ瀬正樹委員より「新型コロナウイルス感染症と感染症倫理」と題した特別報告、第四回分科会では安藤泰至委員より『「トリアージ」という言葉が意味するもの——日本におけるその拡大誤用がもたらす混乱」と題した特別報告がなされた。さらに第五回分科会では参考人として堂園俊彦（静岡大学教授）、ならびに竹下啓（東海大学教授）を招き、お二人が中心となって作成された「COVID-19 の感染爆発時における人工呼吸器の配分を判断するプロセスについての提言」（生命・医療倫理研究会）について報告をしてもらい、この問題について審議を行った。 コロナ禍における感染爆発時のトリアージの問題は、一方で逼迫する医療体制のなかで最善の医療を実施するためにはやむを得ないという意見があるものの、トリアージのために治療を受けられない人、その人のいのちをも疎かにしてはならないという生命の尊厳とのディレンマにある。そこでこの問題をさらに広く議論するために、視野を世界レベルに広げ、社会との対話の必要を鑑み、シンポジウムを企画し（オンライン開催）、これを8月29日に予定している。なお参加者数を300名としているが、早々に定員を満了し、この問題の社会的関心の強さをあらためて認識した。またシンポジウムではアンケート実施する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	シンポジウムの開催後に分科会としての意見をどのようにまとめ、また表出するのかを検討する予定。				
	開催シンポジウム等				
	「コロナ禍におけるトリアージの問題—世界の事例から日本を考察する」（令和3年8月29日）				
開催状況	第一回分科会（12月5日）、第二回分科会（1月30日）、第三回分科会（2月27日）、第四回分科会（4月12日）、第五回分科会（5月16日）、以上いずれもZoom開催。				
今後の課題等	今期は、コロナ禍のなか本分科会が取り上げるべきと考えたトリアージを中心に審議をしてきたが、さらにその後に、これを発展させて、人間の死に関わる問題、安楽死・尊厳死について審議を予定している。				

哲学委員会（哲学・倫理・宗教教育分科会）					
委員長	中村 征樹	副委員長	垣内 景子	幹事	奥田 太郎
主な活動	審議内容				
	哲学・倫理・宗教教育分科会では、第 24 期に公表した報告「道徳科において「考え、議論する」教育を推進するために」が教育現場で有効に活用されることを目的に議論を行っている。そのためには教育現場等との連絡・連携・協力を進めることが不可欠であるという認識のもと、これまで 1) 現行の道徳教科書の検討、2) 文部科学省教科書調査官との意見交換、3) 教育現場で道徳教育の実践を行っている教員等との意見交換などを行ってきた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和 2 年 12 月 5 日、令和 3 年 1 月 5 日、令和 3 年 3 月 26 日、令和 3 年 6 月 5 日、令和 3 年 7 月 13 日、令和 3 年 8 月 7 日				
今後の課題等	第 24 期上記報告が初等中等教育の道徳教育の現場で効果的に活用されるための方策について、多面的に検討するとともに、そのために不可欠な社会発信を積極的に行っていききたい。また、情報テクノロジー等が道徳教育の重要なトピックであることを踏まえ、理工系分野の専門家とも連携して議論を深めたい。				

哲学委員会（世界哲学構築のための分科会）					
委員長	納富 信留	副委員長	上原 麻有子	幹事	藤原 聖子
主な活動	審議内容				
	世界哲学会大会 WCP を将来、日本・東京に招致することを目指して、日本から発信する「世界哲学 World Philosophy」について、国内外の状況の情報や意見交換を行った。哲学系諸学会で今後シンポジウムや研究会の企画を進めるため、本分科会はその実質的な支援を行なっていく。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				

開催状況	第 25 期の新たな分科会メンバーで、2020 年 12 月 1 日に第 1 回、2021 年 1 月 10 日に第 2 回の分科会をオンラインで開催した。
今後の課題等	本分科会は「世界哲学」を多角的に展開するためのプラットフォームとして、FIPS や CIPSH との連携をつうじて、世界の哲学において日本が果たす役割を積極的に打ち出していく。

③心理学・教育学委員会



心理学・教育学委員会					
委員長	西田 眞也	副委員長	松下 佳代	幹事	坂田 省吾・吉田 文
主な活動	審議内容				
	・分科会活動について ・学術会議に求められる活動を行うための施策について ・他分野との連携について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	分科会を中心に意思の表出の準備が進められている。各分科会の報告を参照。				
	開催シンポジウム等				
	分科会を中心にシンポジウムが行われた。詳細は各分科会の報告を参照。				
開催状況	第1回 令和2年10月3日 第2回 令和3年4月22日				

今後の課題等	引き続き分科会を中心に、心理学・教育学からの政策提言、社会貢献および関連領域の学術的振興に資する活動を行う。心理学関係では、分科会横断的に公認心理師の問題を多角的に検討する。
--------	---

心理学・教育学委員会（法と心理学分科会）					
委員長	松宮 孝明	副委員長	仲真 紀子	幹事	河原 純一郎、笹倉 香奈
主な活動	審議内容				
	法と心理学分科会は、法の実務における心理学の有用性と課題につき議論を進めている。25 期初年度は、各委員の専門分野からみた「法学と心理学における人間観」を突き合わせ、また供述弱者の脆弱性の気づき支援等の問題等に取り組むとともに、公認心理師試験問題に関する検討を継続している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「法と心理学」分科会での成果の出版等ならびに公認心理師試験問題に関する意見表出				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和 3 年 2 月 11 日、令和 3 年 5 月 10 日、令和 3 年 8 月 7 日、令和 3 年 9 月 10 日 *すべてオンラインで開催。例年より回数が多いのは、役員選出等の手続のためである。				
今後の課題等	今期は、心理学と法学の研究者で構成されている本分科会の特色を生かし、「法学と心理学における人間観」を突き合わせ、あわせて供述弱者の脆弱性の気づき支援等の問題を手掛かりに、本分科会での分科会での成果の出版を目指す。あわせて、先期からの課題である公認心理師試験問題に関する意見表出を試みる。				

心理学・教育学委員会（実験社会科学分科会）					
委員長	亀田 達也	副委員長	上條 良夫	幹事	西村 直子、八木 信行
主な活動	審議内容				
	実験社会科学カンファレンスの企画・運営について 実証を基盤とする社会科学・行動科学・認知科学研究者間でのフォーラム促進について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第 1 回分科会を令和 3 年 2 月 23 日にオンラインで開催した。				
今後の課題等	実験社会科学カンファレンスやシンポジウム・ワークショップを通じて、実験社				

	会科学の活動を促進する。フューチャー・デザインとの連携、実験経済学の若手養成、実践と理論の関わりに関する検討、データサイエンスとの関係など、広く実証を基盤とする社会科学・行動科学・認知科学研究者の間でフォーラムを形成する。
--	---

心理学・教育学委員会（排除・包摂と教育分科会）					
委員長	岡部 美香	副委員長	小玉 重夫	幹事	勝野 正章
主な活動	審議内容				
	第 1 回会合：前期の活動と成果を共有した上で、今期の目標を「コロナ禍の影響も含め国際的な議論・動向に照らして排除と包摂に関わる日本の課題を明確化するとともに、日本から世界に向けて貢献できるよう国際発信をする」に定めた。				
	第 2 回会合：田熊美保氏（OECD 教育スキル局政策アナリスト）の報告に基づき、貧困層の子どもを含むマイノリティを巡る今日の教育・福祉政策に関する国際的な情勢・動向とインクルーシブな社会を実現するための課題について議論した。				
	第 3 回会合：乳幼児発達・保育分科会と共同開催するシンポジウム「子ども政策の総合化について考える」の内容について議論し、承認した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和 5 年 9 月に日本語・英語による提言等の発出をめざすとともに、一般市民に開かれた研修会・シンポジウムを今期中に複数回、開催する。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	令和 3 年 10 月 9 日（土）に、大東学園・西成高校の生徒・教員等を参考人に招致する分科会研修会、同 31 日（日）に、教育と福祉の架橋等を議論するオンライン公開シンポジウム「子ども政策の総合化について考える」を開催予定。				
	第 1 回会合：令和 3 年 3 月 28 日（日）オンライン会議 第 2 回会合：同 6 月 15 日（火）オンライン会議 第 3 回会合：同 7 月 19 日（月）オンライン会議				
今後の課題等	日本の学術的成果の国際比較・国際発信をめざす。また、日本学術会議と一般市民との距離を近づけるべく、子どもを含め、教育や福祉の現場で実際に活動している人々の意見を提言等により明瞭に反映できるように努め、かつ、提言等の内容を広く世に問えるよう発表の仕方も工夫する。				

心理学・教育学委員会（脳と意識分科会）					
委員長	荻阪 直行	副委員長	松井 三枝	幹事	坂田 省吾・蘆田 宏
主な活動	審議内容				
	「融合社会脳研究センター構想」について第 24 期から引き続いて議論を行った。また第 25 期から新規に参加した各委員の専門の研究内容紹介を中心に広い研究分野における研究ネットワークについても活発な議論を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	各サブコミティの若手の構成員を中核にして他のサブコミティと横の連携をとって具体的な融合的課題についてシンポや討論会を開催してゆく予定である。				

	開催シンポジウム等
	公開シンポジウム「脳とところから見た With/Post コロナ時代のニューノーマルの課題と展望」 1日目 令和3年6月20日(日) 13:30-17:00 シンポジウム1：コロナ禍とメンタルヘルス・教育・保健医療 2日目 令和3年6月27日(日) 13:30-17:00 シンポジウム2：コロナ禍における脳科学と人工知能
開催状況	令和2年12月4日(金) 14時30分～16時00分第1回分科会 Webex 会議 令和3年3月10日(水) 16時30分～18時30分第2回分科会 Zoom 会議 令和3年5月27日(木) 14時00分～16時25分第3回分科会 Zoom 会議 令和3年8月6日(金) 14時00分～16時20分第4回分科会(手当なし) Zoom
今後の課題等	SDGsを進めるために「融合社会脳研究センター構想」のネットワーク構築の推進に向けて議論を深めていく活動方針である。Virtual Social Brain Lab (VSBL)のような仮想的組織を設定し、分科会の委員を担当する専門領域名をつけた VSBL サブコミティ責任者とする等の具体的な議論をする。

心理学・教育学委員会（健康・医療と心理学分科会）					
委員長	鈴木 伸一	副委員長	丹野 義彦	幹事	松井 三枝・佐々木 淳
主な活動	審議内容				
	健康医療分野における心理学および公認心理師が果たすべき役割を明確化するとともに、精神医療に加えて一般医療における心理学および公認心理師の貢献促進のための基盤づくりのために必要な課題を整理、公認心理師業務に関する診療報酬の拡充のためのロードマップづくりを行う。また、健康医療関連研究の担い手としての心理学高等教育のあり方とキャリアパスの在り方を検討する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	3年間の活動の成果を関連する心理学関連の分科会と合同で提言としてまとめる予定である。				
	開催シンポジウム等				
	健康医療と心理学の関連書学会、関連省庁と連携したシンポジウムを行う予定である。				
開催状況	第1回分科会の開催 2021年1月18日(月) 10:00～11:40 第2回分科会の開催 2021年7月26日(月) 14:00～17:00				
今後の課題等	第25期の1年目は、健康医療と心理学にかかわる既存の枠組みにとらわれない、さまざまな領域からの情報を網羅的に収集し、今後の検討課題の整理を行なう。2年目は、健康医療関連諸学会との連携や関連省庁との意見交換をおこなう（必要に応じてシンポジウムを開催する）。3年目に提言をまとめる				

心理学・教育学委員会（高大接続を考える分科会）					
委員長	吉田 文	副委員長	松下 佳代	幹事	西岡 加名恵・中村 高康
主な活動	審議内容				

	大学進学率が約 60%になった時代における日本の高校と大学の接続の在り方に関して、1.入学者選抜に加えて、2.高校から大学へ移行する生徒・学生の教育や学習の連続性、3.大学のディシプリンと高校の教科の関係と幅広く検討する。また、日本の状況を相対化することを目的とし、国際比較の観点を導入する。 意思の表出（※見込み含む） 25 期中に提言あるいは報告を発出する予定。 開催シンポジウム等 2022 年 3 月 12 日（土）公開シンポジウムを開催予定（共催：教育学関連学会連絡協議会）。
開催状況	2021 年 3 月 28 日（日）に第 1 回分科会、2021 年 7 月 10 日（日）に第 2 回分科会を、Zoom を利用して開催。2021 年 11 月に第 3 回分科会を開催予定。
今後の課題等	上記の審議を進める途上で、関連学協会との連携、政策立案者との協議、当事者（高校生、高校教員等）の声の聞き取りなどを行い、実効性の高い提言あるいは報告を発出することを課題とする。

心理学・教育学委員会（心の総合基礎分科会）					
委員長	坂田 省吾	副委員長	齋木 潤	幹事	川合 伸幸・四本 裕子
主な活動	審議内容 心理学の基礎教育のあり方、大学院の心理学教育や若手基礎心理研究者のキャリアパス等について審議した。今年度は心理学の基礎教育に大きな影響を持つ公認心理師カリキュラムに焦点を絞って議論した。この問題に詳しい丹野義彦氏を講師に招き、情報共有と論点整理を行った。 意思の表出（※見込み含む） 心理学の基礎教育の重要性について「見解」表出に向けて議論を進める予定である。 開催シンポジウム等 公開シンポジウムの開催について今後検討する予定である。				
開催状況	令和 3 年 2 月 7 日（日）14 時 00 分～16 時 00 分 第 1 回分科会 Zoom 会議 令和 3 年 3 月 9 日（火）10 時 00 分～12 時 08 分 第 2 回分科会 Zoom 会議 令和 3 年 9 月 14 日（火）10 時 00 分～12 時 00 分 第 3 回分科会予定 Zoom 会議				
今後の課題等	公認心理師カリキュラムの現状が心理学教育に様々な影響を及ぼしている。心理学の基礎を身に付けた公認心理師を養成するためにも広い視野からの検討を進める。				

心理学・教育学委員会（心の研究将来構想分科会）					
委員長	四本 裕子	副委員長	西田 眞也	幹事	明和 政子・蒲池 みゆき

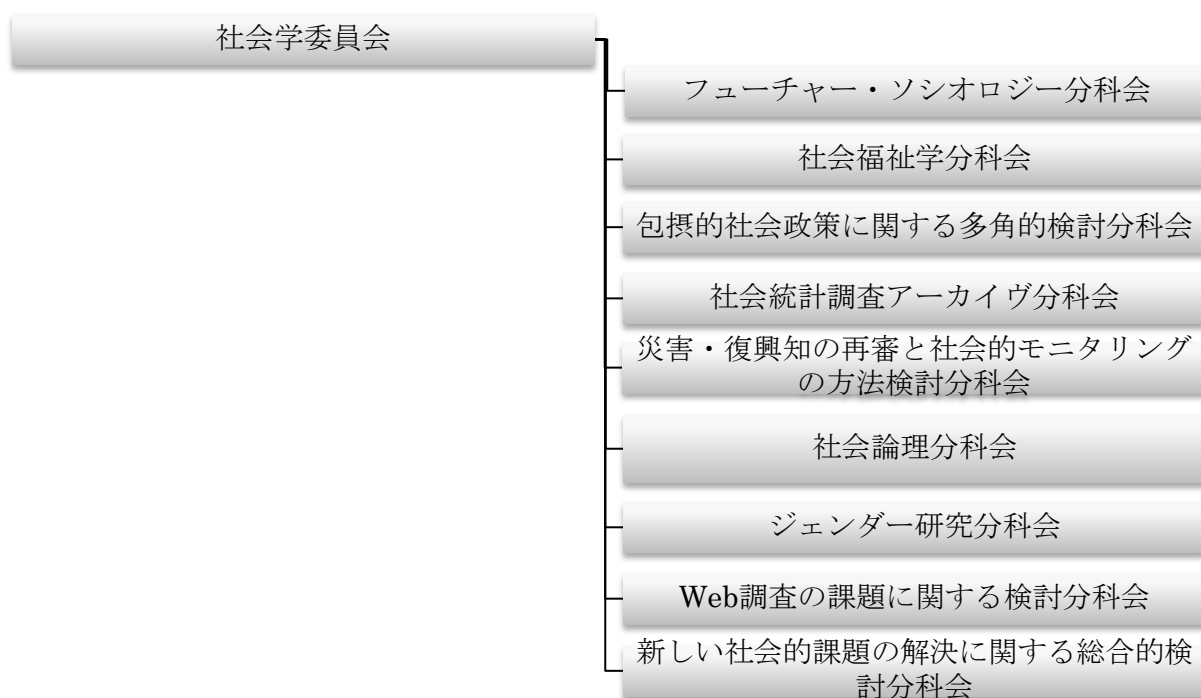
主な活動	審議内容
	心に関する研究の将来構想に関して、主だった問題点について議論した。「大学教育のカリキュラムのあり方」「若手研究者育成」「心理学のアイデンティティ」「予算のあり方」「個人情報を含むデータの取り扱いについて」の5つに関してさらに議論を深めることとした。これらのテーマについて、slack や zoom を用いて議論を進めている。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	2020 年 12 月 29 日 10-12 時 分科会開催（オンライン）
今後の課題等	上記のテーマに関連して、報告や提言をどう取りまとめるかを慎重に議論する。また、総合知の創出に心の研究がどのような形で貢献できるかを念頭に活動する。

心理学・教育学委員会（公認心理師の専門性と社会貢献検討分科会）					
委員長	丹野 義彦	副委員長	鈴木 伸一	幹事	松井 三枝・佐々木 淳
主な活動	審議内容				
	心理学・教育学委員会は 2008 年から心理職の国家資格についての提言を発出してきた。2017 年に公認心理師法が施行されたのを受けて、国家資格公認心理師のあり方を学術の観点から検討するために本分科会が設置された。検討課題は、公認心理師の専門性を担保する制度（卒後研修や実習指導者養成など）や、公認心理師の社会貢献を高める方略（職域拡大や待遇改善、社会に対する公認心理師の理解を深めるなど）である。心理学関係者を中心として、公認心理師の活動の主要 5 分野（医療・教育・産業・司法・福祉）から広く委員を募り意見を聴取する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	できるだけ早い時期に「提言」としてまとめる予定である。				
	開催シンポジウム等				
	関連する諸分科会、関連学会、関連省庁と連携したシンポジウムを開催する。				
開催状況	第 1 回 令和 3（2021）年 1 月 14 日 第 2 回 令和 3（2021）年 7 月 26 日				
今後の課題等	主要 5 分野（医療・教育・産業・司法・福祉）ごとに問題点を洗い出し、それに対する対応を考えて、提言にまとめる。				

心理学・教育学他 6 委員会合同（デジタル時代における新しい人文学・社会科学に関する分科会）					
委員長	永崎 研宣	副委員長	西田 眞也	幹事	木部 暢子・隠岐 さや香
主な活動	審議内容				

	デジタル時代を本格的に迎え、人文学・社会科学もまた、その専門知を活かした応答が求められ、情報学からもそこに対する注目が高まっている。本分科会では人文・社会科学の立場から分野を横断した新しく総合的な見通しを審議している。
	意思の表出（※見込み含む）
	審議の内容に基づき、期末までに意思表出を行うことを目指している。
	開催シンポジウム等
	令和４年１月にシンポジウムを開催することを企画している。
開催状況	令和３年６月１日 令和３年７月３日
今後の課題等	人文・社会科学における潜在的な可能性とニーズを適切に引き出すことで実効性のある意思表出を期末までに行うことを目指している。

④社会学委員会



社会学委員会					
委員長	佐藤 嘉倫	副委員長	和気 純子	幹事	岩井 紀子、白波瀬 佐和子
主な活動	審議内容				
	・社会学、社会福祉学全般について現代社会における学問のあり方を検討し、研究を推進するための方策を審議する。 ・そのために社会学委員会新しい社会的課題の解決に関する総合的検討分科会と連携して実質的な審議を進める。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定。				
	開催シンポジウム等				
	未定。				
開催状況	令和2年10月3日				
今後の課題等	コロナ禍の社会、コロナ後の社会のあり方について社会学、社会福祉学の視点から根本的に考える。				

社会学委員会（フューチャー・ソシオロジー分科会）					
委員長	野宮 大志郎	副委員長	遠藤 薫	幹事	友枝 敏雄・渡辺 秀樹
主な活動	審議内容				
	前期に引き続き、今期は「未来の社会学（フューチャー・ソシオロジー）」を具体化するために活動する。未来社会のトレンドはこうなるだろうという未来予測ではなく、こうした未来を創りたいという目的に資する社会学を提案する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言ないしは報告を行う予定である。				
	開催シンポジウム等				
	今期中に、シンポジウムを 2 回ほど開催する予定である。				
開催状況	25 期初年度は、4 回にわたって分科会の開催を行った。				
今後の課題等	2021 年度（初年度は）「未来社会学」の具現化計画の最終段階である方法論を詰める議論を行なった。2022 年、23 年度は、社会に貢献する社会学のあり方を提示したい。				

社会学委員会（社会福祉学分科会）					
委員長	和氣 純子	副委員長	原田 正樹	幹事	保正 友子・竹本 与志人
主な活動	審議内容				
	雇用や家族のあり様の変化から、従前の法制度や社会的支援が十分に機能していない状況で、新型コロナウイルス感染症の危機により顕在化した生活問題を捉え、新たな危機やリスクに対応しうる社会福祉制度や支援のあり方を検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	シンポジウムおよび分科会での議論にもとづき、来年度中の提言の提出をめざし、準備中である。				
	開催シンポジウム等				
	令和 3 年 6 月 27 日、シンポジウム『コロナ禍における社会福祉の課題と近未来への展望～直面する危機から考える』を開催。申し込み 1046 名、748 名が参加。				
開催状況	次のとおり 3 回の委員会を開催した。令和 2 年 12 月 21 日（第 1 回）、令和 3 年 3 月 27 日（第 2 回）、令和 3 年 6 月 27 日（第 3 回）				
今後の課題等	刻々と変化するパンデミックの影響をモニタリングし、顕在化した課題の把握に努めた。今後は、危機に対応しうる制度や支援のあり方について審議する。				

社会学員会・経済学委員会合同（包摂的社会政策に関する多角的検討分科会社会的包摂分科会）					
委員長	須田 木綿子	副委員長	岩崎 晋也	幹事	和気 純子
主な活動	審議内容				
	今期は、孤立や孤独の課題に取り組んでいる。4～7月にかけては、関連領域のNPO法人から、活動状況等について聞き取りを行った。いっぽうで、実証研究の成果を中心に、evidence-basedな資料にもとづく検討を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言もしくは見解の表出を計画している。				
	開催シンポジウム等				
	今年度内のシンポジウムの開催を検討している。				
開催状況	令和3年1月31日、3月7日、6月19日、9月6日（予定）				
今後の課題等	孤立や孤独の課題は、既存の取り組みでは新しい課題への対応は困難であるとの認識にもとづき、今までとは異なるアプローチのあり方と、それを実現するための政策を検討している。				

社会学委員会（社会統計調査アーカイブ分科会）					
委員長	玉野 和志	副委員長	園田 茂人	幹事	吉川 徹、永吉 希久子
主な活動	審議内容				
	社会統計調査のデータアーカイブについて検討してきた、これまでの経緯もふまえ、今期ではその必要性について、改めて確認する意味で、政府統計データや政策の立案・実施過程でのデータの活用という意味でのエビデンスにもとづく政策形成（Evidence Based Policy Making: EBPM）などの動きも含めて、広く審議していく予定である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言もしくは報告の作成を予定している。				
	開催シンポジウム等				
	本年度は特に予定していない。				
開催状況	2020年11月4日、2021年3月11日、6月26日、いずれもオンラインで行った。				
今後の課題等	データアーカイブの意義を確認するうえで、データを活用し、データにもとづく政策形成や問題解決の必要性について広く検討し、とりわけそれが求められる機関や組織にたいして情報発信できるように考えたい。				

社会学委員会（災害・復興知の再審と社会的モニタリングの方法検討分科会）					
委員長	吉原 直樹	副委員長	山下 祐介	幹事	青柳 みどり、浅川 達人
主な活動	審議内容				
	災害・復興知の再審のありようと復興施策をめぐる社会的モニタリングの方法が、関連する社会の多様なセクターとの対話と討議を通してある程度明らかになった。それを踏まえて、現在、審議内容の社会的還元の方法についてさぐっている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	最終年度に提言もしくは報告という形で検討結果を公表する予定である。併せて、そのダイジェスト版の公表も考えている。				
	開催シンポジウム等				
	令和 4 年度の適切な時期に、分科会の議論を踏まえてシンポジウムを開催する予定であるが、どのようなテーマと体制で開催するかは現在、検討中である。				
開催状況	第 1 回令和 2 年 11 月 21 日、第 2 回令和 3 年 2 月 7 日、第 3 回令和 3 年 4 月 26 日、第 4 回令和 3 年 7 月 14 日、第 5 回令和 3 年 9 月 2 日、開催（いずれもオンライン会議）。				
今後の課題等	災害・復興知の現実社会へのカバレッジ（適用可能性）が問われる。				

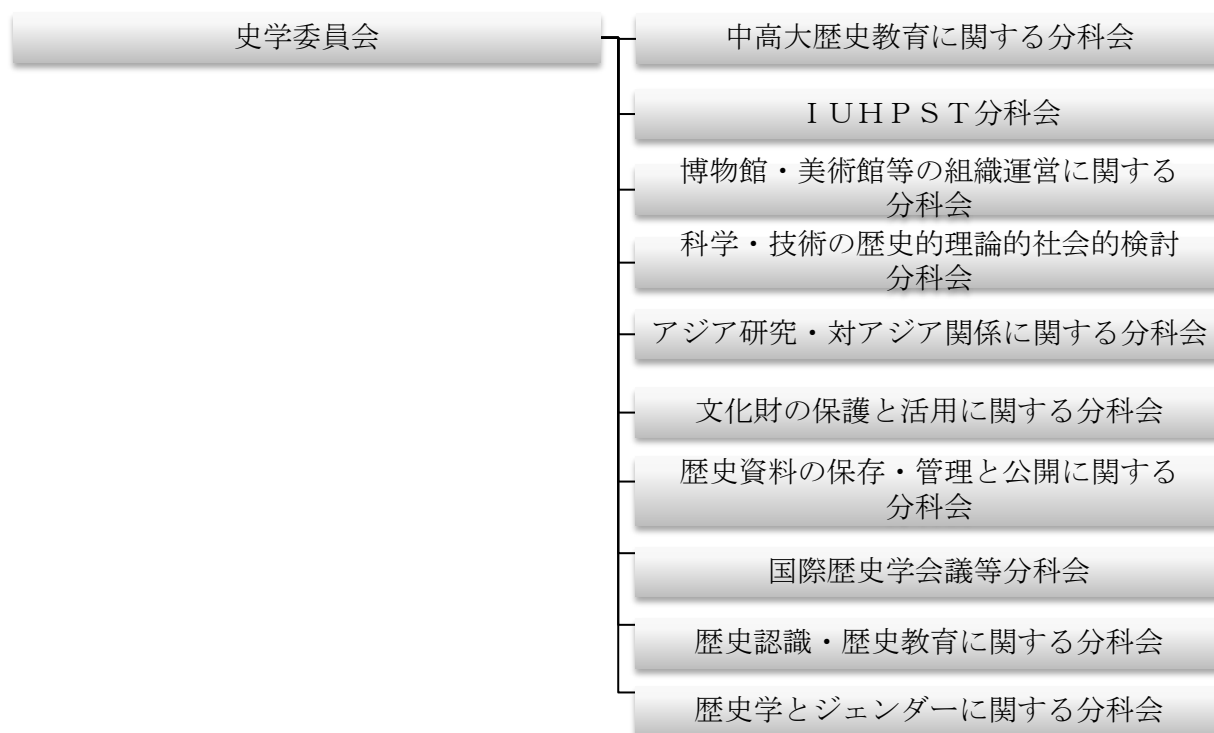
社会学委員会（社会理論分科会）					
委員長	遠藤 薫	副委員長	山田 真茂留	幹事	有田 伸 筒井 淳也
主な活動	審議内容				
	新型コロナウイルスの世界的感染拡大によって、いっそう明らかになった社会的課題を見極め、大きく、「モダンの位相変化」「格差の拡大」「社会の分断」の 3 点について審議を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和 5 年春頃、「ポストコロナ時代における社会的課題解決」に関する意見の発出を予定している。				
	開催シンポジウム等				
	令和 4 年 3 月頃、「社会的格差、分断」をテーマとしたシンポジウムを開催する予定である。また令和 4 年夏頃、「モダンの位相変化」に関する公開シンポジウムを開催の予定である。				
開催状況	令和 3 年 1 月 3 0 日 第 1 回分科会開催 令和 3 年 5 月 3 0 日 第 2 回分科会開催				
今後の課題等	ポストコロナ社会においては、医療や AI など科学技術の重要性は高まるが、それにともなつて ELSI の観点の重要性も世界的に強く認知されている。本分科会もこの点に配慮しつつ、社会的課題解決にむけて具体的提案を行う。				

社会学委員会（ジェンダー研究分科会）					
委員長	柘植 あづみ	副委員長	中谷文美	幹事	池田 恵子・海妻 径子
主な活動	審議内容				
	・公開シンポジウム「コロナ禍における社会の分断：ジェンダー格差に着目して」（令和3年9月19日（日）開催予定）の準備。・「ジェンダー化されたパラアカデミクス（学術支援・研究職）の待遇の改善について」の議論。・「科学的助言機能・「提言」等のあり方の見直しについて」の議論。・第24期の本分科会による公開シンポジウムを基にした「特集 理数系教育とジェンダー—学校教育にできること—」『学術の動向』令和3年7月号の刊行。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
	オンライン公開シンポジウム 「同姓/別姓を選ぶ権利—市民と学術の対話から」令和3年4月17日、法学委員会ジェンダー法分科会、科学者委員会男女共同参画分科会との共同主催、「日本の刑法性犯罪規定を国際人権基準に合わせるために—日本学術会議提言から法務省検討会報告を検討する—」令和3年7月30日、法学委員会ジェンダー法分科会との共同主催				
開催状況	令和3年1月25日、3月29日、6月1日、7月16日（以上、オンライン開催）。				
今後の課題等	公開シンポジウムの開催、意思の表出の準備中である。				

社会学委員会（Web調査の課題に関する検討分科会）					
委員長	佐藤 嘉倫	副委員長	吉川 徹	幹事	今田 高俊、石井 クンツ昌子
主な活動	審議内容				
	・ビッグデータや地理情報を活用した社会学的研究を推進する方策を審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	何らかの形で意思を表出することを検討している。				
	開催シンポジウム等				
	シンポジウムを開催することを検討している。				
開催状況	令和2年12月26日、令和3年3月11日、令和3年6月26日				
今後の課題等	地理情報を含めたビッグデータはさまざまな領域で用いられている。前期分科会の到達点を踏まえて、ビッグデータを社会学的研究の高度化に活用する方策を検討する。				

社会学委員会（新しい社会的課題の解決に関する総合的検討分科会）					
委員長	佐藤 嘉倫	副委員長	和気 純子	幹事	柘植 あづみ、玉野 和志
主な活動	審議内容				
	・社会学委員会の下にある各分科会の横の連携を促進し、分野を越えた議論を展開する方策を審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	何らかの形で意思の表明をすることを検討している。				
	開催シンポジウム等				
	シンポジウムを開催する方向性を検討している。				
開催状況	令和3年3月1日、令和3年6月5日				
今後の課題等	各分科会での議論を踏まえて、共通課題を抽出し、それに焦点を当てたシンポジウムを開催する可能性を検討する。				

⑤史学委員会



史学委員会					
委員長	若尾 政希	副委員長	栗田 禎子	幹事	佐野 正博、芳賀 満
主な活動	審議内容				
	1. 各分科会の活動について情報共有を行い、史学委員会・分科会との共催シンポジウムについて審議了承した。 2. 史学委員会内設置分科会の予算執行状況の確認と協議を行った。 3. 日本学術会議資料の保全の在り方について協議した。 なお、各分科会の活動について情報共有を行うために、史学委員会内に設置された分科会の正副委員長と緊密に連絡をとりあう体制を作った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	1. 公開シンポジウム「大学入試改革と歴史系科目の課題」（令和2年10月18日、日本歴史学協会共催、オンライン開催） 2. 公開シンポジウム「続発する大災害から史料を守る—現状と課題—」（令和2年12月19日、日本歴史学協会共催、オンライン開催） 3. 公開シンポジウム「東日本大震災10年と史料保存—その取組と未来への継承—」（令和3年6月26日、日本歴史学協会共催、オンライン開催）				
開催状況	1. 第1回史学委員会（令和2年10月3日）日本学術会議・オンライン併用 2. 第2回史学委員会（令和3年4月22日）オンライン開催 3. 第3回史学委員会（令和3年8月10日）オンライン開催				

今後の課題等	第 24 期から引き続いての課題として、日本学術会議の公文書である日本学術会議資料を、日本学術会議事務局と相談・連携しながら、いかに保全していくかという課題にまず取り組んでいかねばならない。
--------	---

史学委員会（中高大歴史教育に関する分科会）					
委員長	若尾 政希	副委員長	鈴木 茂	幹事	小浜 正子、近藤 孝弘
主な活動	審議内容				
	1. 中学校・高校・大学等の歴史教育をめぐる諸問題とその学術的背景について 2. 歴史教育における中高大連携問題について 3. 分科会で取り組むべき重点項目について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	1. 提言の発出 2. 公開シンポジウムの開催				
	開催シンポジウム等				
	1. 公開シンポジウム「大学入試改革と歴史系科目の課題」（令和 2 年 10 月 18 日、日本歴史学協会と共催、オンライン開催）。参加登録者約 350 名。これは令和元年 11 月 22 日の「提言」に基づくもので、提言の内容は大学入学共通テストの地理歴史科新科目としてほぼ実現した。				
開催状況	1. 第 1 回分科会（暫定）（令和 2 年 10 月 18 日）オンライン開催 2. 第 2 回分科会（令和 3 年 1 月 23 日）オンライン開催 3. 第 3 回分科会（令和 3 年 8 月 9 日）オンライン開催				
今後の課題等	令和 4 年度からの高校新学習指導要領の施行を受け、特に中学校・高校・大学等の歴史教育の接続と新科目による大学入試の円滑な実施を促す活動を行う。				

史学委員会（IUHPST 分科会）					
委員長	木本 忠昭	副委員長	戸田山 和久	幹事	佐野 正博、橋本 毅彦
主な活動	審議内容				
	第 26 回国際科学史技術史会議にむけて、（1）日本からの役員候補を選定し、（2）同会議への国内参加体制（代表団、総会方針）を審議し決定、令和 3 年 7 月の国際会議までのメールにより活動方針を協議した。JSC 分会活動アンケートに対する回答として、事実関係に加え、アンケート発出に見られる JSC の姿勢にかかわる問題についても意見表明を行った。国際活動として J S C に欠けていた CIPSH との連会活動のために特任連携会員を申請した。9 月には国際会議の報告書を作成発行する。IUHPST/DHST に対しては、日本選出の事務局次長を通じ意見交換を図ってきた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	1. 第 1 回分科会（令和 2 年 11 月 29 日）オンライン開催 2. 第 2 回分科会（令和 3 年 2 月 13 日）オンライン開催				

今後の課題等	IUHPST は DHST、DLMPST とともに国際会議を迎える（2001、2003）のを機に一層国際的活動を強めたい。また日本学術会議に弱かった CIPSH との連携を強め人文系哲学系の国際活動を強めたい。
--------	---

史学委員会（博物館・美術館等の組織運営に関する分科会）					
委員長	芳賀 満	副委員長	木俣 元一	幹事	松田 陽、瀬谷 愛
主な活動	審議内容				
	23 期、24 期の本分科会発出の『提言』を踏まえて、博物館を所管する文化庁において、博物館法改正の審議が現在進み来年の通常国会へ提出予定である。本分科会の前委員長と現委員長がその審議に参画している現状をも鑑み、今期は、法改正の中心軸となる認証博物館制度と学芸員制度を中心に審議を進めることとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	認証博物館制度とその第三者機関による審査について提言を発出の予定。				
	開催シンポジウム等				
	令和 3 年 3 月 2 日（火）にオンラインでシンポジウム「今後の博物館制度を考えるー博物館法改正を見据えてー」を主催。全国から 900 人近い学芸員等博物館関係者の参画を得て博物館と学芸員のあり方に関わる非常に活発な議論がなされた。当シンポジウムを踏まえた報告書を書籍『博物館の未来を考える』として 2021 年 8 月に中央公論美術出版社から刊行予定。				
開催状況	1. 第 1 回分科会（令和 3 年 2 月 1 日）オンライン開催 2. 第 2 回分科会（令和 3 年 3 月 24 日）オンライン開催 3. 第 3 回分科会（令和 3 年 7 月 12 日）オンライン開催				
今後の課題等	博物館と学芸員のあるべき姿を新しい博物館の認証制度に反映してゆく重要性は確認されたが、学芸員に関しては現状に対応しつつ制度改善を進める必要がある。				

史学委員会（科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会）					
委員長	佐野 正博	副委員長	隠岐 さや香	幹事	田口 直樹、中村 征樹
主な活動	審議内容				
	本分科会は、諸自然科学と諸文系科学との境界領域問題をはじめ、社会と科学・技術の間の問題、科学・技術の社会内における発展の仕方の問題等を歴史的に分析し、また現代社会における科学・技術のあり方の諸問題について審議している。 今期は、科学技術基本法の改正問題、学術研究の社会的意義などについて検討を行なった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	本分科会メンバーの兵藤会員の提案・企画により、本分科会メンバー(4 人)、他分科会連携会員、外部有識者を執筆者として『学術の動向』令和 3 年（2021）年 5				

	月号において特集テーマ「学術研究と科学技術基本法の改正」が組まれた。
開催状況	1. 第1回分科会（令和2年12月27日）オンライン開催 2. 第2回分科会（令和3年3月27日）オンライン開催
今後の課題等	①イノベーションに関する科学史・技術史視点からの検討、②科学技術基本法の改正問題、③学術研究の社会的意義

史学委員会・地域研究委員会・哲学委員会・言語文学委員会合同（アジア研究・対アジア関係に関する分科会）					
委員長	川島 真	副委員長	栗田 禎子	幹事	下田 正弘、三重野 文晴
主な活動	審議内容				
	24期で準備した提言案の内容（世界およびアジアにおけるアジア研究に対応すべく、また国内のアジア事情のわかる人材の需要増に対応すべく、アジアをめぐる学知に携わる研究者育成、アジアの現地社会との研究ネットワークの構築の重要性を提言）をさらに深めると共に、わが国におけるアジア研究の発展のあり方全体を展望する議論を進め、具体的発信を行う必要性を確認し、審議を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記の審議内容に関しその成果を発信すべく、何らかの形で意思表出の可能性を検討中である。				
	開催シンポジウム等				
	令和3年（2021）年9月18日（土）に公開シンポジウム「歴史認識と植民地責任」をオンラインで開催予定である。				
開催状況	1. 第1回分科会（令和3年1月19日）オンライン開催 2. 第2回分科会（令和3年9月3日）オンライン開催の予定				
今後の課題等	歴史学・地域研究・哲学・言語文学という異なるディシプリンの協働に基づく本分科会は、25期において、24期で準備した提言（案）の内容（上記）を踏まえ、新たな提言書を作成することが主たる課題である。多極化する現代の世界にあってアジア地域が持つ政治的・経済的・文化的重要性が増大しつつあり、またわが国がアジアとの関わりを深め、多くのアジア系移民を受け入れる中でアジア人材を広く育成することは急務である。しかし、従来の学術・研究体制がともすれば近代以降の欧米発の学知の吸収・発展を主とした制度的枠組みに基づいていることなど直面する課題は山積しており、分野横断的・学際的視点という特性を有する本分科会の果たすべき責務は重いと考えている。				

史学委員会（文化財の保護と活用に関する分科会）					
委員長	福永 伸哉	副委員長	芳賀 満	幹事	菊地 芳朗、松本 直子
主な活動	審議内容				

	平成 31 年 4 月施行の改正文化財保護法が文化財保護行政の体制や実務に及ぼす正負の影響、さまざまな災害が頻発する中で文化財防災・減災を図るための効果的な方策、文化財保護の次世代を担う人材育成等をおもな検討課題とし、各地の状況分析を踏まえて文化財保護の望ましい方策を審議。
	意思の表出（※見込み含む）
	文化財保護の将来像を見据えた必要かつ効果的な取組について提言を予定。
	開催シンポジウム等
	コロナウィルスの感染拡大で見通せないところもあるが、日本考古学協会等と協力して、期内に上述審議内容に関わる公開セッションの開催を検討中。
開催状況	1. 第 1 回分科会（令和 3 年 1 月 26 日）オンライン開催 2. 第 2 回分科会（令和 3 年 3 月 31 日）オンライン開催
今後の課題等	文化財保護法が大きく改正され、わが国の文化財保護政策は新たな局面を迎えている。全国の事例を持ち寄って検討すべき事柄は多いが、コロナ・予算逼迫により対面開催が制約されて審議効率が低下しており、苦慮しているところである。

史学委員会（歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会）					
委員長	若尾 政希	副委員長	大友 一雄	幹事	奥村 弘、柳原 敏明
主な活動	審議内容				
	本分科会は、古文書などの歴史資料と、将来の歴史資料となる現用文書（公文書・私文書を含む）について、その保存・公開・管理の在り方を検討している。また、日本歴史学協会と連携して、公開シンポジウムを開催した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	1. 提言の発出 2. 公開シンポジウムの開催				
	開催シンポジウム等				
	1. 公開シンポジウム「続発する大災害から史料を守る－現状と課題－」（令和 2 年 12 月 19 日、日本歴史学協会共催、オンライン開催） 2. 公開シンポジウム「東日本大震災 10 年と史料保存－その取組と未来への継承－」（令和 3 年 6 月 26 日、日本歴史学協会共催、オンライン開催）				
開催状況	1. 第 1 回分科会（令和 2 年 12 月 19 日）オンライン開催 2. 第 2 回分科会（令和 3 年 3 月 13 日）オンライン開催 3. 第 3 回分科会（令和 3 年 6 月 26 日）オンライン開催				
今後の課題等	第 25 期の本分科会の重点課題は、1. アーカイブズ制度の改善に向けて、2. 私文書の保存・管理をめぐる、3. 被災資料の救済・保全をめぐる、4. 日本学術会議資料の保存・管理・公開に関して、である。				

史学委員会（国際歴史学会議等分科会）					
委員長	吉澤 誠一	副委員長	小関 隆	幹事	小田中 直樹、浅田 進史

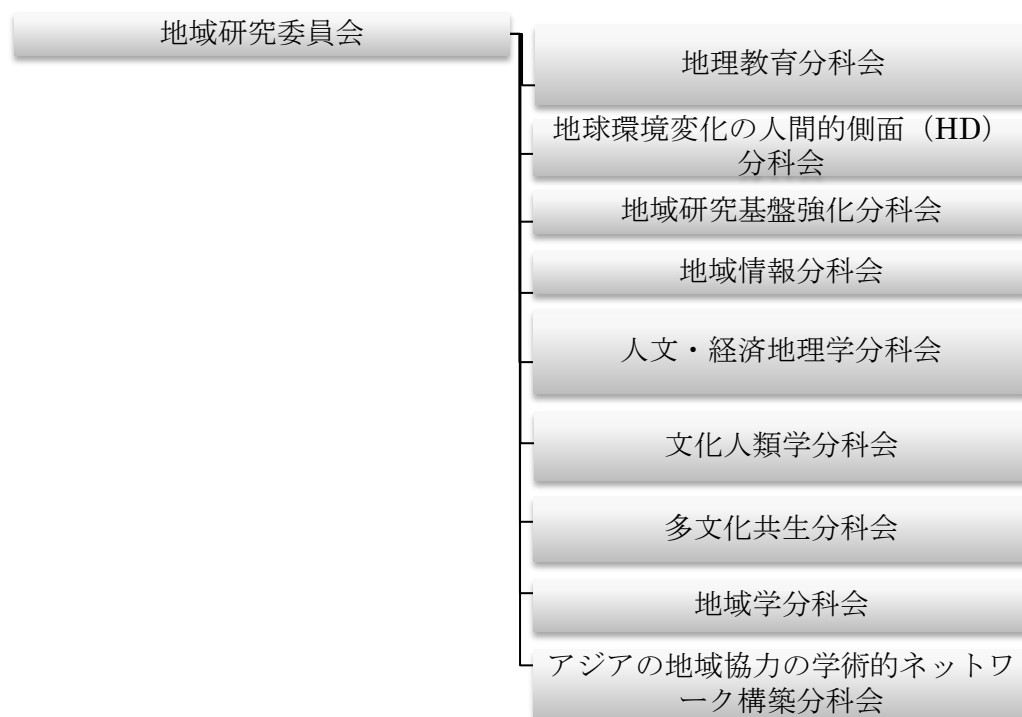
	郎				
主な活動	審議内容				
	分科会委員の改選もふまえ、国際歴史学会議（CISH）の国内委員会として必要な対応をとることができるように、これまでの経緯を確認し、今後めざす方向性について審議した。また日韓歴史家会議についても現状と今後の課題を確認した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回分科会（令和3年1月11日）オンライン開催				
今後の課題等	新型コロナウイルス感染拡大のため延期されている第23回国際歴史学会議大会（ポーランド共和国ポズナン）の成功に努めるとともに、国際的な歴史学の動向に対し我が国の歴史学界がとるべき対応について検討していきたい。				

史学委員会（歴史認識・歴史教育に関する分科会）					
委員長	栗田 禎子	副委員長	久留島 典子	幹事	鈴木 茂、中村 元哉
主な活動	審議内容				
	24期に取り組んだ教科書の制度をめぐる検討（その成果は「記録」としてとりまとめた）等の活動を継承すると同時に、25期ではグローバル化・複雑化する現代の世界と日本における歴史認識の形成過程や歴史教育のあり方自体についての議論を深める必要があることを確認し、審議を開始している。また、現在日本学術会議が直面する最大の課題である「任命問題」自体を歴史学の立場から学問的・厳密な検討の対象とすることは歴史認識に関わる重要テーマであると考え、この問題に関しても参考人を招致して審議を行なった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現代の日本社会における歴史認識の形成と歴史教育のあり方に関する審議を進めており、提言等の形で意思の表出を行なうことも検討している。				
	開催シンポジウム等				
	上記の意思の表出に向かう予備的作業として、関連テーマに関するシンポジウムの開催可能性を検討中である。				
開催状況	第1回分科会（令和3年1月11日）オンライン開催 第2回分科会（令和3年3月10日）オンライン開催				
今後の課題等	25期は従来取り組んできた教科書の制度をめぐる議論に加え、現在の日本社会における歴史認識・歴史教育の現状を総検討し、問題点を洗い出すと共に、今後のあ				

	り方をめぐる議論を喚起し、社会に発信していくことをめざしている。
--	----------------------------------

史学委員会（歴史学とジェンダーに関する分科会）					
委員長	長志 珠絵	副委員長	小浜 正子	幹事	高橋 裕子、來田 享子
主な活動	審議内容				
	第 25 期では、市民教育におけるジェンダー史分野の貢献を中心課題として、博物館・アーカイブズに着目して議論を深めることにした。第 2 回分科会では、参考人横山百合子氏（（国立歴史民俗博物館名誉教授）を招聘し、「博物館と市民-国立歴史民俗博物館企画展示-性差(ジェンダー)の日本史」の反響から一」という報告をいただいたき、議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	次年度に、オンラインを活用した、海外招聘者を含む公開シンポジウムの開催を検討している。				
開催状況	第 1 回分科会（令和 3 年 1 月 25 日）オンライン開催 第 2 回分科会（令和 3 年 6 月 4 日（オンライン開催				
今後の課題等	第 24 期における課題を踏まえ、第 25 期の活動方針として、市民教育におけるジェンダー史分野の貢献を中心課題として、博物館・アーカイブズに着目することにした。				

⑥地域研究委員会



地域研究委員会					
委員長	小長谷 有紀	副委員長	松原 宏	幹事	高倉 浩樹、宇山 智彦
主な活動	審議内容				
	委員会の側から重点課題を設けるのではなく、諸分科会の活力を引き出し恒常的に連携させることによって、議論の深化と効果の最大化をはかることとした。具体的には、まず各分科会の諸活動について報告し、分科会間で情報を共有した。その結果、とりわけ中等教育について連携すべきこと、専門的な人材育成については他委員会と連携できることなどが確認された。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	委員会単位での意思の表出は予定していない。				
	開催シンポジウム等				
	地域研究委員会の諸分科会に共通する課題として「SDGs」あるいは「人材育成」を取り上げて、合同シンポジウムを企画する。				
開催状況	令和2年10月2日第1回会合で活動方針を決定した。 令和3年4月21日第2回会合で諸分科会の活動について情報交換し、関連諸機関・諸分野との連携や社会的課題への取り組みについて問題意識を共有した。				
今後の課題等	人材育成に的を絞って第25期中に他の委員会および他の分科会と連携してシンポジウムを行い、広く提案する。				

地域研究委員会・地球惑星委員会（地理教育分科会）					
委員長	井田 仁康	副委員長	村山 朝子	幹事	久保 純子、橋本 雄一
主な活動	審議内容				
	・地理教育分科会は37名から構成されるが、学校地理教育、自然地理学・環境防災教育、大学地理教育小委員会、地誌・国際理解教育小委員会、地図/GIS教育小委員会の5つの小委員会に分け、1)「地理総合」の定着を図ることの支援 2) 小学校地理教育の課題への取り組み 3) 大学での地理教育（教職を含む）の検討。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	地理教育の定着に関する小学校から大学までの一貫した提言をすることを目標とする。2022年春にシンポ、2023年9月を目標に提言の発出。				
	開催シンポジウム等				
	24期の提言のフォローアップのための2021年3月28日（日）に公開シンポジウム「新しい地理教育のスタートに向けて」を日本地理学会との共催としオンラインで実施した。参加者は350名。				
開催状況	第1回2020年12月21日、第2回2021年5月23日、第3回2021年9月12日予定。いずれもオンライン。				
今後の課題等	地理教育の柱となる地誌や環境防災教育、地図について、分野をこえた教育としての連携の在り方の構築。				

地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 （地球環境変化の人的側面（HD）分科会）					
委員長	近藤 昭彦	副委員長	氷見山 幸夫	幹事	竹中 千里、山下 潤
主な活動	審議内容				
	Future Earth の前身の一つである IHDP（地球環境変化の人的側面国際研究計画）の理念を継ぎ、地球環境を自然だけでなく人的側面も加えて総合的・俯瞰的観点から理解し、課題解決を目指す取り組み等について審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	2021年度はなし。				
	開催シンポジウム等				
	2021年3月24日公開シンポジウム「コロナ禍が加速する持続可能な社会の実現に向けた地球環境変化の人的側面の推進」開催（オンライン、登録者72名）				
開催状況	第1回2020年12月3日、第2回2021年3月18日、第3回2021年6月25日				
今後の課題等	地球環境変化の人的側面の理解は、様々な環境問題を人間の視座から俯瞰することであり、問題の総合的かつ実質的な理解と解決（諒解）につながる。引き続き議論を重ね、最終的には社会に向けた意思の表出を目指している。				

地域研究委員会（地域研究基盤強化分科会）					
委員長	小長谷 有紀	副委員長	宇山 智彦	幹事	川島 真、森本 泉
主な活動	審議内容				
	昨期に本分科会より発出した提言「不透明化する世界と地域研究の推進」への諸方面からの反響を踏まえ、提言内容の実現に向けて、関係諸機関の関係者を招いてヒアリングを行い、人材育成などについて具体的な連携方策を模索した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期は具体的な連携を実践することにより、地域研究の社会的意義を示し、意思表出に代えたい。				
	開催シンポジウム等				
	地域研究の他の分科会と「人材育成」などの共通のテーマを掲げて企画したい。				
開催状況	令和2年12月19日第1回会合で活動方針を決定。 令和3年2月19日第2回会合でJETRO・アジア経済研究所との連携活動を検討。 令和3年9月9日第3回会合でJICAとの連携活動を検討。				
今後の課題等	人材育成に的を絞って第25期中に具体的な連携方策を実施する。 同テーマで他の分科会と連携してシンポジウムを行い、広く提案する。				

地域研究委員会（地域情報分科会）					
委員長	矢野 桂司	副委員長	貴志 俊彦	幹事	石川 徹、中谷 友樹
主な活動	審議内容				
	・地域情報分科会（19名）は、国内外の多様な地域情報の分析に基づく、社会に向けた適切な情報発信のあり方に係る審議を行う。地球惑星科学委員会 IGU 分科会地名小委員会と連携して、地名に関するシンポジウム開催や提言の発出を目指す。前期同様、学術の大型研究計画に関するマスタープランの提案を計画する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	地名標準化に関する提言などの発出を目標とする。現時点では確定していないが、他の分科会や小委員会との連携も想定して、地域情報や地名に関わるシンポジウムの開催などを検討する。				
	開催シンポジウム等				
	現時点では予定はない。				
開催状況	第1回2021年1月25日、第2回2021年5月14日、第3回2021年10月予定				
今後の課題等	地域情報を社会基盤として位置付け、（テクノロジー、使い方、文化、組織や社会の変化、市民）を促す。他の関連する分科会などとの連携を強化する。				

地域研究委員会（人文・経済地理学分科会）					
委員長	松原 宏	副委員長	山本 佳世子	幹事	近藤 章夫、中澤 高志

主な活動	審議内容
	第1回分科会では、役員を選出し、第24期の活動報告と第25期の活動計画について審議した。その上で、ウィズ・コロナの下での地域政策に関する論点の整理を行った。また、本分科会の下に、観光小委員会が設置された。
	意思の表出（※見込み含む）
	ウィズ・コロナの下での国土構造や産業立地、観光のあり方について、意思の表出を行う予定である。
	開催シンポジウム等
開催状況	令和3年2月8日※ビデオ会議
今後の課題等	新型コロナウイルスの感染拡大が進行中のため、分科会やシンポジウムの開催時期の設定が難しいが、検証すべき課題は山積してきている。感染症に関する地理学からの分析と政策に対する検証を行い、今後の国土や都市のあり方、地域政策の方向性について、シンポジウム等を開催し、意思の表出をしていく。

地域研究委員会（文化人類学分科会）					
委員長	高倉 浩樹	副委員長	三尾 裕子	幹事	伊藤 泰信、湖中 真哉
主な活動	審議内容				
	・文化人類学に基づく政策提言可能領域について検討し、サブグループとして a) 地理総合、b) 医療者教育、c) 文化遺産を選定した。サブグループ幹事及びメンバーを選出し、活動方針を検討。特に実務者との交流、社会発信を重視。 ・土橋康（文化庁係長）、小島孝夫（成城大学教授）を講師に招いて、文化遺産保護法平成30年度改正のポイントと文化人類学との関係について意見交換。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・公開シンポジウム企画とそれに係わる『学術の動向』への投稿を企画する。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「With コロナの時代に考える人間のくちがい」と差別：人類学からの提言（令和2年10月11日・オンライン開催、地域研究委員会多文化共生分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会との共催）				
開催状況	1回（令和2年10月8日）、2回（令和3年3月5日）、3回（令和3年7月12日）				
今後の課題等	実務者や関連する他の分科会との交流を活発化し、提言執筆の実現度を上げる。				

地域研究委員会（多文化共生分科会）					
委員長	竹沢 泰子	副委員長	岩間 暁子	幹事	吉村 真子、三尾 裕子

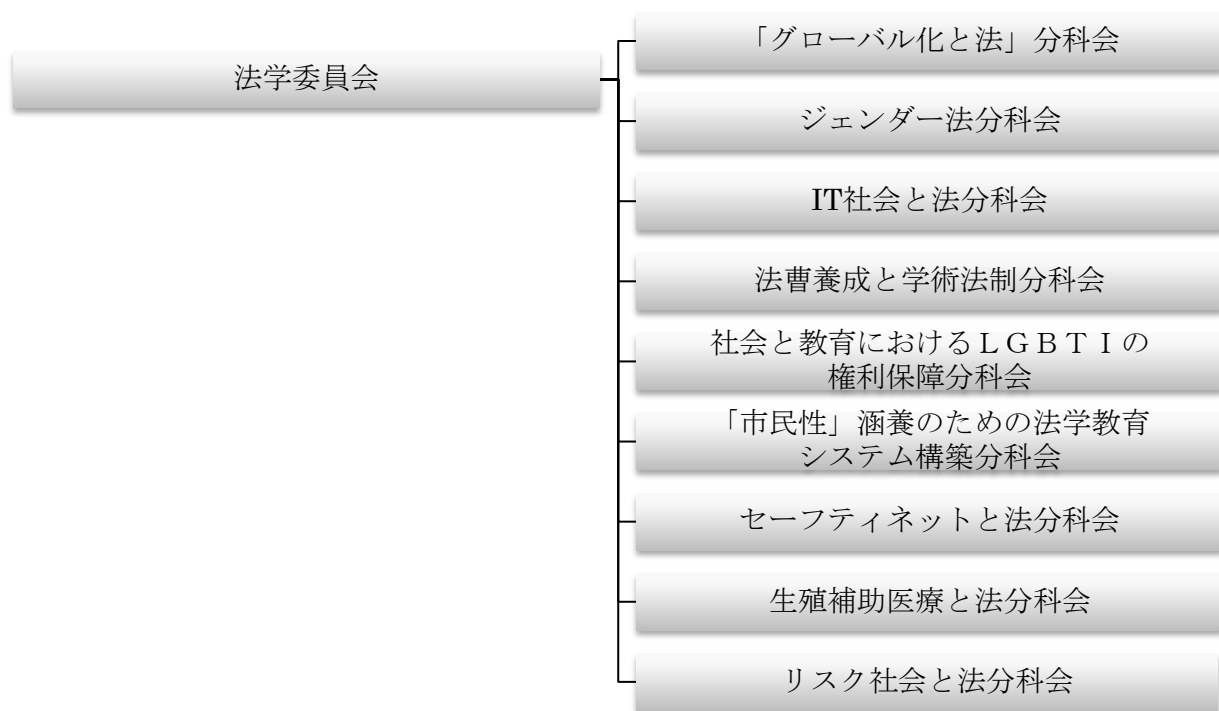
主な活動	審議内容
	日本の人種差別について、関係する国際条約や国際規約と照らし合わせながら、日本社会の問題点を洗い出し、多文化共生の実現に向けての課題を検討する。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	「With コロナの時代の人間の「ちがひ」と差別」（2020 年 10 月 11 日オンライン開催）文化人類学文化会・自然人類学分会と共催
開催状況	第 1 回 2020 年 10 月 31 日 第 2 回 2021 年 2 月 26 日 第 3 回 2021 年 5 月 22 日 第 4 回予定 2021 年 8 月 21 日
今後の課題等	上記の審議を重ね、多文化共生の根源的理念は何か、それに近づくために日本社会は何が課題かを検討する。

地域研究委員会（地域学分科会）					
委員長	宮町 良広	副委員長	田原 裕子	幹事	井口 梓、小林 知
主な活動	審議内容				
	第 1 回分科会では、委員長・副委員長・幹事を選出した後、第 24 期活動の 総括と第 25 期活動計画について審議した。特任連携会員 1 名を選出した。第 2 回分科会では、連携会員 2 名による報告をもとに、市民の地域学およびワーケーション事業の実践と課題について審議した。第 3 回分科会では、連携会員 2 名と特任連携会員 1 名による報告をもとに、地方創生と地域学、原発災害地域における「ふるさと創造学」等について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	地域振興や地域志向人材の養成について議論を進める中で意思の表出を準備する。				
	開催シンポジウム等				
	今期中に公開シンポジウムを開催する予定。				
開催状況	令和 3 年 2 月 24 日、7 月 11 日、9 月 25 日				
今後の課題等	広義の地域学を想定した Good Practice を幅広く収集し、出版物などの形で社会に公表する予定。				

地域研究委員会（アジアの地域協力と学術ネットワーク構築分科会）					
委員長	羽場 久美子	副委員長	我部 政明	幹事	貴志 俊彦、三重野 文晴
主な活動	審議内容				
	この1年は丁度期をまたぐ形で、2020年9月には『学術の動向』に「特集：アジア近隣諸国との対立をこえてー学術ネットワークの構築」 http://jssf86.org/doukou294.html を前年シンポジウムの成果として出すことができた。また2020年12月には、日本学術会議主催、京都大学・青山学院大学共催で「世界戦争100年と地域統合、新国際秩序をどう作るか」のProceedingsのワーキングペーパーを発行し（注1）オンライン国際会議を開催、3日間で、日亜・欧・米から、1日300人余の参加者を得ることができた。 http://www.scj.go.jp/ja/event/2020/299-s-1203-04-08.html その後、米欧亜の時差により聞けなかった研究者に提供する目的でセッションを1か月程度オープンにした結果、延べ人数1000人以上が国際シンポを視聴して頂き、例年にない成功を収めることができた。2021年2月に引き続きシンポジウムを7月に計画していたもののこれは関係者の病気やコロナの広がりにより延期することになったが、既に令和2年12月に国際会議、令和3年2月に第1回会合、令和3年9月に第2回会合、令和3年12月にオンラインシンポジウムを開催予定にしている。1年間という枠組みの中では充実した活動を行うことができたと考えている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	まずは2020年9月に『学術の動向』に「特集：アジア近隣諸国との対立をこえてー学術ネットワークの構築」を上梓できたことを評価したい。また同年12月に国際会議を開催し、オンラインとYoutubeで発信し、Springerという大手出版社で書籍化する方向を取れたことも重要である。今後の活動を、提言とするか、それともより社会に影響力のある形で、新書や書籍を執筆するかは、現在後者に傾いているものの、政府と国民双方に対して、「アジアの地域協力と学術ネットワーク構築」の重要性を継続的に訴えていきたい。まずは2022年の学術の動向・特集への投稿や書籍化、あわせて提言ないし報告をも視野に入れ、意思の表出を行っていくこととしたい。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	2020年12月にかなり大掛かりな形で、日本学術会議主催・京都大学・青山学院大学共催、朝日新聞社講演、政府観光局（JNTO）スポンサー、さらに世界国際関係史学会（CHIR）とも組んで、米欧アジア日本で「世界戦争100年と地域統合、新国際秩序をどう作るか」を実現できたことは学術会議の皆様、分科会構成員の皆様のおかげであり大きな成果である。心より感謝する。その成果は、Springer出版から2022年には書籍として刊行される。合わせて12月の会合も、まずは学術の動向、次いで書籍及び低減化報告のような形で活字として発信していく予定である。				
開催状況	25期に入り、令和2年12月に3日間にわたるシンポジウム、令和3年2月に第1回会合、令和3年7月の会合は延期されたものの、9月に第2回会合、12月に第				

	3 回会合と、国際・国内シンポジウムを開催予定である。構成員の member は皆様大変忙しいにもかかわらず現在の緊張した近隣諸国関係の中で、学術のレベルからどう協力関係を作り、ネットワークと共同研究の土台を構築していくかについて、一人一人が強い問題関心を持って取り組んでこられており、着実な成果につながっていきたい。
今後の課題等	今期の滑り出しとしては、member の方々すべてお忙しい中、積極的に研究会及びシンポジウムに取り組んでこられ、感謝している。24 期に続き、シンポジウム、学術の動向への発出、書籍（日本語・英語含め）による発出、その結果としての近隣諸国との学術共同の推進に、学術会議の方々の御協力、諸先生方のご尽力に感謝しつつ、今期も力を注いでいきたい。3 年間の活動の中で、24 期に続き、シンポジウム複数回の開催、学術の動向複数回の執筆、新書や学術書など合わせての執筆、広く国民と連携しての学術会議活動などを積極的に推進していきたいと考えている。24 期の構成員、日中韓沖縄 EU 国際法に加えて、今期は東南アジア（経済）、モンゴル（文化人類学）の優れた研究者が新たに加わって下さったことで、さらなる学際的な活動の深化と拡大を目指していきたい。

⑦法学委員会



法学委員会					
委員長	和田 肇	副委員長	川嶋 四郎	幹事	高山 加奈子、山田 八千子
主な活動	審議内容				
	分科会の設置と提言等の意見表明のあり方 会員任命拒否を受けた法学委員会の対応 任命拒否の法的問題についての分析				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現在までのところ無し				
	開催シンポジウム等				
	☆ジェンダー法分科会、科学者委員会男女共同参画分科会等との共催 公開シンポジウム「同姓/別姓を選ぶ権利～市民との対話から～」 2021年4月17日（土）13:00～17:00 http://www.scj.go.jp/ja/event/2021/308-s-0417.html ☆ジェンダー法分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会共催 公開シンポジウム「日本の刑法性犯罪規定を国際人権基準に合わせるために 日本学術会議提言から法務省検討会報告を検討する～」 2021年7月30日（金） 17:00～19:30 Hyyp://www/scj.go.jp/ja/event/2021/313-s-0730.html				

開催状況	2020 年 10 月 2 日・対面とオンライン 2021 年 4 月 21 日・対面とオンライン
今後の課題等	法学委員会の各分科会では、これまでも活発な検討会が実施され、重要な提言がいくつか出された（第 24 期で 2 本）。ただ分科会によって活動にばらつきがあり、その反省も踏まえて、「学術と社会との連携の強化」をめざし、今期ではこれらの活動を積極的に展開していきたいと考えている。

法学委員会（「グローバル化と法」分科会）					
委員長	高山 佳奈子	副委員長	阿部 克則	幹事	
主な活動	審議内容				
	前期までは法制度の諸側面でグローバル化がもたらす課題への対策を幅広く議論してきたが、法科大学院制度の変遷をふまえ、今期は特に、国際的に活躍できる人材育成のための法学教育の制度と内容とにつき具体的な政策提言を目指す。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期中に分科会として初めて「提言」を発出する方針を立てたが、その後、幹事会において意思表出の形式が見直されつつあるので、従前の形式にはこだわらない。				
	開催シンポジウム等				
	今期は開催実績・予定いずれもない。本分科会は第 20 期と第 21 期に 1 回ずつ公開シンポジウムを開催しており、今期は公式文書による発信を予定する。				
開催状況	令和 3 年 1 月 20 日に第 1 回、令和 3 年 3 月 5 日に第 2 回分科会をいずれも Zoom を利用したオンライン方式で開催した。				
今後の課題等					

法学委員会（ジェンダー法分科会）					
委員長	南野 佳代	副委員長	武田 万里子	幹事	内藤 忍、立石 直子
主な活動	審議内容				
	第 1 回審議（1 月 22 日）において確認された重点課題 「ハラスメント問題に係る提言」の作成と市民社会との対話のためのシンポジウム開催および提言公表後の普及活動。 別姓制度にかんする市民との対話を行う緊急シンポジウム開催 ジェンダー法分科会審議第 25 期第二回分科会（2021 年 4 月 17 日 10:00—12:00） 以下の活動について審議決定 公開シンポジウム（6—7 月）刑法性犯罪規定改正にかかる検討状況について 公開シンポジウム（10—11 月）政治の分野における男女共同参画推進について				
	意思の表出（※見込み含む）				

	開催シンポジウム等
	4月17日（土）13:00-17:00 オンライン開催 「同姓/別姓を選ぶ権利～市民と学術の対話から～」 7月30日（金）17:00-19:50 オンライン開催 「日本の刑法性犯罪規定を国際人権基準に合わせるために —日本学術会議提言から法務省検討会報告を検討する—」
開催状況	第1回審議（1月22日）オンライン開催 第2回審議（4月17日）オンライン開催
今後の課題等	ハラスメントにかかる提言を今期作成することを課題とすることが第1回審議で確認された。しかし、提言等のあり方について見直しが行われる予定とのことであるため、意思の発出方法の見直しも視野に入れて、活動を進める。

法学委員会（IT社会と法分科会）					
委員長	川嶋 四郎	副委員長	林 秀弥	幹事	木下 麻奈子、川和 功子
主な活動	審議内容				
	本分科会では、IT利用者の安全なアクセス、利用の保護とプラットフォーム事業者の責任等について、「IT社会における利用者とアクセス」を基軸として、様々な角度から検討している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言をも視野に入れつつ、シンポジウムや論文公表等、多様なかたちでの意思の表出を企図している。				
	開催シンポジウム等				
	提言等、意思の表出の前には、公開シンポジウムの企画を予定している。				
開催状況	第1回を2021年1月18日（月）、に、第2回を2021年3月27日（土）に、それぞれオンライン開催した。第3回を、2021年9月24日（金）に開催予定である。				
今後の課題等	本分科会では、「誰一人取り残さないIT社会の実現」を目的として、「利用者とそのアクセス」を一つの重要課題として検討して行きたい。				

法学委員会（法曹養成と学術法制分科会）					
委員長	山田 八千子	副委員長	中山 竜一	幹事	石田 京子、松尾 陽
主な活動	審議内容				
	1 法曹養成における法学部教育と法科大学院教育				
	2 法学系研究者養成				
	3 人文・社会科学を含む学術の振興における法学の役割				
	4 上記の課題に関する学術法制のあり方				
	意思の表出（※見込み含む）				

	提言を予定していたが分科会からの提言という形式が廃止される見込みという 8 月 10 日開催第 1 部会部長からの説明を受け今後検討する見込み。
	開催シンポジウム等
	開催したシンポジウムはないが、法学委員会と共催でシンポジウムを開催する予定（法学委員会にて承認済み）。
開催状況	第 1 回（2021 年 1 月 25 日）、第 2 回（2021 年 3 月 22 日）第 3 回（2021 年 7 月 26 日）を開催し、本年度中に第 4 回を開催見込みで調整中。
今後の課題等	今期の開始に際し、本分科会は、以下のような指針で分科会を開催しており、今後も進めていく予定である。近時の法学教育改革すなわち法科大学院課程に在学する一定の者に司法試験受験資格を付与する、および、法科大学院教育と円滑な連携・接続を図るための課程を法学部に創設する等の重大な制度改革について、加え、当該制度改革が大学における教養教育と専門知のあり方に与える影響も踏まえた上での法学教育改革に関わる人文・社会科学を含む学術の振興に関わる学術法制について、基礎法学研究者を中心にして、学協会を超える形の検討をおこなう。当該制度改革は、法学部には 2020 年度から導入され、2023 年度から全ての過程を終了し（法科大学院在学受験）本格的に実施される。制度導入の過程を担当に追うと共に、本分科会独自の分析視点やモデルを構成するための作業も同時におこなう予定である。

法学委員会（社会と教育における LGBTI の権利保障分科会）					
委員長	南野 佳代	副委員長	三成 美保	幹事	谷口 洋幸、星乃 治彦
主な活動	審議内容				
	第 1 回審議（1 月 21 日）において確認された重点課題 性別記載とジェンダー統計にかかわる課題について、提言作成、普及活動を行う。 第 2 回審議（3 月 29 日）において確認された重点課題 上記に加えて、分担を決めて研究することが承認された課題 インターセックスに関すること 多様な関係性について 差別禁止法制定にむけて ・緊急の課題として、24 期の提言へのリアクションへの対応の一部として、TERF 問題について勉強会を行う。⇒9 月 12 日第 3 回分科会にて講師を招き審議する。 ・市民との対話の機会としてシンポジウムを開催し、それを踏まえて提言をまとめていく。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	性別記載とジェンダー統計について				
	開催シンポジウム等				

	未定
開催状況	第1回審議（1月21日）オンライン開催 第2回審議（3月29日）オンライン開催 第3回審議（9月12日）予定、オンライン開催
今後の課題等	性別記載とジェンダー統計にかかわる課題について、提言作成、普及活動を行う。 インターセックスに関すること、多様な関係性の尊重について、包括的差別禁止法について勉強会を行い、意思の表出等を検討する。

法学委員会（「市民性」涵養のための法学教育システム構築分科会）					
委員長	三成 賢次	副委員長	松本 尚子	幹事	長谷河 亜希子
主な活動	審議内容				
	これまでの活動をふり振り返り今期の活動計画について審議し、課題と検討体制について確認を行いつつ、まずネットを活用した新たな法学教育の可能性について検討した。また、分科会において総合的な視点を共有するため、わが国の科学技術政策の新たな展開のもとでの社会科学と法学研究の課題について審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回（令和3年2月4日）、第2回（令和3年3月17日）、第3回（令和3年7月9日）。いずれもオンラインで実施。				
今後の課題等	わが国の新たな科学技術政策の展開と学術会議に対する社会からの要請等を踏まえつつ、本分科会の課題を着実に進め、シンポジウムの開催や提言の発表に繋げていく。				

法学委員会（セーフティネットと法分科会）					
委員長	和田 肇	副委員長	廣瀬 真理子	幹事	丸谷 浩介、豊島 明子、橋本 祐子
主な活動	審議内容				
	コロナ（COVID-19）禍の雇用・社会保険・生活への影響に対応するセーフティネット再構築の課題についての分析				
	意思の表出（※見込み含む）				

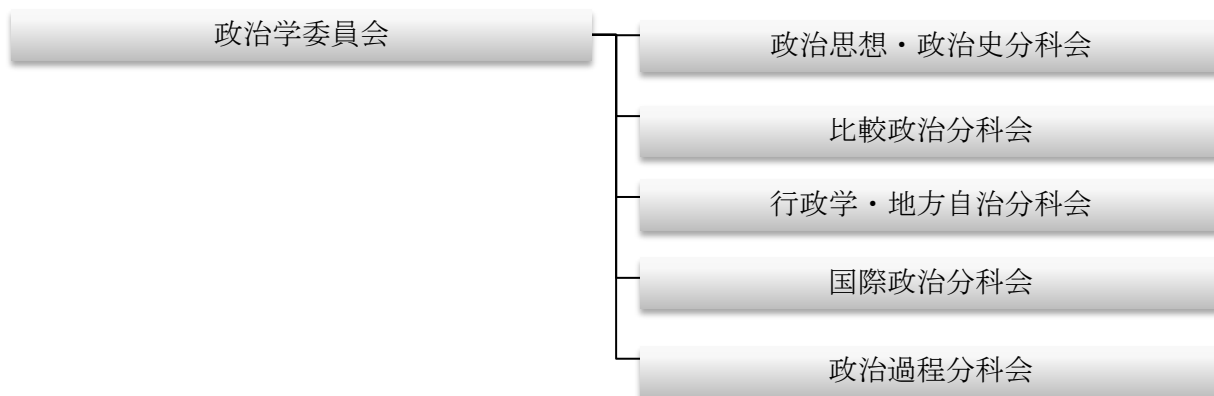
	「コロナ禍と法」(仮)について、法思想、憲法、行政法・学、医事法分野の分析を雑誌に掲載する作業を準備中
	開催シンポジウム等
	現在まで無し
開催状況	第1回 2021年1月6日オンライン／第2回 2021年年3月8日オンライン／第3回 2021年8月4日オンライン／第4回 2021年9月2日(予定) オンライン
今後の課題等	法学関係のほぼ全分野・社会福祉分野と委員の幅が広いため、いくつかのテーマ(非正規雇用、フリーランス、法制度等)に絞って逐次意見表明をしていきたいと考えている。

法学委員会(生殖補助医療と法分科会)					
委員長	水野 紀子	副委員長	建石 真公子	幹事	西希 代子
主な活動	審議内容 2020年に制定された「生殖補助医療の提供等及びこれにより出生した子の親子関係に関する民法の特例に関する法」の内容を含む生殖補助医療と親子関係法、旧優生保護法下における強制不妊手術、着床前診断・出生前診断の拡大、生殖子の凍結保存がもたらす社会問題等について、広く議論した。 意思の表出(※見込み含む) すでに今期のロードマップが完成しており、今後、それに基づいて着実に議論を深めていく。 開催シンポジウム等 生殖補助医療は、専門家ではない一般国民にとっても身近な話題であると同時に、国民の意識と乖離した立法が意味をもたない分野である。そのため、国民との直接的な対話は、本分科会の審議においても貴重な機会となる。予算等が許せば、シンポジウム等の開催を考える。				
開催状況	2021年1月11日18:00～19:25(オンライン)、2021年3月26日10:00～12:00(オンライン)、2021年6月2日16:00～18:00(オンライン)				
今後の課題等	25期の会期末である3年後をめどに、審議の成果を「提言」等の形で公表する。価値観の対立が激しい領域であるため、分科会として統一的な見解を打ち出すことが難しい場合には、論点整理及びその学術的観点からの分析・検討結果を示す。				

法学委員会(リスク社会と法分科会)					
委員長	大塚 直	副委員長	窪田 充見	幹事	高村 学人、林 秀弥
主な活動	審議内容				

	第 2 回委員会で、まず、法哲学の分野から、リスクについて法的にどのような考え方があるかを検討した。中山竜一教授（大阪大学大学院法学研究科教授）から『リスク社会と法』をめぐる論点の整理について報告があり、それを受けて討論した。 第 3 回委員会で大塚直教授（早稲田大学法学学術院教授）から「予防原則とその民事訴訟における適用可能性」の報告があり、それを受けて質疑応答がおこなわれた。
	意思の表出（※見込み含む）
	初年度であり、まだ議論が熟してはいないが、最終的には何らかの提言に結び付けたい。
	開催シンポジウム等
	当面シンポジウムを開ける状況にはないが、研究の全体像が見えたところでワークショップをしたいと考えている。
開催状況	第 2 回 2021 年 3 月 8 日（月） 第 3 回 2021 年 7 月 25 日（日）
今後の課題等	「3 年間の活動方針」として、今後、自動運転、医療・環境、AI、プラットフォーム、原発など現在生起し又はしつつあるリスクに対し、民事法（不法行為法、差止法）、行政法、刑事法等種々の分野を対象として、どのようにその抑止と受容がなされているか、また、なされるべきかを考察し、最終的には何らかの提言に結ぶ付けたい。

⑧政治学委員会



政治学委員会					
委員長	荻部 直	副委員長	眞柄 秀子	幹事	大山 耕輔、鈴木 基史
主な活動	審議内容				
	今期の全体にわたる重点課題として、①高校科目「公共」のためのアクティブ・ラーニング、②新型コロナウイルス対策の政策形成過程における政治家と専門家との関係、について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現在のところは未定。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	各分科会と連携しながら、上記の課題②について、公開シンポジウムの開催を検討している。				
	令和2年10月3日、令和3年7月21日にオンラインで会合を開いた。				
今後の課題等	上記の課題①②について、複数の分科会どうしの意見交換・シンポジウムの共同開催など、従来の専門の枠をこえた形で進めてゆくことを考えている。				

政治学委員会（政治思想・政治史分科会）					
委員長	早川 誠	副委員長	田村 哲樹	幹事	中田 喜万
主な活動	審議内容				
	分科会を1回開催し、公開シンポジウムの開催にむけて議論するとともに、今後の活動方針を検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
開催状況					

	開催シンポジウム等
開催状況	令和3年1月21日。
今後の課題等	・令和2年度については、新型コロナウイルス流行による開催態様変更の影響で、例年実施していた日本政治学会大会時の公開シンポジウムを実現できなかった。 ・今後3年間も前期までの活動を引き継ぎ、喫緊の政治課題に関するシンポジウムを開催して社会への発信活動を続けていく方針である。 ・令和3年度は、政治参加の全般的な低落傾向を受けて、非制度的政治参加に関わるテーマでのオンライン型公開シンポジウム開催を準備中である。

政治学委員会（行政学・地方自治分科会）					
委員長	北山 俊哉	副委員長	金井 利之	幹事	後 房雄、牧原 出
主な活動	審議内容				
	分科会を開催し、以降の公開シンポジウムについて議論を行い、9月に公開シンポジウムを開催することを承認した。また、政治学委員会における動向について情報交換するとともに、今後の活動方針について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
	令和3年5月22日（土）に公開シンポジウム「東日本大震災・復興の政策と行政の10年」を開催した。また、令和3年9月11日に公開シンポジウム「西多摩の広域まちづくりを考える」を開催することを予定したが、新型コロナウイルス感染症の拡大、緊急事態宣言の延長を受けて、開催を中止することとした。				
開催状況	令和3年5月23日（日）				
今後の課題等	新型コロナウイルス感染症の世界大の拡大、さまざまな天災・人災の拡大を受けて、国内外の中央地方の行政のあり方などについて、公開シンポジウムを準備し、広く社会的な貢献を行うことを課題としたい。				

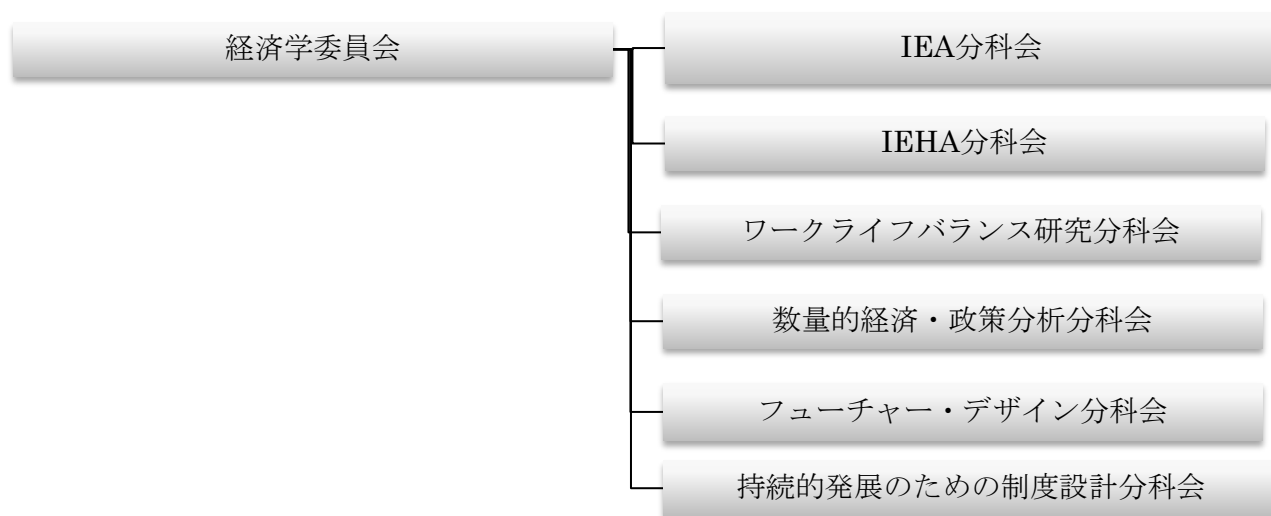
政治委員会（国際政治分科会）					
委員長	山田 高敬	副委員長	亀山 康子	幹事	石田 淳、都丸 潤子
主な活動	審議内容				

	新型コロナウイルスの影響は、国際政治にまで影響を及ぼしつつある。科学的専門知がいかに政策に反映されるかを明らかにすると同時に、あわせて政策形成についての政治学者の専門知を示すことが、本分科会の喫緊の課題と認識された。 また、このテーマでシンポを企画する方針が確認された。 また日本学術会議の改革について、学術会議の助言機能の強化、協力学術研究団体たる学協会との協力の促進、国際活動の拡充の三点について委員の間で意見交換が行われた。特に国際政治関連の学会と日本学術会議との連携の重要性が指摘された。
	意思の表出（※見込み含む）
	今、最も国民の関心を集めている新型コロナウイルスに代表される感染症の問題を取り上げ、ウェビナーを開催し、感染症からの脅威を取り除くための国際協力のあり方について問うこととする。
	開催シンポジウム等
	新型コロナウイルスの状況に鑑み、令和3年度中に、オンラインでウェビナー開催を検討中。
開催状況	分科会会合の開催：令和3年3月22日、令和3年7月29日（いずれもオンライン）
今後の課題等	今期は、感染症などに象徴される人類の生存を脅かす危機によって露呈された「国際社会の脆弱性」をテーマに、科学的専門知と乖離する国際制度のアーキテクチャの問題や先鋭化する主要国間の政治的な対立が科学的専門知の実現に及ぼす影響などについて、多角的な視点から国際政治学的な専門知を総括・評価し、それを一連のシンポジウムを通じて意欲的に国民に対して発信したいと考えている。

政治学委員会（政治過程分科会）					
委員長	谷口 尚子	副委員長	内山 融	幹事	井田 正道、中谷 美穂
主な活動	審議内容				
	今期の活動テーマを「デジタル化時代の選挙」とし、選挙に関わる制度やプロセスのデジタル化の課題や今後の方向性について、多様な主体（研究者、公職者・行政職員、技術者、メディア関係者等）間で検討・意見交換を行うことにした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記テーマ・活動を踏まえて、分科会構成員・関係者で協力して報告書を作成する予定である。				
	開催シンポジウム等				
	令和3年3月13日(土) 14:00-17:00 にオンライン・シンポジウム「デジタル化時代の選挙－電子投票の現状・課題・未来－」を開催、多くの参加者を得た。 http://www.scj.go.jp/ja/event/2021/307-s-0313.html				
開催状況	25期第1回目の分科会会合を令和2年12月22日に開催した。第2回目の分科会会合を令和3年9月25日に開催する。				

今後の課題等	コロナ等の不測の事態により、政治過程のデジタル化も求められている。今期は「デジタル化時代の選挙」に関して毎年シンポジウムを行い、期末に報告書をまとめることによって、今後の方向性を示し、社会に貢献したい。
--------	--

⑨経済学委員会



経済学委員会					
委員長	岡崎 哲二	副委員長	大垣 昌夫	幹事	黒崎 卓、西山 慶彦
主な活動	審議内容				
	第 25 期の経済学委員会は令和 2 年 10 月 3 日（第 1 回）、令和 3 年 4 月 21 日（第 2 回）、令和 3 年 6 月 22 日（第 3 回）の 3 回開催された。第 1 回の委員会では分科会の設置および各分科会の世話人を決めるとともに、マスタープランの申請を準備すること、意思表出を重視すること等を決定した。第 2 回の委員会では経済学委員会への予算配分とその各分科会への配分案について了承するとともに、マスタープラン申請の方針について意見交換を行った。第 3 回の委員会では社会学委員会のジェンダー研究分科会が主催する公開講座「コロナ禍における社会の分断：ジェンダー格差に着目して」（令和 3 年 9 月 19 日）を共催することを了承した。経済学委員会には、IEA 分科会、IEHA 分科会、持続的発展のための制度設計分科会、数量的経済・政策分析分科会、フューチャー・デザイン分科会、ワーク・ライフ・バランス分科会の 6 つの分科会が置かれており、それぞれのテーマに関する審議、公開シンポジウムの開催等の活動を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	持続的発展のための制度設計分科会等、複数の分科会で意思の表出を行うことを計画している。				
	開催シンポジウム等				
	「定量的マクロ経済学の数値計算手法と応用」（数量的経済・政策分析分科会、令和 3 年 5 月）、「フューチャー・デザイン 2022」（フューチャー・デザイン分科会、令和 4 年 1 月、予定）、「コロナ禍における社会の分断：ジェンダー格差に着目して」（社会学委員会と共催、令和 3 年 9 月、予定）				

開催状況	令和2年10月3日、令和3年4月21日、令和3年6月22日。
今後の課題等	24期からの懸案となっているマスタープランの申請を準備する。また、研究力強化委員会、人文社会科学基礎データ委員会等、関連が深い課題別委員会に経済学委員会の委員が参加しており、これらの分野横断的委員会の審議に、経済学の知見に基づいて貢献することも経済学委員会の課題である。

経済学委員会（IEA 分科会）					
委員長	大塚 啓二郎	副委員長	グレーヴァ 香子	幹事	竹内 あい
主な活動	審議内容				
	2020年夏にインドネシア（バリ島）で開催予定であったIEAのワールドコンgresは2021年7月2日～6日にオンラインで開催され、IEA分科会の竹内委員による報告も行われた。また、それに先立ち行われたCouncil Meeting（6月29日）には大塚委員長が参加し、ここでは上東教授（学術会議正会員）が正式に理事に選任された。Executive Committee Meeting（6月30日）には上東委員が参加した。また、下記でも記載したが、IEAは今後取り組むべき課題として所属団体との連携を強めることを挙げており、これをきっかけとして、さらなる交流が深まることを期待したい。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2021年3月29日（第25期第一回分科会）・2021年7月12日（第25期第二回分科会）をZoomを用いて開催した。				
今後の課題等	IEAは今後3年間でIEAが取り組むべき課題として、所属団体との連携の強化を掲げており、オンラインを利用し、所属団体との共同のイベント企画などを行っていきたいと表明した。IEA分科会も、これに協力する形でIEAのセッションなどを学会で行って貰えるように働きかけを行っていくことを今後の課題とする。				

経済学委員会（IEHA 分科会）					
委員長	岡崎 哲二	副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				
	IEHA 分科会は、経済史分野における各国・地域の学会の連合体であるInternational Economic History Association (IEHA)と日本の経済史分野の諸学会との連携を目的としている。IEHA 分科会委員では、委員長の岡崎哲二がIEHA				

	の Honorary President、委員の城山智子が IEHA の理事を務めている。2021 年の秋の IEHA 理事会に岡崎と城山が出席し、2022 年にパリで開催される世界経済史会議の準備等に関する審議に参加するとともに、その結果について IEHA 分科会で共有する予定である。
	意思の表出（※見込み含む）
	予定していない。
	開催シンポジウム等
	2022 年にパリで IEHA の主催による World Economic History Congress が開催され、日本からも多数の経済史関係の研究者が参加する予定である。
開催状況	2021 年秋の IEHA 理事会後に分科会を開催する予定である。
今後の課題等	経済史分野では、日本の研究者が、IEHA の President、Honorary President、理事を務めるなど、国際的に大きなプレゼンスを維持してきた。その背景には日本における経済史研究と人材の高度な蓄積がある。この状況を維持しさらに向上させることを目指している。

経済学委員会（ワーク・ライフ・バランス研究分科会）					
委員長	大石 亜希子	副委員長	臼井 恵美子	幹事	中村 さやか、安井 健悟
主な活動	審議内容				
	・ 今期第 1 回の分科会を開催し、委員長等の選出を行うとともに、今期の活動方針について議論し、令和 3 年度中にシンポジウムを開催する方向で委員が進めている複数の研究成果報告も含めて行うこととした。 ・ 委員からの研究報告をもとにワークライフバランスの規範行動経済学側面について議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和 3 年 2 月 2 日（火）にビデオ会議で分科会を開催した。				
今後の課題等	コロナ禍の中で働き方も大きく変化しつつあるが、本分科会ではコロナ関連に限定せずに、ワークライフバランスに関連する広範な内容での提言を 25 期中に発出する予定である。				

経済学委員会（数量的経済・政策分科会）					
委員長	福重 元嗣	副委員長	宇南山 卓	幹事	小原 美紀・高槻 泰郎
主な活動	審議内容				
	第 25 期分科会委員の承認 日本経済学会（春季大会）でのチュートリアルセッション開催について 日本経済学会等における啓蒙活動に関する形式等について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	Covid-19 関連の政策に関するものを含め、意思の表出が行えるように検討中				
	開催シンポジウム等				
	オンラインで開催された、2021 年度春季大会において、5 月 15 日に、チュートリアル・セッション『定量的マクロ経済学の数値計算手法と応用』を開催した。オンラインで、開催時間による変動はあるが、参加者は 100 名を超え、盛況であった。				
開催状況	令和 2 年 12 月 28 日（月）13：00-14：00 第 1 回分科会を Zoom で開催				
今後の課題等	引き続き、学会等における啓蒙活動を継続する、Covid-19 に関連するものを含め、数量的経済・政策にかかわる意思の表出に向けて検討する。				

経済学委員会・環境学委員会（フューチャー・デザイン分科会）					
委員長	西條 辰義	副委員長	江守 正多	幹事	浅利 美鈴・中川 善典
主な活動	審議内容				
	現世代の意思決定が将来世代に大きく影響を及ぼすとしても、現世代は近視眼的な意思決定をしがちである。このような意思決定を将来の視点から見直す社会の仕組みの検討を検討している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし				
	開催シンポジウム等				
	2022 年 1 月 29, 30 日に「フューチャー・デザイン 2022」を予定している。テーマは「ポストコロナのフューチャー・デザイン」。キーノートスピーカーとして Kate Raworth 教授を招聘予定。				
開催状況	2021 年 1 月 23 日。その後はメールで審議。				
今後の課題等	何らかのテーマを決めてフューチャー・デザイン・セッションを実施することを予定している。たとえば、アンモニア燃焼のフューチャー・デザイン。				

経済学委員会（「持続的発展のための制度設計」分科会）					
委員長	松島 斉	副委員長	岡崎 哲二	幹事	井伊 雅子
主な活動	審議内容				

	・平成30年度より松島が分科会委員長に着任して以降、本分科会の総合的なテーマは、経済社会の持続的発展のために必要な政策や制度設計はなにかについて、具体的実践的政策提言を、経済学の専門家としての多角的な視点から検討することであり、これはSDGsのほとんどの項目にも関連する。 ・令和2年10月から令和3年9月までに、4回のデジタル会議（各約1時間30分）を行なうなどにより、日本の少子化、税制、温室効果ガス削減などが検討された。 ・分科会のメンバーが、自身の研究成果をもとに、おもに日本の現状についての実証結果を報告し、メンバー全員で質疑応答がなされ、政策提言の具体的内容を詰めていく作業を行った。 ・特に、女性の社会進出、人口構成比の在り方と政府支出や国内人口移動との関連性、所得税や法人税改革が所得再分配などに及ぼす影響、などの実態把握を通じて、少子化改善と日本経済の持続的成長について多角的な考察を行った。
	意思の表出（※見込み含む）
	・早期に分科会としての提言をまとめ、一般社会に経済学的知見による専門的な情報を発信する。 ・これに関連するシンポジウムを開催する。
	開催シンポジウム等
	・分科会として統一見解がまとまり次第、シンポジウムの開催を予定している。
開催状況	令和3年3月15日（25期第1回）、4月28日（2回）、6月16日（3回）、8月19日（4回）、9月下旬に第5回会合を予定。
今後の課題等	・環境問題を、国際交渉とガバナンス、カーボンプライシング、ESGアプローチとコーポレートガバナンス、LCAとサーキュラーエコノミーなどの観点から検討する。 ・デジタル経済の未来ビジョンについて、データ仲介システム、デジタル通貨の役割、規制政策の可能性などの観点から検討する。

⑩経営学委員会



経営学委員会					
委員長	西尾 チヅル	副委員長	野口 晃弘	幹事	原 拓志
主な活動	審議内容				
	前期(第24期)からの重点課題、および、経営学領域の学協会組織である経営関連学会協議会からの要望を受けて、5つの分科会の設置を決定した。このうち、前期からの継続である「経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会」については、委員長や委員を引き継いで、今期早々に成果をまとめる体制を整えることとした。それ以外の分科会については、会員や連携会員への周知方法や委員の選定方法等について審議した。また、世話人を決定し、第一部や経営学委員会の審議事項や決定事項が、分科会委員や連携会員に速やかに情報共有される体制を整えた。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	「経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会」は令和3年7月末に審議内容を報告(案)として提出し、現在、査読審査中である。それ以外の分科会も今期中に意思の表出を行うべく活動を行っている。				
	開催シンポジウム等				
	「サービス学分科会」は24期に提言としてまとめた内容に関する公開シンポジウム「サービス化する社会とサービス学の教育実装」を令和3年8月25日にオンラインで開催する。				
開催状況	令和2年10月3日				
今後の課題等	いずれの分科会も意思の表出を目標とし、WG等を設けて積極的に取り組んでいる。意思の表出にあたっては学術会議の他の分科会や関連学協会との連携を図ったり、シンポジウムやワークショップを開催し広く意見聴取したりする等、より俯瞰的、領域横断的に検討した上で成果をまとめられるよう、経営学委員会としてサポートする。				

経営学委員会（経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会）					
委員長	野口晃弘	副委員長	上野 恭裕	幹事	小津 稚加子
主な活動	審議内容				
	第 23 期より取り組んできた成果を「経営学分野における研究評価の現状と課題」と題する報告（案）として取りまとめた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告として意思を表出する方針。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	令和 3 年 1 月 22 日※ビデオ会議，令和 3 年 7 月 29 日※ビデオ会議				
今後の課題等	報告（案）を公表するとともに，その内容を周知するための活動に取り組む。				

経営学・総合工学合同委員会（サービス学分科会）					
委員長	山本 昭二	副委員長	戸谷 圭子	幹事	平田 貞代
主な活動	審議内容				
	サービス学の解決すべき問題について意見を聴取し、2 つのワーキンググループを設置することを決定した。サービス学の教育実践に関するものとサービス社会・経済構造を検討するものを設置する予定である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記のテーマに沿って提言を作成する予定				
	開催シンポジウム等				
	2021 年 8 月 25 日に「サービス化する社会とサービス学の教育実装」というタイトルでシンポジウムを開催する予定				
開催状況	2021 年 2 月 26 日、3 月 29 日、5 月 10 日、7 月 5 日にミーティングを開催し、本年度の活動方針とシンポジウムの開催について議論をした。				
今後の課題等	サービスが社会の中心的な課題となる社会の到来に対して、サービス学が果たすべき役割、その成果の社会への展開について検討を重ね、来年度の提言のための資料等を収集する。何回かのミーティングで多くの実践例についてヒアリング等を行う。				

経営学委員会（SDGs と経営実践・経営学・経営学教育を検討する分科会）					
委員長	西尾 チヅル	副委員長	上林 憲雄	幹事	二神 枝保
主な活動	審議内容				

	多様かつ一体不可分である SDGs の諸課題に対応した企業・組織の経営のあり方、および、それらを踏まえた経営学の教育方法を、オンラインでの意見交換（月 1 回程度で実施）等を通じて審議している。
	意思の表出（※見込み含む）
	報告等の形で意思を表出する方針
	開催シンポジウム等
	現時点では未定
開催状況	令和 3 年 3 月 28 日※オンライン会議
今後の課題等	上記課題の審議にあたっては、経営関連領域だけでなく、中長期的視点に立って、より俯瞰的、領域横断的に検討する必要性を強く感じ、「カーボンニュートラルに関する連絡会議」への参加を表明した。連絡会議での議論も踏まえて、審議内容の精緻化と深耕を図り、意思の表出を行いたい。

経営学委員会（AI・IT 等の普及による経営実践・経営学・経営学教育への影響を検討する分科会）					
委員長	原 良憲	副委員長	仙石 正和	幹事	佐々木 郁子・椿 美智子
主な活動	審議内容				
	AI・IT の提供側企業、コンサルティング企業、並びに、活用側企業からのヒアリング、討議を実施し、第 25 期に重点的に取り組むべき課題内容に関する審議を行った。また、分科会の略称を「AI と経営分科会」とした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	活動終了時に、AI・IT 等の普及による経営学教育等への影響に関する報告書の提出を予定				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第 1 回分科会 令和 3 年 2 月 13 日（土）（オンライン開催）				
今後の課題等	企業・組織における人と AI・IT の役割分担を明確化し、デジタル・トランスフォーメーション(DX)時代における経営学教育のあり方を提示する。				

経営学委員会（新型コロナウイルス感染症による経営実践・経営学・経営学教育への影響を検討する分科会）					
委員長	原 拓志	副委員長	上林 憲雄	幹事	高田 知実
主な活動	審議内容				
	新型コロナウイルス感染症による影響について、まずは経営実践、経営学、経営学教育の各ワーキング・グループに分かれて調査・検討することを決め、実行中である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告として意思を表出する方針（第 25 期において）。				
	開催シンポジウム等				
	なし				

開催状況	令和3年2月18日※ビデオ会議，令和3年8月19日※ビデオ会議
今後の課題等	喫緊の課題であり、関連学協会や他の分科会との連携も図りたい。今後分科会として審議を重ね、結果を報告として第25期の期間中に表出する方針である。

⑪基礎生物学委員会



基礎生物学委員会					
委員長	小林 武彦	副委員長	後藤 由季子	幹事	三村 徹郎・杉本 亜砂子
主な活動	審議内容 ・委員長、副委員長、幹事の選出。 ・分科会の設置及び分科会世話人の決定 ・第 181 回総会中に暫定設置する分科会の承認 ・日本学術会議会則の取扱いについて ・政府による会員候補者任命拒否への対応について ・基礎生物学分野の諸問題及び第 25 期の活動計画について ・基礎生物学委員会所属の分科会の活動予定 ・学術会議のあり方に関する意見交換				

	・統合生物学委員会との合同委員会の開催可能性について
	意思の表出（※見込み含む）
	委員会としては現時点では特になし
	開催シンポジウム等
	委員会としては現時点では特になし
開催状況	R2 年 10 月 3 日ハイブリッド会議
今後の課題等	所属分科会の透明性をより高めるため、各分科会の委員長にも当委員会委員として会議に加わっていただくことにした。今後は当委員会で分科会の活動情報を共有し、より効率的な運営を目指す。

基礎生物学委員会・統合生物学委員会（動物科学分科会）					
委員長	寺北 明久	副委員長	西田 宏記	幹事	深津 武馬
主な活動	審議内容				
	・第 25 期の役員の選出 ・第 25 期の活動方針				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	学生・一般向け公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する」（仮題）を Web 開催予定				
開催状況	第 1 回：令和 2 年 12 月 9 日（水） 第 2 回：令和 3 年 3 月 15 日（月）				
今後の課題等	動物科学の振興のためのシンポジウムを開催するとともに、動物学普及のための方策を引き続き検討する。また、本分科会が中心となり提言した（H22、H26、H29）国立自然史博物館の設置について、フォローアップを行う。				

基礎生物学委員会（細胞生物学分科会）					
委員長	小林 武彦	副委員長	西原 祥子	幹事	坂内 博子、遠藤 求
主な活動	審議内容				

	・委員長、副委員長、幹事の選出 ・第 24 期分科会の活動の概略が説明 ・第 12 回形態科学シンポジウムの開催について ・DORA (San Francisco Declaration on Research Assessment) : 個々の科学者の貢献を査定する際に雑誌ごとの評価を用いないこと、についての情報提供と問題提起 ・海外雑誌購読料や投稿料の高騰の問題 ・日本の学会誌問題 ・第 25 期の活動計画について ・学術会議のあり方に関する意見交換
	意思の表出 (※見込み含む)
	分科会としては現時点では特になし
	開催シンポジウム等
	分科会としては現時点では特になし
開催状況	令和 3 年 5 月 11 日 (火)
今後の課題等	日本における学会や学会誌の多さ、研究評価方法のあり方など研究成果の公表および評価方法を見直す必要性について議論していく。

基礎生物学委員会、統合生物学委員会、農学委員会合同 (植物科学分科会)					
委員長	三村 徹郎	副委員長	山崎 真巳	幹事	佐藤 豊、森田 美代
主な活動	審議内容 第 24 期の最重要活動として、植物科学における若手キャリアパスの現状を把握するためのアンケート調査を行い、それに基づくシンポジウム開催を目指したが Covid-19 のために中止となった。第 25 期ではそれを引き継ぎ、博士課程への進学者が減っている現状を打開する方法や、植物科学が社会に関わるために何ができるかを考えることを目指す。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	上記、アンケート結果を何らかの形で表出する可能性を考える。				
	開催シンポジウム等				
	現状、未定。				
開催状況	令和 3 年 1 月 26 日 (火) 第 25 期・第 1 回植物科学分科会・開催				

今後の課題等	第24期でまとめる予定であった若手キャリアパスの現状を把握するためのアンケート結果をどのようにするか検討する。若手キャリアパス、大学院進学問題などについて、教育機関や関連分科会、学会との連携を進める。植物科学のアウトリーチ活動についても検討する。
--------	---

基礎生物学委員会（分子生物学分科会）					
委員長	小林 武彦	副委員長	岩崎 渉	幹事	石川 麻乃、谷内 江望
主な活動	審議内容				
	・委員長、副委員長、幹事の選出 ・論文発表・学術雑誌に関する最近の状況と業績評価のあり方 ・DORA（研究評価に関するサンフランシスコ宣言）署名についての話題提供 ・論文出版・購読にかかる費用や労力、オープンアクセス化（プランS）への対応 ・論文出版数の減少、大学・研究機関の地域間格差についての情報共有、議論 ・第25期の活動計画について ・学術会議のあり方に関する意見交換				
	意思の表出（※見込み含む）				
	分科会としては現時点では特になし				
	開催シンポジウム等				
開催状況	2021年7月27日（火）				
	分科会としては現時点では特になし				
今後の課題等	DORAについて、日本学術会議全体や第二部で署名できないか検討する。				

基礎生物学委員会（生物科学分科会）					
委員長	小林 武彦	副委員長	川合 真紀	幹事	高橋 素子、入江 直樹
主な活動	審議内容				
	・委員長、副委員長、幹事の選出 ・24期の活動（中等教育で用いられる生物科学用語）の説明 ・生物・生命科学に関わる問題の意見交換—学術雑誌をとりまく問題など ・国立自然史博物館構想についての説明及び意見交換 ・研究者のキャリア形成（定年制、任期性のメリット・デメリット）についての意見交換 ・第25期の活動計画について ・学術会議のあり方に関する意見交換				
	意思の表出（※見込み含む）				

	分科会としては現時点では特になし
	開催シンポジウム等
	分科会としては現時点では特になし
開催状況	2021 年 3 月 26 日 (金)
今後の課題等	生物科学用語の削減・改定に関わる活動については、大きな社会的効果が出てきている。今後も注視していく。

基礎生物学委員会（遺伝資源分科会）					
委員長	城石 俊彦	副委員長	有田 正規	幹事	嶋田 透
主な活動	審議内容				
	生物多様性に関する「名古屋議定書」が我が国において効力を生じたことから、大学や研究機関等における遺伝資源の取り扱いを適切に行うことが求められている。また、名古屋議定書にデジタル DNA 配列情報 (DSI) を含めるべきとする意見が資源提供国から提案されており時宜を得た議論を進める必要がある。本分科会は、関係の事業活動や学協会と連携して遺伝資源の整備活用方策や遺伝資源の取り扱いについて審議を行っている。オンラインで開催した第1回合同遺伝資源分科会では、最初に役員を選出した後、DSI に関する今後の分科会の活動方針について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	デジタル塩基配列情報 (DSI) の利用とそれによる利益配分に関する提言等を出している可能性がある。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和 3 年 3 月 5 日 (金) 15:00～17:15 オンライン会議				
今後の課題等	今年（2021 年）中国で開催予定の第 15 回生物多様性条約締約国会議（COP15）において、DSI 問題について進展があることが予想される。その動きに合わせて、DSI の利用とそれによる利益配分に関する迅速な議論が求められる。				

基礎生物委員会（海洋生物分科会）					
委員長	大路 樹生	副委員長	川井 浩史	幹事	窪川 かおる・長里 千香子
主な活動	審議内容				
	前期の議論を引き継ぎ、日本の海洋生物学が直面している諸問題を審議する。ユネスコの政府間海洋学委員会 (IOC) が発行する Global Ocean Science Report 2020 の日本語訳を分科会で作成、完成させた。これは今後 IOC の公式ウェブページに掲載される予定で、外国と比較した日本の海洋科学の現状を示す優れた資料として今後多方面に使用される。また国連海洋科学の 10 年と連動しシンポジウ				

	ムを開催する予定である。
	意思の表出（※見込み含む）
	シンポジウム開催を踏まえてその議論の結果を表出することを考慮中である。
	開催シンポジウム等
	・令和元年 11 月に行った日本学術会議（海洋生物学分科会、SCOR 分科会）主催公開シンポジウム「国連の持続可能な海洋科学の 10 年 ―One Ocean の行動に向けて」で議論、提供された海洋環境が直面する気候変動予測、海洋生態系保全に関するトピックを「学術の動向」令和 3 年 1 月号に特集『「持続可能な開発のための国連海洋科学の 10 年」を多様な視点から考える」に掲載した。
開催状況	第 1 回（令和 3 年 1 月 21 日、オンライン）、第 2 回（令和 3 年 6 月 24 日、オンライン）
今後の課題等	（今期最初の年次報告となりますので、「今期開始に際しての所感」または「3 年間の活動方針」などについて記載してください。） 前期の活動内容を踏まえ、今期は他の関係する分科会と共同し、シンポジウムの開催、意思の表出を目指し活動していく予定である。

基礎生物学委員会（総合微生物科学分科会）					
委員長	小柳 義夫	副委員長	竹田 潔	幹事	春日 文子
主な活動	審議内容				
	第 25 期総合微生物分科会委員 14 名と委員長、副委員長、幹事について、令和 3 年 2 月 25 日の日本微生物連盟の WEB 会議で承認された。また、令和 3 年 5 月 28 日の同連盟の WEB 会議で理化学研究所環境資源科学研究センターの長田裕之グループディレクターを日本微生物学連盟の新理事長に選出し、本分科会の特任連携会員に推薦した。新たな人員で、微生物科学に関する日本学術会議としての活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	中長期の微生物科学に関する教育研究活動について、令和 3 年度後半から本分科会での議論をはじめの予定である。新型コロナウイルスに関しては、知見の集積がされている段階であり、現状の把握を優先してはと考える。				
	開催シンポジウム等				
	第 94 回日本細菌学会総会において、WEB シンポジウム「真菌との生存空間を共有する微生物から見た真菌学」を令和 3 年 3 月 23 日に開催した。				
開催状況	令和 3 年 2 月 25 日と 5 月 28 日に日本微生物連盟（基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同総合微生物科学分科会（第 25 期第 1 回）、農学委員会・基礎生物学委員会・食料科学委員会・基礎医				

	学委員会・臨床医学委員会合同 IUMS 分科会（第 25 期・第 1 回）、基礎医学委員会病原体学分科会（第 25 期・第 1 回）の合同 WEB 会議を開催
今後の課題等	COVID-19 により、一般社会において微生物科学に注目が集まるとともに、ワクチンに関する知見を中心に不正確な情報があふれ、それらへの対処に苦慮している。一方、WEB セミナーなどを通じて、一般市民へのアウトリーチ活動の機会は増えており、微生物の基本に関する理解が難しいことがわかってきた。第 25 期は高校生を主な対象にしたアウトリーチ活動について、議論をはじめめる予定である。

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（生物物理学分科会）					
委員長	原田 慶恵	副委員長	上田 昌宏	幹事	徳永 万喜洋
主な活動	審議内容				
	公開シンポジウムについて審議				
	提言について審議				
	IUPAB congress 2024 の開催について審議				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第 23 期にマスタープラン 2017 の重点大型研究計画として採択され、第 24 期も継続重点大型研究計画となった、提言「生命科学の発展を加速する次世代統合バイオイメージング研究所の設立計画」を大幅に改訂し、第 25 期中に再度提言として発出する予定である。				
	開催シンポジウム等				
	「生命科学の発展を加速する次世代統合バイオイメージング研究所の設立計画」に関連するテーマでの公開シンポジウムの開催を予定している。				
開催状況	令和 3 年 3 月 17 日第 25 期 第 1 回基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会・IUPAB 分科会両分科会合同会議を開催済み。今後、年に 1～2 回の頻度での開催を予定している。				
今後の課題等	IUPAB congress 2024 の開催準備、公開シンポジウムの計画、提言発出の準備の 3 つの課題を中心に活動予定である。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（IUBS 分科会）					
委員長	西田 治文	副委員長	村上 哲明	幹事	高田 まゆら
主な活動	審議内容				
	国際生物科学連合 IUBS の国別メンバーである日本として、IUBS の事業を支援するための対外および国内活動を検討、立案、実行。特に、2022 年度に初の日本開催が決定した IUBS 第 34 回総会を実施。他の国際協力分科会との連携推進。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	学術会議からの意思の表出は予定していないが、IUBS 総会を通じて活動を広報する。				

	開催シンポジウム等
	第 34 回 IUBS 総会を 2023 年 3 月に中央大学後楽園キャンパスで開催予定。IUBS 関連シンポジウムに加えて、関連学会の共催シンポジウムを企画している。
開催状況	第 1 回 2021 年 1 月 14 日（以下いずれも Web 会議） 第 2 回 2021 年 5 月 6 日 第 3 回 2021 年 8 月 2 日
今後の課題等	学術国際協力に学術会議が果たしてきた役割を強化するとともに、政府による積極的支援を求める。国内においては関連学会との連携を強化する。

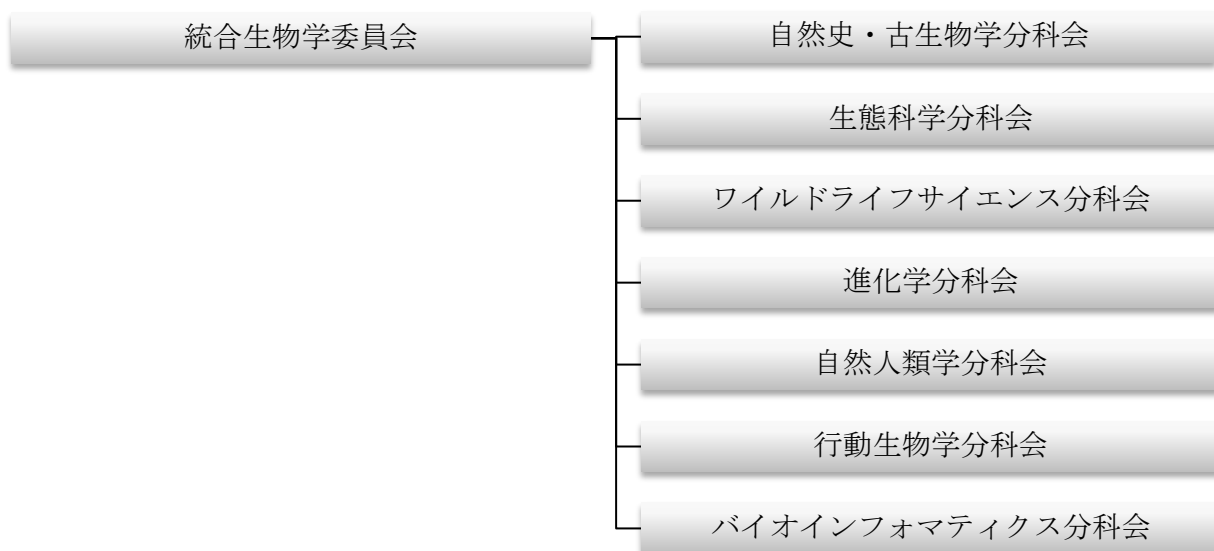
基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUPAB 分科会					
委員長	原田 慶恵	副委員長	野地 博行	幹事	永井 健治
主な活動	審議内容				
	公開シンポジウムについて審議 提言について審議 IUPAB congress 2024 の開催について審議				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第 23 期にマスタープラン 2017 の重点大型研究計画として採択され、第 24 期も継続重点大型研究計画となった、提言「生命科学の発展を加速する次世代統合バイオイメージング研究所の設立計画」を大幅に改訂し、第 25 期中に再度提言として発出する予定である。				
	開催シンポジウム等				
	「生命科学の発展を加速する次世代統合バイオイメージング研究所の設立計画」に関連するテーマでの公開シンポジウムの開催を予定している。				
開催状況	令和 3 年 3 月 17 日第 25 期 第 1 回基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会・IUPAB 分科会両分科会合同会議を開催済み。今後、年に 1～2 回の頻度での開催を予定している。				
今後の課題等	IUPAB congress 2024 の開催準備、公開シンポジウムの計画、提言発出の準備の 3 つの課題を中心に活動予定である。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同委員会（遺伝学分科会）					
委員長	岩崎 博史	副委員長	岡田 由紀	幹事	平田 たつみ、山本 卓
主な活動	審議内容				
	- 役員（委員長・副委員長・幹事）の選出 - 学術雑誌の現状と問題についての情報共有 - 研究者人口減少と大学教員（研究者）定年問題についての情報共有 - 学術会議連携会員の選出と学術会議のあり方についての情報共有				
	意思の表出（※見込み含む）				

	今後、上記審議内容を基盤として、なんらかの形で遺伝学分科会として意思の表出を行うことをめざすこととした。
	開催シンポジウム等
	無し
開催状況	2021 年 2 月 24 日 Zoom オンライン会議
今後の課題等	第一回委員会で提起した問題を中心に、今後 3 年間で取りまとめる。

基礎生物学委員会（生物リズム分科会）					
委員長	深田 吉孝	副委員長	三島 和夫	幹事	上田 泰己、遠藤 求
主な活動	審議内容				
	第一回分科会において役員と特任連携会員を選出した。その上で、第 25 期における本分科会の基本的な活動方針について議論し、生物が示す一日周期のリズムに関する基礎生物学的ならびに基礎・臨床医学的な知見を広く社会に生かせるような議論や活動を行う方向性を決めた。また国民の思いやニーズを把握するための双方向性の活動が重要であることを確認し、公開シンポジウムなどを通して国民との対話も目指すこととした。第二回分科会においては、コロナ禍で変容した生活リズムに関するシンポジウム開催について意見を交換した。その結果、令和 3 年 8 月 28 日に公開シンポジウム「ポストコロナ社会を見据えた睡眠・生活リズムのあり方 ～コロナ自粛から学ぶ～」をオンライン開催することを決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現在のところ、なし。				
	開催シンポジウム等				
	令和 3 年 8 月 28 日 公開シンポジウム「ポストコロナ社会を見据えた睡眠・生活リズムのあり方 ～コロナ自粛から学ぶ～」 オンライン開催				
開催状況	第一回分科会 令和 2 年 11 月 17 日 オンライン開催 第二回分科会 令和 3 年 5 月 21 日 オンライン開催				
今後の課題等	基礎生物学と基礎・臨床医学のテーマとして、地球の昼夜環境への適応の研究は人類の現代生活に重要な課題であることから本分科会は第 23 期に設立された。第 25 期の開始にあたってこの重要性を再確認すると共に、現在、国民の最大関心事の一つであるコロナ禍、あるいは働き方改革により、オンライン会議やテレワークの導入が進んだ結果、生活リズムがどのように変化したか、また今後の生活リズムのあり方について、国民との双方向性の議論を通して理解を目指す。				

⑫統合生物学委員会



基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同（自然史・古生物学分科会）					
委員長	西田 治文	副委員長	大路 樹生	幹事	上松 佐知子
主な活動	審議内容				
	・25期委員，役員を決定した。 ・自然史財法案の再検討，自然史系標本の保全，自然史系博物館における学芸員のあり方，国立沖縄自然史博物館設立に向けた協力などについて議論した。 ・学術会議内でのこれまでの分科会活動を総括し，十分な貢献を行なってきたことを確認した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	自然史財法の制定や自然史系博物館の改革は拡充を目指した提言の発出を検討しているが，審議の進み方次第である。				
	開催シンポジウム等				
	自然史系標本や自然史系博物館をめぐる諸問題についてシンポジウムを企画する予定。				
開催状況	第1回 2020年11月22日（以下いずれもWeb会議） 第2回 2021年3月22日 第3回 2021年9月（予定）				
今後の課題等	国立沖縄自然史博物館の実現に加え，自然の理解と持続可能性を地域ごとに推進・継承するために，全県レベルでの自然史系博物館設置を推進する。自然史系標本の重要性の国際的理解を推進する。以上を支える自然史科学全般の更なる振興。				

統合生物学・基礎生物学委員会（ワイルドライフサイエンス分科会）					
委員長	村山 美穂	副委員長	山極 壽一	幹事	山越 言
主な活動	審議内容				
	2021年2月9日と2021年8月19日に分科会を開催し、本分科会からの提案がマスタープランとして採択されることを目標に、その下地づくりのため、シンポジウムあるいはフォーラムを開催することについて話し合った。野生動物管理システムの構築と人材養成に関して議論をおこなった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	対象期間中に該当なし				
	開催シンポジウム等				
	対象期間中に該当なし				
開催状況	第1回：2021年2月9日 第2回：2021年8月19日				
今後の課題等	24期には、本分科会が支援して京都大学野生動物研究センターから提出したマスタープラン2020が学術大型研究計画に採択されるなど、今後の方向性を定めることができた。今期は、野生動物管理システムの構築と人材養成に関して行政との更なる連携を深めたい。生物多様性とワイルドライフに関するシンポジウムの開催などのアウトリーチにも力を入れたい。 ウェブサイト https://www.wildlife-science.org/scj/				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（進化学分科会）					
委員長	深津 武馬	副委員長	長谷部 光泰	幹事	岩崎 渉
主な活動	審議内容				
	提言取りまとめをおこなうかについて 進化学の普及や啓蒙、情報発信に資するシンポジウムの開催について 進化学の普及や啓蒙、情報発信に資するサイエンスカフェなどの活動について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	共催シンポジウム「分類学は旧くて新しい-国立自然史博物館の設立に向けて-」（平成30年9月13日 日本動物学会第89回大会 札幌コンベンションセンター）				
開催状況	平成30年2月28日第1回分科会（東京）；平成30年9月13日第3回分科会開催（札幌；予定）				
今後の課題等	進化学の普及や啓蒙、情報発信に資する活動を行っていく				

統合生物学・基礎生物学委員会委員会（自然人類学分科会）					
委員長	諏訪 元	副委員長	村山 美穂	幹事	海部 陽介、馬場 悠男
主な活動	審議内容				
	・自然人類学の教育研究体制の変遷と今後について意見交換した。 ・前期までの大規模研究計画に立脚し、また、内外の研究状況と複数の人類学関連分野を横断する形の若手研究者層の充実が望ましいことに鑑み、「アジア」をキーワードの一つとして検討することとした。 ・自然人類学の意義や inclusive な社会と多様性の重要性などに関わる複数のシンポジウム等の企画を進めることとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和2年10月11日「With コロナの時代に考える人間の「ちがい」と差別～人類学からの提言～」（文化人類学分科会、多文化共生分科会と共催）				
開催状況	令和2年11月9日、令和3年6月28日				
今後の課題等	文化的多様性の重要性をも認識しながら、自然人類学から見た多様性（主として人類と人類以外の霊長類）に関わる社会発信とその専門を担う若手研究者層の充実と振興。				

統合生物学委員会（バイオインフォマティクス分科会）					
委員長	有田 正規	副委員長	岡田 眞里子	幹事	諏訪 牧子、五斗 進
主な活動	審議内容				
	25期は医学系の内容も審議できるよう分科会メンバーを拡充した。またコロナウイルス等のゲノム情報が他国に比しても速やかに公開されない状況を含め、社会にデータを役立てる方針と施策について協議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現在のところ検討していない。				
	開催シンポジウム等				
	生物物理分科会と合同でオンラインシンポジウムの開催を企画中				
開催状況	第1回 2020年 10月 13日				

今後の課題等	1. 国益の観点から遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS）問題と、それに含まれるデジタル配列情報（DSI）問題について 2. 各国で進む個人ゲノムの読み取りと関連するデータの公開問題、およびデータセンターの設置問題について
--------	---

⑬農学委員会



農学委員会（植物保護科学分科会）					
委員長	松本 宏	副委員長	渡辺 京子	幹事	水口 亜樹
主な活動	審議内容				
	・ 関連学会連合体との共催による公開シンポジウムの開催について ・ 関連学会との連携について ・ 意思の表出に向けた今後の計画について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「農業生産性の維持・向上に向けた外来種の制御」（仮題）の表出に向け活動を進める。				
	開催シンポジウム等				

	これまでシンポジウムを毎年開催してきたが、令和2年度は新型コロナ感染拡大を受け見送った。令和3年度は「グリーンリカバリーへの植物保護科学の貢献」を計画中である。
開催状況	令和3年5月12日（水）：第25期第1回分科会
今後の課題等	関係学協会の連合体である植物保護科学連合との共催によるシンポジウムの開催およびこれまで開催したシンポジウムで取り上げた重要課題をテーマとした意志の表出を目指す。

農学委員会・食料科学委員会合同（IUSS分科会）					
委員長	小崎 隆	副委員長	波多野 隆介	幹事	川東 正幸
主な活動	審議内容				
	1) 活動の強化と効率化のため特任連携会員を追加した。2) IUSS 次期役員選挙に向けて候補者を選定し選挙管理委員会へ推薦するとともにわが国における選挙実施体制を検討した。3) 令和4年8月開催予定の世界土壌科学会議（WCSS）への代表派遣およびわが国選出の役員支援のあり方について検討した。4) わが国が国際的にリードできる分野での活動強化策について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	以下の「今後の課題等」の取り組みに基づき、今期中の成果を報告等として表出する予定である。				
	開催シンポジウム等				
	農学委員会土壌科学分科会とともに公開シンポジウム「原発事故から10年-これまで・今・これからの農業現場を考える」（令和3年11月5日予定）を主催する（日本土壌肥料学会と共催）。				
開催状況	令和2年12月9日※オンライン、令和3年3月18日※オンライン、令和3年4月23日※メール、令和3年9月4日※オンライン				
今後の課題等	これまでのわが国の IUSS 活動の批判的総括と今後の方向性について、国内外のシンポジウム等の公開集会で議論し、国際的、学際的さらに社会的にも効果的かつ正しい IUSS 連携・支援のための改善・強化策を取りまとめ発信することが必要であるとする。				

農学委員会（農学分科会）					
委員長	土井 元章	副委員長	江面 浩	幹事	下野 裕之、本間 香貴
主な活動	審議内容				
	第1回分科会において今後の議論の方向について意見交換を行った。「気候変動と農業—持続可能性の視点から」という方向で議論を開始することとした。また、本間香貴連携会員から「農家圃場生産性評価を中心とした研究展開」と題する話題提供があった。				

	意思の表出（※見込み含む）
	未定
	開催シンポジウム等
	未定
開催状況	令和3年3月1日（月）にオンライン、現在第2回の分科会開催を調整中。
今後の課題等	グローバルな気候変動予測、地域の気候変動と農業、作物の生育と生産物への影響、気候変動と地域的な課題、気候変動と農業の持続可能性等について議論する。

農学委員会（農業経済学分科会）					
委員長	中嶋 康博	副委員長	立川 雅司	幹事	梅津 千恵子、清原 昭子
主な活動	審議内容				
	24期の本分科会の調査活動内容を農業経済学の関連学協会へ報告周知すること、新型コロナウイルスに関する関連学協会の研究活動を取りまとめながらシンポジウムの開催を検討することとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年2月27日、3月20日※オンライン				
今後の課題等	新型コロナウイルス感染拡大および地球環境問題の展開が食料・農業・農村に及ぼす影響を評価し、今後の農業政策のあり方について検討を進める。				

農学委員会（地域総合農学分科会）					
委員長	宮崎 毅	副委員長		幹事	武藤 由子
主な活動	審議内容				
	今期第1回分科会において、分科会名称改変の必要性を議論した結果、分野横断的な名称が有する今日的意義を再確認し、名称継続を合意した。また、活動強化のために特任連携会員を推薦するとともに、昨年コロナ禍で中止した公開シンポジウム「農業農村地域におけるICT社会実装における課題」を、オンライン形式で開催準備することにつき合意した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	無し				
	開催シンポジウム等				

	準備中
開催状況	令和3年6月11日、今期第1回分科会オンライン会議開催。
今後の課題等	分野横断的なメンバーで構成される本分科会の特徴を生かした審議、シンポジウム開催、提言案の検討をめざす。特任連携会員、参考人などを補強する。

農学委員会（林学分科会）					
委員長	丹下 健	副委員長	杉山 淳司	幹事	井上 真理子
主な活動	審議内容				
	地球温暖化の緩和策と国土強靱化に向けた適応策としての森林管理や木材利用のあり方について、自然科学分野だけではなく、土地利用や社会制度などの社会科学分野を含めた分野横断的な審議を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現時点では、具体的な計画はない。				
	開催シンポジウム等				
	「気候変動時代における市町村による新たな森林管理とゾーニング」をテーマとした公開シンポジウムの開催を計画している。				
開催状況	令和2年12月9日と令和3年3月29日に分科会を開催した。				
今後の課題等	カーボンニュートラルな社会の構築において、二酸化炭素の吸収源としての森林の役割はますます重要となっているが、世界的には森林減少が続いている。森林の価値を広く理解されるように活動したい。				

農学委員会（応用昆虫学分科会）					
委員長	小野 正人	副委員長	池田 素子	幹事	大門 正明、阿部 芳久
主な活動	審議内容				
	第24期に発出した衛生害虫に関する提言などを発展させ、「日本の高等教育機関における昆虫学教育のあり方」についての検討を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	2024年に国際昆虫学会議の招致に成功したのを機に、日本の昆虫学のプレゼンスを高め、昆虫学を学ぶことの重要性を発信するため高等教育機関での昆虫学教育の現状を分析し、それを基にした提言あるいは報告を発出する予定である。				
	開催シンポジウム等				

	令和3年6月26日(土):「インセクトワールドー多様な昆虫の世界II」を日本昆虫科学連合と共催でオンライン開催。5題の講演を約350名の参加者に提供し、質疑に対応した。
開催状況	主に執行部の4名によりメールで骨子の検討が行われている。今後分科会の14名で共有審議する予定である。
今後の課題等	若手の育成に資する昆虫学教育のあり方を吟味し、国際交流の活性化を促進する施策の立案を図ることを活動方針としたい。

農学委員会（土壌科学分科会）					
委員長	小崎 隆	副委員長	犬伏 和之	幹事	山岸 順子
主な活動	審議内容				
	1) 活動の強化と効率化のため特任連携会員を追加した。2) 今期で取り組むべき課題およびその成果に関する意思の表出の方法・手順・時期について議論した。3) 今年度に主催予定の以下のシンポジウムについて、テーマ、実施方法（共催・後援他）、取り纏め方法他の具体について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	以下の「今後の課題等」の取り組みに基づき、今期中の成果の具体的表出方法とロードマップを検討する予定である。				
	開催シンポジウム等				
	農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会とともに公開シンポジウム「原発事故から10年-これまで・今・これからの農業現場を考える」（令和3年11月5日予定）を主催する（日本土壌肥料学会と共催）。				
開催状況	令和2年12月9日※オンライン、令和3年3月18日※オンライン、令和3年11月6日※ハイブリッド（予定）				
今後の課題等	前期の報告で取り纏めた「都市域土壌」を、さらに森林・里山などの生態系を含む生活圏へと拡大し、その機能の持続性強化を目指した「土壌の安全保障」の概念の明確化、その具現化戦略構築、その教育・普及を、他分野・市民などの幅広いステークホルダーとの連携の下に進めていきたい。				

農学委員会（遺伝子組換え作物分科会）					
委員長	江面 浩	副委員長	立川 雅史	幹事	吉田 薫、丸山 明子
主な活動	審議内容				
	ゲノム編集作物などを含むゲノム編集生物の利用に関する規制、アウトリーチ活動、表示問題などを学術的立場で議論し、その成果を社会に発信する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	議論の進展がみられれば、シンポジウムなどを企画し、社会に発信する。				
	開催シンポジウム等				
	検討中。				

開催状況	令和3年5月18日※リモート会議
今後の課題等	2020年12月に我が国初のゲノム編集作物の厚労省、農水省への届出が完了したことから、今後ゲノム編集生物の社会実装が進んでいくと予想される。本分科会としては、ゲノム編集生物の利用に関する規制、アウトリーチ活動、表示問題などに前期からの議論を引き継ぎ、その成果を社会に発信していく予定である。

農学委員会・食料科学委員会合同（農学分野における名古屋議定書関連検討分科会）					
委員長	佐藤 豊	副委員長	土井 元章	幹事	香坂 玲
主な活動	審議内容				
	農学分野における名古屋議定書関連の課題抽出と対応の検討 関連分科会等との情報交換				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現状、未定。				
	開催シンポジウム等				
	現状、未定。				
開催状況	令和3年3月10日（木）第25期・第1回農学分野における名古屋議定書関連検討分科会・開催				
今後の課題等	名古屋議定書関連情勢に詳しい特任連携会員を迎え入れ最新の情勢を理解するとともに、DSIの取り扱いなどについて関連分科会等と連携をはかりながら国内措置等に関する農学分野としての対応を検討する。				

農学委員会・食料科学委員会合同（CIGR 分科会）					
委員長	野口 伸	副委員長	澁澤 栄	幹事	高山 弘太郎、安永 円理子
主な活動	審議内容				
	国際農業工学会（CIGR）に関して、わが国としての対応を審議する。また、わが国がCIGRを通して世界の食料生産・環境問題の解決に貢献する活動を推進し、国際的な視点で農業工学とその技術の進歩発展に資する活動を推進する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				

	日本学術会議の共同主催国際会議として 2022 年 12 月 5～10 日に国立京都国際会館において第 20 回 CIGR World Congress 2022 (http://cigr2022.org/) を開催する。CIGR 分科会は大会組織委員会として機能し、企画・運営を担う。
開催状況	第 1 回 令和 3 年 1 月 18 日 (オンライン) 第 2 回 令和 3 年 5 月 24 日 (オンライン)
今後の課題等	今期 CIGR 分科会の目標は第 20 回 CIGR World Congress 2022 を成功させること、そして日本が提案・設置した Working Group 「Plant Factory and Intelligent Greenhouse」を Technical Section に昇格させ、日本の強みである植物工場分野の研究において世界をリードすることである。

基礎生物学委員会・農学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 (IUMS 分科会)					
委員長	河岡 義裕	副委員長	松浦 善治	幹事	上田 一郎
主な活動	審議内容				
	第 2 5 期委員会を第 2 部会員 1 名、連携会員 4 名で立ち上げた。日本微生物学連盟と連携して活動することとした。 今期の活動方針について議論し、シンポジウムを通じて、微生物学の成果を社会に広めることとした。中川 IUMS 理事からの報告として、次回の国際微生物会議が 2022 年に開催されることとなった。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	無し				
	開催シンポジウム等				
	今年度も日本微生物学連盟として合同シンポジウムやフォーラムの開催を推進することが確認され、今後開催テーマの募集を行うこととした。				
開催状況	令和 3 年 2 月 25 日 (Web 会議)、令和 3 年 5 月 28 日 (Web 会議)、令和 3 年 9 月 (予定)				
今後の課題等	国際微生物会議 2022 に向けた日本の対応と今後の我が国の IUMS に対する取り組みを論議する。				

⑭食料科学委員会



食料科学委員会					
委員長	古谷 研	副委員長	熊谷 日登美	幹事	石塚 真由美、高山 弘太郎
主な活動	審議内容				
	・食料の生産、供給、消費に関する学術課題について審議するとともに、農学委員会との合同会議を開催して、両委員会に所属する分科会の活動内容に関して横断的に情報共有と意見交換を行い、必要に応じて各分科会の活動を支援する。 ・日本学術会議のあり方に関して審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定無し。				
	開催シンポジウム等				
	農学委員会と共同で、学術会議叢書 28「日本の食卓の将来と食料生産の強靱化について考える」を 2021 年 1 月 27 日に刊行した。				
開催状況	2020 年 10 月 3 日、2021 年 4 月 12 日、同年 8 月 23 日にオンライン開催。				
今後の課題等	食料の生産から廃棄に至るまでのフードシステムの持続可能性について重点を置いて審議を進める。				

食料科学委員会（水産学分科会）					
委員長	古谷 研	副委員長	萩原 篤志	幹事	佐藤 秀一、八木 信行
主な活動	審議内容				

	水産資源の中長期的利用の方途について、天然資源、増養殖、加工流通、消費、食品ロスを中心に審議を進めている。特にフードシステムの持続可能性の観点から水産資源をどのように位置づけるかに重点を置いている。
	意思の表出（※見込み含む）
	今期中に中長期的な水産資源利用のあり方に関する意思の表出を予定している。
	開催シンポジウム等
	公開シンポジウム「東北マリンサイエンス拠点形成事業と今後の水産研究のあり方－豊かな海へ、科学の力で－」（東北マリンサイエンス拠点形成事業、文部科学省との共催）を 2020 年 11 月 13 日にオンライン開催
開催状況	2020 年 11 月 13 日、2021 年 3 月 5 日、同年 5 月 14 日、同年 7 月 30 日にオンライン開催
今後の課題等	前期に引き続き中長期的な水産資源利用のあり方について審議を進め、今期中に取り纏める。

農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同（IUNS 分科会）					
委員長	熊谷 日登美	副委員長	稲垣 暢也	幹事	家光 素行、竹中 麻子
主な活動	審議内容 食品・栄養学分野の研究や人材育成に貢献し、日本の食品・栄養学分野の国際的なプレゼンスをさらに高めるよう審議を続ける。 2021年12月11日・12日にオンラインで実施する「第4回IUNS栄養学のリーダーシップ育成国際ワークショップ」の実施について議論している。 2022 年 12 月 6 日から 11 日に延期された東京で開催される第 22 回 IUNS 国際栄養会議（ICN）の準備について審議を続けている。 意思の表出（※見込み含む） 特になし 開催シンポジウム等 ・公開シンポジウム「コロナ下において考えるべき栄養」（2021 年 7 月 3 日）				
開催状況	2021 年 1 月 25 日（火）15:00～17:00 ウェブ会議（ZOOM）				
今後の課題等	第 22 回 ICN の成功に向けてさらに検討を続ける。 2021 年 12 月 11 日・12 日にオンラインで開催予定の「第 4 回 IUNS 栄養学のリーダーシップ育成国際ワークショップ」の検討を行う。				

食料科学委員会（畜産学分科会）					
委員長	眞鍋 昇	副委員長	吉澤 緑	幹事	枝重 圭祐、後藤 貴文、木村 直子
主な活動	審議内容				

	「地球規模で蔓延し続ける家畜および人獣共通感染症を配慮したアニマルウェルフェア準拠家畜飼養衛生管理の創出」に重点をおいた畜産学の教育・研究の特性について記録の取り纏めと成果公表を目指して審議を深めた。最先端学術成果を含む共用教科書の作成、公開シンポジウムの開催、関連学会等との連携等について順次実施した。
	意思の表出
	「AIシステムを活用したスマート放牧システムの創出」と題する報告の発出を目標とするとともに、今期と前期に本分科会が主催したシンポジウム要旨を令和2年度中に記録としてとりまとめる。
	開催シンポジウム等
	地球環境保全に注力した家畜増殖を目指すべく日本繁殖生物学会等と公開シンポジウム「SDGsにおける繁殖生物学の役割」・令和3年5月8日」をオンライン共催し200名近い聴衆から好評を得た。他に、オンライン公開シンポジウム「畜産学のレジリエンスと進化」・令和3年9月14日」を日本畜産学会等と共催する。
開催状況	2回開催した（令和3年1月15日メール、令和3年8月7日メール）
今後の課題等	新型コロナ禍における新たな国際学術集会の在り方に関する関連学協会との協議、および女性研究者活躍の支援と協働プロジェクトの一層の推進

農学委員会・食料科学委員会合同（農芸化学分科会）					
委員長	熊谷 日登美	副委員長	稲垣 賢二	幹事	竹中 麻子、東原 和成
主な活動	審議内容				
	・農芸化学分野における学術大型研究のあり方について議論している。 （第24期は農芸化学会から大型マスタープランへ4課題応募した。） ・サイエンスカフェおよび公開シンポジウム等の啓発活動について検討している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし				
	開催シンポジウム等				
	・公開シンポジウム「農芸化学の目を通して食の役割を考える」(2021年3月21日) ・公開シンポジウム「新型コロナウイルスパンデミック下での食糧問題に農芸化学分野が果たす役割」(2021年3月21日) ・連続公開シンポジウム「SDGs達成に向けた農芸化学の挑戦」第1回「食を通して全ての人に健康を」(2021年9月14日) ・連続公開シンポジウム「SDGs達成に向けた農芸化学の挑戦」第2回「地球と生命をつなぐ高度な化学物質ネットワークー天然物化学再考ー」(2021年12月8日) ・サイエンスカフェ「薬に頼る前にできる疾病予防ービタミン・ミネラル・ポリフェノールの有効利用ー」(2020年12月5日, 仙台) ・サイエンスカフェ「鳥取のおいしい地域資源ーローカル酵母と梨ポリフェノールー」(2021年6月26日, 鳥取)				

開催状況	2020 年 12 月 28 日 (火) 14:00～16:00 ビデオ会議 2021 年 3 月 30 日 (火) 10:00～12:00 ビデオ会議 2021 年 9 月 14 日 (火) 10:00～12:00 ビデオ会議 開催予定
今後の課題等	・連続公開シンポジウム「SDGs 達成に向けた農芸化学の挑戦」の開催を今後も積極的に行う。 ・日本農芸化学会が毎年実施している「化学と生物シンポジウム」を当分科会との共同主催とする。 ・サイエンスカフェの共同主催を、今後も積極的に行っていく。 ・農芸化学分野が抱える課題等について議論する。

食料科学委員会（農業情報システム学分科会）					
委員長	高山 弘太郎	副委員長	澁澤 栄	幹事	彦坂 晶子、高橋 憲子
主な活動	審議内容				
	農林水産業のイノベーションの基盤となる農業情報の創成とその社会実装をめざした技術革新研究に関する課題の審議を行った。具体的には、持続可能なスマート農林水産業、農産物の安全・安心が担保されたスマートフードチェーン、農林水産業における自動化・ロボット化について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	本年度は無し				
	開催シンポジウム等				
	令和3年9月8日 公開シンポジウム「オープンサイエンスをめざしたデジタル農業の胎動」（神戸大学）を予定していたが、新型コロナウイルス感染状況の悪化により現地での開催が中止となった。日程・内容の変更または中止について検討している。				
開催状況	第1回 令和3年1月21日 オンライン（ビデオ）形式 第2回 令和3年4月28日 メール審議				
今後の課題等	農業 DX の加速化に向けた取り組みが始まり、令和3年4月20日には「農機 API 共通化コンソーシアム」（農林水産省）が設立された。当該コンソには、本分科会の委員長および副委員長が参画しており、分科会での議論の速やかな社会実装が期待されている。				

食料科学委員会（PSA 分科会）					
委員長	大越 和加	副委員長	古谷 研	幹事	中野 伸一、原田 尚美
主な活動	審議内容				
	・太平洋域における学際的な研究活動の展開について意見交換を行う。 ・太平洋学術会議と当分科会の連携・協力について意見交換を行う。 ・畑井メダル顕彰事業について審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	次の PSC（太平洋学術会議）開催が来年へ再延長されることが最近になって決まった。今後、PSA の動向を見ながら連携して活動していく予定である。
	開催シンポジウム等
	今後の PSA の動向を見ながら連携して活動していく 予定である。
開催状況	令和 3 年 1 月 1 4 日 オンライン会議
今後の課題等	PSA の主な活動としての PSC がコロナ禍のため延長されている。今後の動向を見ながら太平洋地域社会間のコミュニケーションの促進等、PSA と連携して活動を行う。日本のプレゼンスを維持するため畑井メダル顕彰は確実に遂行する。

食料科学委員会（東日本大震災に係る食料問題分科会）					
委員長	中嶋 康博	副委員長	眞鍋 昇	幹事	小山 良太、関谷 直也、 本間香貴
主な活動	審議内容				
	これまで通り、福島における東日本大震災・原子力災害からの復興に向けて、現地住民に寄り添った科学による貢献を目指し、その重要な手段であるリスクコミュニケーションのあり方を検討する。特に風評被害に配慮しながら、一般市民と被災関係者などのステークホルダー間の意識や認識の違いを埋めていくための議論を踏まえたシンポジウムの開催を目指していくこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和 3 年 1 月 25 日※オンライン				
今後の課題等	復興に向けた検討を引き続き行うにあたり、被災後 10 年間の産業構造の変化を踏まえること、高度なリスクコミュニケーションの実践的手法を検討することなど、社会科学面からの議論を強化することが課題である。				

食料科学委員会（獣医学分科会）					
委員長	高井 伸二	副委員長	杉山 誠	幹事	堀 正敏、芳賀 猛
主な活動	審議内容				
	24 期の活動内容を振り返り、25 期の活動の方向性を検討した。11 月 14 日（土）に、当初 5 月に予定していた、獣医学分科会・食の安全分科会が主催する「One health：新興・再興感染症 動物から人へ、生態系が産み出す感染症」と題するシンポジウムをオンラインで開催した。このような 24 期の「One health」をテーマにした活動から、社会と科学の溝、関連人材不足といった課題が抽出され、25 期でもシンポジウム、提言等、社会に向けた活動について継続して検討する。具体的				

	には、25期の2年目を目途に、獣医学分科会からの提言を発信する方向で、COVID-19で国民にも理解醸成されつつある野生動物からの病原体・感染症などの切り口から検討を進める。国民の one health、野生動物の病原体・感染症に関する科学的リテラシーの醸成も初等中等教育の段階から必要で、それらの点を提言の中に加えることも検討したい。次回のシンポジウム「社会との対話 III One Health 「薬剤耐性菌の脅威」を知る」を検討中であり、年度内の開催を予定している。 https://www.scj-vetfood.com/blank
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	「One health：新興・再興感染症 動物から人へ、生態系が産み出す感染症」2020年11月14日（オンライン開催） 「食の安全と環境ホルモン」（オンライン開催）2020年12月5日（土） 「食の安全と社会 vol2」（オンライン開催）2021年3月20日（土）
開催状況	第一回分科会 令和2年11月7日
今後の課題等	COVID-19流行で再認識された「One health」について、24期の活動成果を深化させ、シンポジウム、提言等を通して、国民の理解を深める活動を進める。

食料科学委員会（食の安全分科会）					
委員長	石塚 真由美	副委員長	澁澤 栄	幹事	芳賀 猛、有路 昌彦
主な活動	審議内容				
	第25期の食の安全分科会の活動について、以下の点について審議を行った。				
	1) 食の安全にかかわるシンポジウムの企画について				
	2) 提言に関する検討について				
	3) その他、食の安全にかかわる国内外の情勢について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現在、提言の発出に向けて、情報を収集し、議論を重ねている。				
	開催シンポジウム等				
	2020年11月14日「One health：新興・再興感染症～動物から人へ、生態系が産み出す感染症～」、2020年12月5日「食の安全と環境ホルモン」、2021年3月20日「食の安全と社会：科学と社会の対話 Vol 2」を開催した。				
開催状況	2020年11月7日（オンライン）、2021年1月30日（オンライン）に分科会を開催した。また、2021年8月21日、28日にもオンラインにて分科会を開催予定。				
今後の課題等	食の安全に関わる提言作成に向けて、シンポジウムの開催や分科会への参考人招致など、準備を進める。分野横断、市民ニーズを意識してシンポジウム等企画し、開催後のさらなる社会への還元・公開についてその方策を検討する。				

⑮基礎医学委員会



基礎医学委員会					
委員長	松田 道行	副委員長	佐々木 裕之	幹事	多久和 典子、五十嵐 和彦
主な活動	審議内容				
	所属する 11 の分科会の活動状況の確認と 24 期に発出した提言等の見直しを行ったのち、with/post COVID-19 の新しい日常における会議の在り方、学術会議の予算内訳の見直しと柔軟な運用など、様々な意見交換を行った。また、学術会議全般の活動を見直す中で、分科会会員の選考方法や時期を見直すことについての議論も行った。さらに、各分科会の委員長を務めている連携会員を基礎医学委員会に今期から委員として含め、各分科会間の交流を活発にすることとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	分科会を中心として活動し、本委員会からの意思の表出等を行わない予定である。				
	開催シンポジウム等				
	分科会開催のシンポジウム等を積極的に支援する。				
開催状況	2 回の分野別委員会（令和 2 年 10 月 3 日、令和 3 年 4 月 21 日）、オンライン懇談会（令和 3 年 2 月 8 日）、および複数議題に関するメールでの意見交換を行った。				
今後の課題等	オンライン会議による出席率の向上は委員会活動には大きなメリットである。コロナ後においてもオンライン会議を積極的に利用することで、経費削減と活発な				

	意見交換が進められると期待している。本委員会は、所属する分科会が、学術会議の特徴である幅広い専門分野の視点からの意思の表出を行えるよう支援していく予定である。
--	---

基礎医学委員会（形態・細胞生物医科学分科会）					
委員長	渡辺 雅彦	副委員長	仲嶋 一範	幹事	澤本 和延
主な活動	審議内容				
	高校生を主な対象として大都市を中心に開催してきた形態科学シンポジウムのコロナ下におけるあり方について議論した。その結果、今期はオンライン開催とする一方、全国の高校に広報を行い、普段参加しにくい全国各地の高校生に生命科学研究の面白さを知ってもらう機会にすることを目指すことになった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし。				
	開催シンポジウム等				
	慶應義塾大学を主管とし、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会と合同で、第12回形態科学シンポジウム「生命科学の魅力を語る～分子と細胞を観る楽しさ～」をオンライン開催した（令和3年8月20日）				
開催状況	令和3年2月22日 第25期・第1回分科会オンライン開催。 令和3年8月20日 第25期・第2回分科会オンライン開催。				
今後の課題等	次代の生命科学を担う高校生や理科担当教員等を対象として、生命科学の面白さや魅力を伝える講演会や、生命科学研究者と接することができる交流会を今後も継続するとともに、より魅力的な企画へとブラッシュアップする。				

基礎医学委員会（IUPS 分科会）					
委員長	久保 義弘	副委員長	赤羽 悟美	幹事	多久和 典子
主な活動	審議内容				
	1. 1年延期となったIUPS2022大会（北京、中国）の国際プログラム委員会が、2021年8月24日および25日にオンラインで開催された。委員長の久保と前委員長の御子柴がIUPS理事として出席し、学術プログラムの決定にあたった。 2. IUPS2022大会、FAOPS2023大会、第100回日本生理学会大会等の生理学大会が多数開催される2022-23年を、Year-of-Physiologyと銘打ってIUPSがプロモーション活動を行うことになった。その国際タスクフォースメンバーに久保と副委員長の赤羽が加わり、8月12日の第1回Zoom会合にて意見交換を行った。 3. 8月2日の国際ユニオン交流会に久保が出席し情報収集と意見交換を行った。 4. 下記のIUPS分科会の委員会では、樽野陽幸氏を委員（特任連携会員）として推薦することを決定し、IUPSおよびFAOPSに関する情報共有と意見交換を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	ありません。				
	開催シンポジウム等				
	ありません。				
開催状況	2020（令和2）年12月14日：オンライン会議				

今後の課題等	IUPS2022 大会（中国）、および FAOPS2023 大会（韓国）を成功に導くために協力し、世界の生理科学の振興に貢献するとともに、日本のプレゼンスを示す。
--------	---

基礎医学委員会（免疫学分科会）					
委員長	小安 重夫	副委員長	東 みゆき	幹事	反町 典子、吉村 明彦
主な活動	審議内容				
	1) 感染症との戦いに免疫学会としてどのように取り組むか、2) ワクチン忌避問題について、3) 教科書問題、の3点を議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記テーマに関して発信することが必要ではないかとの意見がだされ、方法に関しては今後検討していくこととした。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年2月16日に Zoom にて第1回分科会を開催し、役員を選出した。出席者9名、欠席者1名。その後令和3年3月19~26日に第2回分科会をメール会議として開催した。				
今後の課題等	今期は以下の項目について検討を進める。1) COVID-19 を受け、感染症との戦いの主役である免疫システムを研究する免疫学が研究面からどのような貢献ができるかを検討する。2) ワクチンの忌避問題がしばしばワクチンの広範な接種の阻害要因となることから、正確な情報発信について議論する。3) 高校教育「生物基礎」における免疫学で取り扱うべき用語をしっかりと検討し提言してゆく。以上3項目はいずれも社会とのつながりとしても重要な案件である。				

基礎医学委員会（神経科学分科会）					
委員長	伊佐 正	副委員長	柚崎 通介	幹事	大木 研一、渡部 文子
主な活動	審議内容				
	・神経倫理に関する論点、提言のまとめ方、今後のシンポジウム開催について ・脳科学関連学会連合との連携について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「神経倫理」に関する提言を他の分科会と連携して発出する予定。				
	開催シンポジウム等				
	アディクション分科会、脳とこころ分科会と合同で公開シンポジウム「現代社会とアディクション」を開催した（2021/3/28）。脳とこころ分科会他との合同シンポジウム「脳とこころから見た With/Post コロナ時代のニューノーマルの課題と展望」の第一回「コロナ禍とメンタルヘルス・教育・保健医療」（2021/6/20）と第二回「コロナ禍における脳科学と人工知能」（2021/6/27）を開催した。				

開催状況	第一回分科会（2021/1/11）を単独で、第二回分科会（2021/6/27）を脳とこころ分科会と合同で、いずれもオンラインで開催した。
今後の課題等	世間の関心がコロナ一色になっている中においても、地道な基礎科学の振興、また神経科学の発展に伴う倫理の問題等について、必要に応じて分科会の枠を超えた地道な議論を続けていきたい。『持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022』（IYBSSD2022）に向けた取り組みに関し、関連委員会・分科会等と情報・意見の交換を行っていきたい。

基礎医学委員会（IUPHAR 分科会）					
委員長	金井 好克	副委員長	吉岡 充弘	幹事	赤羽 悟美、古屋敷 智之
主な活動	審議内容				
	本委員会委員長が2ヶ月毎に開催される IUPHAR 理事会に IUPHAR 次席副会長として出席しており、その報告に基づき今期の活動内容を審議した。IUPHAR では現在組織改編改革が行われており、わが国のイニシアティブを維持向上させるため、IUPHAR への働きかけと、施策を継続して検討していくこととした。また、国内対応として、薬理科学関連学会の統合的な連携を構築し、国際対応基盤を強化することとした。ウェブサイト「国際交流ひろば」を開設。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	総合的な薬理科学の視点から、生命科学とその応用分野および国際保健、国際対応に関わる意思の表出を検討。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	IUPHAR 加盟国間の連携として、令和3年3月9日に JPS-ASCEPT Lecture（オーストラリア・ニュージーランド薬理学会からの講師招聘講演）、令和3年3月10日に日中薬理学・臨床薬理学ジョイントミーティング（中国薬理学会との連携）、令和3年4月30日に ASPET-JPS Lecture（米国薬理学会への講師派遣講演）、令和3年6月25日に日韓薬理学合同セミナー（韓国薬理学会との連携）を開催。（以上をオンライン開催）				
	令和3年6月7日（第1回）				
今後の課題等	今期の活動方針として以下の柱を設定した：（1）IUPHAR を基軸とした国際的プレゼンスの維持・向上と国際的人材の育成。（2）生命科学における薬理科学の位置付けの確立と、基礎生命科学から創薬、医療に関わるわが国の薬理科学関連学会の統合的な連携の構築。（3）総合的な薬理科学の視点から、生命科学とその応用分野および国際保健、国際対応に関わる意思の表出を検討。				

基礎医学委員会（病原体学分科会）					
委員長	鎌倉 光宏	副委員長	赤池 孝章	幹事	澤邊 京子

主な活動	審議内容
	活動方針に関する意見収集を行い、委員からゲノムデータバンキング、分野横断的マトリックス研究、感染症疫学の強化、危機管理体制の構築、動物ならびにベクター介在感染症分野(衛生動物学や寄生虫学)との連携等の重要性が指摘された。合意事項として、当面の目標としてワクチンリテラシー教育(仮題)を作成することとした。
	意思の表出(※見込み含む)
	ワクチンリテラシー教育(仮題)を作成予定である。本年4月に第二部部会で出された新型コロナウイルス感染症に関連して審議すべき顕在化した課題との関連では、本提言は「ワクチンの啓発運動(学校での教育も含む)」に関わるものと思われる、「感染予防や保健の教育の必要性」に関しては、当分科会23期、24期で審議し2019年5月に発出致した提言「我が国における微生物・病原体に関するリテラシー教育」(http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t275-1.pdf)がその目的を果たしていると考えられる。
	開催シンポジウム等
	現在予定しているものはない。
開催状況	令和3年2月に第1回、3月に第2回、5月に第3回会議を行った。第1回と第3回は日本微生物学連盟理事会、日本学術会議総合微生物科学分科会・IUMS分科会・病原体学分科会合同会議として行った。
今後の課題等	優先順位の高い提言として、SARS、MERS、新型コロナウイルス等を含めたワクチン全般に関するリテラシーを検討すべきであるとの合意を得ており、デルタ株を含む新型コロナウイルス感染症流行の国内の動向、中等・高等学校におけるCOVID-19ワクチンの接種見通し、接種後の課題などを見据えて教育関係者を主たる対象とした提言を作成して行く予定である。

基礎医学委員会 (ICLAS 分科会)					
委員長	入来 篤史	副委員長	門松 健治	幹事	伊佐 正
主な活動	審議内容				
	・ICLAS が検討を始める見通しの、創立以来60年ぶりの「基本理念」の見直し改訂にかかり、設立に寄与した日本学界として積極的に貢献する方法について。 ・昨期より申し送りの、動物実験学術会議ガイドラインの、ICLAS-CIOMS ガイドライン改訂に対応した更新の、関連分科会と協働して進める段取りについて。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	ICLAS-CIOMS ガイドラインが改訂されたことに対応して、現行の動物実験にかかる学術会議ガイドラインを、関連分科会と協働して更新し表出する。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第一回分科会(令和3年1月14日)をオンラインにて開催した。				

今後の課題等	ICLAS 内に「基本理念」見直し改定の作業部会が立ち上がりつつあることに対応して、現状コロナ禍への対応にかかり動物実験の重要性が高まっている現状を踏まえ、創立貢献国としての日本のリーダーシップを発揮するための、国内関連学協会との有効で機動的な協働体制の構築を目指す方策を惟る。
--------	---

基礎医学委員会・臨床医学委員会（アディクション分科会）					
委員長	池田 和隆	副委員長	伊佐 正	幹事	西谷 陽子、南 雅文
主な活動	審議内容				
	・新規分科会設置に伴い、委員長、副委員長、幹事の選出を行った。 ・前期の第 24 期に提言を発出し、日本におけるアディクション研究センターの必要性を示したので、第 25 期はその提言の実現に向けた活動をする方針を決めた。 ・様々なアディクション問題に対応するために、第一部からも委員を迎え、より学際的な検討を進めることとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言作成、「学術の動向」誌投稿、シンポジウム開催を行う見込み。				
	開催シンポジウム等				
	令和 3 年 3 月 28 日にオンライン公開シンポジウム「現代社会とアディクション」を当分科会が中心的に主催。令和 3 年 6 月 20, 27 日にオンライン公開シンポジウム「脳とこころから見た With/Post コロナ時代のニューノーマルの課題と展望」を共同主催。				
開催状況	令和 2 年 12 月 26 日および令和 3 年 3 月 28 日に分科会開催				
今後の課題等	第 25 期は、第 24 期に発出した提言を実現させるための議論と活動を行う。具体的には、提言を受けて国立精神・神経医療研究センター内にアディクション研究センターが設置される見込みとなったことから、この新センターにおいて学際的で社会に貢献できる研究がなされるように、学術会議ならではの大局的な議論と活動を行う。				

⑩臨床医学委員会



臨床医学委員会					
委員長	名越 澄子	副委員長	山本 晴子	幹事	荒井 秀典、木村 通男
主な活動	審議内容				
	- 第 25 期は学協会や学協会連合会などと積極的に連携し、第 1 部・3 部の会員と合同で分科会活動を行う方針となった。 - 医学会連合との定期的な懇談会を継続し、協同して提言や声明を発出するなど密に連携していくこととなった。 - 第 25 期の最初の年度として 14 分科会が設置され、委員長のうち 4 名が連携会員、1 名が特任連携会員であったことから、「提言」等の在り方や分科会の活動について情報交換を行うために、それぞれ委員とオブザーバーとして当委員会に参加することとなった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	発出予定の提言として、「医療の現場から放射線の国民的な理解促進に向けた提言」（放射線防護・リスクマネジメント分科会）と「10 歳代の望まぬ妊娠に				

	ついて」(出生・発達分科会)、「慢性疼痛の解決に向けた医療体制整備の在り方とその機能評価に基づく医療資源の特定」(慢性疼痛分科会)がある。 開催シンポジウム等 - 新型コロナウイルス感染症の蔓延に対して、脳とこころ分科会が公開シンポジウム「脳とこころから見た With/Post コロナ時代のニューノーマルの課題と展望」Part 1:「コロナ禍とメンタルヘルス・教育・保健医療」(令和3年6月20日)、Part 2:「コロナ禍における脳科学と人工知能」(令和3年6月27日)を開催した。これらの公開シンポジウムは第1部・2部・3部の関係分科会とともに分野横断的に開催されたことが特徴である。 - 学協会との連携としては、日本医学会連合、日本薬学会、日本学術会議第2部との主催で行われた公開シンポジウム「新型コロナウイルスワクチンを正しく知る」(令和3年7月17日)および日本医学会連合と日本学術会議との主催の学術フォーラム「コロナ禍を共に生きる 新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown #1「新型コロナウイルスワクチンと感染メカニズム」(令和3年5月8日)、#2「新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性:臨床の現場を知り、何をすべきか一緒に考えましょう。」(令和3年9月18日)において臨床医学委員会委員が精力的に企画・運営に貢献した。 - 新型コロナウイルスにより中止となった公開シンポジウム「現代社会とアディクション」(令和2年4月予定)が令和3年3月28日に脳とこころ分科会とアディクション分科会との合同でWEB開催された。今期は、分野横断的に多様な分科会と合同でシンポジウム等を開催する予定である。
開催状況	第1回臨床医学委員会 WEB 会議:令和2年10月3日(土)。他、メールでの審議・承認および意見交換を行った。
今後の課題等	- 今期は、臨床研究法の問題だけでなく、政府やマスメディアの臨床研究に対する理解も含めて、日本の臨床研究体制について広く論じ、臨床研究を衰退させないための提言を学術会議として発出する。 - 特に、COVID-19などの緊急事態における臨床研究を重要課題として取り上げる。

臨床医学委員会 (出生・発達分科会)					
委員長	水口 雅	副委員長	藤井 知行	幹事	船曳 康子
主な活動	審議内容				
	役員を選出し、特任連携会員を推薦した。				
	第25期に取り組む課題として「若年女性の望まぬ妊娠」を取り上げた。特定妊婦の支援や特別養子縁組などの現状と問題点について議論した。				
	意思の表出 (※見込み含む)				

	「若年女性の望まぬ妊娠」の現状と問題点を整理した。 提言作成に向け、進め方を議論している。
	開催シンポジウム等
	予定していない。
開催状況	第1回（令和3年1月26日）Web開催 第2回（令和3年5月6日）Web開催
今後の課題等	子どもの身体的・精神的・社会的な健康に関する諸問題を議論し、必要な提言を行って、国関連施策の推進に資するとともに、広く国民への啓発を行う。 インパクトのある提言を作成するための進め方を議論している。

臨床医学委員会（臨床研究分科会）					
委員長	名越 澄子	副委員長	山本 晴子	幹事	田中 教雄
主な活動	審議内容				
	「緊急事態における臨床研究」を課題として取り上げることとなった。インフォームドコンセントや倫理審査の簡略化だけでなく、得られた試料や情報の共有化なども含め、社会的課題として多分野の講師を交えてのシンポジウムなどを行い、積極的に情報発信していく方針となった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	必ずしも提言の発出にはこだわらない方針である。				
	開催シンポジウム等				
	今年度は行っていないが、来年度はシンポジウムを計画する予定である。				
開催状況	第1回臨床医学委員会：令和3年2月19日				
今後の課題等	WEB会議において、第1部・3部からも講師を招き、法制度の問題も含めて「緊急事態における臨床研究」について課題を抽出する。				

臨床医学委員会（循環器・内分泌・代謝分科会）					
委員長	山本 晴子	副委員長	荒井 秀典	幹事	（なし）
主な活動	審議内容				
	高齢化社会における新しい循環内分泌代謝学の推進や、循環内分泌代謝疾患の発症予防に資するデータベースの構築などに係る事項について審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	本委員会が 2017 年に発表した報告の内容の実行状況を検証し、不足部分やコロナ禍等により新たに生じた問題等をまとめていく方向となった。
	開催シンポジウム等
	未定
開催状況	2021 年 4 月 28 日、第 25 期第 1 回委員会をウェブ形式にて開催した。
今後の課題等	令和元年 12 月に「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」が施行されたところでもあり、発症予防を目指した学術や臨床研究のあり方、さらに社会との連携について議論を重ねる。

臨床医学委員会（脳とこころ分科会）					
委員長	山脇 成人	副委員長	松井 三枝	幹事	林 朗子
主な活動	審議内容				
	神経科学分科会が移植再生医療分科会とともに神経倫理についての合同公開シンポジウムを今年の後半か来年に開催したいとの提案に賛同・協力する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和 2 年 6 月 25 日に、日本脳科学関連学会連合と連携して、緊急提言「新型コロナウイルス感染に係るメンタルヘルス危機とその脳科学に基づく対策の必要性」を発出した。今後神経科学における研究倫理、脳への介入における倫理に関する社会への発信を脳科連などと連携して進めていく方向になった。				
	開催シンポジウム等				
	「現代社会とアディクション」公開シンポジウムをアディクション分科会との合同で WEB 開催（令和 3 年 3 月 28 日）。「脳とこころから見た With/Post コロナ時代のニューノーマルの課題と展望」Part 1: コロナ禍とメンタルヘルス・教育・保健医療（令和 3 年 6 月 20 日、主催者 30 名、参加者 1726 名）、Part 2: コロナ禍における脳科学と人工知能（令和 3 年 6 月 27 日、主催者 30 名、参加者 643 名）を第 1 部、2 部、3 部の関係分科会とともに WEB 開催した。				
開催状況	令和 3 年 1 月 22 日、第 25 期脳とこころ分科会第 1 回を、同 6 月 27 日、神経科学分科会と合同で第 2 回を WEB 開催した。				
今後の課題等	COVID-19 パンデミックに伴う社会・医療・学術的問題、神経倫理の問題についても脳科学関連学会連合と連携し、積極的に発信していく。				

臨床医学委員会（老化分科会）					
委員長	荒井 秀典	副委員長	遠藤 玉夫、秋下 雅弘	幹事	飯島 勝矢
主な活動	審議内容				
	前回提言内容の振り返りを行うとともに COVID-19 による高齢者のフレイル化について、他の分科会と連携して、メッセージを発出することとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	高齢者における COVID-19 による身体的、精神心理的、社会的影響の実態と解決策を目指した提言を発出予定。
	開催シンポジウム等
	ケアサイエンス分科会、健康・生活科学委員会看護学分科会、社会学委員会社会福祉学分科会と共催で、「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」と題した合同シンポジウムを令和3年5月23日に開催した。
開催状況	令和3年1月12日第1回目の委員会を開催（Web）：委員長、副委員長、幹事の決定 令和3年2月15日委員長、副委員長、幹事によるオンライン会議：提言に関して、分科会のあり方に関して、COVID-19 に関して、合同シンポジウムの開催について議論を行った。
今後の課題等	Web 会議を通して、関連学会との連携でこれまでの提言のインパクトを検証するとともに、他の分科会と共同でシンポジウムの開催をしたい。今期中に提言をまとめたい。

臨床医学委員会（移植・再生医療分科会）					
委員長	澤 芳樹	副委員長	岡野 栄之	幹事	岡田 潔
主な活動	審議内容				
	・第25期の活動方針について ・移植、遺伝治療、再生医療分野のアクションプランについて ・提言に基づいたシンポジウムの開催について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	再生医療等安全性確保法の見直しに係る WG（厚生労働省委託事業）にて、提言に基づく意見を、再生医療学会を介して提出見込み				
	開催シンポジウム等				
	本分科会主催の公開シンポジウム開催を検討（2022年2月頃）タイトル案「移植、遺伝子、再生医療の課題と改革」				
開催状況	第1回 令和3年1月14日 第2回 令和3年4月27日 第3回 令和3年7月21日				
今後の課題等	第25期は、第24期に公表した提言「我が国における移植医療と再生医療の発展と普及」に基づき、移植、遺伝子治療、再生医療の課題を抽出し、提言に基づいたアクションプランを作成するとともに、アクションプランに基づいたシンポジウムの開催や議論の検討内容を取りまとめることを目標に活動を行っていく。				

臨床医学委員会（放射線・臨床検査・病理分科会）					
委員長	井上 優介	副委員長	増田 しのぶ	幹事	青木 茂樹、山田 俊幸

主な活動	審議内容
	臨床医学における放射線、臨床検査、病理に関する事項について、ワーキンググループ等で個別に検討し、その結果を踏まえて分科会で総合的に審議することになった。
	本分科会の前身である放射線・臨床検査分科会から第 23 期に発出した提言「CT 検査による医療被ばく低減に関する提言」を踏まえて医療法施行規則が改正され、患者の受ける医療放射線被ばくの適正化について大きな一歩が踏み出された。今期は医療従事者が受ける職業被ばくの管理について審議することになった。
	臨床検査では、第 24 期に引き続いて臨床検査値の共有化について審議し、報告をまとめて啓発を図ることになった。
	病理については、病理診断情報の共有化に関する現状と課題について、医療情報全体の問題を踏まえて審議することになった。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和 3 年 2 月 5 日 令和 3 年 6 月 28 日
今後の課題等	医療機関の中央部門である 3 つの専門領域から参画する本分科会において、各領域の個別審議と総合審議を組み合わせることで、広く社会に貢献する成果を生むことが期待される。 今後、医療従事者の放射線管理、臨床検査値の共有化、病理診断情報の共有化の 3 つのテーマを中心に審議を行い、報告または提言の発出を検討する。参考人としての情報提供やワーキンググループ構成員としての参加等を通じ、外部有識者の意見も積極的に取り入れる。

臨床医学委員会委員会（放射線防護・リスクマネジメント分科会）					
委員長	神谷 研二	副委員長	青木 茂樹	幹事	井上 優介、細谷 紀子
主な活動	審議内容				
	・医療法施行規則改正で診療用放射線の安全管理が義務付けられたことを踏まえ、医療従事者を中心とした放射線教育やリスクコミュニケーションについて議論 ・福島原発事故の経験を活かした放射線リスクコミュニケーションの在り方について議論				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言案「医療の現場から放射線の国民的な理解促進に向けた提言」を表出予定				

	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和3年3月1日（月）第25期・第1回放射線防護・リスクマネジメント分科会開催、随時メールによる意見交換
今後の課題等	提言案「医療の現場から放射線の国民的な理解促進に向けた提言」を取り纏め、提言内容の実効性を高めるため関連学会等との連携を検討する

臨床医学委員会（感覚器分科会）					
委員長	寺崎 浩子	副委員長	山嵜 達也	幹事	五味 文、松本 有
主な活動	審議内容				
	・コロナ感染を恐れた受診控えによる感覚器疾患の悪化を防止するための対策や、病床ひっ迫のための患者選択のガイドラインの検討。 ・「コロナ禍での感覚器障害のリスクについて」をテーマとした市民公開講座の2021年度開催を検討。 ・感覚器医学の普及と振興を目指し、人文科学・生命科学・工学研究者を対象に「デジタル化との共生について」をテーマとした公開シンポジウムの2023年度立ち上げを検討。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2021/1/31（Web 会議）、2021/4/22（Web 会議）、2021/5/27（メール会議）、2021/8/1（メール会議）。				
今後の課題等	「デジタル化社会と感覚器」を大きなテーマに見据えて活動を開始したが、COVID-19 収束の兆しがいまだ見えず、感覚器に関する健康二次被害の防止を喫緊の重要課題と捉えて審議を進めている。				

臨床医学委員会（慢性疼痛分科会）					
委員長	中村 雅也	副委員長	住谷 昌彦	幹事	村井 俊哉
主な活動	審議内容				
	・新規分科会設置に伴い、委員長、副委員長、幹事の選出を行った。さらに、特任連携会員の選出を行った。 ・前期の第24期に作成した提言草案を基に、第25期は提言を発出しその提言内容の実現に向けた活動をする方針を決めた。 ・慢性疼痛の解決に向けた医療体制整備の在り方とその機能評価、必要な医療資源の特定、医療者の教育体制についての議論を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言作成、学術誌への position paper の投稿				

	開催シンポジウム等
	なし。現在取り纏め中の提言の発出後にシンポジウム開催を検討している。
開催状況	令和2年12月28日および令和3年4月9日に分科会開催
今後の課題等	第25期は、第24期に草案を作成した提言を発出し、その提言内容を実現させるための議論と活動を行う。具体的には、官学-アカデミア間の分野横断的連携による慢性疼痛に対する医療体制整備の在り方とその機能評価に基づく医療資源を特定し、それを提供する医療者の教育体制を整備することを目指す。学術会議ならではの大局的な議論と活動を行う。

⑰健康・生活科学委員会



健康・生活科学委員会					
委員長	小松 浩子	副委員長	安村 誠司	幹事	杉山 久仁子、山口 香
主な活動	審議内容				
	人々が環境との関わりにおいてより健康で豊かな生活を送るため、QOLの維持・向上をめざし、健康と安全、安寧や幸福のための健康・生活上の課題について科学的な視点から検討する。分科会を横断する共通課題「健康危機に備え・対応できる人材の育成」については、学協会との連携・協働のもと、シンポジウムをシリーズで開催し、全ての人々の健康レジリエンスを高めるための教育・研究・実践のあり方や政策提言を検討する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	シリーズで実施したシンポジウムをもとに、「健康危機に備え・対応できる人材の育成」について提言の発出を行う。				
	開催シンポジウム等				
	・12月21日(予定) 公開シンポジウム「ポストコロナ時代に求められる公衆衛生人材（仮題）」健康・生活科学委員会、パブリックヘルス科学分科会ほか 主催				
開催状況	第1回：2020年10月3日、第2回2021年2月17日、第3回：2021年4月21日				
今後の課題等	各分科会の共通課題「健康危機に備え・対応できる人材の育成」についてシンポジウムをシリーズとして展開することで、課題を共有し、健康危機の時代に求められる人材の教育、医療・保健・福祉システムの開発や政策について多角的に議論を展開する。多分野の学協会との協働・連携を強化し、議論を広範囲に展開する。				

健康・生活科学委員会・基礎医学委員会合同（パブリックヘルス科学分科会）					
委員長	磯 博康	副委員長	玉腰 暁子	幹事	堀江 正知、瓜生原 葉子
主な活動	審議内容				
	本分科会からの提言のテーマとして、新型コロナウイルス感染症の世界的流行を鑑み、①健康危機と疾病予防に対する公衆衛生・医療人材の育成と緊急時の対応と、②健康危機と疾病予防に対応する情報の一元化と IT 活用（ライフコースに沿った情報のリンケージと学術活用も含む）に関して、委員会全体、他の分科会、学会と共同でシンポジウムや提言の作成を行うこととした。また、気候変動に伴う環境保健問題、水俣病・アスベスト等の健康被害に非認定者への対応等に関して、環境リスク分科会と検討してゆくこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記①、②の関する意見表出を予定している。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	公開シンポジウム「ポストコロナ時代に求められる公衆衛生人材」（日本学術会議健康・生活科学委員会、日本公衆衛生学会、社会医学系専門医協会が主催）令和3年12月21日（火）第80回日本公衆衛生学会総会				
	第1回 令和2年12月24日（木）Web 会議 第2回 令和3年8月12日（木）メール決議（公開シンポジウムの承認）				
今後の課題等	従来は、分科会の中での活動が中心であったが、公衆衛生分野の諸問題への対応について、委員会、他の分化会とともに議論を行い、提言の作成を進める。				

健康・生活科学委員会（看護学分科会）					
委員長	小松 浩子	副委員長	西村 ユミ	幹事	萱間 真美、新福 洋子
主な活動	審議内容				
	With/After コロナ時代の看護と社会との協働推進を主課題に、①With/After コロナ時代の看護とデジタルトランスフォーメーションの推進、②地元創成看護学の展開と検証、について統合的に議論しつつ、学協会との連携・協働に基づき科学的助言を検討している。地元創成看護学に関しては、複数の看護系大学において新カリキュラムへの導入が進められている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「With/After コロナ時代の看護とデジタルトランスフォーメーションの推進」、ならびに「地元創成看護学の展開と検証」について見解の発出を計画している。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	・令和2年12月13日 日本看護系学会協議会との連携・協働事業として、日本看護科学学会第40回学術集会・日本看護系学会協議会共催による共同セミナー「[日本学術会議 提言]「地元創成」の実現に向けた看護学と社会との協働の推進」実施 ・令和3年9月25日 13:00～16:00（予定） 公開シンポジウム「With/After コロナ時代の看護とデジタルトランスフォーメーション」（後援 日本看護系大学協議会、日本看護科学学会、日本看護協会）				
	令和2年11月15日、12月29日、令和3年2月1日、4月12日ビデオ会議				
今後の課題等	With/After コロナ時代の看護と社会との協働推進に向けた2つの取り組みを中心				

	に活動をすすめる。ことに、学協会との協働・連携を強化し、新型コロナウイルス感染症の拡大による医療・保健・福祉の変化の動向を的確に把握しつつ論議をすすめる。
--	---

健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同（生活習慣病対策分科会）					
委員長	八谷 寛	副委員長	磯 博康	幹事	郡山 千早、小熊 祐子
主な活動	審議内容				
	第 24 期の提言「生活習慣病予防のための良好な成育環境・生活習慣の確保に係る基盤づくりと教育の重要性」を受け、特に学校教育、医学教育に関する提言の実現に向けてシンポジウムや関係機関との意見交換などの活動を行うこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「生活習慣病予防に資する学校教育、専門家教育（医学教育）のあり方について」（見込み）				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「幼小児期・若年期からの生活習慣病予防」（日本学校保健学会と共催）、令和 3 年 11 月 6 日（土）以降 11 月 30 日までインターネット配信				
開催状況	第 1 回 令和 3 年 2 月 8 日（月）Web 会議				
今後の課題等	健康施策に議論や提言を反映させることができるよう戦略的な活動を行いたい。				

健康・生活科学委員会・歯学委員会合同（脱タバコ社会の実現分科会）					
委員長	山下 喜久	副委員長	井上 真奈美	幹事	永田 知里
主な活動	審議内容				
	当初の 10 名の委員からなる委員会 今期の活動方針の一つに前 24 期に当該分科会から発出された 2 つの提言の社会波及効果の検証を行うと共に今期の提言作成に向けたテーマの模索を開始した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	2 つの提言の社会的波及効果の検証結果の報告				
	開催シンポジウム等				
	市民公開シンポジウム「口腔疾患の予防・治療・保健教育の場の喫煙防止・禁煙支援指導などの喫煙対策の場として活用すべきである」の開催 開催日時：2021/12/12（日）14:20-17:00 開催地：名古屋国際会議場（愛知県名古屋市熱田区熱田西町 1－1） （第 25 回日本顎顔面インプラント学会総会学術大会併催）				
開催状況	第一回委員会：令和 2 年 12 月 18 日（金）10:00～11:00（Web によるオンライン会議） 第二回委員会：令和 3 年 1 月 15 日（金）15:00～16:30（Web によるオンライン開催）				

	第三回委員会：令和3年4月6日（火）17：00～19：00（Webによるオンライン開催）
今後の課題等	これまでに開催した3回の委員会で、今期の活動方針を無事決定し、活動方針に沿った分科会活動を開始した。今期の提言作成については、前期提言の実社会における活用状況の調査結果も踏まえ、どのような提言の作成を行うべきかは今後の本分科会の検討事項とした。

健康・生活委員会（健康・スポーツ科学分科会）					
委員長	宮地 元彦	副委員長	來田 享子	幹事	山口 香、神崎 素樹
主な活動	審議内容				
	第25期に入り2回の分科会を開催し、第1回の分科会では、表出を予定している提言「社会参加へと導くスポーツのあり方 一つながるスポーツの力」の執筆に関する討議を進め、執筆・編集作業を継続している。第2回分科会では、2021年7月から9月にかけて開催される東京オリ・パラ2020に関し、「コロナ禍における東京オリ・パラ開催に関する意見交換」を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「社会参加へと導くスポーツのあり方 一つながるスポーツの力」（仮題）を表出の予定				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2020年12月7日第1回分科会 2021年5月20日第2回分科会				
今後の課題等	検討してきた提言の執筆を完了させ、できるだけ早い時期に表出することを2年目の目標としたい。				

健康・生活科学委員会（家政学分科会）					
委員長	杉山 久仁子	副委員長	守随 香	幹事	阿部 栄子、重川 純子
主な活動	審議内容				
	・生涯学習及び家庭科における免許外教科担任制度それぞれについて、課題への対応を審議。				
	・コロナ禍で明らかになった課題に対応するための活動について審議。				
	・本分科会と生活科学関連学協会との連携を図るために設立されている「生活科学系コンソーシアム www.seikatsuconso.jp 」の活動についても審議。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				

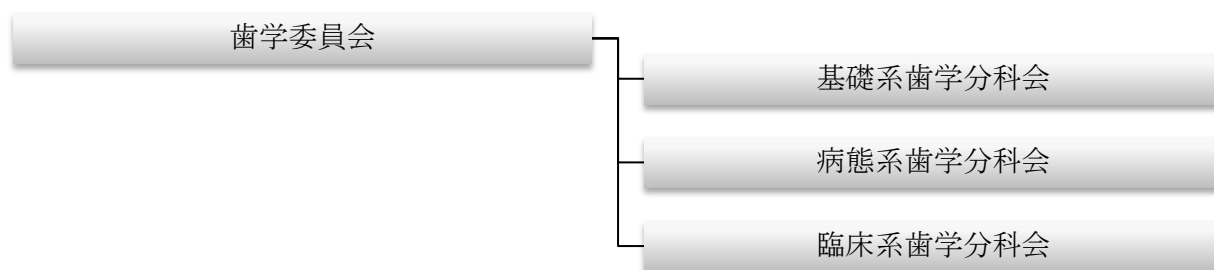
	・生活科学系コンソーシアム主催のシンポジウム「前期（第24期）日本学術会議から発出した生活科学関連の3つの提言について」（令和2年12月26日、オンライン）を開催。 ・公開シンポジウム「健康栄養教育を担う管理栄養士の役割」（令和3年10月16日、オンライン）、「住居領域における専門教育と資格教育のあり方」（令和3年11月20日、オンライン）を企画・開催予定。
開催状況	令和2年11月30日、12月26日、令和3年3月24日、5月11日、8月30日
今後の課題等	コロナ禍で安心・安全な社会を維持するためには、生活者一人ひとりの意識や行動が重要であることが再認識された。そのために必要なスキルを身に付けるための学校教育及び生涯学習の在り方について検討し、第25期中に提言としてまとめたい。

第Ⅱ部生活科学委員会委員会（高齢者の健康分科会）					
委員長	住居 広士	副委員長	須田 木綿子	幹事	飯島 勝矢、田高 悦子
主な活動	審議内容				
	第1回高齢者の健康分科会(令和2年12月17日) 委員長と役員の選出と会議等 第2回高齢者の健康分科会(令和3年2月3日) 第25期のテーマを意見交換した。 第3回高齢者の健康分科会(令和3年4月26日) 臨床医学系学術の役割と発揮 第4回高齢者の健康分科会(令和3年6月25日) 社会科学系学術の役割と発揮				
	意思の表出（※見込み含む）				
	高齢者の健康・生活の視点から新型コロナウイルス感染症対策に求められる学術の役割と発揮(案)を令和3年度に提言する。第一部社会科学系・第二部臨床医学と健康生活化学系・第三部理工学のグループ会議及び各部から新型コロナウイルス感染症に関する学術の役割と発揮を話題提供をした。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	高齢者の健康分科会の会議内にて、第一部・第二部・第三部のグループ内のシンポジウムを開催した。会議及び各部から新型コロナウイルス感染症に関する学術の役割と発揮を議論した。Zoom シンポジウムと質疑応答ならびに学術会議をした。				
	第1回高齢者の健康分科会(令和2年12月17日) 第2回(令和3年2月3日) 第3回(令和3年4月26日) 第4回(令和3年6月25日)第3回(令和3年9月1日) 第4回(令和3年12月中間提言案)第5回(令和4年2月提言案予定)				
今後の課題等	3年間の活動方針は、高齢者の健康・生活の視点から新型コロナウイルス感染症対策に求められる学術の役割と発揮を提言する。第一部・第二部・第三部による学際的アプローチが必要である。新型コロナウイルス感染症に高齢者の健康に焦点化が必要である。				

健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同（少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会）					
委員長	西村 ユミ	副委員長	荒井 秀典	幹事	森山 美知子、山川 みやえ
主な活動	審議内容				

	社会的課題に対応すべく、短期目標として「With／After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」を主たるテーマとし、連続シンポジウムを企画、開催した。長期目標として、ケアに関わる先進的取り組みの集約、ケアサイエンス概念の洗練、およびケア共同社会の実現に向けた科学的助言のための議論を実施した。
	意思の表出（※見込み含む）
	ケアサイエンスに関する成書の出版を計画している。
	開催シンポジウム等
	令和3年5月23日「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」、6月2日、27日「脳とところから見た With/Post コロナ時代のニューノーマルの課題と展望」
開催状況	令和2年12月19日、令和3年1月24日、5月23日ビデオ会議開催
今後の課題等	今期中に、「With／After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」に関する2回の公開シンポジウムを開催する。シンポジウムによって、多分野および市民と交流し、長期目標の活動に繋げる予定である。

⑩歯学委員会



歯学委員会					
委員長	市川 哲雄	副委員長	西村 理行	幹事	村上 伸也
主な活動	審議内容				
	24 期の活動を踏まえ、中長期的視点と俯瞰的視野、学術分野横断的な発信、対話を通じた情報発信力の強化の観点から、報告/提言「COVID-19 感染拡大による口腔科学、歯学分野の臨床、研究、教育への影響と対応」、「口腔科学、歯学の現状と将来展望」を作成することにした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告/提言「歯学・口腔科学分野の課題と展望」、「新型コロナ感染症とコロナ禍における口腔に関連した諸問題とその対応」を今年度中を目途に作成				
	開催シンポジウム等				
	学術講演会「歯と口と健康のための体制作り： 歯学における学術活動および国民への周知活動の方向性」（令和 2 年 11 月 30 日 Web 講演会） 学術講演会「新型コロナウィルス感染症対策の現状と今後 -歯科からの発信-」（令和 3 年 6 月 29 日 Web 講演会）				
開催状況	第 1 回歯学委員会(令和 2 年 10 月 3 日)、第 2 回歯学委員会(令和 3 年 1 月 22 日)、第 3 回歯学委員会(令和 3 年 6 月 25 日)				
今後の課題等	口腔科学、歯学が関連する学術分野横断的な課題を検討し、発信していくことを確認した。				

歯学委員会（基礎系歯学分科会）					
委員長	西村 理行	副委員長	石丸 直澄	幹事	東 みゆき、前川 知樹
主な活動	審議内容				
	1. 基礎系歯学の学術の現状認識を踏まえて、今後の歯学・口腔科学の基礎系領域の学術のあり方、展望および情報発信に関する課題を協議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				

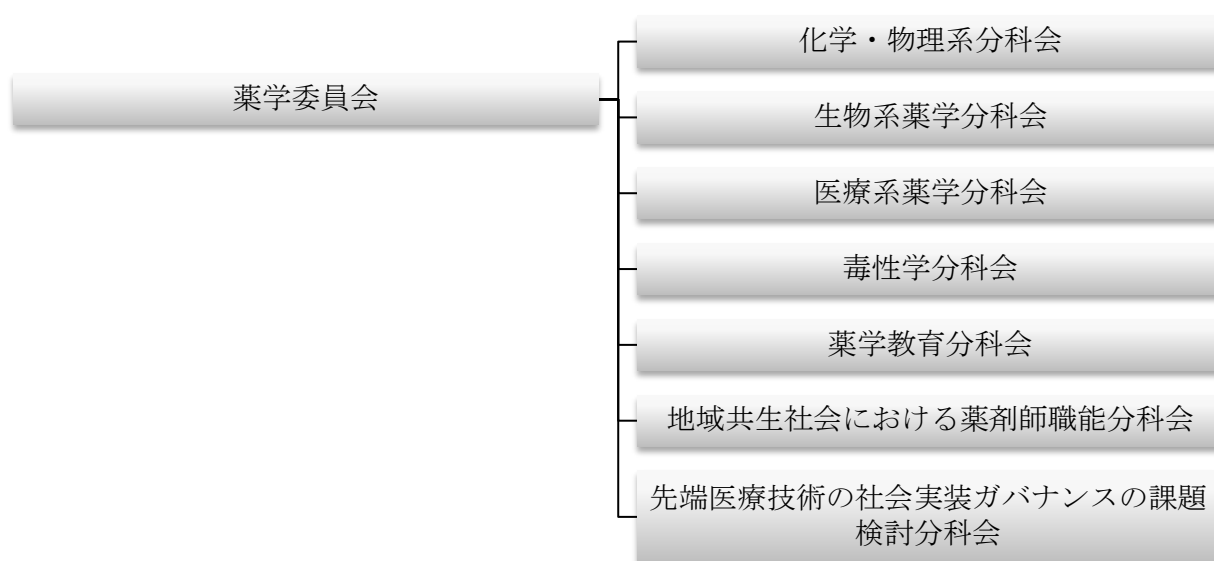
	1. 歯学委員会と合同にて委員会を開催し、連携して、「歯学・口腔科学の課題と展望（仮）」の提言・報告の意義と方向性について協議した。 2. 当分科会が主体となるシンポジウム企画について協議した。
	開催シンポジウム等
	10月9日に、第63回 歯科基礎医学会学術大会（Web開催）にて、本分科会メンバーが中心となり、シンポジウム『歯科医学の再生と進化を担う若手研究者による研究最前線』を開催予定。
開催状況	令和3年1月22日に歯学委員会と合同にてWeb会議を開催。 令和3年2月8日にシンポジウムの開催のあり方と課題についてWeb会議を開催。
今後の課題等	Society5.0および第4次産業革命の基盤形成に寄与できるよう、基礎歯学・口腔科学研究および学術のあり方および展望を協議し、情報系科学との連携を推進していき、基礎歯学・口腔科学研究の推進を継続していくこととした。

歯学委員会（病態系歯学分科会）					
委員長	村上 伸也	副委員長	中村 誠司	幹事	樋田 京子・岩田 隆紀
主な活動	審議内容 ・病態系歯学の「現状と将来展望」につき協議。 ・コロナ禍における病態系歯学分野の臨床・研究・教育の影響と対応を協議。 意思の表出（※見込み含む） 歯学委員会と連携し、報告/提言「歯学・口腔科学分野の課題と展望」、「新型コロナウイルス感染症とコロナ禍における口腔に関連した諸問題とその対応」を作成中。 開催シンポジウム等 学術講演会「歯と口と健康のための体制作り：歯学における学術活動および国民への周知活動の方向性」（令和2年11月30日Web講演会）				
開催状況	令和3年1月22日・令和3年6月25日：ZOOMによるリモート会議開催				
今後の課題等	・病態系歯学が関連する幅広い学術分野との横断的連携を促進し、課題の抽出と対応を協議する。				

歯学委員会（臨床系歯学分科会）					
委員長	市川 哲雄	副委員長	森山 啓司	幹事	品田 佳世子、後藤 多津子
主な活動	審議内容 24期の活動「新たな臨床指標の確立と医療ネットワークの構築」を踏まえ、臨床系歯学が抱えている課題を抽出し、その解決策を示すこととした。 意思の表出（※見込み含む）				

	報告/提言「歯学・口腔科学分野の課題と展望」、「新型コロナ感染症とコロナ禍における口腔に関連した諸問題とその対応」の作成を歯学委員会に協力
	開催シンポジウム等
	学術講演会（Web，歯学委員会と共催）：歯と口と健康のための体制作り：歯学における学術活動および国民への周知活動の方向性（令和2年11月30日），新型コロナウイルス感染症対策の現状と今後 歯科からの発信（令和3年6月29日）
開催状況	第1回臨床系歯学分科会（令和3年1月22日）
今後の課題等	臨床系歯学が関連する学術分野横断的な課題を検討し、発信していくことを確認した。

⑱薬学委員会



薬学委員会					
委員長	佐治 英郎	副委員長	遠藤 玉夫	幹事	山崎 真巳
主な活動	審議内容				
	・薬学領域所属の会員および本委員会に所属する各分科会の委員長を本委員会委員とし、各分科会の活動についての情報共有、分科会間で連携して効果的に活動できる環境の構築、薬学委員会として活動等について検討した。 ・学会会議の今期の活動方針について情報共有した。 ・医薬、医療機器、再生医療等における先端医療技術の利用ルールを迅速に整備していくための「仕組みづくり」について多面的に議論し、社会実装におけるガバナンスとルール組成の在り方を提案することを目的に、新規に「先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会」を設置することにした。 ・社会の要請や薬学教育を取り巻く環境の変化に対応して持続可能な医療を担う薬学人の卒前・卒後教育を議論するシンポジウムを企画した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・医療系薬学分科会から報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ：社会に貢献する医療系薬学教育研究の推進(2)～健康サポートに貢献する薬学教育研究～」を発出（第二部で査読中） ・医療系薬学分科会：令和2年3月に開催予定でコロナ禍で中止となった医療系薬学分科会企画・日本薬学会主催シンポジウム「健康食品・保健機能食品・医薬品の品質保証に関する薬学的アプローチ」で発表予定だった内容を「YAKUGAKU ZASSHI」に誌上シンポジウムにて論文発表（YAKUGAKU ZASSHI、141、771-772（2021））				
	開催シンポジウム等				
	第25期の令和2年10月以降において、開催シンポジウムは以下の通りである（開催済み4件、開催月日が決定している開催予定1件）。				

	・毒性分科会：シンポジウム「食の安全と環境ホルモン」令和2年12月5日開催 ・化学・物理系薬学分科会：シンポジウム「モダリティーが拓く創薬」令和2年12月8日開催 ・生物系薬学分科会：シンポジウム「創薬を加速させる革新的な細胞・臓器・個体モデル」令和3年1月18日開催 ・医療系薬学分科会：シンポジウム「くすりのエキスパートが語る“よくわかる新型コロナウイルスワクチン”」令和3年4月24日開催 ・薬学委員会：「持続可能な医療を担う薬剤師像を発信する」令和3年11月3日開催予定（日本薬学会と共催）
開催状況	第1回委員会 令和2年10月3日 第2回委員会 令和3年3月15日
今後の課題等	定期的に委員会を開催し、薬学委員会所属の7つの分科会の活動に関する情報共有を行い、分科会間で連携して効果的に活動できる環境の構築を行う。また、日本薬学会をはじめ、関連の学協会の活動状況を把握し、それらの学協会では取り上げにくい、薬学および関連領域の発展には重要である、薬学における基礎研究力の強化と人材育成、大学院の在り方、女性研究者に対する支援、少子・超高齢社会における薬剤師のあり方、毒性学の社会的役割、医薬品の安全性・毒性データとリスクコミュニケーション、新興感染症への対応、医薬、医療機器、再生医療等における先端医療技術の利用ルールの整備のための仕組みづくりの方策などについて、関係する学協会とも連携して分野横断的な議論・審議を行っていく。さらに、広く社会に向けた提言、報告の発出や学術シンポジウム開催の支援などの活動を継続的に展開していく。

薬学委員会（化学・物理系薬学科会）					
委員長	永次 史	副委員長	樋口 恒彦	幹事	内山 真伸、眞鍋 史乃
主な活動	審議内容				
	25期第1回目の委員会において今期の委員について選出を行った。さらに今期の活動について、議論を行った。博士人材の育成について、さらには6年生教育における薬学部教育の在り方について、シンポジウム開催を含め今後検討していくこととなった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし				
	開催シンポジウム等				
	令和3年4月24日（土）「くすりのエキスパートが語る“よくわかる新型コロナウイルスワクチン”」共同開催				
開催状況	令和3年1月8日：zoomによるオンライン会議 令和3年3月15日（月）～3月22日（月）SCJ 掲示版におけるメール会議				

今後の課題等	今期の化学・物理系薬学分科会の活動としては、特に薬学領域において激減している化学・物理系の若手研究人材の育成を課題として設定し、その現状把握、さらには人材育成に向けた方策について、関係する学協会と連携して審議していきたいと考えている。
--------	---

薬学委員会（生物系薬学分科会）					
委員長	一條 秀憲	副委員長	深見 希代子	幹事	藤田 直也、山崎 真巳
主な活動	審議内容				
	・生物系薬学領域において注目される課題について議論し、特に革新的な細胞・臓器・個体モデルを活用した創薬研究について専門家を集めて情報収集するとともに今後の展開を考察した。 ・生物系薬学の領域多様性に鑑み、年齢・ジェンダー等に配慮しつつ新規分科会委員候補について議論した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の中、今後のシンポジウムの開催形式、開催時期について再考するとともに、シンポジウムテーマならびに対象とすべき参加者・聴講者について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・今後も生物系薬学領域に特徴的なシンポジウム等を定期的に行い、それを基に意思の表出の可能性を探る。				
	開催シンポジウム等				
	・令和 3 年 1 月 18 日(月)「創薬を加速させる革新的な細胞・臓器・個体モデル」というテーマでシンポジウムをオンライン開催 (ZOOM ウェビナー) した(実行委員長:藤田直也委員)。				
開催状況	・令和 3 年 2 月 1 日（月）第 1 回生物系薬学分科会 オンライン開催 ・令和 3 年 4 月 1 9 日（月）第 2 回生物系薬学分科会 オンライン開催				
今後の課題等	・新型コロナウイルスをはじめとする新興感染症に対する対応				

薬学委員会（医療系薬学分科会）					
委員長	高倉 喜信	副委員長	合田 幸広	幹事	黒川 洵子、武田 真莉子
主な活動	審議内容				
	・25 期の活動方針として、24 期で作成した報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」（素案）について査読を受けて公表することが決定された。また、新たな活動として、新型コロナウイルスワクチンについて薬学的な観点からのシンポジウムを早期に開催することが承認された。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」を公表する予定である。				

	開催シンポジウム等 ・公開シンポジウム「くすりのエキスパートが語る“よくわかる新型コロナウイルスワクチン”」を令和3年4月24日に日本薬学会および地域共生社会における薬剤師職能分科会、化学・物理系薬学分科会との共同主催で開催した。 http://www.scj.go.jp/ja/event/2021/308-s-0424.html ・公開シンポジウム「くすりのエキスパートが語る“よくわかる新型コロナウイルスワクチン”」の内容を日本薬学会から発行されている「YAKUGAKU ZASSHI」の誌上シンポジウムとして公表する予定である。 ・令和2年3月に開催予定でコロナ禍のため中止となった医療系薬学分科会企画・日本薬学会主催シンポジウム「健康食品・保健機能食品・医薬品の品質保証に関する薬学的アプローチ」で発表予定だった内容を「YAKUGAKU ZASSHI」に誌上シンポジウムにて論文発表した（YAKUGAKU ZASSHI、141、771-772（2021））。
開催状況	令和3年2月1日、2月15日※メール
今後の課題等	・今期はコロナ禍の状況を踏まえ、まずは新型コロナウイルスワクチンに関するシンポジウムを急遽企画した。本分科会はこれまで広く社会に向けた報告の発出や学術シンポジウム開催などを行ってきたが、今後、より学際的視点に基づき分野横断的な情報発信に努め日本の学術の振興に資する活動を進める所存である。

薬学委員会（毒性学分科会）					
委員長	菅野 純	副委員長	姫野 誠一郎	幹事	上田 佳代、石塚 真由美
主な活動	審議内容				
	1) 提言案作成に向けて、下記のシンポジウムを企画した 2020年12月5日「食の安全と環境ホルモン」 2) 学術の動向に下記の特集を掲載した。 2020年11月号：環境汚染物質の Human Biomonitoring 2021年7月号：毒性学のこれから ー外から見た毒性学ー				
	3) 学会との連携のため、日本毒性学会のWEBサイト（ http://www.jsot.jp/ ）に日本学術会議毒性学分科会のページを作成し、これまでのシンポジウムの資料等アーカイブとして掲載した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言の発出に向けて情報収集と議論を継続する。				
	開催シンポジウム等				
	2020年12月5日に公開シンポジウム「食の安全と環境ホルモン」を開催した。				
開催状況	2020年12月5日（オンライン）				
今後の課題等	25期中、分科会委員会とシンポジウムでの議論を踏まえて提言の作成を行う。				

薬学委員会（薬学教育分科会）					
委員長	太田 茂	副委員長	入江 徹実	幹事	石井 伊津子、堤 康央
主な活動	審議内容				
	薬学分野での教育課程編成上の参照基準を作成することを目的に議論を行っている。すでに4年制薬学教育課程に対する参照基準は作成されているので、現在は6年制薬学教育課程も含めた薬学領域全般に対する参照基準の作成を目指している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	薬学分野での教育課程編成上の参照基準を公表 第25期終了時				
	開催シンポジウム等				
開催状況	令和3年7月9日 WEB 会議				
今後の課題等	医療の高度化に対する社会の要請に対応するため、薬学部教育を基盤とした薬学人養成体系について検討し、薬学分野の参照基準を作成する。また薬学領域における大学院のあり方を検討し魅力ある医療人育成のための諸方策を推進する。				

薬学委員会（地域共生社会における薬剤師職能分科会）					
委員長	入江 徹実	副委員長	矢野 育子	幹事	奥田 真弘
主な活動	審議内容				
	・第24期「薬剤師職能とキャリアパス分科会」が発出した提言「持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽」を浸透させて、政策等への反映を図るための活動方針を協議した。 ・新型コロナウイルスワクチンに関するシンポジウムを共同で開催することを申し入れた。 ・開催予定の公開シンポジウムの内容を協議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	公開シンポジウムやフォーラム等の開催を通して、地域共生社会の主体である住民、日本学術会議の関連分野の有識者、医療行政関係者等から、幅広く意見を聴取し、それらを基に意思の表出の可能性を探る見込みである。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	・公開シンポジウム「くすりのエキスパートが語る“よくわかる新型コロナウイルスワクチン”」を令和3年4月24日（土）に日本薬学会および医療系薬学分科会、化学・物理系薬学分科会と共同主催した。 ・公開シンポジウム「地域共生社会における薬剤師像を発信する」を令和3年11月3日（水・祝）に薬学委員会および日本薬学会との共同主催で開催する予定である。				
	・令和3年2月5日（金）13:00-14:40 Zoom による遠隔会議 ・令和3年2月15日（月）～令和3年2月22日（月）メール会議 ・令和3年7月22日（木・祝）13:00-14:30 Zoom による遠隔会議				

今後の課題等	薬剤師がその専門性を十分に発揮し、地域住民の健康・福祉に貢献するために、医学や看護学分野を含む幅広い領域の専門家のご意見も伺いながら、地域医療における薬剤師の役割や薬剤師の職能のあり方、薬剤師の卒前・卒後教育、生涯研鑽・専門制度の調和等について審議する予定である。
--------	--

薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・材料工学委員会合同（先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会）					
委員長	加納 信吾	副委員長	関野 祐子	幹事	城山 英明、林 裕子
主な活動	審議内容				
	先端医療技術の実用化には、新しい評価方法の導入を伴う。新しい評価方法の妥当性に関するコンセンサス形成を促す仕組みとしての「評価技術の利用ルールを作成するルール（ルール・オブ・ルール）」の整備を提言していく意義について委員間で確認した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	無（政策提案に向けた検討を開始）				
	開催シンポジウム等				
	無				
開催状況	令和3年8月5日				
今後の課題等	委員に対するアンケート調査によるきめ細かな意見の聴取を予定するとともに、医薬、医療機器、再生医療の3分野横断的な提言を目指すことから、再生医療分野の委員を募集すること、3分野の産業サイドの参考人を招致することとした。				

②⑩環境学委員会



環境学委員会					
委員長	浅見 真理	副委員長	池邊 このみ	幹事	北川 尚美、大久保 規子
主な活動	審議内容				
	環境学の進展に伴う分科会活動の一層の推進を図る。学術フォーラムで共有した各種国際・国内活動を担う分科会活動の状況等をもとに、脱炭素社会に関する連絡会議等とも連携し、我が国の環境学の進展に寄与するための事項の審議を行う。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	令和3年7月3日に開催された学術フォーラム「気候変動等による地球環境の緊急事態に社会とどう立ち向かうかー環境学の新展開ー」を開催し、高村先生の基調講演の後、各分科会等の活動を紹介し、約800視聴があった。今後より焦点を絞って開催予定。				
開催状況	第1回 2020年10月3日 第2回 2021年1月6日(水) 14:00～16:10 (Zoom) 第3回 2021年4月22日(木) 11:30～13:00 学術フォーラム 2021年7月3日(土) 13:30～17:50 (Zoom) 第4回 2021年10月予定				
今後の課題等	フォーラムでは、気候変動等による地球環境の緊急事態に対し、技術的な検討や環境投資、法律などの方策も活用した、経済、社会、教育等が連携した社会全体のパラダイムシフトが強く求められており、各分科会が種々取り組んでいることを取り上げた。関連する分科会やカーボンニュートラル連絡会議等と連携し、今後、より焦点を絞ったフォーラムを実施し、環境学の方向性を提言または、関連する審議会等の議論に反映していきたい。				

環境学委員会・地球惑星科学委員会合同（FE・WCRP 合同分科会）					
委員長	三枝 信子	副委員長	中村 尚	幹事	張 勁
主な活動	審議内容				
	ISC(国際学術会議)傘下のフューチャー・アース(FE)と気候変動国際協同研究計画(WCRP) が連携して気候変動の実態把握と将来予測などの研究に取り組み、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)へも貢献しつつ、持続可能な社会の実現に向けて科学的知見を提供するために必要な事項について検討と審議を行う。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	開催シンポジウム等				
	令和 3 年 7 月 3 日に開催された学術フォーラム「気候変動等による地球環境の緊急事態に社会とどう立ち向かうかー環境学の新展開ー」において、持続可能な地球環境のための気候変動研究に関する取組について講演を通して周知した。				
開催状況	第 1 回 令和 2 年 12 月 7 日:当分科会に設置された 11 の小委員会活動を中心に、第 25 期における活動を開始した。				
今後の課題等	各種国際・国内活動を担う 11 の小委員会活動の状況や課題を分科会において共有するとともに、我が国における気候変動関連の科学的知見の集約と社会への普及(公開シンポジウム等)に関連する諸事項の審議を行う。				

環境学委員会（環境科学委員会）					
委員長	北川 尚美	副委員長	大政 謙次	幹事	宮崎 あかね、恒川 篤史
主な活動	審議内容				
	・前 24 期の活動を引き継ぎ、1)生態学・生態系、2)物質循環（有機・無機）・土地資源（土壌）、3)エネルギー、4)生産技術・社会（社会実装）、5)都市（コンパクトシティ・都市農業）・気象環境緩和、のグループに分かれて詳細な議論を進めると共に、各グループでの議論の共有を目的として、定期的に全体での意見交換を行う。 ・前期に発刊した叢書「持続可能な社会への道～環境科学から目指すゴール～」の内容に上記の各グループでの議論を加えて、シンポジウムを企画する。 ・学術会議の情報発信の新たな取り組みの 1 つとして、大学生や大学院生などを対象とし、双方向で環境に関する議論ができる場を作る活動を進める。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	7 月 3 日学術フォーラムで発表。 11 月 6 日公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題（仮）」開催予定				
開催状況	第 1 回 2021 年 3 月 31 日 第 2 回 2021 年 6 月 18 日				

	7月3日学術フォーラムで発表。
今後の課題等	グループ毎に定期的な勉強会を実施するなど活発な活動を進めており、内容をまとめシンポジウムを中心に企画している予定である。今期は、国民との双方向の議論を行うための環境づくりや方法論についても検討を行っている。

環境学委員会・健康・生活科学委員会合同（環境リスク委員会）					
委員長	那須 民江	副委員長	中村 桂子	幹事	野原 恵子、近藤 昭彦
主な活動	審議内容				
	現在編集集中のe-book(Springerから9月出版予定)の進捗状況の確認と12月23日予定のシンポジウムおよび健康リスク教育の在り方について議論した。 ・9月Springerからe-book出版予定 ・義務・高等教育における健康リスク教育の学習会（5月27日） ・プラスチックのガバナンス：感染症制御のための衛生環境管理と資源循環（日本公衆衛生学会と共催シンポジウム）12月23日				
	意思の表出（※見込み含む）				
	コロナ禍におけるプラスチックのガバナンスと健康リスク教育に関して提言発出予定				
	開催シンポジウム等				
	7月3日環境学委員会学術フォーラムで発表。				
開催状況	第1回 2020年10月20日 第2回 2021年2月4日 第3回 2021年5月27日 7月3日環境学委員会学術フォーラムで発表。				
今後の課題等	コロナ禍におけるプラスチックのガバナンスについてはカーボンニュートラルに関連して重要な課題となる。シンポジウムを行った後に提言等を考える。健康リスク教育については義務・高等教育の学習指導要領に組み込むか、高等・大学教育のシラバスに組み込むか議論しているところである。				

環境学委員会（環境思想・環境教育分科会）					
委員長	関 礼子	副委員長	氷見山 幸夫	幹事	豊田 光世、蟹江 憲史
主な活動	審議内容				
	環境思想・環境倫理に関する研究と教育を推進する態勢、関係者のネットワーク化と調整、既出の提言・報告等の実効化に向けた課題、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の環境教育での実効化について検討する。また、環境教育の思想的アプローチ検討小委員会において、事例収集・分析をすすめ、思想的基盤を環境教育に活かす方策と課題に関する事項を協議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	環境思想に基づく環境教育等の推進に関して提言発出予定。				

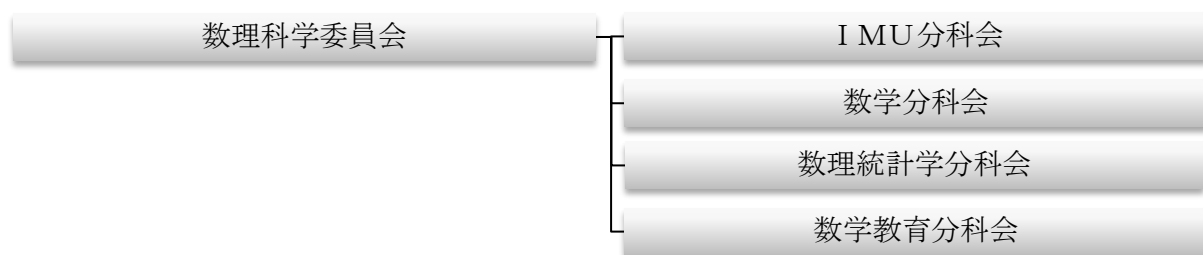
	開催シンポジウム等
	7月3日学術フォーラムで報告。
開催状況	第1回 2021年1月18日 第2回 2021年3月30日 第3回 2021年7月2日 7月3日学術フォーラムで発表。
今後の課題等	環境思想・環境倫理に関する研究と教育を推進する態勢、関係者のネットワーク化と調整、既出の提言・報告等の実効化に向けた課題、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実効化について検討を行う。

環境学委員会（環境政策・環境計画分科会）					
委員長	大塚 直	副委員長	大久保 規子	幹事	村上 暁信、栗山 浩一
主な活動	審議内容 第2回委員会で田崎智宏氏（国立環境研究所）から「サーキュラー・エコノミーの理念、期待、そして限界」についての講演を受け、討論した。 第3回委員会で栗生木千佳氏（（公財）地球環境戦略研究機関 持続可能な消費と生産領域 主任研究員）から「EUにおけるサーキュラー・エコノミーについて～政策の構成と変遷～」についての講演を受け、討論した。 意思の表出（※見込み含む） 初年度であり、まだ議論が成熟していないが、最終的には何らかの提言に結び付けたい。 開催シンポジウム等 現在サーキュラー・エコノミーについて報告・審議をしており、その中でもカーボンニュートラルについても扱っている。しばらくサーキュラー・エコノミーなど循環の分野を扱い、環境政策・計画として、カーボンニュートラル政策自体を取り扱う予定である。気候変動、生物多様性についても検討し、最終的には何らかの提言に結び付けたい。				
開催状況	第1回 2020年12月5日（土） 第2回 2021年2月19日（金） 第3回 2021年5月17日（月） 7月3日学術フォーラムで発表。				
今後の課題等	3年間に、脱炭素社会やサーキュラー・エコノミーの実現を含む、持続可能な社会・経済の実現という観点から、環境政策・環境計画の課題を明らかにし、課題への対応策を議論することを目的としている。				

環境学委員会・統合生物学委員会合同設置（自然環境分科会）					
委員長	吉田 丈人	副委員長	池邊 このみ	幹事	恵谷 浩子、小森 大輔
主な活動	審議内容				

	不確実な将来社会シナリオの中で、土地利用、自然環境と人間社会の新たな関係、省庁間・地方自治体・住民の連携、文化的景観等について、環境学の観点から幅広く、かつ、知の統合という観点で議論を展開し、公開シンポジウムなどを通して発信する。
	意思の表出（※見込み含む）
	未定
	開催シンポジウム等
	2021 年 7 月 3 日学術フォーラムで発表。
開催状況	第 1 回 2021 年 6 月 29 日 2021 年 7 月 3 日学術フォーラムで発表。
今後の課題等	自然資本を活かし育てるという視点から、土地・景観・国土の経営と管理に関して幅広く議論し、レジリエンスの確保や持続可能性の実現に向けた具体的な検討を、関連する分科会とも連携しながら進めていきたい。

②数理科学委員会



数理科学委員会					
委員長	小澤 徹	副委員長	齋藤 政彦	幹事	伊藤 由佳理、徳山 豪
主な活動	審議内容				
	・数理科学委員会は広い意味での数学に関して (1)科学政策に対する提言、(2)社会への貢献、(3)国際社会との連携を目的として活動を行っている。 ・第 25 期の数理科学委員会の分科会を、数学分科会、数理統計学分科会、数学教育分科会、IMU 分科会とし、運営体制を整え、分科会の具体的な個別の活動に関する調整を行った。 ・第三部から依頼のあった各種国際賞の候補を選定した。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	数理科学委員会の分科会からの意思の表出を支援することとした。				
	開催シンポジウム等				
	数理科学委員会の分科会のシンポジウム等の開催を支援することとした。				
開催状況	第 1 回 令和 2 年 (2020 年) 10 月 3 日 第 2 回 令和 3 年 (2021 年) 1 月 5 日				
今後の課題等	・今後も、広い意味での数学に関して (1)科学政策に対する提言、(2)社会への貢献、(3)国際社会との連携を目的として活動を続ける方針である。 ・第 25 期数理科学委員会では、数学分科会、数理統計学分科会、数学教育分科会、IMU 分科会に提言等の審議をゆだね、全体の統括を行う。また、数理科学委員会の決定は、メール等で合意の上、委員長が行う。 ・数学分科会では、第 23 期でまとめた提言のフォローアップを行う。 ・数理統計学分科会では、データ科学に関して、分科会のこれまでの提言等の実現に向けて活動する。 ・数学教育分科会は、第 24 期でまとめた提言のフォローアップを行うとともに、第 25 期に発出する計画の提言について議論を重ねて行く。 ・IMU 分科会では、数理科学に関する国際学術組織への対応を行う。 特に 2022 年夏の国際数学連合総会および国際数学者会議へ向けた準備に継続して取り組む。				

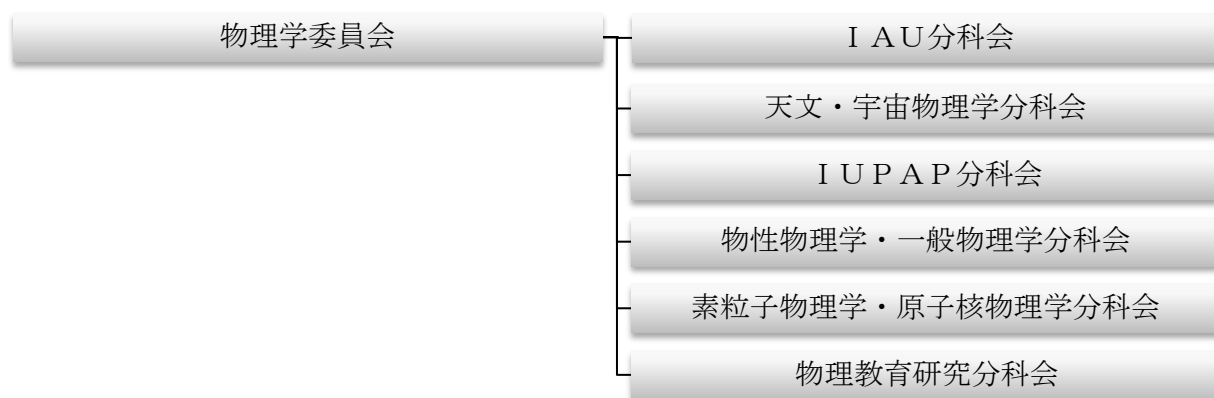
数理学委員会（数学科分科会）					
委員長	小澤 徹	副委員長	齋藤 政彦	幹事	伊藤 由佳理、清水 扇丈
主な活動	審議内容				
	・第23期に発出した提言「数学と他の科学分野や産業との連携の基盤整備に向けた提言」に基づいてまとめられた計画「数理学の深化と諸科学・産業との連携基盤構築」がマスタープラン重点大型研究に採択されたことを機会に、その具体化についての議論を継続して行った。 ・産業界との連携についての議論を開始した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	具体化に向け審議中				
	開催シンポジウム等				
	具体化に向け審議中				
開催状況	第1回 令和3年（2021年）1月5日 第2回 令和3年（2021年）5月7日				
今後の課題等	・上記計画「数理学の深化と諸科学・産業との連携基盤構築」の具体化について検討する。 ・第24期に計画されたが中止となったシンポジウム「データとAIの時代への数理学」の具体化について検討する。				

数理学委員会（数理統計学分科会）					
委員長	竹村 彰通	副委員長	栗木 哲	幹事	青嶋 誠、渡辺 美智子
主な活動	審議内容				
	AI戦略2019の公表以来「数理・データサイエンス・AI教育」が政策目標となり、リテラシーレベルの認定制度が開始された。今後応用基礎レベルの認定もおこなわれる。このような中で、数理統計学を正しく位置付ける。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「数理・データサイエンス・AI教育」の中での数理統計学の適切な位置づけについて、意思の表出をおこなうことを検討する。				
	開催シンポジウム等				
	今期中にシンポジウムを開催することを前向きに検討する。				
開催状況	第1回委員会 令和3年（2021年）1月21日				
今後の課題等	今期開始に際しての所感：数理・データサイエンス・AI教育が多くの大学でおこなわれる中で、ツールの形式的な利用にとどまらず、統計学に対する正しい理解が必要であり、その点に関する情報発信を行う。また文部科学省の「統計エクスパ				

	ート人材育成プロジェクト」にも協力する。
--	----------------------

数理科学委員会（数学教育分科会）					
委員長	真島 秀行	副委員長	清水 美憲	幹事	小山 正孝、渡辺 美智子
主な活動	審議内容				
	・第24期でまとめた提言のフォローアップとして統計教育の研修・講習について、統計検定の利用について進展があり高等学校関係どのように団体に周知するか審議した。https://www.toukei-kentei.jp/nt/nt-9544/ 参照。 ・STEM/STEAM/STREAM 教育、男女共同参画、リカレント教育、生涯教育など数学が関わる分野横断な議論も行いながら「数学教育の変革について」今期中に提言を発出すべく審議中である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	無（「(仮題) 数学教育の変革について」の提言を発出予定）				
	開催シンポジウム等				
	無（第24期の提言について数学関係者、教育関係者等への周知を図るための活動をいくつか行なった。令和3年3月の日本数学会年会での講演については次を参照 https://www.mathsoc.jp/overview/committee/education/sympo/2021mar.html ）				
開催状況	第1回 2020年10月24日、第2回 2020年12月27日、第3回 2021年2月4～11日（メール審議）、第4回 2021年6月27日				
今後の課題等	・第24期の提言の周知、教員に対する統計教育の研修・講習については関係機関へ働きかけを引き続き行う。 ・(仮題) 数学教育の変革についての提言に向けての審議を深めていく。 ・国際数学教育委員会（ICMI）に引き続き代表を派遣し国際対応を行う。				

⑫物理学委員会



物理学委員会					
委員長	野尻 美保子	副委員長	腰原 伸也	幹事	田村 裕和、山崎 典子
主な活動	審議内容				
	日本物理学会年次大会において、学術会議と物理学会の連携のためのインフォーマルミーティングを開催することとし、3月に開催した。また、日本物理学会会誌に、学術会議の任命問題についての、記事を執筆した。				
	2022年のIUPAP100周年に当たって、物理学委員会としての対応について協議を種々おこなった。その結果、IUPAP分科会委員を中心に、応物など関係分野の委員の協力もお願いしながら、物理学会、応物学会など関係学会に具体的対応の検討が可能か打診を行うこととなった。また、同時に行われる持続的発展のための基礎科学年（IYBSSD2022）について、学術会議として対応する方法について検討した。				
	プラズマ物理に関わるサイエンスを包括的に議論するプラズマサイエンス小委員会の設置を承認した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
開催状況	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「日本学術会議と日本天文学会—よりよい連携のために—」（天文学・宇宙物理学分科会主催）を承認した。				
開催状況	第1回 2020年10月3日				
	第2回 2021年1月4日				
	第3回 2021年1月13日				
	第4回 2021年2月10日				
	第5回 2021年5月19日				
	第6回 2021年9月25日（予定）				

今後の課題等	マスタープラン制度は物理学分野について重要であり、改善すべき点がないか議論を行う。IUPAP100 周年、IYBSSD 2022 等を基礎科学の役割を考える契機をするべく、関係学会との連携を強化する。カーボンニュートラルへの物理分野への貢献について、複数の分科会で検討を行いつつある。物理学委員会全体としても協力する。また、ジェンダーギャップや物理教育の課題について取り組む
--------	---

物理学委員会 (IAU 分科会)					
委員長	渡部 潤一	副委員長	生田 ちさと	幹事	深川 美里、浅井 歩
主な活動	審議内容				
	・IAU の活動の報告と共に、日本から IAU member および Junior member への新規登録会員の審査を行い、それぞれ 7 名（うち 1 名はその後、辞退）および 4 名を推薦した。IAU 名誉会員を公募し、審査の上、候補 1 名を決定・推薦した。 ・IAU の新設された Office of Astronomy for Education (OAE) の活動に対応する日本の窓口として National Astronomy Education Coordinator (NAEC) の指名要請に対し、適任者を推薦した。 ・IAU アジア地域会議 APRIM2023 年の日本招致を決定した。 ・天文観測に阻害要因となる商用宇宙空間利用への対応について国際的な状況を把握・共有した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
	・公開シンポジウム「日本学術会議と日本天文学会一よりよい連携のために」をオンラインにて開催した（2021 年 3 月 17 日 天文学・宇宙物理学分科会と共催） http://www.scj.go.jp/ja/event/2021/307-s-0317-2.html				
開催状況	第 1 回 2020 年 12 月 3 日（オンライン） 第 2 回 2021 年 2 月 10 日（オンライン） 第 3 回 2021 年 5 月 26 日（オンライン） 第 4 回 2021 年 10 月 29 日（予定）				
今後の課題等	・IAU 会員の申請・推薦を引き続き行う。 ・APRIM2023 の日本開催に向けて、必要な活動を継続・支援する。 ・商用宇宙空間利用の天文学への影響を検討予定（天文学・宇宙物理学分科会でも扱う）。				

物理学委員会 (天文学・宇宙物理学分科会)					
委員長	林 正彦	副委員長	山崎 典子	幹事	深川 美里、浅井 歩
主な活動	審議内容				

	・天文学・宇宙物理学分野の大型・中型将来計画の策定作業を行っている。 ・関連する大学共同利用機関や共同利用・共同研究拠点の活動状況を把握した。
	意思の表出（※見込み含む）
	・若手研究者のキャリアパス調査の結果を学会誌に掲載した（天文月報 2021 年 4 月号）。(https://www.asj.or.jp/jp/activities/geppou/item/114-4_289.pdf)
	開催シンポジウム等
	・公開シンポジウム「日本学術会議と日本天文学会—よりよい連携のために—」をオンラインにて開催した（2021 年 3 月 17 日）。(http://www.scj.go.jp/ja/event/2021/307-s-0317-2.html)
開催状況	第 1 回 2020 年 12 月 3 日（オンライン） 第 2 回 2021 年 2 月 10 日（オンライン） 第 3 回 2021 年 5 月 26 日（オンライン） 第 4 回 2021 年 10 月 29 日（予定）
今後の課題等	・関連学会への情報提供と意思疎通を促進する。 ・大学共同利用機関とコミュニティとの関係の在り方を検討予定。 ・安全保障技術研究推進制度に関する継続審議。 ・商用宇宙空間利用の天文学への影響を検討予定（IAU 分科会でも扱う）。

物理学委員会・総合工学委員会合同（IUPAP 分科会）					
委員長	藤澤 彰英	副委員長	笹井 理生	幹事	伊藤 公平
主な活動	審議内容 IUPAP の活動に対する日本全体として各物理学分野間の対応の取りまとめなど担当している。IUPAP 総会（2021 年 10 月オンラインにて予定）に対応し同コミッション委員の日本からの推薦などについて審議。今期は IUPAP 百周年(2022 年)にあたるためワーキンググループを設置し、日本物理学会および応用物理学会などとも強調し対応を開始。 意思の表出（※見込み含む） なし 開催シンポジウム等 なし				
開催状況	第 1 回 IUPAP 分科会 2021 年 1 月 26 日 第 1 回 IUPAP 百周年ワーキンググループを開催(2021 年 3 月 18 日)。				
今後の課題等	IUPAP の推奨する方針（男女共同参画など）への対応。				

物理学委員会（物性物理学・一般物理学分科会）					
委員長	森 初果	副委員長	常行 真司	幹事	藤澤 彰英、板倉 明子
主な活動	審議内容				
	・「我が国の研究開発・科学技術」について、今後の展開の検討を行った。 ・総合工学委員会および数理科学委員会と連携したプラズマサイエンス小委員会を設置し、活動を開始している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」に参画しており、意思の表出を検討中である。				
	開催シンポジウム等				
	特になし。				
開催状況	2021年1月21日 第1回物性物理学・一般物理学分科会 2021年5月7日 プラズマサイエンス小委員会準備会 2021年7月2日 第1回プラズマサイエンス小委員会				
今後の課題等	分科会で前期に取りまとめた報告書「我が国の研究開発・科学技術」を発展させ、部会横断型の「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」で多角的な議論を展開する予定である。また、今期設置したプラズマサイエンス小委員会でも、委員会間連携で、学術的、学際的未來像の議論を開始している。				

物理委員会（素粒子物理学・原子核物理学分科会）					
委員長	浅井 祥仁	副委員長	田村 裕和	幹事	市川 温子、永江 知文
主な活動	審議内容				
	1. シンポジウムのテーマの議論 2. マスタープラン見直し案 3. 大型実験施設のカーボンニュートラルに向けての取り組み				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
開催状況	令和3年1月20日、令和3年8月1日メール				
今後の課題等	今期は3つの方針で、シンポジウム等や提言などの活動を行っていく 1)基礎と応用の垣根を取り払う観点で、長期的視野で研究に取り組む重要性や産業界で活躍する博士人材の育成 2)国際協力、人材育成に関する視点で他分野との連携 3)大型施設のカーボンニュートラル化				

物理学委員会（物理教育研究分科会）					
委員長	岡 眞	副委員長	笹尾 真実子	幹事	千葉 柁司、笠 潤平
主な活動	審議内容				
	物理学という学問分野の固有性に基礎をおきエビデンスを重視する研究分野としての物理教育研究とこれに基づく物理教育改革の推進に向けて以下に取り組む。 1) 物理教育における遠隔授業実践における現状分析と課題の検討 2) 物理教育におけるジェンダーギャップの現状分析と課題の検討 3) 24 期の分科会から発出した提言「物理学における学問分野に基づく教育研究(DBER)の推進」(令和2年8月28日)に関する情報発信、他の学問分野における教育研究との連携などの検討				
	意思の表出（※見込み含む）				
	検討中				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	第1回 2021年1月27日（オンライン） 第2回 2021年4月30日（オンライン）				
今後の課題等	新型コロナの蔓延防止措置としてオンラインにより分科会を開催しているが、今後提言等の発出へ向けて十分な議論を尽くすために、対面による会合の開催も検討したい。				

⑬地球惑星科学委員会



地球惑星科学委員会					
委員長	田近 英一	副委員長	佐竹 健治	幹事	春山 成子、三枝 信子
主な活動	審議内容 地球惑星科学分野における諸課題について審議するとともに、傘下の 10 分科会・33 小委員会の活動を統括する。また、地球惑星科学コミュニティの代表組織である日本地球惑星科学連合（JpGU）及び関連学協会、大学等の教育研究機関、国立大学共同利用・共同研究拠点等と連携し、地球惑星科学分野の発展を支援する。 ・2021 年 2 月 15 日に傘下の 5 分科会の協同により国際学術組織の活動と日本の貢献に関する学術フォーラムを開催し、その内容を『学術の動向』8 月号の特集としてまとめた。 ・2021 年 5 月 31 日及び 6 月 3 日に JpGU 大会において日本学術会議と地球惑星科学委員会の活動及び地球惑星科学関係の国際学術団体との連携活動を地球惑星科学コミュニティに周知するためユニオンセッションを 2 件開催した。 ・2021 年 6 月 6 日に地球惑星科学人材育成分科会と協同して全国地球惑星科学系学科長・専攻長等会議を開催した。 ・2021 年 6 月 26 日に地球・惑星圏分科会と協同して地球惑星科学分野における大型研究計画ヒアリングを実施し、各計画の改善に資するための評価・コメントなどの支援活動を行った。 意思の表出（※見込み含む） 傘下の分科会・小委員会において現在 8 件の意思の表出を検討・調整中 開催シンポジウム等 学術フォーラム「新たな地球観への挑戦—地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献—」（2021 年 2 月 15 日） 日本地球惑星科学連合 2021 年大会ユニオンセッション「地球惑星科学コミュニティと日				

	本学術会議」(2021 年 5 月 31 日)、同ユニオンセッション「1時間でわかる学術会議:地球惑星科学分野の国際団体への支援」(2021 年 6 月 3 日)
開催状況	第1回 2020 年 10 月 3 日, 第2回 2020 年 12 月 29 日, 第3回 2021 年 6 月 26 日
今後の課題等	1. 地球惑星科学分野の現状と将来の発展に関する課題の審議 2. 地球惑星科学分野における大型研究計画立案の評価・支援活動 3. 地球惑星科学関連学協会長等会議, 全国地球惑星科学系学科長・専攻長会議, JpGU ユニオンサイエンスボード会議, JpGU 大会及びシンポジウム等における科学者コミュニティとの対話及び情報共有等の活動

地球惑星科学委員会（地球惑星科学企画分科会）					
委員長	田近 英一	副委員長	佐竹 健治	幹事	春山 成子、三枝 信子
主な活動	審議内容				
	地球惑星科学委員会の運営及び活動を円滑に進めるための役割を担い、課題の抽出や企画の審議等の活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回 2020 年 11 月 30 日, 第2回 2020 年 12 月 26 日, 第3回 2021 年 2 月 6 日, 第4回 2021 年 5 月 21 日				
今後の課題等	1. 地球惑星科学委員会の活動、2. 傘下の分科会や小委員会の活動、3. 対外発信、などに係る審議を行う。				

地球惑星科学委員会（地球・惑星圏分科会）					
委員長	中村 卓司	副委員長	堀 利栄	幹事	福田 洋一、原田 尚美
主な活動	審議内容				
	地球・惑星圏の諸課題とその解決策の議論、大型研究とロードマップ、学界と教育などに関して審議を行う。特に学術データ共有、学術試料共有、地球観測衛星については小委員会を設置し幅広い専門家を含めて議論を始めた。地球惑星科学関連の大型研究計画については、提案予定課題のヒアリングを行い、コメント等をフィードバックした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	将来にわたって担うべき地球観測衛星の在り方について(今期提言見込み) 学術データの共有に関する提言,学術試料の共有に関する提言(検討中)				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回 2020 年 12 月 28 日,第2回 2021 年 3 月 18 日,第3回 2021 年 6 月 26 日				

今後の課題等	新しい地球惑星科学のあり方を考えるとともに、引き続き地球惑星科学関連の大型研究計画をフォローアップする。
--------	--

地球惑星科学委員会（地球・人間圏分科会）					
委員長	春山 成子	副委員長	鈴木 康弘	幹事	張 勁、杉田 文
主な活動	審議内容				
	本分科会では地球環境問題の解決にむけ地球科学的な観点、地球・人間活動の相互作用の視点に立って検討している。地球・人間圏科学では陸域・海域での自然・人間の相互作用の諸現象を対象に地球惑星諸科学のみならず領域複合的視点が必要であり、「持続可能な地球環境とは何か」を見据え環境変動の科学的知見の集積、社会の期待に応答するために、公開シンポジウムならびに学術フォーラムの開催を継続し、社会との対話を重視した活動を行う予定である。また、完新世を視野にいたした時空間を対象として地球規模とくに温暖化の地球各地に与えている影響、人間圏で発生しているその応答、さらに災害の将来予測、防災などについても、政策提言などの活動を予定している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	24 期にて発出した提言をもとに、25 期ではこのフォローアップを行う予定であり、意思の表出として、提言もしくは報告を取りまとめる可能性もある。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム『「水」と「水循環」の研究最前線—21 世紀の多分野協創研究にむけて』を 2021 年 9 月 18 日に開催予定。 学術フォーラム『地球環境変動と人間活動—地球規模の環境変化にどう対応したらよいか—』を 2021 年 12 月 5 日開催で提案書を事務局に提出。				
開催状況	第 1 回 2020 年 12 月 26 日、第 2 回 2021 年 3 月 29 日、第 3 回（予定）2021 年 8 月 30 日				
今後の課題等	1. 地球・人間圏科学の諸分野に共通する問題の検討 2. 地球環境変動と諸地域で認められる環境変動の諸問題の検討 3. 地球・人間圏科学からの防災分野への還元 に係る審議に関すること				

地球惑星科学委員会（地球惑星科学人材育成分科会）					
委員長	西 弘嗣	副委員長	大路 樹生	幹事	堀 利栄、掛川 武
主な活動	審議内容				
	本分科会では、地球惑星科学関連の学校教育と生涯教育の実態を把握し、改善方を審議する、また高大接続、専門教育、早期キャリアに至る研究者を含む専門家の継続的な人材育成の実態を把握し、改善施策を審議することを目的とする。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	平成 29・30 年告示の学習指導要領に対応した教育環境を実現、防災教育の在り方、などに関する案件を検討中。
	開催シンポジウム等
	2021 年 6 月 5 日に日本地球惑星科学連合大会のユニオンセッション「変動する地球に生きるための素養を育む地球教育の現状と課題」を開催した。これは 24 期の提言「変動する地球に生きるための素養を育む地球教育の現状と課題」のフォローアップとして行った。
	2021 年 6 月 6 日に日本地球惑星科学連合大会で「全国地球惑星科学系学科長・専攻長会議」を開催し、全国の教育機関における問題点を議論した。
開催状況	2020 年 12 月 28 日 第 1 回人材育成分科会 2021 年 6 月 14 日 第 1 回初等中等教育検討小委員会 2021 年 8 月 2 日 第 1 回高等教育検討小委員会
今後の課題等	本分科会では、初等中等教育検討小委員会と高等教育検討委員会を設置し、各分野の教育問題を検討するための組織を整備し、活動を開始した。両小委員会においては、1) 高大接続、大学・大学教育、キャリア育成の改善施策、2) 高校地学教育および教員養成の改善策、3) ダイバーシティの改善策に係る審議、4) コロナ下あるいはコロナ後における大学教育の課題、などの議論を進める。

地球惑星科学委員会(地球惑星科学国際連携分科会)					
委員長	三枝 信子	副委員長	中村 卓司	幹事	齋藤 文紀、原田 尚美
主な活動	審議内容				
	地球惑星科学委員会が関わる多岐に及ぶ国際連携活動の振興について総合的・包括的な議論・審議を行う。特に、日本学術会議の国際対応活動方針を踏まえて地球惑星科学分野からの貢献に資するための活動方針を議論する。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	開催シンポジウム等				
	令和 3 年 2 月 15 日開催の学術フォーラム「新たな地球観への挑戦—地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献—」においては他分科会と共催を務め、12 の国際学術団体の役割や貢献を周知した。日本地球惑星科学連合 2021 年大会にて 6 月 3 日に企画したセッション「1 時間でわかる学術会議：地球惑星科学分野の国際団体への支援」においては、国際学術団体の特筆すべき成果を簡潔な動画にまとめて配信した。				
開催状況	第 1 回 令和 2 年 11 月 16 日：当分科会の 6 つの小委員会を含む地球惑星科学委員会傘下の国際対応分科会・小委員会と連携し、第 25 期における活動を開始した。				
今後の課題等	地球惑星科学分野の国際活動の振興、国際対応の各分科会や直属小委員会との連絡・調整に関する諸事項の審議を行うとともに、国際学術活動に基づく知見の社会への普及(公開フォーラム等)に関連する諸事項の審議を行う。				

地球惑星科学委員会（IGU 分科会）					
委員長	鈴木 康弘	副委員長	小口 高	幹事	伊藤 香織、池口 明子
主な活動	審議内容				
	国際学術会議（ISC）の Geo-Unions に属する国際地理学連合（IGU）の活動として、SDGs、Future Earth、ESD などの国際プログラムとの連携を強化する方針を議論する。また、ICA 小委員会において地図学、IAG 小委員会において地形学の国際的な振興を図り、地名小委員会においては国連地名標準化会議とも連携して、地名に関する学術的検討を担う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	SDGs や ESD などの推進を支援する国際地理学研究の重要性を様々な機会を通じて主張する。また、地名標準化の重要性と課題に関する提言を地域研究委員会地域情報分科会と連携して取りまとめる。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	IGU テーマ会議「関係性の中の島嶼」を提案する。また、「SDGs、Future Earth、ESD の推進に資する国際研究の課題」（仮）などのシンポジウム開催を目指す。				
	第 1 回 2020 年 11 月 16 日 第 2 回 2021 年 4 月 26 日（意見交換会 2021 年 6 月 11 日） 第 3 回 2021 年 8 月 5 日				
今後の課題等	IGU の日本国内委員会として IGC2021 大会や地理オリンピックの活動を支援する。今後 2023 年に島嶼をテーマとしたテーマ会議を日本で開催するべく準備を行う。ICA 小委員会、IAG 小委員会、地名小委員会の活動を活発化する。				

地球惑星科学委員会（IUGG 分科会）					
委員長	東 久美子	副委員長	中田 節也	幹事	久家 慶子、古屋 正人
主な活動	審議内容				
	国際協力を通して測地学・地球物理学の発展を促進するための活動を行っている。IUGG（The International Union of Geodesy and Geophysics）の国際対応窓口である IUGG 分科会、及び IUGG 傘下の 8 国際アソシエーションの窓口である 8 小委員会を開催し、国際対応に関する審議を行うとともに、それぞれの活動を活発に展開している。活動の一環として、2021 年 6 月に開催された JpGU（日本地球惑星連合）2021 年大会のユニオンセッションに参加し、IUGG 分科会の代表者も講演を行った。また、IUGG の活動に関する報告を執筆し、「学術の動向」に投稿した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現在のところ予定なし				
	開催シンポジウム等				
開催状況	現在のところ予定なし				
	第 1 回 2020 年 11 月 17 日オンライン開催、第 2 回 2021 年 9 月 29 日（予定）				
今後の課題等	IUGG 傘下の 8 小委員会が連携して IUGG が関係する地球物理学分野における日本				

	のプレゼンスを示すための活動を行う。また、次世代を担う若手人材の育成にも力を入れる。
--	--

地球惑星科学委員会（IUGS 分科会）					
委員長	西 弘嗣	副委員長	大久保 泰邦	幹事	齋藤 文紀、掛川 武
主な活動	審議内容				
	本分科会では、国際地質科学連合（IUGS）の国内委員会として、同連合と連携し、地質科学の課題に継続的に対処するため、地球に関する研究を奨励し促進すること、国際的ならびに学際的な共同研究が必要とされる研究を援助すること、地質科学に関する社会の理解を得ること、そして、人類社会が持つ諸問題の地質科学的な側面を明らかにすることを目的とした活動を行う。小委員会は、各々の分野の国際案件に対応する活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	検討中				
	開催シンポジウム等				
	2021 年 2 月 15 日 学術フォーラム「新たな地球観への挑戦」を共催。 2021 年 5 月 26 日 公開シンポジウム「国際地質災害研究の最先端と社会実装への取り組み（英語）」を開催。 「学術の動向」において学術フォーラムの特集号を企画・発行。 2021 年 6 月 4 日 日本地球惑星科学連合大会にて「島弧の構造・進化・変形とプレート沈み込み作用（ILP 小委員会）」、「地球年代学・同位体地球科学（地質年代学小委員会）」を開催。 2021 年 5 月 17 日 ILP は Annual Business Meeting に参加。 2020 年 11 月 5 日 IAH は日本地下水学会における国際セッションを開催。				
開催状況	第 1 回 2020 年 10 月 28 日 第 2 回 2020 年 12 月 28 日 IPA 小委員会：第 1 回 2021 年 2 月 2 日 第 2 回 2021 年 7 月 4 日				
今後の課題等	IUGS と連携し、国際社会の情報の国内周知、地質科学の振興、普及、社会貢献、IUGS に関する役員等の推薦等に係る諸案件に係る審議を行う。中止となったチバニアン関連のシンポジウムの開催を計画する。IPA では 2023 年にアジア古生物学会（日本開催予定）の準備に関して議論された。地質年代学小委員会では熱年代学国際会議 Thermo2024（日本開催予定）に向けて準備を開始。IAGC 小委員会は水岩石相互作用国際シンポジウムの実施を予定。IAH は 2021 年 9 月に国際学会が開催予定。				

地球惑星科学委員会（SCOR 分科会）					
委員長	原田 尚美	副委員長	張 勁、日比谷 紀之	幹事	沖野 郷子、川口 慎介
主な活動	審議内容				

	・ISC-SCOR が実施している国際ワーキンググループや IIOE-2 のチェアなど重要人物の特任連携会員への推薦ならびに SCOR 分科会メンバーへの承認。 ・傘下の小委員会「IIOE-2」「SEMSEAS」「GEOTRACES」の活動支援。 ・ISC-SCOR が毎年採択している国際ワーキンググループ課題の審査と取りまとめ。
	意思の表出（※見込み含む）
	現時点ではなし
	開催シンポジウム等
	現時点ではなし
開催状況	第1回 SCOR 分科会 2020 年 10 月 16 日（遠隔会議） 第2回 SCOR 分科会 2020 年 10 月 22-28 日（メール審議） 第3回 SCOR 分科会 2021 年 7 月 26 日（月）（遠隔会議） 第1回 IIOE-2 小委員会 2021 年 3 月 26 日（遠隔会議） 第1回 GEOTRACES 小委員会 2021 年 3 月 23 日（遠隔会議） 第2回 GEOTRACES 小委員会 2021 年 4 月 14 日（遠隔会議） 第1回 SEMSEA 小委員会 2021 年 3 月 9 日（遠隔会議）
今後の課題等	読者として政府・行政を想定した「提言」や「報告」、一般社会の市民を想定した「提言」や「報告」のそれぞれについて発信力を強化していくこと。

地球惑星科学委員会（地球惑星科学社会貢献分科会）					
委員長	佐竹 健治	副委員長	中村 尚	幹事	益田 晴恵、山岡 耕春
主な活動	審議内容				
	1. 放射性物質拡散問題 2. 国家存亡にかかわるほどの超巨大災害 3. 危機における学術からの情報発信の仕組み 4. その他、地球惑星科学と社会の関係				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回 2020 年 12 月 26 日，第2回 2021 年 4 月 6 日				
今後の課題等	前期（第24期）にまとめた「記録」を引き継ぎ，上記の審議内容について，提言のための審議を行っている。2021 年 7 月に実施した第三部の委員会・分科会との情報交換に基づき，他分野の方にも審議に参加して頂くことを検討中。				

⑭情報学委員会



情報学委員会					
委員長	相澤 清晴	副委員長	谷口 倫一郎	幹事	下條 真司、大場 みち子
主な活動	審議内容				
	情報学はあらゆる学術分野に影響する基幹分野となっている。情報学と関連学術分野の発展に資する活動を行う。具体的には、情報学に関する国際的な施策、最新の技術トレンド、社会情勢をテーマにしたシンポジウムの開催、情報学委員会からの8分科会の設立、課題別委員会、他分野委員会と共同した分科会の設立などを進めてきた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言、報告は、情報学委員会の分科会から表出し、25期には4分科会からの表出が予定されている。				
	開催シンポジウム等				
	2021年1月13日 情報学シンポジウム「社会生活のデジタル改革」 https://sites.google.com/view/scj-i/情報学シンポジウム 一部 情報科学技術の戦略 講師3名 二部 社会生活のデジタル改革 講師6名 オンライン開催：ZOOM 参加者数 320名、Youtube 参加者数 60名 2022年1月12日 情報学シンポジウムを開催予定				
開催状況	第1回 2020年10月3日 第2回 2021年1月13日 第3回 2021年3月12日～3月18日（メール審議） 第4回 2021年4月22日 第5会 2021年8月19日				

今後の課題等	情報学委員会としては、分科会の活動を進めるとともに、委員会での取り組みとして年次のシンポジウムを計画している。コロナ禍の様子を見ながら、その形態について、再考するとともに、主要テーマとして取り上げるべき内容に関しての検討を進めている。
--------	---

情報学委員会（ビッグデータ・センシング社会基盤分科会）					
委員長	東野 輝夫	副委員長	下條 真司、 木俣 豊	幹事	佐藤 一郎、 中野 美由紀
主な活動	審議内容				
	ビッグデータの収集、処理基盤、活用の多岐に及ぶ話題に関して、学際的な研究分野で連携し、課題の抽出・分析及びこの分野のあり方に関する意見交換を行い、政策や技術開発、さらには倫理、社会的側面や人材育成等に関する提言を行うことを目的にその計画などについて審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期中に個人情報の学術利用の扱いに関する提言又は報告の発出を計画している				
	開催シンポジウム等				
	今年度中に「個人情報の学術利用の扱い」に関する学術シンポジウムを開催予定				
開催状況	第1回の分科会を2021年1月13日にオンラインで開催した。				
今後の課題等	今期中に個人情報の学術利用の扱いに関する提言又は報告の発出を計画				

情報学委員会（国際サイエンスデータ分科会）					
委員長	村山 泰啓	副委員長	井上 純哉	幹事	
主な活動	審議内容				
	・ISC（国際科学会議）直下の国際組織 CODATA（科学データ委員会）、WDS（世界データシステム）への対応を行った。具体的活動例は以下の通り。 ・CODATA、WDS の国際執行役員会の候補者を我が国から選出して ISC での国際選考に付した（選考中）。また当分科会委員より G7 科学大臣会合オープンサイエンス部会共同議長などが選出されており、科学データ問題の国際的議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	国際サイエンスデータ分科会：第1回 2021年1月13日、第2回 2021年10月4日（予定）。CODATA 小委員会：第1回 2021年5月7日。WDS 小委員会：2021年4月1日。				
今後の課題等	既存の学術ドメインを超えた分野融合的オープンサイエンスを開拓しつつある CODATA、WDS 活動について、重要性再認識と国内認知度向上等の課題がある。				

情報学委員会（情報学教育分科会）					
委員長	徳山 豪	副委員長	上田 和紀	幹事	亀井 清華
主な活動	審議内容				
	関連学協会と連携し、情報社会における基幹教育としての情報教育の構築と実施を先導することを中心的な課題とする。特に、情報教科の大学共通テストへの導入への対応を検討し、シンポジウムの開催などにより多方面からの意見を聴取し、情報教育課程の構築と教育現場での実施に向けて議論している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	前期に提出した「情報学教育課程の設計指針」のアップデートを行い、報告する予定。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「大学入学共通テスト『情報』が目指すもの」 令和3年8月26日開催（オンライン開催）				
開催状況	第1回 2021年1月13日（オンライン開催） 第2回 2021年4月16日～4月19日（メール審議） 第3回 2021年4月26日（オンライン開催） 第4回 2021年9月10日（オンライン開催予定）				
今後の課題等	情報教科の新指導要領や大学共通テストへの導入などの教育変革を適切にリードする。特に、中学・高校における教育現場での対応を円滑に行い、情報学の適切な教育体制を整備するため、学術会議としての指針の明確化が重要な課題である。				

情報学委員会（環境知能分科会）					
委員長	土井 美和子	副委員長	萩田 紀博	幹事	橋本 隆子、灘本 明代
主な活動	審議内容				
	情報の生成・探索・表現・蓄積・管理目的とした従来の情報学だけでなく、生存を脅かす自然・社会環境の変化やネット社会問題などに対して心理的・精神的不安を解消し、新しい生活様式・経済活動に適応するための新たな情報（生存情報）学が必要であると提言を検討中。分科会5回と幹事会を17回オンライン開催。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	総合知の視点から、人間と社会が生き延びるための生存情報学のあるべき姿と今後やるべき課題を、人材育成も含めて年内を目処に提言予定。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「生存情報学：人類が生き延びるために進化する情報学のあるべき姿とは？」比較認知科学（川合伸幸）、ロボット哲学（小山虎）、知能ロボティクス（石黒浩）、医学・未来社会創造（濱口道成）話題提供・討論、参加161名、生存情報学の必要性が講演者からも確認された。				
開催状況	第1回 2020年12月19日(土) 10:00～12:00 24期の活動情報報告、今後の計画、第2回 2021年1月13日(水) 10:30～12:00 身体性メディア（南澤孝太）、コミュニケーション科学（柏野牧夫）第3回 2021年3月11日(水) 9:30～12:00 ミクロ経済理論（安田洋祐）、マルチエージェント（横尾真）第4回 2021年5月31日(水) 17:00～19:00 科学哲学（小林傳司）、心理情報学（西田				

	眞也) 第5回 2021年7月19日(水) 14:00～14:30 提言に向けて (幹事団)
今後の課題等	哲学、経済学、心理学など、さまざまな学術領域と融合して先読み方式で、人間の活動や地球環境の維持に必要な未来社会の課題に応える学術領域の提案は、日本学術会議ならではの活動と痛感している。

情報学委員会 (ソフトウェア学分会)					
委員長	松本 健一	副委員長	大堀 淳	幹事	山本 里枝子、位野木 万里
主な活動	審議内容				
	産官学を統合した幅広い工学的な視点及び学際的・分野融合的な学術の創成の視点からソフトウェアに関する諸課題の審議を行い、世界をリードしうるソフトウェア学の研究と実践の方向についての提言等の表出を目指す。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	該当なし。				
	開催シンポジウム等				
	該当なし。				
開催状況	令和3年1月13日 (水)				
今後の課題等	コロナ禍にあり、新たなサービスの創成による産業構造の変革や学際的研究の必要性がより高まっている。日本学術会議ならではのゴールを設定し、ソフトウェア学のあるべき姿や実現すべき取り組みを、専門知識を背景としてわかりやすくまとめていく。				

情報学委員会・心理学・教育学委員会合同 (教育データ利活用分会)					
委員長	美濃 導彦	副委員長	楠見 孝	幹事	谷口 倫一郎、柴山 悦哉、緒方 広明
主な活動	審議内容				
	現場での教育データ利活用の実践方法に関する審議を行う。第24期幹事会の先生方から頂いた意見を踏まえ、データを収集する方法に関する問題点、収集したデータの管理の問題点、教育データを共有するときの個人情報の匿名化の問題点などに関する慎重な検討を行い、共有されたデータの利用方法 (教育実践、研究、政策) などに関して議論を深めてゆく。また、ウイズ・ポストコロナ時代における、教育データの利活用による教育のデジタルトランスフォーメーションのあり方について、国内外の動向を調査し、シンポジウム等を開催して、議論・検討を進める。				
	意思の表出				
	提言を作成予定				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	第1回 2021年1月13日 第2回 2021年5月28日				

	第3回 2021年7月13日
今後の課題等	第24期に発出した「教育のデジタル化を踏まえた学習データの利活用に関する提言」のフォローアップとコロナ後の社会での実装、展開を目的とした活動を進める。教育に関するデータを利用した教育に関して幅広く議論するとともに、シンポジウム等を開催して多方面からの意見を聴取し、啓発活動を行う。

⑤化学委員会



化学委員会					
委員長	茶谷 直人	副委員長	北川 尚美	幹事	君塚 信夫、関根 千津
主な活動	審議内容				
	・化学委員会の下、12の分科会による合同会議を開催した(令和2年12月25日)。全体会議では、化学委員会および各分科会から活動状況報告を行うとともに、昨年7月に発出した提言「「化学・情報科学の融合による新化学創成に向けて」(講師:阿尻 雅文氏(東北大学材料化高等研究所教授)、および「我が国の学術今後について考える」(講師:川合 真紀氏(分子科学研究所所長))の2件の講演の後、議論を行った。 ・化学委員会、日本化学会戦略企画委員会、分子科学研究所合同主催のシンポジウムをオンラインで開催した(下記)。WEB会議の利便性を反映して、200名を超える参加者があった。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	開催シンポジウム等				

	公開 WEB シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議『広がる化学系博士人材の未来』(令和3年6月8日、WEB 会議)
開催状況	第4回 2021年6月8日 第5回 2021年12月24日(予定)
今後の課題等	博士課程卒業生の企業での活躍や重要性を広める活動を引き続き行う。カーボンニュートラル・炭素循環について、日本化学会と連携して化学の立場から取り組む。

化学委員会(化学企画分科会)					
委員長	茶谷 直人	副委員長	北川 尚美	幹事	君塚 信夫、関根 千津
主な活動	審議内容				
	・上記化学委員会の活動と連携して、合同分科会(令和2年12月25日)および公開シンポジウム(令和3年6月8日)における具体的な企画を行った。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	開催シンポジウム等				
	公開 WEB シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議『広がる化学系博士人材の未来』(令和3年6月8日、WEB 会議)				
開催状況	第2回 2021年6月8日 第3回 2021年12月24日(予定)				
今後の課題等	化学委員会合同分科会および公開シンポジウムの企画を行う。				

化学委員会(IUPAC 分科会)					
委員長	所 裕子	副委員長	竹内 孝江	幹事	岸村 顕広、所 千晴
主な活動	審議内容				
	・委員長、副委員長、幹事を選出し、これまでの活動報告を踏まえ、今期の活動方針を議論した(令和2年12月25日)。				
	・IUPAC の Divisions や Standing Committees の活動に、より多くの日本からのメンバーが参加していくために、Titular Members, Associate Members, National Representatives の候補者について議論を行い、各ポジションに12名の先生方を推薦した。				
	・令和3年5月と8月に行われた IUPAC special council meeting (オンライン) に酒井委員と所裕子委員が参加し、IUPAC の今後の活動や組織改革等についての議論に参加した。				
	・IUPAC2021: IUPAC General Assembly (令和3年8月13-20日) に、本分科会委員の中から、酒井委員、竹内委員、岸村委員、所千晴委員、所裕子委員が参加し、				

	Council meeting や各委員会での議論に参加した。
	意思の表出（※見込み含む）
	開催シンポジウム等
開催状況	令和2年12月25日
今後の課題等	今期は、IUPAC General Assembly や Council Meeting など多くの国際的会合に本分科会委員が出席し、日本の存在感を高めた。今後、IUPAC の活動において日本がより一層存在感を高めていくために、引き続き努力を続ける。

化学委員会（IUCr 分科会）					
委員長	高田 昌樹	副委員長	井上 豪	幹事	菅原 洋子、森吉 千佳子
主な活動	審議内容				
	新型コロナパンデミックのため1年間延期になっていた国際結晶学連合会議および総会（IUCr2021）が2021年8月14日～24日にプラハでハイブリッド開催される。代表派遣者4名（リモート参加）を中心に、総会に対する対応の準備を進めている。 公開WEBシンポジウム「COVID-19パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」を令和2年11月29日に開催し、「記録」を作成した。 IUCr も共催団体となっている The International Year of Basic Science for Sustainable Development (IYBSSD2022)の推進活動への参加を決めた。 カーボンニュートラルに関する連絡会議への参加を決めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開WEBシンポジウム「COVID-19パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」（化学委員会、化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、化学委員会 IUCr 分科会主催、日本結晶学会共催）を令和2年11月29日に開催。				
開催状況	第1回 2020年10月16日、第2回 2020年12月25日 第3回 2021年4月27日～5月9日（メール審議）、第4回 2021年6月12日				
今後の課題等	今期開始に際し、新型コロナパンデミックの状況下で、創薬、製薬、医療機器開発の分野で、グローバルな解決策を探る学術として、我が国の結晶学の役割を、国内				

	外に発信していく。2023 年メルボルンで開催される IUCr2023 総会にむけて、IYBSSD2022 と上記課題とも密接に連携させ、我が国の結晶学の国際的な貢献を推進し、認知度を高めていく活動を展開する。
--	---

化学委員会（物理化学・生物物理化学分科会）					
委員長	岡本 裕巳	副委員長	村越 敬	幹事	石谷 治, 山内 美穂
主な活動	審議内容				
	○アト秒レーザー科学研究施設の設立に向けた取り組み（アルファ計画）について、その運用方針、波及効果等の可能性について議論した。				
	○地方にある大学の活性化の必要性・方策について議論、提言をまとめる方向で化学委員会、第3部などに議論を上奏する方針とし、第3部提言情報交換会に提案した。				
	○急速に拡大する“カーボンニュートラル”へ向けた動勢を考慮し、学術的な観点から「化学工業における資源転換」について議論すべきであるとの認識が共有され、化学委員会に上奏した。前後して学術会議に「カーボンニュートラルに関する連絡会議」が設置されることになり、本分科会も参加の意向を表明した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
開催状況	令和2年12月25日、令和3年2月24日				
	開催シンポジウム等				
今後の課題等	○アルファ計画について、本分科会でも実現に向けて積極的に支援したい。 ○地方にある大学の活性化については、本分科会の枠を超えて議論を進め、提言の取りまとめに努力する。 ○カーボンニュートラルについては、例えば新たなエネルギープロセスにおける反応機構、触媒、光化学反応、新規機能性物質開発、その機能解明、環境科学に寄与する物理化学計測技術等、本分科会が寄与する余地が少なからずあり、連絡会議でそれらを共有したい。				

化学委員会（無機化学分科会）					
委員長	長谷川 美貴	副委員長	伊東 忍	幹事	西原 寛
主な活動	審議内容				
	・無機化学分野における労働の多様性を審議する（勉強会開催予定）。				
	・持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022 への分科会としての積極的な参画。				
	意思の表出（※見込み含む）				
開催状況	令和2年12月25日、令和3年2月24日				
	開催シンポジウム等				
今後の課題等	○アルファ計画について、本分科会でも実現に向けて積極的に支援したい。 ○地方にある大学の活性化については、本分科会の枠を超えて議論を進め、提言の取りまとめに努力する。 ○カーボンニュートラルについては、例えば新たなエネルギープロセスにおける反応機構、触媒、光化学反応、新規機能性物質開発、その機能解明、環境科学に寄与する物理化学計測技術等、本分科会が寄与する余地が少なからずあり、連絡会議でそれらを共有したい。				

	開催シンポジウム等
	「金属材料開発の現場における多様性と展望（仮）」と題し 2021 年 10 月に分科会内で勉強会を開催することを予定している。
開催状況	上の勉強会では、無機化学分野の産業と学術が支える社会への取り組みおよび労働の多様性を知るきっかけに位置し、産業界から 2 名と社会科学者を招く。
今後の課題等	

化学委員会（有機化学分科会）					
委員長	茶谷 直人	副委員長	寺田 眞浩	幹事	磯部 寛之、中島 裕美子
主な活動	審議内容				
	有機合成化学分野強化に向けた「AI 合成ロボティクス」の推進および「博士人材育成」に取り組む。さらに、「カーボンニュートラル」に関して有機化学の立場から取り組む。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定（議論継続中）				
	開催シンポジウム等				
	未定（議論継続中）				
開催状況	2021 年 12 月 24 日（予定）				
今後の課題等	有機化学の視点で「カーボンニュートラル・炭素循環」を審議し、意見の表出につなげて有機化学分科会としての役割を果たしていく。				

化学委員会（高分子化学分科会）					
委員長	吉江 尚子	副委員長	丸山 厚	幹事	山子 茂、岸村 顕広
主な活動	審議内容				
	1. 「カーボンニュートラルに関する連絡会議」、「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」について審議し、参加意思の確認を行った。				
	2. 「マイクロプラスチック・廃プラスチック問題」ならびにプロセスインフォマティクスを含む「データサイエンス」について意思の表出に向けた議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「マイクロプラスチック・廃プラスチック問題」「データサイエンス」については、意思の表出のためには、引き続き議論を深める必要がある。				
	開催シンポジウム等				

開催状況	(25 期) 第 1 回 2020 年 12 月 25 日 (WEB 会議) 第 2 回 2021 年 8 月 17 日 (WEB 会議)
今後の課題等	高分子材料の役割に関する社会的転機に対して、学術面と共に一般社会への適切な提言に向けて活動を行う。

化学委員会（材料化学分科会）					
委員長	関根 千津	副委員長	玉田 薫	幹事	竹岡 裕子、内藤 俊雄
主な活動	審議内容				
	化学委員会の下、社会の変化や国内産業内での当分科会の位置づけを念頭におき、材料化学分科会として活動すべき内容を議論した。（審議継続中）				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定（議論継続中）				
	開催シンポジウム等				
	未定（議論継続中）				
開催状況	第 1 回 2020 年 12 月 25 日 役員選出、24 期の報告と 25 期の方針議論 第 2 回 2021 年 8 月 27 日(予定)				
今後の課題等	化学分野の広範な領域から大学と民間企業の委員が参集している材料化学分科会の特徴を生かし、材料化学の視点で取り組むべき重要事項を審議し、意見の表出につなげて材料化学分科会としての役割を果たしていく。				

化学委員会（分析化学分科会）					
委員長	谷口 功	副委員長	加藤 昌子	幹事	佐藤 縁、竹内 孝江
主な活動	審議内容				
	第 24 期の活動を発展させ、学術フォーラム「コロナとの共生の時代における分析化学の果たす役割」を実施すると共に、第 25 期としての取り組みについて、分科会として意見集約し計画を実行している。その中で、令和 3 年度は、カーボンニュートラル関連の話題などを議論・精査し、フォーラム（「カーボンニュートラル社会を支える最先端分析化学技術」）の開催に向けた準備を進めるとともに、日本学術会議フォーラム開催の申請を行った。今後の分科会としての活動のあり方や活動内容などについての議論も進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現時点では特段の計画はない。				
	開催シンポジウム等				

	・学術会議フォーラム「コロナとの共生の時代における分析化学の果たす役割」を学術会議にて開催（令和2年11月11日） ・学術会議フォーラム（「カーボンニュートラル社会を支える最先端分析化学技術」）の開催を準備中（令和3年11月11日予定：学術会議に申請済）
開催状況	第1回委員会（令和2年10月21日：オンライン会議） 第2回委員会（令和2年11月11日：上記学術フォーラム開催に合わせて、同日、対面・オンラインの併用による委員会開催） 第3回委員会（令和2年12月25日：オンライン会議） 第4回委員会（令和3年3月24日：オンライン会議） 第5回委員会（令和3年6月15日：オンライン会議）（「カーボンニュートラル社会を支える最先端分析化学技術」の企画案や開催方法などについて議論。） 第6回委員会（令和3年9月頃を予定）
今後の課題等	第25期として、今後のフォーラムやシンポジウムの開催、マスタープランへの取り組み、関係機関・学会・社会との連携などについて、分科会として意見の集約とともに必要な活動を計画し実行している。 今後も分析化学や分析科学技術を含む学術の果たすべき役割や使命について情報発信とするとともに社会貢献の視点から広く社会との情報共有を進める。

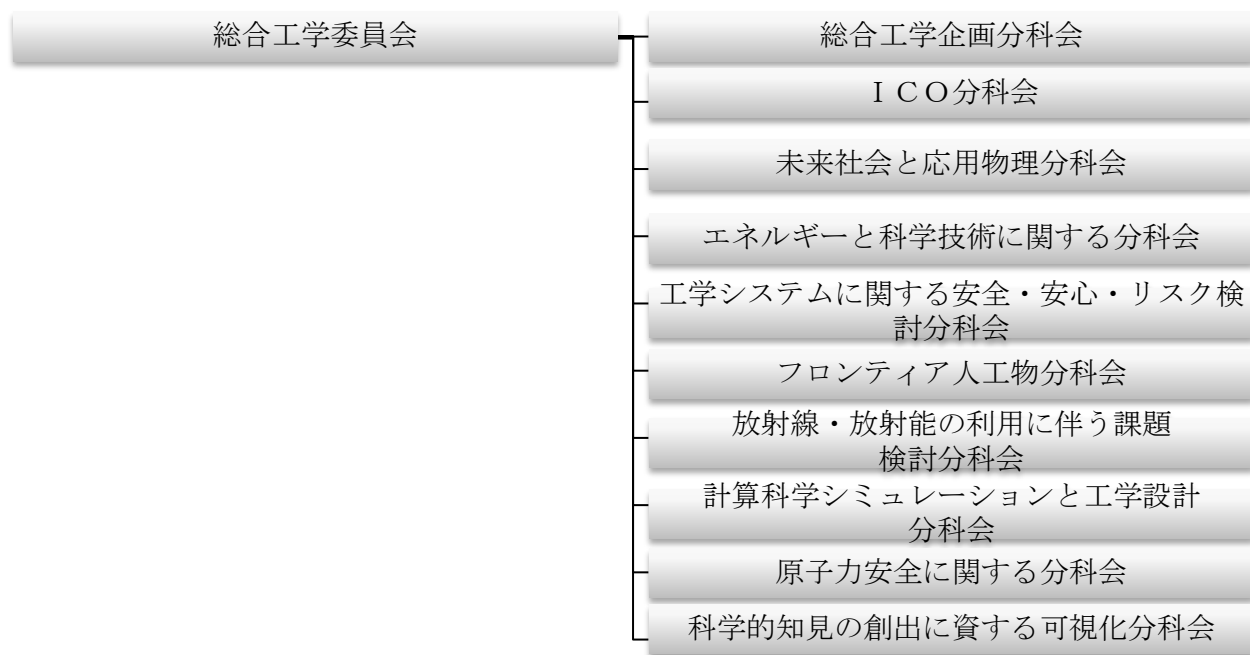
化学委員会・物理学委員会合同（結晶学分科会）					
委員長	菅原 洋子	副委員長	西野 吉則	幹事	阿久津 典子、上村 みどり
主な活動	審議内容				
	公開 WEB シンポジウム「COVID-19 パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」を令和2年11月29日に開催し、「記録」を作成した。 The International Year of Basic Science for Sustainable Development (IYBSSD2022)の推進活動への参加を決めた。 カーボンニュートラルに関する連絡会議への参加を決めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和2年11月29日に公開 WEB シンポジウム「COVID-19 パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」（化学委員会、化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、化学委員会 IUCr 分科会主催、日本結晶学会共催）を開催。				
開催状況	第1回 2020年10月16日、第2回 2020年12月25日 第3回 2021年4月27日～5月9日（メール審議）、第4回 2021年6月12日				
今後の課題等	公開シンポジウム「COVID-19 パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」を受けて議論を行い、今後、感染症パンデミックを含めた各種緊急事態発生への備えおよび迅速な対応を実現するための方策を検討し、これを実施につなげる。 SDGs を踏まえ、コロナ後の社会における課題解決のために必要とされる結晶学領域の技術展開、推進のため、令和3年11月30日開催の結晶学会70周年記念シンポジウムの支援を含めた活動を進める。				

化学委員会（生体関連化学分科会）					
委員長	菅 裕明	副委員長	渡辺 芳人	幹事	大河内 美奈
主な活動	審議内容				
	化学委員会の下、生体関連化学は、化学および生物工学をベースとした研究者を中心に、化学分野の境界領域の開拓と発展、ならびに他部会との連携をはかることが重要と認識した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記の主要活動を踏まえ、疾患、健康、薬などをテーマとしてアカデミア・産業界とも連携した活動を精力的にすすめる。今期は、感染症治療に資する医薬品の探索や開発において、基礎科学からイノベーションまで俯瞰的な視点で提言が纏められるように進めていく場を提供することが重要と認識しており、今後審議を深めた上で、意思表示をしていく。				
	開催シンポジウム等				
	今期に、コロナ感染症に資する医薬品探索、開発に精通する研究者をお招きし、スポット講演会を4回程度開催することを計画する。				
開催状況	第1回 2020年12月25日（リモート会議）役員選出、24期の報告と25期の方針を議論 2021年8月17日に委員長、副委員長、幹事でリモート会議で今後の方針を議論 第2回 2021年9月内に開催予定				
今後の課題等	2020～2021年にわたり、コロナパンデミックは我々人類の社会生活に大きな変化をもたらした。ワクチン開発はすべて海外で行われ、日本はその確保も含め大幅な遅れを取っただけでなく、検査技術や内服薬開発においても不十分な対応になっていると言わざるを得ない。生体関連化学は、化学と生物学の基礎研究に基づく学問ではあるが、一方で医薬品や検査薬開発等の中核になる基礎学問でもあることを受け、より迅速かつ効率良いそれらの開発に資する研究基盤の構築が必要と認識している。今後、生体関連化学分科会では、感染症から癌疾患、生活習慣病、希少疾患に至るまで、広い視野をもつ研究者の人材育成と研究推進のための議論を深めることにする。				

化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同（触媒化学・化学工学分科会）					
委員長	所 千晴	副委員長	北川 尚美	幹事	後藤 雅宏、関根 泰
主な活動	審議内容				
	化学技術と、化学技術を展開するための触媒、操作、プロセス及びシステム等に関連する基盤工学分野において、カーボンニュートラルやSDGsを中心とした21世紀のわが国社会に求められる産業の果たすべき役割について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	カーボンニュートラルに関する連絡会議にも参加し、カーボンニュートラルやSDGs達成に求められる化学技術等の果たす役割について提言の発出を目指す。				

	開催シンポジウム等
	公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題」を11月に開催すべく起案した。
開催状況	第1回 2020年12月25日 第2回 2021年6月22日
今後の課題等	カーボンニュートラルやSDGs達成のための化学技術等の果たす役割について議論を深めるためには、市民との対話や他分科会とのより一層の連携が求められる。

②⑥総合工学委員会



総合工学委員会					
委員長	小山田 耕二	副委員長	玉田 薫	幹事	筑本 知子、伊藤 宏幸
主な活動	審議内容				
	総合工学委員会では、細分化された工学分野を複眼的・学際的に統合する役割を担う総合工学の位置づけや統合化への取り組み等を審議し、活動に反映させる。具体的には、本委員会及び関連する分科会、小委員会、シンポジウム等に関する事項を審議・決定するとともに、委員会が関わる諸活動を推進する。また、学協会等科学者コミュニティとの連携活動のあり方の検討を行う。この活動において、24期からの申し送り事項の具体的な実現について検討を行っている。なお、委員全員が出席する総合工学委員会の全体会議は、最低年1回は開催する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	24期からの申し送り事項の具体的な実現について審議した後、その結果を意思の表出としてまとめることを検討している。				
	開催シンポジウム等				
	上記の具体的な審議結果がある程度まとまった段階で、令和3年度に公開シンポジウムを開催。				
開催状況	第1回(令和2年10月3日)、第2回(メール審議 令和3年5月7日(金)～令和3年5月10日(月))、第3回(メール審議 令和3年7月6日(火)～令和3年7月8日(木))				
今後の課題等	24期からの申し送り事項の具体的実現について審議、総合工学らしい学術の大型研究計画の提案、学術会議がこれまでに公表した提言を俯瞰するために可視化する作業を継続している				

総合工学委員会（総合工学企画分科会）					
委員長	小山田 耕二	副委員長	玉田 薫	幹事	筑本 知子、伊藤 宏幸
主な活動	審議内容				
	総合工学委員会の運営及び活動を円滑かつ積極的に進めるために、総合工学企画分科会を設置し、議論を行う。これまで 2 回分科会を開催し、まずは 1「総合工学」の研究分野としての体系の検討と 2「総合工学」分野の参照基準作成の検討に焦点を絞って検討を行うこととなった。1 に関しては、カーボンニュートラルをキーワードとしてシンポジウム等の開催を通じて国内外の状況を把握し、体系化の検討を行う方針である。2 については、「総合工学」提言の咀嚼と深化に加え、ダイバーシティーインクルージョンの視点も加えた検討を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	24 期からの申し送り事項の具体的な実現について審議した後、その結果を意思の表出としてまとめることを検討している。				
	開催シンポジウム等				
	上記の具体的な審議結果がある程度まとまった段階で、令和 3 年度に公開シンポジウムを開催。				
開催状況	第 1 回(令和 3 年 4 月 19 日)、第 2 回(令和 3 年 7 月 19 日)				
今後の課題等	分科会、小委員会、シンポジウム等に関する審議を行う。24 期からの引継ぎ事項である「総合工学」の教育・研究分野としての体系についての検討を行う。教育に関しては、「総合工学」分野の参照基準策定に取り組むこととし、新たに小委員会を設置して具体的な作業を進める。一方、研究の体系化については、連絡会議を通じてカーボンニュートラルに関する横断的な情報・意見交換や連携を進めつつ、シンポジウム(またはフォーラム)案を具体化し実行する。				

総合工学委員会（ICO 分科会）					
委員長	荒川 泰彦	副委員長	五神 真	幹事	松尾 由賀利、馬場 俊彦
主な活動	審議内容				
	国際対応委員会のひとつとして、国際光学委員会（ICO (International Commission for Optics)）への対応等を審議するとともに、我が国の光・量子科学技術の発展に資する活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				

	令和3年5月21日に『国際光デー記念シンポジウム～レーザー誕生60周年～』をオンライン開催し、約500名の参加者を得て成功裏に終えることができた。
開催状況	第1回 2021年1月4日 第2回 2021年5月21日
今後の課題等	ICOへの対応等の審議、国際光デー活動の推進、光科学技術に関する研究者の交流の促進と国民の啓発などが挙げられる。

総合工学委員会（未来社会と応用物理分科会）					
委員長	伊藤 公平	副委員長	筑本 知子	幹事	藤原 聡、板垣 奈穂
主な活動	審議内容				
	応用物理学分野の研究開発のあり方について検討し、応用物理分野の将来ビジョンを明らかにして包括的提言を行うことを目指す。さらに産学官連携による研究協力体制のあり方について検討するとともに、次世代を担う人材の育成・教育についての課題を検討する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未来社会へ向けた応用物理分野のシンポジウムを開催する。これまでに抽出した課題と解決策の検討を合わせた意思の表出を検討している。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「新型コロナウイルス禍に学ぶ応用物理：未来社会に向けて」を令和3年3月17日（水）13:00-18:00にオンライン開催。				
開催状況	第1回 2020年12月25日				
今後の課題等	24期に発出した提言「日本の停滞を打破し新産業創出を促す社会基盤と研究強化～応用物理からの提言～」が総合工学全体に波及するもので高く評価されていることを踏まえ、これを礎にコロナ禍やカーボンニュートラル等の課題解決に向けて議論の深化を行う。				

総合工学委員会（エネルギーと科学技術に関する分科会）					
委員長	疇地 宏	副委員長	山地 憲治	幹事	岩城 智香子、齋藤 公児
主な活動	審議内容				
	エネルギーと科学技術に関する検討課題のうち、個別技術として「ハイパワーレーザー技術と高エネルギー密度科学」、「持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討」および「熱エネルギー利用の社会実装基盤」の三つの小委員会を設置し、審議を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期の活動の結果を提言等にまとめる予定である。				

	開催シンポジウム等
	2021年11月4日（土）に、公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題（仮題）」を開催する。 2022年2月に、公開シンポジウム「将来のエネルギー科学技術に向けたパワーレーザーと高エネルギー密度科学の役割と展望（仮題）」を開催することを検討中。
開催状況	第1回 2021年1月15日 第2回 2021年8月12日
今後の課題等	上記の個別技術の課題について審議を行うとともに、カーボンニュートラルに向けたエネルギー分野のロードマップについて検討する。

総合工学委員会（工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会）					
委員長	須田 義大	副委員長	野口 和彦	幹事	辻 佳子、水野 毅
主な活動	審議内容				
	安全には工学としての技術だけではなく、人文科学、社会科学が深く関わりあっていることを念頭に、「安全の理念」をとりまとめる活動を行い以下の審議を行う。 ①安全・安心・リスクの体系化、②安心感等に関する検討、③老朽および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価・管理、④安全におけるリスクアプローチ適用、⑤アクセルとブレーキのバランス良くカーボンニュートラル推進する方法論および体制のあり方。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期末に「工学システムに関する安全・安心・リスクの体系化（仮）」として提言を発出予定。				
	開催シンポジウム等				
	2021年6月30日～7月2日 「安全工学シンポジウム2021」開催。				
開催状況	第1回2021年1月7日、第2回2021年4月9日、第3回2021年8月11日～8月13日※メール。各小委員会は別途委員会を開催。				
今後の課題等	リスク評価のフレームワークや具体的手法について検討を行い、その有効性と課題を明らかにして、工学システムの社会安全目標の社会実装につなげること、また、工学・心理学・社会学など分野融合で「安心」と「安心感」の関係の明確化をすること、を通じて社会に貢献する。				

総合工学委員会・機械工学委員会合同（フロンティア人工物分科会）					
委員長	鈴木 真二	副委員長	大和 裕幸	幹事	伊藤 恵理、宮崎 恵子
主な活動	審議内容				
	海と空・宇宙の利用技術開発と科学的解明を行うシステムであるフロンティア人工物に関して、企画小委員会を設置して民間及び研究機関との連携を図り、基幹となる技術及び喫緊の課題について議論を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	今期末に提言を発出予定。
	開催シンポジウム等
	令和3年9月22日（水）午後 公開シンポジウム「海空宇宙の COVID-19 対応と今後のパンデミック対応に向けて」開催。
開催状況	第1回令和3年2月9日、第2回令和3年4月26日企画小委員会合同、第3回令和3年6月公開シンポジウム承認のためのメール審議
今後の課題等	前期の提言で示した、フロンティア人工物の技術開発論と社会実装、国際連携や人材育成等の大きな方針を引き継ぎながら、特に、地球環境問題、輸送の無人化、複雑システムの設計等の地球規模の課題に対しての貢献を審議していく。

総合工学委員会・臨床医学委員会合同（放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会）					
委員長	柴田 徳思	副委員長	中野 隆史	幹事	神谷 研二、竹田 敏一
主な活動	審議内容				
	我が国における核医学分野における重要課題は、1）画像診断で多用されている Mo-99 の安定供給、2）近年、注目されている α 線放出核（Ac-225、At-211）を用いた放射性薬剤の国内製造であり、これらを製造するための大型加速器を擁する拠点を整備することである。小委員会を設置して検討を始めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	核医学分野の拠点整備に関する提言（仮題）を提案する予定。				
	開催シンポジウム等				
	核医学分野の拠点の整備に関するシンポジウムを開催する予定。				
開催状況	分科会：第1回 令和3年3月4日、小委員会：第1回 令和3年7月26日				
今後の課題等	我が国における核医学分野の拠点の整備の必要性を、広く訴えるために提言を発出したい。さらに学術会議の大型計画として拠点の整備を提案したい。				

総合工学委員会・機械工学委員会合同（計算科学シミュレーションと工学設計分科会）					
委員長	越塚 誠一	副委員長	金田 千穂子	幹事	高木 周、松尾 亜紀子
	審議内容				
	・本分科会は、第1回会合を令和2年12月7日にオンラインにて開催し、委員長、副委員長、幹事の選出を行うとともに、今期の小委員会活動などの方針について議論した。				
	・「計算力学小委員会」は、第1回会合が令和3年6月15日に開催され、役員の選出および公開シンポジウムの計画について議論した。				
	・「計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会」は、第1, 2回会合がそれぞれ令和3年3月30日、6月30日に開催され、役員の選出および提言案の議論が行われた。				
	・「計算音響学小委員会」は、第1回会合が令和3年6月28日に開催され、役員の選出等が審議された。				
	意思の表出（※見込み含む）				

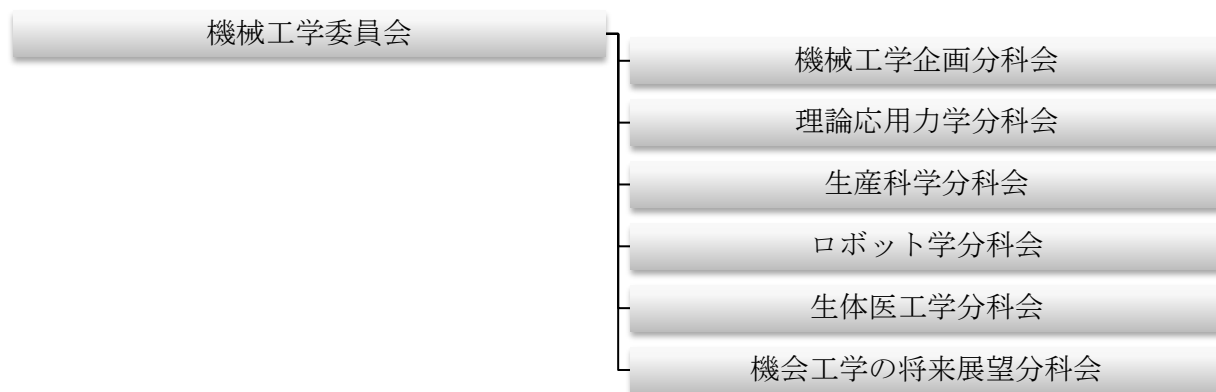
	提言「計算科学を基盤とした産業競争力強化を推進する人材育成とエコシステムのあり方」(仮)を発出予定である。
	開催シンポジウム等
	・第11回計算力学シンポジウムを令和3年12月6日に日本学術会議講堂にて開催することを計画している。なお、新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインに切り替える。
開催状況	本期間に、分科会会合は1回開催された。小委員会会合は、「計算力学小委員会」は1回、「計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会」は2回、「計算音響学小委員会」は1回、開催された。
今後の課題等	今後も、公開シンポジウムを継続的に開催するとともに、提言のとりまとめを行っていききたい。

総合工学委員会 (原子力安全に関する分科会)					
委員長	関村 直人	副委員長	越塚 誠一	幹事	野口 和彦、森口 祐一
主な活動	審議内容				
	原子力安全の基盤となる新知見の取込みやイノベーションに関する検討を行うとともに、「研究用原子炉の在り方検討」、「原発事故による環境汚染調査に関する検討」及び「社会のための継続的イノベーション検討」の3つの小委員会を設置して、各々の課題について審議を行う。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	前期の提言「原子力安全規制の課題とあるべき姿」及び各種報告を発展させて、各小委員会での審議結果を取りまとめ、意思の表出を行う予定である。				
	開催シンポジウム等				
	福島第一原子力発電所事故から10年を迎えたことを受け、原子力に関する多様な課題を議論する総合シンポジウムを各学協会との連携によって開催する。				
開催状況	分科会の開催状況は、以下のとおり。各小委員会の第1回会合を実施している。 第1回 令和2年12月7日、第2回 令和3年3月5日、第3回 令和3年6月26日				
今後の課題等	原子力安全に関わる幅広い科学及び技術とその基盤のみならず、社会からの要請、法規制の在り方等に関して、総合的に審議を行うことが重要である。				

総合工学委員会 (科学的知見の創出に資する可視化分科会)					
委員長	萩原 一郎	副委員長	小山田 耕二	幹事	田中 覚、伊藤 貴之
主な活動	審議内容				
	分科会中心に、学術変革領域(A)応募予定。「カーボンニュートラルに関する連絡会議」に分科会として参加し、目標に対する日本学術会議各委員会、分科会の活動内容の可視化、日本学術会議として加えるべき活動内容の可視化、日本国内の関連活動の可視化。日本国として加えるべき新たな活動の可視化、世界の関連活				

	動の可視化。日本学術会議の果たしている役割の大きさを示す可視化、など本分科会ならではの活動を行う。
	意思の表出（※見込み含む）
	① 可視化の新パラダイム策定小委員会、②ICT時代の文理融合研究を創出する可視化小委員会、③社会に資する可視化の小委員会、④細胞-身体可塑基盤からの自分を知り育てる科学知見創出に資する可視化小委員会と4つの小委員会を設け①と③、②と④合同の意思の表出の計画を立てている。
	開催シンポジウム等 上記の4つの小委員会単独、①～④合同、①と③、②と④合同と計7回のシンポジウムを開催予定。
開催状況	第1回 2020年12月12日、第2回 2021年5月18日（予定）、その他、上述の小委員会合同の意思の表出、シンポジウムの企画の具体化のため、4小委員会委員長と幹事グループ計6名集まっての議論を既に5回実施。
今後の課題等	本分科会は第3部に属するがますます重要となる、心の可視化、カーボンニュートラルなどの社会活動の可視化、生命の可視化など第1部と第2部を俯瞰する学術領域であり、我が国の本分野のプレゼンスを更に高めるための活動を行う。

⑦機械工学委員会



機械工学委員会					
委員長	大島 まり	副委員長	金子 真	幹事	光石 衛、高田 保之
主な活動	審議内容				
	「機械」に関わる工学を対象とした研究分野であり、およそすべての理工学分野の研究成果を「かたち」として具体化するときには不可欠となる重要な基盤的学術分野である機械工学について、そのあり方や今後の動向について審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	各関連分科会と連携しながら計画中。				
	開催シンポジウム等				
	各関連分科会と連携しながら計画中。				
開催状況	第1回 2020年10月3日 開催 第2回 2021年5月7日～5月10日 開催 ※メール審議 第3回 2021年5月28日 開催 第4回 2022年2月～3月 開催予定				
今後の課題等	以下の審議を行う。 1. 機械工学分野の学術活動全般に関する動向やあり方 2. 機械工学委員会の運営全般、分科会及び小委員会の設置・運営、シンポジウムなどの企画行事の主催および後援 3. 機械系学協会との連携、および所属分科会の活動などを通じて社会を支える機械工学に対する理解を深め、その活動を産業や社会生活に反映させるための検討				

機械工学委員会（機械工学企画分科会）					
委員長	大島 まり	副委員長	金子 真	幹事	光石 衛、高田 保之
主な活動	審議内容				

	「機械」に関わる工学を対象とした研究分野であり、およそすべての理工学分野の研究成果を「かたち」として具体化するときには不可欠となる重要な基盤的学術分野である機械工学について、および他分野と、そのあり方や今後の動向について審議する。機械工学委員会と機械工学委員会の関連分科会、および第一部と第二部あるいは各分野別委員会や分科会との連携を図り、活動を行っていく。
	意思の表出（※見込み含む）
	各関連分科会と連携しながら計画中。
	開催シンポジウム等
	各関連分科会と連携しながら計画中。
開催状況	第1回 2020年10月3日 開催 第2回 2021年3月25日 開催 第3回 2022年2月～3月 開催予定
今後の課題等	以下の審議を行う。 1. 機械工学分野の学術活動全般に関する動向やあり方 2. 機械工学委員会の運営全般、分科会及び小委員会の設置・運営、シンポジウムなどの企画行事の主催および後援 3. 機械系学協会との連携、および所属分科会の活動などを通じて社会を支える機械工学に対する理解を深め、その活動を産業や社会生活に反映させるための検討

機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同（理論応用力学分科会）					
委員長	高田 保之	副委員長	前川 宏一	幹事	松尾 亜紀子、高木 周
主な活動	審議内容				
	固体力学、流体力学、熱力学、振動・制御学を基盤とする理論応用力学分野の情報交換、学術交流、国際展開を行うため、関連学協会と協力した理論応用力学講演会、シンポジウムの主催や国際理論応用力学連合(IUTAM)の正規メンバーとしての国代表総会委員の派遣活動を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回分科会開催（令和3年3月22日） ・学協会連携小委員会（第1回） 2021年6月14日				
今後の課題等	3つの小委員会（理論応用力学企画小委員会、学協会連携小委員会、IUTAM・国際連携小委員会）を中心に、①理論応用力学分野の学術研究の進展、課題および将来動向、②国際組織 IUTAM の正規メンバーとしての総会、理事会、IUTAM シンポジウ				

	ムなど諸行事への参画方針、③関連学協会と協力した理論応用力学講演会、シンポジウムの主催、に関する審議を行う。
--	--

機械工学委員会（生産科学分科会）					
委員長	光石 衛	副委員長	須藤 雅子	幹事	塚田 竹美、足立 幸志
主な活動	審議内容				
	デジタルレボリューションによる物理的な生産の在り方、価値創造などの上流から下流までの生産プロセスの在り方、ビッグデータの活用方法、サイバー空間とフィジカル空間の関係の在り方、ビジネスモデルなどに関する学術について幅広い議論を開始した。特に、カーボンニュートラル及びサステナビリティを見据えた生産の在り方について議論を開始した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定あり（形態は未定）				
	開催シンポジウム等				
	なし（今後実施予定）				
開催状況	第1回 2021年3月30日 第2回 2021年6月11日 第3回 2021年9月30日に開催予定				
今後の課題等	以下の審議を行う。 1. デジタルレボリューションに伴う生産学術に関する国内外関連学会、および産業界の動向・研究の調査 2. カーボンニュートラル及びサステナビリティを見据えた生産の在り方 3. コロナ禍における当該生産学術に関する在り方 4. 同学術分野における国内外の人材育成 1～4に関してシンポジウムの開催や意思の表出作成を検討していく。				

機械工学委員会（ロボット学分科会）					
委員長	金子 真	副委員長	光石 衛	幹事	山西 陽子
主な活動	審議内容				
	従来の理工学の枠を超え、脳科学、人間科学、社会科学を含む分野横断的な総合科学としてロボット学を捉え、解決すべき問題や将来の方向性について整理することを目指した。具体的な審議内容は、(1)ロボットとELSI（Ethical, Legal and Social Issues）について現役弁護士から現場の問題点収集を行い、さらに(2)学際領域まで踏み込んだロボット最先端技術の現状を整理した。				
	意思の表出（※見込み含む）				

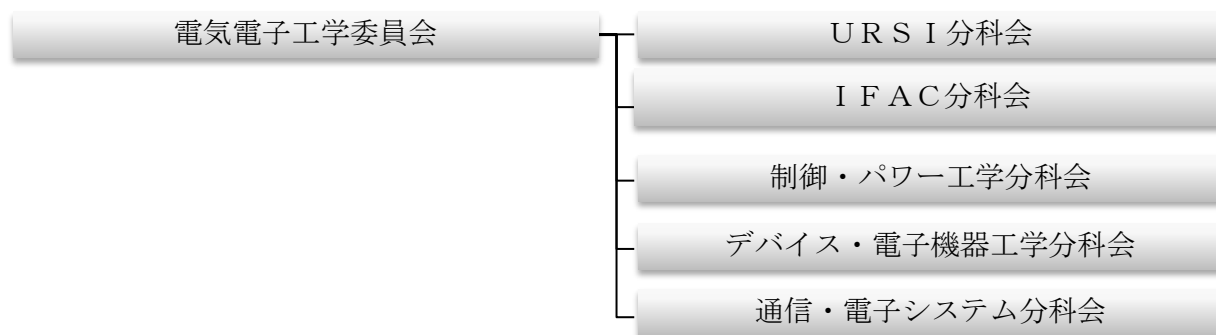
	ロボットと ELSI については、将来的課題とその方向性が整理された時点で意思の表出を視野に入れている。
	開催シンポジウム等
	シンポジウム等は開催していない。
開催状況	第1回 令和3年2月18日 第2回 令和3年9月17日
今後の課題等	ロボットと ELSI はロボットをドローン、医療ロボット、AI ロボット等読み替えることによって将来的に多くの課題が浮き彫りになることが予想される。このあたりをうまく整理していきたい。

機械工学委員会・基礎医学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会 合同 (生体医工学分科会)					
委員長	但野 茂	副委員長	埜 隆夫	幹事	松本 健郎、石川 拓司
主な活動	審議内容				
	生体医工学を取り巻く以下の項目について、審議を行った。				
	1) 生体医工学の教育・研究体制の現状と課題				
	2) 研究開発から実用化に至る過程での課題と方策				
	3) 国内外関連学協会等の動向、情報交換、連携推進の方策				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	なし				
開催状況	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回 令和3年3月29日 (オンライン) 第2回 令和3年7月27日 (オンライン)				
今後の課題等	今期分科会の活動成果として、産業界・学協会・教育界等への影響も配慮し、適切な意思の表出を行う。				

機械工学委員会 (機械工学の将来展望分科会)					
委員長	光石 衛	副委員長	北村 隆行	幹事	高松 洋、大野 恵美
主な活動	審議内容				
	各分野の専門家を集め、横断的総合技術としての機械工学のあり方について検討を開始した。イノベーションへとつなげていくために、機械工学の将来展望について検討し、意思の表出をすることを目指している。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	予定あり (形態は未定)				

	開催シンポジウム等
	なし（今後実施予定）
開催状況	第1回 2021年3月5日 第2回 2021年8月4日 第3回 2021年11月4日に開催予定 第4回 2022年1月26日に開催予定
今後の課題等	以下の審議を行う。 1. 機械工学を基盤とした学術分野および産業分野の現状や動向に関する情報交換の場の形成 2. 機械工学および関連分野の体系を調査し、機械工学のあり方とともに強化と発展を促すための方策 3. イノベーションの創出、および社会や国民へのさらなる貢献を目指した機械工学の将来展望に関する検討と意志の表出

㊼電気電子工学委員会



電気電子工学委員会					
委員長	中野 義昭	副委員長	中川 聡子	幹事	三瓶 政一
主な活動	審議内容				
	1. 25 期の体制（分科会，小委員会構成など）について審議し，各分科会，小委員会を立ち上げた．				
	2. 24 期の記録をもとに，25 期の活動内容，方向性について議論した．				
	3. 25 期は特に，電気電子工学関連学協会の連携について検討する．				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「電気電子工学関連学会の将来像」について，何らかの形の意思表出を検討中．				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第 1 回 令和 2 年 10 月 3 日．				
今後の課題等	電気電子工学の直面する諸課題および解決策について，各分科会，小委員会と協力しながら議論を深掘りして行く．また国際会議の開催について，国際会議担当分科会を支援して行く．				

電気電子工学委員会（URSI 分科会）					
委員長	八木谷 聡	副委員長	小林 一哉	幹事	芳原 容英
主な活動	審議内容				
	・ 2021（令和 3）年 8 月～9 月にイタリア・ローマで開催予定の「第 34 回 URSI 総会」（URSI GASS 2021）への対応について。				
	・ URSI 分科会主催シンポジウム（URSI 生誕 100 周年記念）の開催について。				
	・ 「2022 年 URSI 日本電波科学会議」（URSI-JRSM 2022）の開催について。				
	・ 2023（令和 5）年に札幌で開催予定の「第 35 回 URSI 総会」（URSI GASS 2023）				

	の準備について。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし。
	開催シンポジウム等
	2022（令和4）年度に URSI 生誕 100 周年記念シンポジウムを開催予定。
開催状況	令和3年2月12日、8月6日
今後の課題等	・ URSI 生誕 100 周年記念シンポジウムの開催及び関連事業の実施。 ・ 「2022 年 URSI 日本電波科学会議」（URSI-JRSM 2022）の準備・運営支援。 ・ 「第 35 回 URSI 総会」（URSI GASS 2023）の準備・運営。

電気電子工学委員会・総合工学委員会合同（IFAC 分科会）					
委員長	榎木 哲夫	副委員長	藤崎 泰正	幹事	水野 毅
主な活動	審議内容 役員の選出、特任連携会員、今期の分科会活動計画、等について審議、IFAC2023 の開催準備を円滑に進めるべく、自動制御協議会と連携して同会議の周知のための企画行事を国内外で展開していく。自動制御の多分野応用小委員会の設置を承認（委員長：藤崎泰正委員，副委員長：井村順一委員，幹事：岩崎誠委員）し活動を開始している。 意思の表出（※見込み含む） IFAC World Congress 2023 の大会コンセプトである『わ：「環」を以て「輪」を為し「和」を創る』について、共鳴社会・共感社会の実現に向けて、地球規模での動的平衡系としての社会を維持していくための「制御」に代わる「共生」あるいは「営存」の新しい理念について意思の表出を行う見込みである。 開催シンポジウム等 第 63 回自動制御連合講演会を 2020 年 11 月 21～22 日にリモートで開催し、特別企画として、「「わ」：これからの社会の中で求められるシステムとは？」のパネルを本分科会と自動制御協議会の共同企画により開催した。				
開催状況	2020 年 12 月 25 日 13:00-15:00 第 1 回 IFAC 分科会開催、リモート会議（9 名） 2021 年 4 月 21 日に第 1 回自動制御の多分野応用小委員会をリモート会議で開催 第 64 回自動制御連合講演会を 2021 年 11 月に京都大学で開催を予定（日本学術会議が後援）、期間中に第 2 回自動制御の多分野応用小委員会を開催予定。				
今後の課題等	IFAC World Congress 2023 に向けて、現在上述のような大会コンセプトを共有、産官学共同のオールジャパン体制のもとで様々な企画を進めている。 また IFAC の中でも同コンセプトに基づく新たな技術部会（Technical Committee）の創設準備も進めている。 これらの活動を通じて確立された内容を提言として発信していく。				

電気電子工学委員会（制御・パワーエレクトロニクス分科会）					
委員長	中川 聡子	副委員長	岩崎 誠	幹事	千住 智信、熊田 亜紀子
主な活動	審議内容				

	当分科会は『電気を作る・送る・活かす』に関わる課題を扱う。これまで3回会合を開き、①電力安定供給とEVの活用、②EVの開発動向、③新しい仮想電力網、④5G/B5Gの動向、⑤未来の車とエネルギー、⑥再生可能エネルギーと電力系統、⑦電力のレジリエンスと医療、⑧電力変換装置の高効率化、等について議論した。
	意思の表出（※見込み含む）
	現時点では予定していない。
	開催シンポジウム等
	25期の最終年に予定。
開催状況	今期は既に、毎回2時間、3回開催（第1回（2021年1月）、第2回（2021年5月）、第3回（2021年9月））。委員の出席率は非常に高い。
今後の課題等	今期最終年には学協会や国際会議と連携したシンポジウムを企画し、電力に関する社会課題を＋両面から公正な立場で科学的にわかりやすく社会に発信予定。

電気電子工学委員会（デバイス・電子機器工学分科会）					
委員長	大橋弘美	副委員長	森勇介	幹事	高木信一、為近恵美
主な活動	審議内容 我が国の電気電子、特にデバイス分野の今後のあり方について提言・報告などを提示し、学術の発展に貢献することを目指している。第25期の活動方針については、本分野の課題や将来の方向性に対して、他分野・学協会との連携を意識しながら議論を深め、最終的に、提言・報告などを広く伝えることを意識してまとめていくことで合意した。また、広く意見を求めるためにも、会員・連携会員以外の参加も可能な、小委員会を設けていくことで合意した。 意思の表出（※見込み含む） 小委員会設置後、これまでのエレクトロニクス分野の学術・産業界の流れを振り返るために、講師をお招きし、産業界・学術界、様々な観点からの考察を行う予定。また、世代をまたぐ議論を行い、今後の方向性に対する意見をまとめる予定。 開催シンポジウム等 なし				
開催状況	第1回（2021年2月23日）開催				
今後の課題等	本分科会は、産業界とも大きく関係する分野であることから、今期開始に際して、現在の日本のデバイス・電子機器分野に対して、大きな危機感を持っていることを分科会メンバと共有できた。これまでの本分野の流れを振り返るとともに、他分野・学協会との連携を意識しながら方向性議論を活性化していきたい。				

電気電子工学委員会（通信・電子システム分科会）					
委員長	三瓶 政一	副委員長	森川 博之	幹事	山中 直明、原田 博司
主な活動	審議内容				
	本分科会では通信・電子システムの適用分野に関して第 24 期に実施した公開シンポジウムの結果に基づき、同分野の研究開発の方向性の進展分野について審議を行う。第 1 回分科会では、第 24 期の申し送りを確認し、第 25 期の方向性について議論した。本分科会では、小委員会として「ICT 分野の魅力・興味機軸の分析と創造小委員会」を設置して同分野の将来の方向性について議論することとしている。現在小委員会の中核メンバーでその対応の方向性を議論中である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第 25 期においては、提言、見解などの形での意思の表出を目指している。				
	開催シンポジウム等				
	今のところ予定なし				
開催状況	第 1 回 令和 3 年 1 月 21 日 小委員会予備委員会：令和 3 年 6 月 28 日（月）、令和 3 年 8 月 17 日（火） （いずれもウェブ会議）				
今後の課題等					

㊹土木工学・建築学委員会



土木工学・建築学委員会					
委員長	小林 潔司	副委員長	田辺 新一	幹事	佐々木 葉
主な活動	審議内容				
	土木工学・建築学の扱う範囲は広く、人々の生活、社会の活動を支えている。戦後作られた膨大な社会基盤は老朽化が進み、地震や豪雨が多発する中で、人々の命や暮らしや経済活動を守るために、土木工学・建築学はこれまでの前提条件を見直すだけでなく、科学・技術をさらに向上させる必要がある。このため、企画、IRDP、気候変動と国土、インフラ高度化、都市・地域デザインの多様なアプローチ。感染症拡大に学ぶ建築・地域都市のありかた、脱炭素社会、WFEO、子供の成育環境、理論応用力学等の分科会を立ち上げて、多様な視点から検討を進めている。また、災害や総合工学における国際活動も活発に行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	土木工学・建築学委員会としては意思の表出を考えていない。委員会所属の分科会の意思の表出の調整にあたる。				
	開催シンポジウム等				
	土木工学・建築学委員会としてはシンポジウムの開催を考えていない。委員会所属の分科会が開催するシンポジウム等の企画調整を行う。				
開催状況	令和2年10月3日、令和3年1月27～29日※メール、令和3年2月5日、令和3年5月24日、令和3年9月1日※予定				

今後の課題等	地球温暖化、災害激甚化、老朽化、感染症、脱炭素、DX 等、社会・経済の急激な変化を見据えて、分野横断的、中長期的な観点から土木工学・建築学分野における政策や研究・教育の基本方針を議論し分科会等による積極的な意見表出をめざす。
--------	--

土木工学・建築学委員会（企画分科会）					
委員長	小林 潔司	副委員長	田辺 新一	幹事	佐々木 葉
主要な活動	審議内容				
	土木工学・建築学委員会の運営および活動を円滑に進めるために、会員からなる「企画分科会」を設置し、土木工学・建築学委員会及び関連する分科会、小委員会、シンポジウム、学際連携の推進等に係る審議を行なっている。				
	土木工学・建築学委員会の運営と年間スケジュールの早期確定を行なった。				
	意思の表出				
	予定しない。				
	開催シンポジウム等				
	企画分科会としては開催を考えていない。				
開催状況	第1回 2020年12月15日（オンライン開催） 第2回 2021年5月24日（オンライン開催）				
今後の課題等	関連する分科会や委員会との情報共有が円滑となるための機会として「全体会」と呼ぶ企画を今後も開催していきたい。				

土木工学・建築学委員会（気候変動と国土分科会）					
委員長	池田 駿介	副委員長	望月 常好	幹事	清水 義彦、持田 灯
主な活動	審議内容				
	温暖化による水・土砂災害の激甚化・頻発化に対応し、人口減少や産業構造の変化等を踏まえつつ、住宅、土地利用や国土のあり方の見直しを含めて社会全体で取り組む防災・減災対策に今後必要となる知見や科学・技術について審議する。このため、様々な分野の知見を有する者から順次ヒヤリングを行うこととし、流域治水、国土ビジョンについて、それぞれ知見を聴取し審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
開催状況	令和3年1月22日、令和3年4月13日、令和3年7月16日				
今後の課題等	関係する分野が多岐にわたるため、引き続き幅広く知見を聴取する必要。また、対策に要する期間を考慮して長期的視点から検討する必要。				

土木工学・建築学委員会合同委員会（脱炭素社会分科会）					
委員長	田辺 新一	副委員長	伊香賀 俊治	幹事	大岡 龍三、萩島 理
主な活動	審議内容				
	第1回会合では、脱炭素社会に関するわが国が置かれている背景、分科会設置の目的、今後の活動方針について議論を行い、問題意識を共有した。				
	第2回会合では、脱炭素社会に向けた各省庁の活動状況について報告があった。				
	第3回会合では、民生部門における持続的なエネルギーシステムについての議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	脱炭素社会実現の方策について議論を行い、提言あるいは出版物などとしてまとめる予定である。				
開催状況	開催シンポジウム等				
今後の課題等	第1回 2021年2月3日 第2回 2021年5月26日 第3回 2021年8月16日				
今後の課題等	「カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議」に参加して分野横断的に議論を行う。				

土木工学・建築学委員会（インフラ高度化分科会）					
委員長	小林 潔司	副委員長	竹脇 出	幹事	高橋 良和、小野 潔
主な活動	審議内容				
	ポストコロナ時代の到来を念頭に置き、1) インフラ性能の高度化のための技術戦略、2) アセットマネジメント技術の高度化戦略、3) インフラ性能の評価・モニタリングとアセスメント技術、4) インフラ DX の推進と制度基盤の視点からインフラ高度化への取り組みを審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言の作成を念頭において各 WG で検討を進める。分科会では WG の検討結果の報告を踏まえ提言のとりまとめを目指した議論を行う。				
	開催シンポジウム等				
	シンポジウム等の開催を予定している。				
開催状況	令和2年1月26日、令和3年3月31日、令和3年7月28日				
今後の課題等	第24期から継続している分科会であり、前期からの継続課題である災害の激甚化インフラ老朽化の課題に DX 技術を踏まえて提言の発出を目指すこととする。				

土木工学建築学委員会・総合工学委員会合同（WFEO 分科会）					
委員長	塚原 健一	副委員長	岸本 喜久雄	幹事	未指定
主な活動	審議内容				
	1. 工学分野における我が国の国際的貢献度を高めるため、学会の関連委員会や関連学協会と協力して、WFEO（世界工学団体連盟）活動ならびに WFEO が連携する各種の国際的／地域的活動、行事に積極的に関与、貢献すること 2. SDGs 達成に貢献する工学知の統合化に関する議論を取り纏めること				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし 2022 年 3 月の WFEO 年次総会にて塚原委員長が WFEO 国別代表理事に立候補予定（2009-2017 は WFEO 副会長を兼ねる常設技術委員会委員長を日本がホストし執行部運営に参画していたが、その後執行部に参画していないため、執行部メンバーの国別代表理事に立候補する）				
	開催シンポジウム等 ・2022 年 3 月 4 日に日本工学会主催で開催予定の第 3 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムを後援し、分科会として積極的に参画 ・WFEO 共催の第 5 回斜面防災世界フォーラム（WLF5）2020 京都（開催は 2021 年 11 月）に WFEO 委員として塚原委員長が組織委員会に参画				
開催状況	第 1 回 2021 年 2 月 3 日 第 2 回 2021 年 12 月初旬（WFEO 年次総会に向けた準備等を議論）				
今後の課題等	WFEO 分科会は WFEO の国際活動と連携して活動を行っており、WFEO が 2019 年 11 月の年次総会以降活動が制限されているため、コロナ禍でも成果をあげる活動体制の構築が急務である。また、WFEO 国別代表理事ポストを確保し、WFEO 執行部にて、工学分野における我が国の国際的貢献度を高める活動を展開して行く必要がある				

土木工学・建築学委員会（感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市の再考分科会）					
委員長	竹内 徹	副委員長	佐々木 葉	幹事	伊藤 香織、高橋 良和
主な活動	審議内容				
	本分科会では我々の生活様式、働き方にさかのぼり、COVID-19 感染症対策が示した影響・効果の事実を検証しながら、今後の激甚災害、人口減少、地球環境問題を考慮した、変化に強いしなやかな建築・インフラのあり方、都市や地域のあり方を考える。 1. 感染症が与えた影響検証（土木建築分野から見た総括） 2. 新しい生活、働き方、オフィス計画 3. 地球に優しい社会、産業、交通 4. 情報技術の利用、整備				

	5. 人口減少と国土利用 6. 感染症下の防災・避難・復興
	意思の表出（※見込み含む）
	提言をまとめられるかどうか検討中。
	開催シンポジウム等
	今後検討する。
開催状況	第1回 2021年3月25日 第2回 2021年5月31日 第3回 2021年8月3日
今後の課題等	現在、世界約35カ国、約80名の海外研究者に、COVID-19が2020年にそれぞれの国での生活・教育・働き方に与えた影響をアンケート調査している。これらの分析結果を踏まえ、我が国の今後の働き方、住まい方地域計画のあり方、災害時・感染症蔓延時の個人情報管理のあり方などについて議論したい。

⑩材料工学委員会



材料工学委員会					
委員長	山口 周	副委員長	乾 晴行	幹事	尾崎 由紀子、岸本 康夫
主な活動	審議内容				
	新しい材料工学教育のあり方（特に独自のカリキュラムを維持できなくなっている地方大学での教育の取り組みと大学院教育の参照基準のあり方）について関連学協会や教室と連携して調査・審議を行うこととしている。また、委員会と関連学協会との連携活動（材料連合協議会）強化、革新材料開発のための大型研究（MDXプロジェクト）、炭素消費量が大きい素材産業分野におけるカーボンニュートラル問題について審議している。また、ジェンダーギャップの極めて大きい当該分野における将来に向けた検討として、ジェンダードイノベーションに関する審議と当該委員会・分科会のジェンダーギャップ解消解消を目的とするWGを新たに組織して活動を始めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	教育・人材育成問題等に関する審議、ならびにその他の審議事項をまとめて意思の表出に繋げる。また他分野との連携を図り、より一般化した形で発信することを考えている。				
	開催シンポジウム等				
	表記審議内容について、それぞれの審議がまとまった状態で結果の報告と広く意見を聴取するためのシンポジウム開催を検討している。				
開催状況	第1回（2020年10月3日）、第2回（同年10月19日）、第3回（同年11月9日）、第4回（同年12月14日）、第5回（2021年3月31日）、第6回（2021年12月頃予定）（すべて遠隔開催）				
今後の課題等	本委員会では、材料工学固有の課題から議論を始めるが、第三部（理工工学系）から学術全体への課題へと問題意識を共有する方向で検討を展開する方針である。				

材料工学委員会（バイオマテリアル分科会）					
委員長	塙 隆夫	副委員長	石原 一彦	幹事	岸田 晶夫、中野 貴由
主な活動	審議内容				
	主催シンポジウム、提言発出、マスタープラン提案において対象とする学術の範囲及び連携すべき委員会・学協会について。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「カスタム医療デバイス」、「ナノメディシンマテリアル」などで表出を予定。				
	開催シンポジウム等				
	機械工学委員会・基礎医学委員会・電気電子工学委員会との合同で、生体医工学に関するシンポジウムを準備中。				
開催状況	第1回 2021年1月25日、第2回 2021年3月22日、第3回 2021年6月2日				
今後の課題等	材料工学を基盤とした医歯薬工連携の分野融合型分科会として活動し、バイオマテリアル研究の方向性と人材育成、さらには得られた成果の迅速な社会還元の方策等について検討する。				

材料工学委員会・環境学委員会・総合工学委員会合同 （SDGsのための資源・材料の循環使用検討分科会）					
委員長	所 千晴	副委員長	森田 一樹	幹事	岡部 徹、笹木 圭子
主な活動	審議内容				
	SDGsやカーボンニュートラルと深く関連する資源・材料循環のあり方について、天然資源と人工資源の両面から学術的に議論する。また、そのための適切な仕組み作り、ならびに人材育成の重要性について議論する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	カーボンニュートラルに関する連絡会議にも参加しながら、資源・材料循環のあり方について提言発出を目指す。				
	開催シンポジウム等				
	令和3年11月26日に公開シンポジウム「なぜSDGs?—資源・材料循環におけるSDGs—」開催準備中。				
開催状況	第1回 令和2年12月21日 第2回 令和3年3月31日				
今後の課題等	SDGsやカーボンニュートラルと資源・材料循環との両立について、他分科会とも横断的に連携しながら、さらに発展させた議論が必要。				

材料工学委員会（将来展開分科会）					
委員長	岸本 康夫	副委員長	尾崎 由紀子	幹事	大野 宗一
主な活動	審議内容				

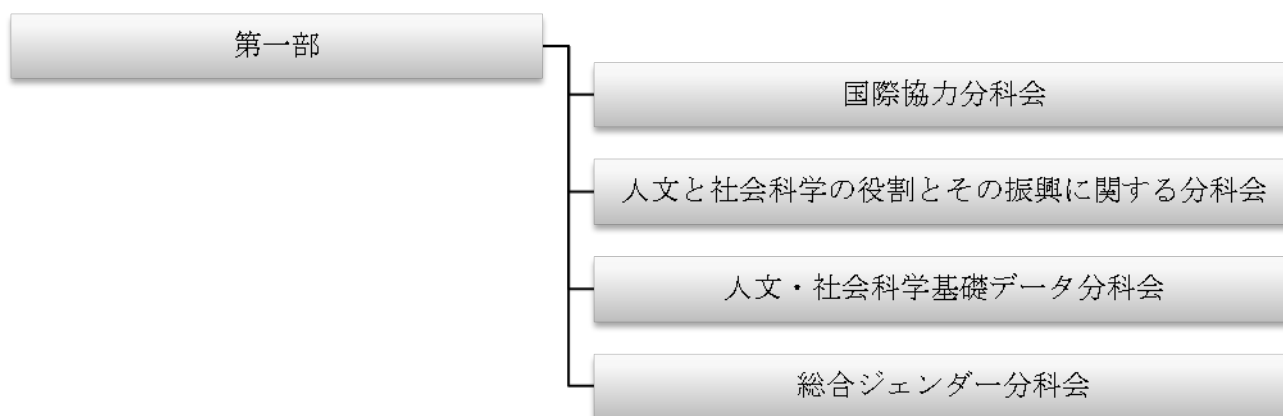
	材料研究データ蓄積・活用(DX)による革新的研究開発手法の現状について審議。 アカデミアではマテリアルインフォマティクスによる DX の進展を確認。
	意思の表出 (※見込み含む)
	DX を基軸とした革新的材料研究成果の迅速な社会還元方策、とりわけ、社会的要請が強いカーボンニュートラル(CN)への展開方策について議論し、2050 年を境に Before/After に分けた提言の発出またはマスタープランへの提案を目指す。
	開催シンポジウム等
	CN に向けた材料技術革新について公開シンポジウム開催を計画 (2022 年)
開催状況	第 1 回委員会オンライン開催 (2021 年 2 月 10 日)。カーボンニュートラルへの寄与および産業分野でのデータ活用について第 2 回委員会開催予定 (2021 年 10 月)。
今後の課題等	材料工学における DX の展開状況にある産学間ギャップが課題であり、カーボンニュートラルに的を絞る、学の成果を社会実装する方策を議論する。

材料工学委員会 (新材料科学検討分科会)					
委員長	山口 周	副委員長	細野 秀雄	幹事	梅津 理恵、鈴木 淳史
主な活動	審議内容				
	金属・鉄鋼やセラミックス、ポリマー（繊維）といった古くからある材料工学の学問分野を超えて、物理、科学、生物学の分野との境界領域に急速に興りつつある「新材料科学」の学問領域の将来展開について審議する。また「新材料科学」の融合的発展に資するシンポジウム開催への協力 (MRS-J 主催の MRM2020 Forum) を行うとともに、MRM2021 の共同開催に向けた準備、「新材料科学」の学術活動の展開、特にカーボンニュートラルを実現するための革新材料開発に関する審議を行っている。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	カーボンニュートラル実現に向けた革新的機能材料開発、エネルギー材料の開発に関する審議経過をまとめ、他の関連委員会・分科会と共同で意思の発出を検討している。				
	開催シンポジウム等				
	MRM2020 の開催に協力した。MRM2021 については、MRS-J と共同開催を行うための準備を進めている。				
開催状況	第 1 回 (2021 年 3 月 31 日)、第 2 回 (2021 年 10 月開催予定)				
今後の課題等	「新材料科学」の将来像を様々な視点で探るとともに、関連学協会と共同のもとに新材料科学の国際的プレゼンス向上に向けた関連学協会の協働を加速し、新しい形式の分野融合的な国際集会・シンポジウムの実現に向けた審議を行う。				

材料工学委員会 (材料工学ロードマップのローリング委員会)					
委員長	筑本 知子	副委員長	石原 一彦	幹事	小出 康夫、中野 貴由
主な活動	審議内容				

	関連学協会との密接な連携のもとで纏めてきた、材料工学に関する「科学・夢ロードマップ」を「社会のための材料工学」を発展させていくために、政策に反映させる取り組みを促進する。24-25期においては材料工学10領域のうち、デバイス材料分野および医療・バイオ材料分野のロードマップに焦点をあて、社会状況の変化に機敏に対応した見直し（ローリングと呼ぶ）を行う。ロードマップの作成方針について第1回委員会で議論し、幅広い分野の提言への核になるような発想で夢のある明るい未来を見据えたものとし、具体的にはバックキャスト、社会のペインの考慮、小中学生に対して夢を与えるものにする事とした。
	意思の表出（※見込み含む）
	デバイス材料分野、医療・バイオ材料分野のロードマップの内容について議論し、公開シンポジウム等を通じて多方面からの意見をいただきながら、最終的には提言等の発出を目指す。
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	第1回 2021年4月26日
今後の課題等	最終的にまとめる提言等についての位置づけは「小中学生に対して夢を与えるもの」と第1回分科会にて合意されており、内容に加え、その目的を達するための意志の表出のよりよい形についても議論をすすめていく。

(7) 部が直接統括する分野別委員会合同分科会



第一部（国際協力分科会）					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	町村 敬志	幹事	竹中 千春
主な活動	審議内容				
	本分科会の役員を選出した。 Association of Asian Social Science Research Councils（アジア社会科学研究協議会連盟）、International Federation of Social Science Organizations:（国際社会科学団体連盟）、ISC（International Science Council（国際学術会議）等に積極的に参加し、国際的役割を果たしていくことを確認した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定である。				
	開催シンポジウム等				
	今期は、実施していない。				
開催状況	令和3年2月17日にオンライン形式で第1回の分科会を開催した。				
今後の課題等	日本学術会議幹事会「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」I. 4「国際活動の強化」に基づき、第二部、第三部との積極的な連携のもと、包括的な国際的活動を実現し、日本の学術研究をグローバルに発信するさらなる努力が必要である。				

第一部（人文・社会科学基礎データ分科会）					
委員長	佐藤 嘉倫	副委員長	岡崎 哲二	幹事	矢野 桂司、久留島 典子
主な活動	審議内容				
	・人文・社会科学の活動を客観的に表す基礎データを収集して HP 上に公開する。 ・基礎データの取捨選択と収集を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	白書を刊行することを検討している。				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	令和 3 年 2 月 22 日、令和 3 年 5 月 30 日、令和 3 年 8 月 18 日				
今後の課題等	日本の人文・社会科学の研究教育活動の水準を的確に表す基礎データを収集して、それを HP や白書で公開する。				

第一部（総合ジェンダー分科会）					
委員長	三尾 裕子	副委員長	原田 範行	幹事	岡部 美香・三浦 まり
主な活動	審議内容				
	・今期の活動目標として、a)「中等教育におけるジェンダー平等教育」b)「タイトルラインと学校におけるジェンダー平等」の 2 つを策定。当事者を巻き込んだシンポジウムなどの開催を企画する予定。また、c)ジェンダーにかかわる豊かな文化について、一般社会向けの啓蒙活動も行う予定。 ・人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences - GEAHSS）と、必要に応じて連携して活動する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和 3 年度は特になし。				
	開催シンポジウム等				
	令和 4 年 1～3 月の間に a)に関わるシンポジウムを開催予定。				
開催状況	1 回（令和 3 年 3 月 1 日）、2 回（令和 3 年 5 月 24 日）、3 回（令和 3 年 8 月 2 日）、4 回（令和 3 年 9 月 2 日）				

今後の課題等	上記 a),b)に関して、必要に応じて他分科会と連携しながら、提言などの意思の発出の可能性を模索する。
--------	---



第二部（生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会）					
委員長	熊谷 日登美	副委員長	名越 澄子	幹事	村山 美穂, 熊谷 晋一郎
主な活動	審議内容				
	生命科学（医学，歯学，薬学，看護学，家政学，農学，理学）におけるジェンダー・ダイバーシティの現状を整理し，その課題解決に向けて審議を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし				
	開催シンポジウム等				
	連続公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」 第1回「大学における女性リーダーから見た課題と展望」2021年10月28日 ウェブ開催				
開催状況	2021年3月1日（月）10:00～12:00 ウェブ会議（ZOOM） 2021年6月4日（金）15:00～17:00 ウェブ会議（ZOOM）				
今後の課題等	・生命科学分野のジェンダー・ダイバーシティに関する課題解決に向けて、さらに議論を行う。 ・連続公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」を今後も積極的に行う。現在、「大学・企業・学協会におけるダイバーシティ推進に向けた取り組み」の企画を進めている。				

第二部（大規模感染症予防・制圧体制検討分科会）					
委員長	秋葉 澄伯	副委員長	平井 みどり	幹事	糠塚 康江
主な活動	審議内容				
	2021年には、ほぼ一月に一度の頻度で分科会を開催し、関連分野の専門家に講演をしていただくなどして、各地で実施されている新型コロナウイルス感染症流行拡大阻止のための対策、必要な人材の養成に関する情報を収集している。また、第二部が開催する学術フォーラム・市民公開シンポジウムなど企画・運営のサポートを行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	感染症対策に必要な人材の養成などに関する提言を作成する予定（次期は来年以降）
	開催シンポジウム等
	主催したシンポは無し
開催状況	第1回分科会令和2年11月18日 第2回分科会令和2年12月17日 第3回分科会令和3年1月19日 第4回分科会令和3年2月24日 第5回分科会令和3年3月30日 第6回分科会令和3年4月20日 第7回分科会令和3年5月18日 第8回分科会令和3年6月15日 第9回分科会令和3年7月16日 第10回分科会令和3年8月23日
今後の課題等	2020年7月と9月に当分科会が発出した提言で、感染症対策にあたる人材を養成する必要性が指摘された。今期、微生物学、公衆衛生、臨床医学、看護学、薬学をはじめとする関連分野で必要とされる感染症の基礎的研究、応用・実践に関する研究およびそれぞれの分野での専門家等の養成、感染症対策の実務（企画、立案、実践を含む）を担当する者の養成・研修などに関して、提言を作成する予定である。しかし、現在、流行が急拡大しており、分科会委員にも対応に追われているものが少なくない。したがって、今後、流行収束に一定の見通しがついてから、文案作成を始める予定であり、提言案作成は来年度以降になるものと予測している。また、流行の爆発的拡大の中で、新たな問題・課題も出現すると思われる。特に、ワクチン忌避・躊躇の問題、変異株への対応、post コロナを見据えた社会システムの構築などが重要と思われる。最近、パンデミックと社会に関する連絡会議が設置されたので、この連絡会議と連絡を密にし、第一部・三部との連携をさらに強めながら、今後の活動を進めたい。

第三部（理工系ジェンダーダイバーシティ分科会）					
委員長	野尻 美保子	副委員長	玉田 薫	幹事	大場 みち子、伊藤 貴之
主な活動	審議内容				
	全ての分科会委員から理工系ジェンダー、ダイバーシティについての課題について発表を行った。この中で、女子の理工系進学を阻害する要因が日本の社会の枠組みの中にあること、特に初等中等教育の期間中に、女子の理系ばなれが進んでいること、また、企業における女性活躍の遅れ等が指摘された。一方で、企業の中高生の働きかけについてはグッドプラクティスとなり得るケースがあることも指摘された。その後、女子の理系進学にみられる偏りの原因や、積極的な施策の可能性について幹事団で、外部の識者等と意見交換を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「初等中等教育における理数教育に望まれるジェンダーの視点と、大学、企業の役割」（検討中）				
	開催シンポジウム等				
開催状況	第1回 2021年1月14日 第2回 2021年3月31日 第3回 2021年5月21日 第4回 2021年8月24日（予定）				
今後の課題等	第三部に特有な女子の理工系進学に関わるジェンダーの偏りについては、社会学・教育学・心理学な知見が必要であることから、小委員会を設置をする予定である。また、初等中等教育における理科教育に望まれるジェンダーの視点と、大学、企業の役割について、提言等を行うことを検討する。また、シンポジウム等を企画する。				

(8) 地区会議

北海道地区会議

東北地区会議

関東地区会議

中部地区会議

近畿地区会議

中国・四国地区会議

九州・沖縄地区会議

北海道地区会議		代表幹事	吉岡 充弘
主な活動	審議内容		
	- 令和3年度事業計画について - 日本学術会議学術講演会について - 日本学術会議サイエンスカフェの実施について など		
	開催シンポジウム等		
	- 令和2年11月7日に学術講演会「感染症との共存の現在と未来」をオンラインで開催し、86名が参加した。 - 令和3年1月29日に「感染症との共存の現在と未来」のテーマのもと北海道地区会議サイエンスカフェをオンラインで開催し、23名が参加した。 - 令和3年3月に地区会議ニュース（NO.51）を発行し、学術講演会概要及び地区会議の活動報告等を掲載した。		
開催状況	運営協議会：令和2年10月2日、令和2年11月7日、令和3年3月8日※メール、令和3年6月2日※オンライン		
今後の課題等	学術講演会及びサイエンスカフェ等において地区会議の活動を一般市民に広報し、日本学術会議の活動についてさらに周知を図っていく。北海道地区会議として、ポストコロナ社会について、令和3年度は「総合知」をキーワードとして文理融合型研究を、令和4年度以降は医療分野にとどまらず、より異分野融合研究を進めていくことを視野に入れて、活動する予定である。		

東北地区会議		代表幹事	佐藤 嘉倫
主な活動	審議内容		
	・東北地区における研究者の連携を強化し研究教育活動を支援するために公開学術講演会や科学者との懇談会を開催する。		
	開催シンポジウム等		
	・公開学術講演会「災害と文明 ―災害に対する社会の対応―」（令和３年 10 月 30 日開催予定、オンライン） ・科学者との懇談会「女性研究者をめぐる状況の把握と改善」（令和３年 10 月 30 日開催予定、オンライン）		
開催状況	令和２年 10 月 2 日、令和３年 2 月 15 日（運営協議会）		
今後の課題等	公開学術講演会や科学者との懇談会を通じて日本学術会議と東北地区の研究者の連携を促進する。		

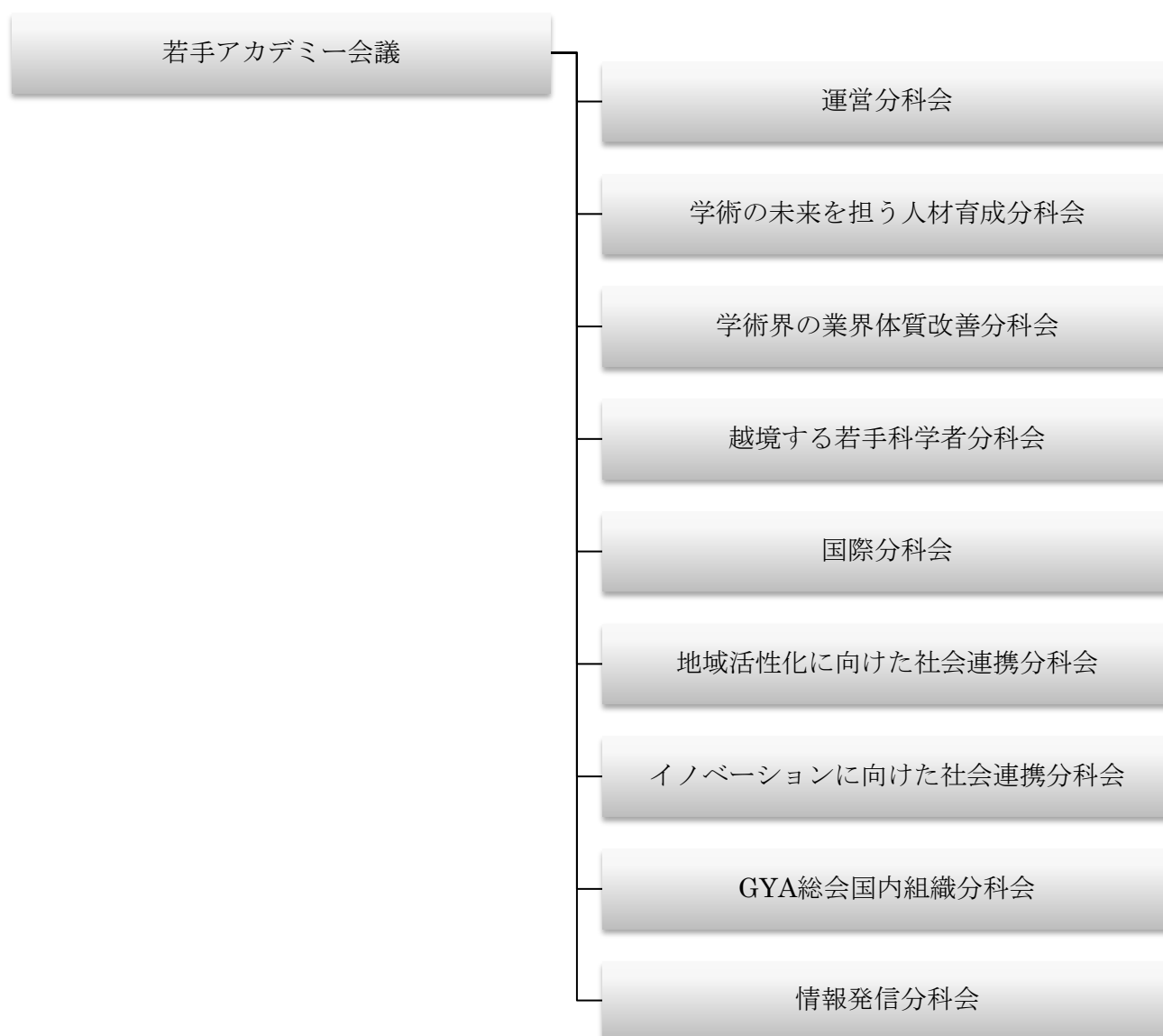
関東地区会議		代表幹事	有田 伸
主な活動	審議内容		
	今期の活動の基本的な方針について確認した。		
	開催シンポジウム等		
	特になし。		
開催状況	2020 年 10 月 2 日開催		
今後の課題等	コロナ禍が収束し次第、改めて関東地区会議の役割について検討したい。		

中部地区会議		代表幹事	池田 素子
主な活動	審議内容		
	令和２年度第２回協議会では、第 25 期運営協議会委員を確認し、連携会員の委員追加について審議した。令和３年度事業実施計画について審議し、２回の運営協議会と学術講演会の開催、地区会議ニュースの発行を決定した。令和３年度第１回協議会では、令和３年度事業実施計画について確認し、さらに、令和４年度の地区会議開催持ち回り順として、春は長野県、秋は三重県が担当することを決定した。		
	開催シンポジウム等		
	・学術講演会「コロナ禍・豪雨災害：自然災害に向き合う」（令和２年 11 月 20 日、岐阜大学・オンライン）を開催。 ・学術講演会「高齢社会を生きぬくための取り組み」（令和３年 7 月 30 日、金沢大学・対面とオンラインの併用）を開催。 ・令和３年 3 月に中部地区会議ニュース（No. 149）を発行。		
開催状況	令和２年 11 月 20 日（岐阜大学、オンライン開催） 令和３年 7 月 30 日（金沢大学、対面とオンラインの併用開催）		
今後の課題等	令和３年 12 月 3 日に、運営協議会および学術講演会を愛知県（名古屋大学）で開催する予定である。地区会議ニュースの内容と配信方法について検討する予定である。		

近畿地区会議		代表幹事	小山田 耕二
主な活動	審議内容		
	日本学術会議会員、連携会員とともに、近畿地区独自の学術文化懇談会との協働体制に基づく活動によって、一般市民の方々にも日本学術会議のあり方とその社会貢献の姿を広く知っていただく機会とするために、学術講演会のテーマについての審議、および近畿地区の学術会議関係者と大学・研究機関との連携についての議論を行なっている。		
	開催シンポジウム等		
	本年は、学術講演会のテーマとして幾つか提案されたものの中から、未来を構想するきっかけとして、「カーボンニュートラル：2050年までに何ができるか」を企画した。		
開催状況	近畿地区会議は、地区運営協議会を毎年2月（あるいは3月）に開催し、その運営方針を審議し決定する。		
今後の課題等	コロナ禍における学術講演会のあり方について、日本学術会議会員、連携会員とともに議論を深め、よりよい開催方法を検討していきたい。		

中国・四国地区会議		代表幹事	相田 美砂子
主な活動	審議内容		
	地区会議：代表幹事と運営協議会委員を決定。 運営協議会 第1回：主催の学術講演会／地区ニュース No.52 の内容／「学術の動向」への投稿について審議。（学術講演会は2020年11月21日に愛媛大学にて開催した。地区ニュース No.52 は2021年3月に発行した。学術講演会の報告記事は「学術の動向」2021年4月号に掲載された。）第2回：令和2年度事業報告と令和3年度事業計画について審議。公開シンポジウムを多くの組織と主催／共催することを承認。（公開シンポジウムは2021年8月18日に開催した。）		
	開催シンポジウム等		
	令和2年11月21日（土）学術講演会「地域にある大学としての先端学術の振興と地域産業イノベーションへの貢献」を主催。（会場参加とオンライン併用） 令和3年8月18日（水）公開シンポジウム「ジェンダード・イノベーション」を、第三部、科学者委員会男女共同参画分科会とともに主催。（オンライン）		
開催状況	地区会議：令和2年10月2日（金）日本学術会議 5D 会議室。運営協議会：第1回 令和2年11月21日（土）Zoom、第2回 令和3年3月11日（木）Zoom。		
今後の課題等	中国・四国地方が本来もつ多様性を生かし、日本学術会議という横断的なつながりを活用して、多くの活動を、より効果的につなげていく。		

(9) 若手アカデミー



若手アカデミー					
委員長	岩崎 渉	副委員長	安田 仁奈	幹事	小野 悠、松中 学
主な活動	審議内容				
	・第24期若手アカデミーにおける活動および審議事項の引き継ぎを行なった。 ・日本学術会議の現状と若手アカデミーが果たすべき役割について議論を行なった。 ・上記を踏まえ、分科会（学術の未来を担う人材育成分科会、学術界の業界体質改善分科会、越境する若手科学者分科会、国際分科会、地域活性化に向けた社会連携分科会、イノベーションに向けた社会連携分科会、GYA 総会国内組織分科会、情報発信分科会）ごとに集中した審議や活動を行なった。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	なし。
	開催シンポジウム等
	(地域活性化に向けた社会連携分科会) ・公開ワークショップ「若手科学者が拓く地域と科学の関係」(令和2年3月) ・Japan Open Science Summit 2021 企画セッション「学術会議若手アカデミーと考えるオープンサイエンス」(令和3年6月)
開催状況	令和2年11月30日※ハイブリッド会議
今後の課題等	20年後の科学・学術と社会を見据え、未来の科学・学術を担う若手研究者の立場から、世界や日本が直面する諸問題、また、若手研究者をとりまく諸問題に関する解決策を提示し、実行する。

若手アカデミー (運営分科会)					
委員長	岩崎 渉	副委員長	安田 仁奈	幹事	小野 悠、松中 学
主な活動	審議内容				
	・日本学術会議特任連携会員への推薦者について審議し、推薦を行なった。 ・連携会員の若手アカデミー加入について審議し、推薦を行なった。 ・各分科会の設置や構成員について審議し、運営状況に関する情報交換を行なった。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	令和2年12月16日、令和3年1月21日、令和3年2月22日、令和3年9月1日				
今後の課題等	若手アカデミーおよび各分科会の活動を効果的に行うため、リーダーシップをとりつつ迅速に審議・意思決定を行う。また、若手アカデミーのあり方そのものを含めた議論・検討を行う。				

若手アカデミー委員会 (学術の未来を担う人材育成分科会)					
委員長	平田 佐智子	副委員長	土屋 太祐	幹事	森 章
主な活動	審議内容				

	・学術界の未来を担う大学院生、ならびに人材育成の場である大学・研究機関等の現状把握、ヒアリングを行なった。 ・大学院生・研究者支援に関わる機関との連携可能性を検討した。 ・若手研究者のキャリア多様性の提供に必要な情報、枠組みを検討した。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし。
	開催シンポジウム等
	なし。
開催状況	令和3年2月17日※オンライン会議
今後の課題等	大学院生支援を行う関係機関と連携し、効果的な情報発信・施策遂行を推進する。

若手アカデミー（学術界の業界体質改善分科会）					
委員長	川口 慎介	副委員長	岩永 理恵	幹事	埴淵 知哉
主な活動	審議内容				
	・若手アカデミーとしての観点から、ライフワークバランスを踏まえた学協会運営のあり方についての検討を行った。 ・同観点から、大学院教育についての議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	令和3年2月12日※オンライン会議				
今後の課題等	2020年代の技術に即した効果的で効率的な学術界運営のあり方を提案するために、さらに議論や情報分析を進める。				

若手アカデミー委員会（越境する若手研究者分科会）					
委員長	石川 麻乃	副委員長	南澤 孝太	幹事	今田 晋亮、相馬 雅代
主な活動	審議内容				

	・異分野の若手研究者間での融合研究や新規技術を用いた市民との交流を実践するため、6回に分けて委員会内での研究交流を行い、今後革新的な研究展開が生じうる研究領域について議論した。 ・5つの融合研究テーマに分かれて、具体的な実践方法について議論を開始した。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし。
	開催シンポジウム等
	なし。
開催状況	令和3年2月26日、令和3年5月18日※オンライン会議
今後の課題等	各融合研究テーマについて、具体的な共同研究、それらが生む未来社会のビジョンの提案、市民との交流の実践などのアウトプットを設定し、具体化する。

若手アカデミー（国際分科会）					
委員長	入江 直樹	副委員長	田中 和哉	幹事	相馬 雅代、寺田 佐恵子
主な活動	審議内容				
	・我が国の科学技術の在り方について、とりわけ理想と実践的な改善策を区別し、双方について議論を深めていく必要があることなどを議論した。 ・科学外交に関しての勉強会（非公式）を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	令和3年2月15日 ※オンライン会議				
今後の課題等	STS（科学技術と人類の未来に関する国際）フォーラムなど、国際的な場に若手科学者を派遣し、議論や情報交換を行う。また、多様な関係機関との意見交換・情報収集を通じた国内の科学の現状（研究力の相対的な失速など）改善に向けた方針検討を行う。さらに、ステークホルダーや課題の整理を行う。				

若手アカデミー（地域活性化に向けた社会連携分科会）					
委員長	加藤 千尋	副委員長	高槻 泰郎	幹事	近藤 康久、寺田 佐恵子
主な活動	審議内容				

	・科学者及び関係機関と地域社会の持続可能な連携などについて意見交換を行なった。 ・「地域社会への貢献を含む研究者の様々な役割の可視化に向けた調査」に関する進捗状況を共有し、議論した。
	意思の表出（※見込み含む）
	上記「地域社会への貢献を含む研究者の様々な役割の可視化に向けた調査」について、その結果を取りまとめて発信する予定である。
	開催シンポジウム等
	・公開ワークショップ「若手科学者が拓く地域と科学の関係」（令和2年3月） ・Japan Open Science Summit 2021 企画セッション「学術会議若手アカデミーと考えるオープンサイエンス」（令和3年6月）
開催状況	令和3年1月19日、令和3年6月2日※いずれもオンライン会議
今後の課題等	筑波会議2021（令和3年9月開催予定）において、本分科会メンバーが科学と地域との関係や在来知に関する発表を行う予定であり、その準備を進める。

若手アカデミー（イノベーションに向けた社会連携分科会）					
委員長	高瀬 堅吉	副委員長	田中 和哉	幹事	遠藤 良輔、山川 みやえ
主な活動	審議内容				
	・第25期若手アカデミービジョン・ミッションについて、意見交換を行なった。 ・「イノベーション」の概念整理について、意見交換を行なった。具体的には、①イノベーションとはどのような事象か、②現時点で優先すべきイノベーションの標的は何か、③イノベーションを起こすために必要なもの、現時点でイノベーションを阻むものについて議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	令和3年2月22日、令和3年4月16日※いずれもオンライン会議				
今後の課題等	1年目に提言の素案をまとめ、2年目にイベント開催による社会との対話を実施し、3年目に提言をまとめて発出する予定であるが、若手アカデミーの他の分科会と協調し、今後の活動方針については柔軟に検討する。				

若手アカデミー（GYA 総会国内組織分科会）					
委員長	新福 洋子	副委員長	岸村 顕広	幹事	岩崎 渉、安田 仁奈
主な活動	審議内容				
	・令和4年6月に福岡での開催が予定されている GYA 総会・学会について、その内容とロジスティックスの準備について議論を重ねた。 ・GYA のプログラム組織委員会との連携を行なった。				

	意思の表出（※見込み含む）
	なし。
	開催シンポジウム等
	なし。
開催状況	令和3年1月21日、令和3年3月12日、令和3年6月17日※いずれもオンライン会議
今後の課題等	令和4年6月のGYA総会・学会に向け、分科会での議論を元にさらに内容を作り上げていく予定である。

若手アカデミー（情報発信分科会）					
委員長	高田 知実	副委員長	谷内 江望	幹事	南澤 孝太
主な活動	審議内容				
	・若手アカデミーとしてのより効果的な情報発信を目的としたウェブサイトの構築について検討を行なった。 ・若手アカデミーから発信される情報コンテンツを見直し、改革を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	令和3年4月15日、令和3年7月12日※いずれもオンライン会議				
今後の課題等	若手アカデミーの活動内容等についてのより有効性の高い情報発信について、さらに議論・検討を行い、実践する。				